

499.1  
I.33



始



藥學博士池口慶三著

第四  
改正  
日本藥局方通解

大正九年十二月刊行





大正十四年十二月廿九日

499.1  
1.33

### 例言

- 一 日本藥局方ハ我國ニ於ケル藥品ノ純雜眞贋ヲ判決スヘキ一定ノ標準ヲ規定セル一大寶典ナリ而シテ本書ハ今回發布セラレタル第四改正日本藥局方ノ理會ノ容易ナラシムルヲ目的トシテ編纂シ成ル可ク煩ヲ避ケ要ヲ摘ミ簡明ニ記述セリ若シソレ此書ニシテ局方ヲ利用セラルヘキ醫師、藥劑師、製藥者及藥種商、賣藥商等諸君ノ一助トナルヲ得ハ著者ノ幸モシ
- 一 本書ハ藥局方本文ヲ逐條的ニ註釋セルモノニシテ中 就キ五號活字 以テ記セルハ本文ニシテ六號活字ヲ以テセルハ註釋ナリトス
- 一 本書中各條ノ註釋ハ主トシテ注解及醫治効用等ノ順序ニ從ヒ記載シ稀ニ此區分ヲ設ケサル所アリ而シテ注解ノ部ニ於テ成分、構造及試驗ニ就テ説明セリ
- 一 藥局方本文各條項ノ下ニ括弧内數字ヲ附記シ註解中同數字ノ下ニ之ニ該當スル註釋ヲ記載セリ例之ハ本文中「硫化水素ニ由テ變化セス」ニトアレハ註解ノ部「(ニ)金屬ノ試驗」云々ニ該當シ金屬ヲ夾雜スヘカラサルコトヲ示スカ如シ
- 一 改正藥局方中新ニ收録セラレタル試驗其他必要ノ試驗ニハ或ル可ク詳細ナル註釋ヲ記載セリ
- 一 醫治効用ノ部〇五若クハ一〇等トアルハ〇五グラム若クハ一グラム等ノ重量ヲ指ス
- 一 醫治効用ノ部ニ於テ屢、記載スル服用量一滴ハ水性液、流動越幾斯等ノ場合ニ於テハ〇〇六グラム(即チ一グラムハ十六滴)ニ、丁幾劑、脂肪油、重キ揮發油等ノ場合ニ於テハ〇〇四グラム(即チ一グラムハ二十五滴)ニ、其他ノ揮發油、クロロフォルム、エーテル精等ノ場合ニ於テハ〇〇四グラム(即チ一グラムハ二十五滴)ニ該當シ又一小刀尖ハ約〇五—一グラムニ、一茶匙ハ約四—五グラムニ、一食匙ハ約十五グラムニ、一小兒匙ハ約七—五グラムニ、一酒杯又ハ一水盞ハ百—百五十グラムニ該當ス

例言

一本書ニハ附録トシテ藥局方實用上必要ナル定規液製法、葡萄酒検査法、飲料水検査法、各種ノ表現行規則等ヲ掲載セリ

一本書編纂ニ當リ殊ニ藥品ノ醫治効用ニ關シ醫學博士宮入慶之助君及醫學得業士横田泰造君ノ有益ナル幫助ヲ與ヘラレタルコトヲ謹謝ス

大正九年十二月

著者識

内務省令第四十四號

明治三十九年<sup>七月</sup>内務省令第二十一號第三改正日本藥局方左ノ通改正ス

本藥局方ニ記載スル藥品ニシテ其性状品質本藥局方ノ所定ニ適合セサルモ第三改正日本藥局方ノ所定ニ適合スルモノハ「第三改正日本藥局方」ノ九字ヲ明記シ大正十一年三月三十一日マテ貯藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年十二月十五日 内務大臣 床次竹二郎

#### 第四改正日本藥局方

##### 日本藥局方沿革略記

日本藥局方ノ制定ハ明治十三年十月衛生局長與專齋ノ建議ニ基キ内務卿松方正義ノ太政官ニ具狀セ  
ルニ依ル其大要ニ曰ク第一本邦未タ藥方ノ律書アラス處方製劑ニ一定ノ標準ナク英局方ノ用量ニ從テ  
獨局方ノ製劑ヲ與フルカ如キ危險ノ誤謬ヲ生シ易シ第二製藥ヲナス者各國各異ノ藥局方ニ據リテ便宜  
製煉スルヨリ其名均シクシテ其質同シカラス其性同シケレトモ其稱異ナル者市場ニ紛聚スルノ弊害ヲ  
續出セリ第三輸入藥品ノ検査ニ際シ我ニ其良否ヲ判決スヘキ一定ノ憑據ナキヲ以テ各輸出國ノ局方ニ  
據リテ殊別ノ試験ヲ要スルカ如キ當事者其煩雜ニ堪ヘス加之現今製藥業者我藥局方ノ制ナキニ乘シ外  
國局方中原質廉價ノ者ヲ撰ミテ調製ノ用ニ充テ名實紊亂射利相競フノ風日ヲ逐テ滋甚シトス而シテ  
此等ノ諸弊ヲ防遏スルノ途一ニ日本藥局方ノ制ヲ定ムルニ在ルノミ因テ之カ選定編纂ノ事ヲ舉テ中央  
衛生會ニ委任アラシコトヲ請フト十一月太政官ヨリ中央衛生會ニ日本藥局方ノ選定ヲ委任シ十四年一  
月日本藥局方編纂總裁及委員ノ任命アリ總裁ハ元老院幹事細川潤次郎、委員ハ陸軍軍醫總監松本順、同  
軍醫監林紀、海軍軍醫總監戸塚文海、一等侍醫ドクトル池田謙齋、内務省衛生局長與專齋、東京大學醫  
學部教授三宅秀、海軍中醫監高木兼寛、陸軍二等藥劑正兼二等軍醫正永松東海及柴田承桂並東京司藥場  
教師和蘭人ドクトルエーキマン、横濱司藥場教師和蘭人ドクトルゲールツ、東京大學醫學部教師獨逸人  
ドクトルベルツ及ドクトルランガルト、和蘭人ドクトルブッケマンレトス

十四年一月日本藥局方編纂委員會ヲ開始シ其第一會ニ於テ先ツ藥局方ノ體例及詳略ノ程度ヲ定ムルノ  
件及明治十年中内務省ヨリ司藥場教師ゲールツ及ドワルスニ囑シテ假ニ編述セル和蘭文及邦文藥局  
方稿本ヲ以テ原案ニ供スルノ件ヲ議決シタリ嗣後更ニ十年編述ノ舊稿ニ據ラス別ニ獨逸文ヲ以テ日本

藥局方稿本ヲ起草スルコトニ決シ先ツ收載スヘキ藥品及附表ノ目ヲ定メ續キテ明治十五年己後ニ涉リ藥局方稿本ノ編纂及其成案ニ對スル審議ヲ進行セリ

明治十六年七月陸軍軍醫監石黑忠憲、陸軍軍醫監兼藥劑監緒方維準日本藥局方編纂委員ヲ命セラレテ七年四月元老院幹事細川潤次郎日本藥局方編纂總裁ヲ解カレ内務大輔土方久元代リ命セラルル九月東京大學醫學部教師獨逸人ドクトルスクリバ、十月和蘭人ドクトルファンデルヘーデンニ委員トナス十八年七月參事院議官子爵土方久元日本藥局方編纂總裁ヲ解カレ内務大輔芳川顯正之ニ代レリ

明治十八年十月十三日日本藥局方全部竣成ス總裁之ヲ内務卿ニ具申シ十二月總裁委員盡ク其任ヲ解カレ而シテ十九年六月二十五日内務省令ヲ以テ始メテ日本藥局方ヲ發布シ二十年七月一日ヨリ之ヲ施行セリ

此初度(第一版)日本藥局方ニ收載セル所ノ藥品ハ其數四百七十終リニ製劑ノ通則、試藥、定規液及常貯藥已下ノ六表ヲ附シ又全部羅旬語ノ譯本ヲ作りテ内務省ヨリ發行セリ而シテ藥局方ノ基礎タリシ獨逸語稿本ノ起草ハ最初ゲールツ及ランガルト之ヲ分擔シ爾後エーキマン主トシテ之ヲ擔當セリ後明治二十三年ニ至リ内務省衛生局ハ「エーキマン」ノ起草ニ係ル第一版日本藥局方註釋ヲ發行セリ又委員ノ外藥局方編纂ノ事ニ參與セシハ横濱司藥場長辻岡精輔、東京大學醫學部助教授下山順一郎、同丹波敬三、同丹羽藤吉郎、内務省御用掛林洞海、内務一等技手大中太一郎トナス

明治二十一年四月第一版日本藥局方ヲ改正セシメンカ爲メ帝國大學醫科大學教授ドクトル長井長義、同高橋順太郎、同ドクトル下山順一郎、同ドクトル丹波敬三、同樫村清徳、内務三等技師辻岡精輔、同四等技師田原良純、同五等技師櫻井小平太、内務一等技手島田耕一及柴田承桂ヲ日本藥局方編纂委員トナシ五月内務省衛生局長長與專齋ヲ日本藥局方調査委員長、海軍軍醫大監實吉安純ヲ同委員トナス

日本藥局方調査委員ハ先ツ當時ノ藥局方ニ追加スヘキ藥品ノ目ヲ議シ鹽酸古加乙混及安知歌貌林ノ二

品ヲ採リテ其稿案ヲ議定シ二十一年九月内務省令ヲ以テ之ヲ發布セリ爾後委員ハ改正スヘキ急要ノ廉ニ就テ調査セシニ其條項繁多ニシテ増刪却テ通覽ヲ紊スノ不便アリ寧ロ全篇ヲ修正シ改正藥局方ヲ以テ現行藥局方ニ換代セシムルノ優レルコトヲ認メ速ニ改正ノ業ヲ竣成スヘキニ決セリ依テ二十一年九月ヨリ改正藥局方稿案ノ起草ニ著手シ二十三年十月ニ至ル迄逐次成案ニ就テ審議シ明治二十四年三月全部ノ改正稿案ヲ終結シテ之ヲ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ中央衛生會ニ諮詢シテ後同年五月内務省令ヲ以テ改正日本藥局方ヲ發布シ二十五年一月一日ヨリ之ヲ施行セリ

第二版日本藥局方ノ發行セラレテヨリ殆ト十年醫藥二學ノ進歩ニ伴フヘキ再度ノ改正ヲ要スルノ機漸ク逼リ明治三十三年三月勅令第八十號ヲ以テ日本藥局方調査會官制ヲ發布セラレ同年四月内務省衛生局長長谷川泰ヲ日本藥局方調査會長ニ、東京帝國大學醫科大學教授理學博士藥學博士長井長義、同藥學博士下山順一郎、同藥學博士丹波敬三、同醫學博士高橋順太郎、同醫學博士青山胤通、衛生試驗所技師藥學博士田原良純、同辻岡精輔、同島田耕一、宮内省藥劑師長山田董、陸軍軍醫監醫學博士小池正直、同藥劑監平山増之助、海軍軍醫大監木村壯介、同藥劑監高橋秀松、警視廳技師池口慶三、醫學博士樫村清徳ヲ同委員ニ、内務技師宮入慶之助ヲ同幹事ニ、六月陸軍三等軍醫正平井政道ヲ同委員ニ任命セララルル三十四年五月醫學博士青山胤通委員ヲ解カレ東京帝國大學助教授醫學博士入澤達吉代リ命セララルル三十五年三月幹事宮入慶之助退官ノ爲内務技師栗本庸勝之ニ代ル七月長谷川泰會長ヲ解カレ陸軍軍醫監男爵石黑忠憲代リ命セララルル同委員醫學博士樫村清徳死去シ十月佐藤佐代リ命セラレ十二月幹事栗本庸勝轉任ノ爲内務省參事官小原新三之ニ代ル三十六年四月幹事小原新三轉任シ内務省衛生局長森田茂吉代リ命セラレ九月幹事森田茂吉轉任シ後任衛生局長窪田靜太郎代リ命セララルル十二月醫學博士小池正直委員ヲ解カレ三十七年二月東京帝國大學醫科大學助教授藥學博士丹羽藤吉郎代リ命セララルル六月委員辻岡精輔卒去シ七月衛生試驗所技師齋藤寬猛代リ命セララル

委員ハ明治三十三年五月内務省ニ於テ初度ノ會議ヲ開キ調査ノ順序ヲ定メ且現行藥局方ハ其收載ノ藥品目比較の少數ニシテ實際上不便尠ナカラサルヲ以テ其範圍ヲ擴張スルコトニ決セリ然レトモ如上ノ大改正ハ長時日ヲ要スルヲ以テ全部ノ改正ニ先テ新藥其他藥品ニシテ當時汎ク使用セラルルモノ即チ沒食子酸外三十二品、次ニ「ヂ」フテリア血清外二品、次ニ消毒用石炭酸水外一品ヲ現行藥局方ニ追加スルコトニ決シ逐次其稿本ヲ議定ス即チ明治三十三年十一月内務省令第四十八號、三十六年六月内務省令第三號、三十七年五月内務省令第八號是レナリ而シテ明治二十九年三月ニ至リ全編ノ改正ヲ完了シ之ヲ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ三十九年七月内務省令第二十一號ヲ以テ之ヲ發布シ四十年一月一日ヨリ之ヲ施行セリ第三改正日本藥局方即チ是レナリ

日本藥局方ノ調査ハ之ヲ繼續スルノ必要アルニ由リ茲ニ日本藥局方調査會ヲ常設スルコトトシ明治三十九年三月勅令第五十三號ヲ以テ左ノ官制ヲ發布セラル

日本藥局方調査會官制

- 第一條 日本藥局方調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス
- 第二條 日本藥局方調査會ハ會長一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス臨時必要ノ場合ニ於テハ前項定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 會長、委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 會長及委員ノ任期ハ四箇年トス但シ必要アル場合ニ於テハ任期中解任スルコトヲ妨ケス
- 第四條 日本藥局方調査會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ヲ充ツ
- 第五條 日本藥局方調査會ニ主査委員ヲ置クコトヲ得
- 主査委員ハ内務大臣委員中ヨリ之ヲ命ス
- 第六條 會長ハ會務及議事ヲ整理シ其決議ヲ内務大臣ニ具申ス

第七條 會長事故アルトキ内務大臣ノ指定シタル委員其事務ヲ代理ス

第八條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條 日本藥局方調査會ハ議事規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 日本藥局方調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ會長、委員、幹事及書記タル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス其ノ任ヲ解カレタルモノトス

明治三十九年四月職員ノ任命アリ爾來調査ヲ續行シ其結果トシテ左記諸省令ノ發布ヲ見タリ

明治四十年七月内務省令第十八號防疫用石炭酸追加ノ件外四件

明治四十一年十二月内務省令第二十一號「バク」チ水ノ條項改正ノ件外四件

明治四十二年十一月内務省令第二十二號硼酸ノ條項改正ノ件外三十四件

明治四十三年五月内務省令第二十一號阿片ノ條項改正ノ件

明治四十四年十二月内務省令第二十號タンニン酸ノ條項改正ノ件外十一件

明治四十五年五月内務省令第四號「ヨ」ード「フ」ルム綿ノ條項改正ノ件外五件

大正二年三月内務省令第二號「ア」セト「ア」ニリ「ド」レノ條項改正ノ件外三十三件

大正二年十二月内務省令第二十號含水「ラ」ノリン「レ」ノ條項改正ノ件外八件

第三改正日本藥局方ノ發行セラレテヨリ十年其間數次ノ改正ヲ行ヒタリト雖モ醫學藥學ノ進歩ニ伴ヒ殊ニ歐洲戰亂ノ影響ニ鑑ミ大改正ノ必要ヲ認メ之カ調査ニ著手セリ其結果ハ即チ此第四改正日本藥局方トス調査事業ノ功程及調査ニ從事セシ職員ノ氏名ハ之ヲ緒言ニ掲ク

緒言

大正四年三月日本藥局方第四次改正ノ議決シ委員ハ四月第一回本會議ヲ開キ改正調査ニ關スル全般ノ方針ヲ定メ主査委員ヲシテ各擔當ノ科目ヲ分チ之カ調査ニ著手セリ但該改正ヲ完了スルニハ長時日ヲ要スルヲ以テ全部ノ改正ニ先タチ急ヲ要スルモノハ其都度之カ發布ヲ具申セリ即チ大正四年十月內務省令第十一號、テフテリア血清ノ條項改正ノ件外一件、大正五年一月內務省令第一號乳酸ノ條中改正ノ件是レナリ而シテ大正四年五月ヨリ現行藥局方中删除スヘキ藥品及新ニ收載スヘキ藥品ヲ査定シ大正五年二月ヨリ改正藥局方案ノ起草ニ著手シ又大正八年四月ヨリ主査委員中特ニ編纂委員ヲ選定セリ而シテ大正四年四月改版ニ著手セシヨリ大正九年五月ニ至ル五年二箇月間ニ於テ主査委員會ヲ開クコト九十六回、本會議ヲ開クコト四十二回、編纂會ヲ開クコト二十七回以テ全篇ノ改正ヲ完了シ之ヲ內務大臣ニ具申セリ此改正ニ於テ新ニ收載セシ藥品七十三品、删除セシ藥品九十四品、實驗及調査ニ由テ改正加除ヲナセシモノ千四百有餘件其他字句文章ノ修正ハ各條殆ト皆之ヲ行ヘリ茲ニ全般ニ關スル改正ノ要目ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 汎ク使用スル藥品殊ニ本邦產藥品ハ成ルヘク之ヲ收載セリ  
(二) 新ニ收載セシモノ左ノ如シ

アセトン、ヂエチール、バルビツール酸、クロールエチール、鹽酸エチール、モルヒネ、寒天、枸橼酸カ  
フェイン、アンチピリン、コロイド銀、ペンツアルデヒド、ペンツォール、次沒食子酸、ヨード、蒼鉛、ク

ロールカルチウム、乳酸カルチウム、膠囊、麻酔用クロロフォルム、肉桂、鹽酸エメチン、サリチール  
酸、石鹼硬膏、乳劑、肝油乳劑、砒劑、乾燥硫酸亞酸化鐵、莨菪葉、當藥、赤色硫化汞、スルフォグアヤコ  
ールカリウム、白檀、鹽酸リモナーデ、枸橼酸リモナーデ、擦劑、醋酸アルミニウム液、滅菌セラチン  
液、過酸化水素液、複方ヨード液、カリ滴液、生理クロールナトリウム液、リンゲル液、メチレン  
青、次亞硫酸ナトリウム、落花生油、杏仁油、山茶油、鹽酸バラアミノ、ペンツォイルヂエチールアミノ  
エタノール、バスタ劑、タールバスタ、アセチールサリチール酸、鹽酸キニーネ錠、ヨードカリウ  
ム錠、健胃錠、フェノールフタレイン、亞砒酸丸、規鐵丸、炭酸グアヤコール丸、炭酸クレオソート丸、  
散劑、健胃散、亞鉛華澱粉、ビオクタンニ青、遠志、飽和劑、黃蜀葵舍利別、遠志舍利別、酒精劑、精製  
滑石、テオフィルリン、稀ヨード丁幾、唐大黃、鹽酸トロパコカイン、コロイド銀軟膏、バジリ軟膏、樟  
腦軟膏、ウイルクソン軟膏、ウイルクソン軟膏、黄色ワセリン

(三) 從來收載セル藥品ニシテ使用少ナキモノハ之ヲ删除セリ其品目左ノ如シ

芳香醋、海葱醋、粗製石炭酸、乾燥卵白、アネトール、苦扁桃水、アニース水、カールム水、タール水、ヨ  
ード砒素、ガラゲン、カルウオン、重硫酸キニーネ、膠質硬膏、白瑞香皮、アコニット、越幾斯、カルド  
ベネデクト、越幾斯、カスカリ、越幾斯、カラバル豆、越幾斯、商陸、越幾斯、ラタニア、越幾斯、アルニカ花、  
ローマカミル、花、錦葵花、玫瑰花、接骨木花、菩提樹花、ウエル、バスクム花、アルテア葉、ペラドン  
ナ葉、ブッコ葉、コカ葉、ファルファラ葉、メリッサ葉、睡菜葉、カールム實、石炭酸綿、藤黃、カルドベネ  
デクト草、水銀白堊、キノ、浮石、紫檀、ヨード砒素末液、蛋白鐵液、オキシクロール鐵液、ニトログリ  
セリン液、重質煨製マグネシア、重質炭酸マグネシウム、蓄微蜜、ニトログリセリン、ヒヨス油、杜松  
實油、ラウリル脂、揮發肉豆蔻油、焦臭樹脂油、サビナ油、醋蜜、海葱醋蜜、バラアルデヒド、硼酸錠、  
乳酸鐵錠、クロール酸カリウム錠、薄荷錠、重碳酸ナトリウム錠、蘆薈阿魏丸、コロシントヒヨス丸、



- ブロード丸、硫酸キニーネ丸、水銀丸、緩下沸騰散、ゲルゼミウム根、商陸、ラタニア根、セルペンタリア根、ダムマル脂、トンコ豆、サフラン舍利別、センナマンナ舍利別、硫酸スバルテイン、緩下茶劑、和胸茶劑、杜松實精、蘆薈丁幾、ゲルゼミウム丁幾、複方ラヘンデル丁幾、ラタニア丁幾、海葱丁幾、セルペンタリア丁幾、バラフィン軟膏、吐酒石軟膏、硫黃軟膏、ウエラトリン、吐酒石酒
- (四) 化學的藥品ノ記號及分子量並生藥ノ基本植物及動物ノ名稱ハ總テ日本藥名ノ次ニ掲ケタリ
- (五) 常温、微温、温湯、熱湯及重湯煎ノ温度ヲ規定セリ
- (六) 極量ハ本邦人ノ體格ニ準シテ之ヲ改メ且藥品各條ノ末尾ニ附記セリ
- (七) 藥品試験ノ項中秤量シ得ヘキ量ノ規定ヲ掲ケタリ
- (八) 藥品試験ノ項中標示藥ヲ各條ノ下ニ指定セリ
- (九) 分極試験ニ關スル規定ヲ設ケタリ
- (十) 熔融點ノ檢定法ヲ改正セリ
- (十一) 凝固點ノ檢定法ヲ規定セリ
- (十二) 沸騰點ノ檢定法及蒸餾試験ノ方法ヲ規定セリ
- (十三) 酸度ノ檢定法ヲ規定セリ
- (十四) 酸數ノ檢定法ヲ規定セリ
- (十五) 鹼化數ノ檢定法ヲ規定セリ
- (十六) エステル數ノ檢定法ヲ規定セリ
- (十七) ヨード數ノ檢定法ヲ規定セリ

第四改正日本藥局方ノ調査ニ従事セシ職員ノ氏名左ノ如シ

會長	從三位勳一等理學博士藥學博士	長井長義
委員	正三位勳一等功三級醫學博士文學博士	森林太郎
同	從三位勳一等功三級	丹波敬三
同	從三位勳二等醫學博士	木村壯介
同	從三位勳二等功四級醫學博士	高橋順太郎
同	從三位勳二等醫學博士	本多忠夫
同	從三位勳二等功四級醫學博士	三浦謹之助
同	正四位勳二等藥學博士	田原良純
同	正四位勳三等藥學博士	池口慶三
同	從四位勳二等功四級	鶴田禎次郎
同	從四位勳三等功四級藥學博士	高橋三郎
同	從四位勳三等藥學博士	丹羽藤吉郎
同	從四位勳三等藥學博士	山田春雄
同	正五位勳四等醫學博士	林春
同	正五位勳五等醫學博士	宇野朗
同	從五位勳三等功五級藥學博士	渡邊又治郎
同	正六位勳四等藥學博士	磯野周平
同	正六位藥學博士	朝比奈泰彦
同	正六位	佐藤佐
臨時委員	從四位勳五等藥學博士	西崎弘太郎

諸言

臨時委員

同

幹事

同

主査委員

一〇

正五位勳四等

從五位理學博士

內務書記官

內務書記官

內務書記官

高橋 増次郎  
柴田 桂太  
山田 準次郎  
湯澤 三千男

正三位勳一等藥學博士

從三位勳二等醫學博士

正四位勳二等藥學博士

正四位勳三等藥學博士

從四位勳三等功四級藥學博士

從四位勳三等藥學博士

正五位勳四等醫學博士

從五位勳三等功五級藥學博士

正六位勳四等藥學博士

正六位藥學博士

丹波 敬三  
高橋 順太郎  
田原 良純  
池口 慶三  
高橋 三郎  
丹羽 藤吉郎  
林 春雄  
渡邊 又治郎  
磯野 周平  
朝比奈 泰彦

凡例

一藥品ノ順序ハ「ラテン名」「アルファベット」ニ從フ

一藥品各條ノ首ニハ「ラテン名及日本名ヲ掲クルノ外通用ノ別名アルモノハ之ヲ附記ス

一化學藥品ニハ成ルヘク化學名ヲ記ス

一藥品各條ノ記載ハ(一)製法(二)形狀(三)性質(四)實性反應(五)試驗(六)貯法ノ順序ニ據ル但此諸項

中必要ナキモノハ之ヲ掲ケス

一生藥ニハ基本植物及動物ノ名稱ヲ掲ク

一製法ハ藥品ノ集成ヲ一定スルカ爲メ必要トスル場合ニ之ヲ掲ク

一化學的集成ノ確定セル藥品ニハ記號及分子量ヲ掲ク

一原子量ハ一千九百十六年度萬國原子量表ニ據ル

一度量衡ハ「メートル系統」ニ據リ「グラム」ニハ(1g)「センチメートル」ニハ(1cm)「立方センチメ

ートル」ニハ(1cc)ノ如キ數字及略標ヲ附記ス

一溫度ハ「セルシウス氏」ノ度目ニ據リ十五度ヲ以テ定規溫度トシ十五乃至二十度ヲ常溫、三十乃至四十

度ヲ微溫トス

一溫湯ハ六十乃至七十度、熱湯ハ約百度ノ水トス

一藥品ノ純雜眞贋ハ形狀、性質、實性反應、試驗等ニ由テ判定ス

一藥品各條ノ下若干分ト記スルハ總テ重量ヲ指ス

一溶液ノ比例ヲ掲ケテ(1:10)、(1:20)等ト記スルモノハ溶液十分、二十分等ノ中ニ藥品一分ヲ含ムノ

記號ニシテ總テ概數ヲ指ス

一藥品各條ノ下性質、試驗ノ諸項ニ於テ單ニ水ト記スルモノハ總テ蒸餾水ヲ指ス

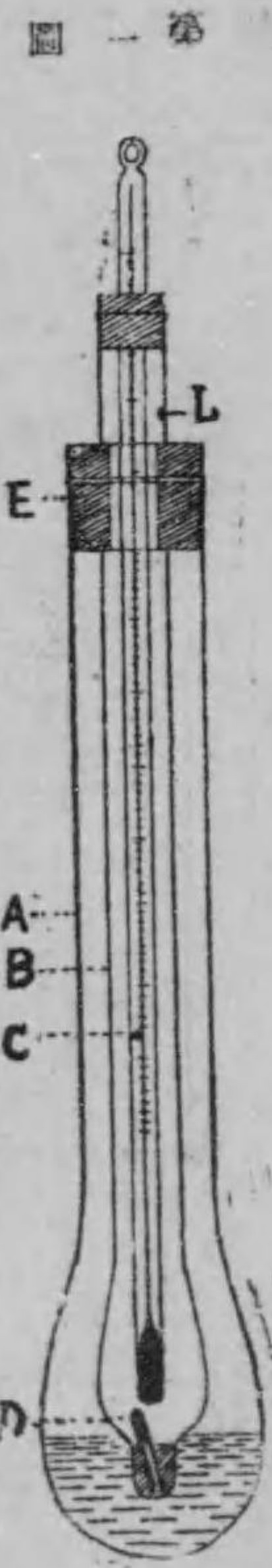
凡例

一一

- 一藥品ノ定性試験ハ特ニ記載スルモノノ外其溶液約十立方センチメートル(10 cm)ヲ取り内徑約一・五センチメートル(1.5 cm)ノ試験管中ニ於テ之ヲ行フ
- 一單ニ溶液ト稱シテニ其溶解藥ヲ示ササルモノハ總テ水溶液ヲ指ス
- 一冷浸ハ十五乃至二十五度ニ於テ行ヒ温浸ハ三十五乃至四十五度ニ於テ行フ
- 一重湯煎ノ温度ハ特別ニ記載セル外約百度トス
- 一約百度ノ蒸氣浴ハ重湯煎ニ代用スルコトヲ得
- 一生藥ハ特別ニ記載セル外總テ乾燥品ヲ供用ス但乾燥ハ四十度ヲ超エサル温ヲ以テ行フ
- 一峻烈ナル生藥及其製劑ニ於テハ成ルヘク主成分ノ試験法ヲ記ス
- 一極量ハ之ヲ藥品各條ノ末尾ニ掲ク
- 一光ヲ遮リ貯フヘシド記載セル藥品ヲ硝子壺ニ容ルルニハ黒色或ハ黃褐色ノモノヲ選用ス
- 一藥品各條中秤定シ得ヘキ量トハ〇・〇〇一グラム(0.001 g)以上ノモノトス
- 一標示藥ハ之ヲ使用スヘキ藥品各條ノ下ニ指定ス
- 一分極試験ニハ「ナトリウム光ヲ用ヒ特ニ記載セル外二十度ノ温ニ於テ施行シ其成績ハ百ミリメートル(100 mm)ノ層長ニ於ケル旋光度  $d_{D_{20}}$ 」ヲ以テ示ス
- 一熔融點ノ檢定ハ脂肪及其類似品ヲ除ク外下端熔閉シ内徑一ミリメートル(1 mm)ヲ超エサル薄キ硝子毛細管ヲ以テ行フ檢體ハ豫メ微細ノ粉末トナシ特ニ記載セル外除濕器内ニ於テ約二十四時間乾燥シタル後毛細管ニ容レ二乃至三ミリメートル(2-3 mm)ノ層トナシ之ヲ驗温器ニ固定シ下部球形ヲナセル内徑約三センチメートル(3 cm)、長サ約三十センチメートル(30 cm)ノ硬質硝子管球部ノ内容約三分ノ二ニ硫酸ヲ容レタルモノ中ニ挿入シ温ヲ與ヘ其温度豫期ノ熔融點以下約十度ニ達スルニ至リ一度ヲ上昇セシムルニ約三十秒時間ヲ要スル程度ニ於テ熱シ檢體透明トナリ一小滴ニ集合スル温度ヲ以テ

其熔融點トス

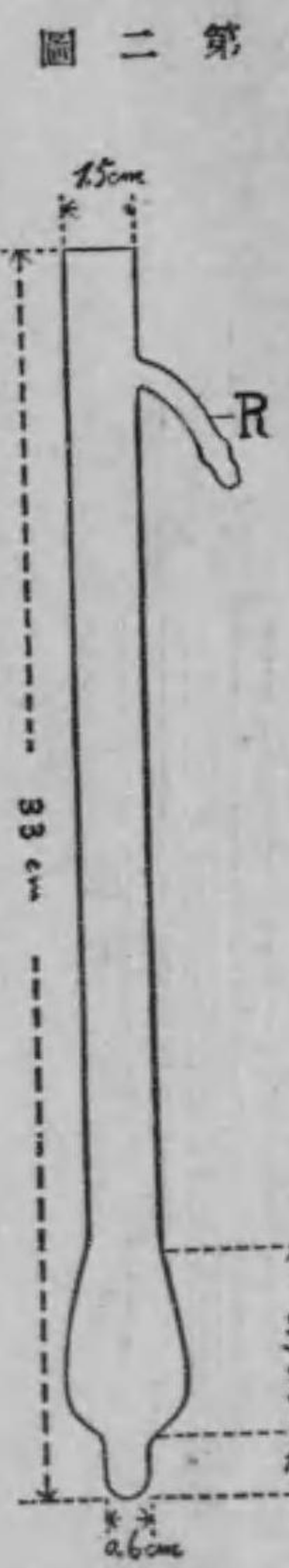
- 一脂肪及其類似品ノ熔融點ヲ檢スルニハ豫メ熔融セシメタル檢體ヲ兩端開放セル内徑約一ミリメートル(1 mm)ノ薄キU字形毛細管中ニ吸引シ其兩脚ニ於ケル檢體ヲ同一ノ高サトナシ二時間水上若クハ二十四時間低温(約十度)ニ放置シ全ク凝固セシメタル後之ヲ驗温器ニ固定シ内徑約三センチメートル(3 cm)ニシテ豫メ「グリセリン及水等分ノ混液ヲ盛リタル試験管中ニ挿入シ徐々ニ熱シテ檢體ノ全ク澄明トナル温度ヲ以テ其熔融點トス
- 一凝固點ノ檢定ハ檢體約十グラム(10 g)ヲ試験管ニ取り驗温器ヲ挿入シ注意シテ熔融セシメタル後之ヲ豫期ノ凝固點以下約五度ノ水中ニ挿入シテ凝固點以下約二度ニ冷却シ驗温器ヲ以テ攪拌シ尙必要アラハ檢體ノ一小片ヲ投入シテ凝固スルニ至ラシメ其際上昇セル水銀柱ノ最高位ヲ以テ其凝固點トス
- 一沸騰點ニ據リ藥品ノ實性ヲ檢定スルニハ内徑約一・五センチメートル(1.5 cm)、長サ約三十センチメートル(30 cm)ノ薄壁硝子管上端ヨリ約三センチメートル(3 cm)ニシテ其下部硝子形ヲナシ且其底部更ニ下方ニ向テ乳嘴狀ニ突起セルモノヲ用ヒ其乳嘴狀部ニ少量ノ檢體ヲ容レ枹栓ニ由リ之ニ驗温器ヲ挿入シテ其水銀部ヲ硝子形部ノ中央部ニ達セシメ之ヲ更ニ熔融點檢定ニ使用スル球管球部ノ約二分ノ一ニ中ニ挿入シテ其乳嘴狀部ヲ硫酸中ニ没入セシメ熔融點檢定ニ於ケル如ク加熱シ檢體ヨリ連續シテ氣泡ヲ發生シ其際示ス一定ノ温度ヲ以テ其沸騰點トス沸騰ノ遲延ヲ防ク爲メ長サ約六ミリメートル(6 mm)ノ一端熔閉セル厚壁硝子毛細管ヲ檢體中ニ挿入スヘシニシテ



凡例

(註解) 前上沸騰點檢定裝置ハ第一圖ニ示ス如ク外管A、内管B、檢温器C及沸騰促進管Dノ四部ヨリ成リ外管ハ通常熔融點檢定ニ用フル如キ長頸コンデンシ

凡例

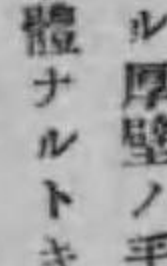


一四  
 テ内管ハ薄壁ノ硝子管ヲ以テ作り其形略ク外管ニ對應シ其上端附近ニ於テ小孔ヲ穿テ沸騰ニヨリテ生セル蒸氣ヲ逃散セシムルノ用ニ供ス又内管ノ底部ニハ短小ナル乳嘴狀突起ヲ具ヘ其上

圖二第

部ハ少シク膨大シテ恰モ「ランプ」ノ火屋ノ如キ形ヲナス而シテ第二圖ニ示セル内管ハ減壓時ニ於ケル沸騰點檢定ニ用ヒ小孔ノ部位ニ枝管ヲ附ス内管ハ檢定ニヨリテ外管中ニ挿入シ檢定ハ幅約〇.五センチメートルノ切り込ミヲ有シ檢温器讀取ニ便ナラシム沸騰促進管ハ第三圖ニ示ス如ク一端

圖三第



溶閉セル厚壁ノ毛細管ニシテ成ルヘク重クシテ沸騰ノ爲メ甚ダシク飛上ラサル程度ノモノヲ選フヘシ檢温器讀取ニ便ナラシム沸騰促進管ハ第三圖ニ示ス如ク一端レ次ニ促進管ヲ投入シ外管ノ硫酸其他液浴中ニ第一圖ニ示セル程度ノ位置ニ内管ヲ裝置シ且檢温器ハ其水銀槽部ヲシテ内管ノ膨大部中央ニ達セシム而シテ外管底部ヲ小火焰ヲ以テ徐々ニ加熱スルトキハ暫時ニシテ檢温器ヨリ氣泡ヲ發シ始メ遂ニ線狀ニ連續スル氣泡ヲ發生スルニ至ル此際檢温器ノ示度ハ急ニ上昇シ檢温器ノ沸騰點ヲ示スニ至リテ止ム(藥學雜誌第四百三十四號)

一蒸餾法ニ據リ藥品ノ純雜ヲ檢定スルニハ少クモ檢體五十立方センチメートル(50cc)ヲ内容七十五乃至百立方センチメートル(75-100cc)ノ蒸餾壺ニ取り蒸餾スヘシ其際驗温器ノ水銀部ハ偏出管ノ下一センチメートル(1cm)ノ位置ニ在ラシメ沸騰ノ遲延ヲ防ク爲メ素燒破片ヲ投入スヘシ檢體ノ殆ト全部ハ藥品ノ條ニ規定セル溫度ノ範圍内ニ於テ偏出スルヲ要ス

一脂肪ノ酸度トハ脂肪百グラム(100g)中遊離酸ノ中和ニ要スル定規カリ液ノ立方センチメートル數ヲ云フ其檢定ニハ脂肪五乃至十グラム(5-10g)ヲ酒精及エーテルノ同容量ヨリ成レル中性ノ混液三十乃至四十立方センチメートル(30-40cc)ニ溶解シ十分定規液カリ液ヲ用ヒ標示藥トシテ「フェ

ノールフタレイン溶液一立方センチメートル(1cc)ヲ添加シ測定スヘシ其際脂肪ノ一部分析出スルコトアルトキハ更ニ前記ノ溶解藥ヲ追加スヘシ

(註解) 例之ハ豚脂五〇七グラムヲ取り其測定ニ十分定規カリ液〇.九立方センチメートル(即チ定規カリ液〇.〇九立方センチメートル)ヲ要シタリトセハ左式ニヨリ酸度ヲ算出シ得ヘシ

$$\frac{0.09 \cdot 100}{5.07} = 1.78$$

一酸數トハ蠟、樹脂又ハ「バルサム」一グラム(1g)中遊離酸ノ中和ニ要スル水酸化カリウム「ミリグラム數」ヲ云フ其檢定法ハ藥品ノ各條ニ掲ク

(註解) 例之ハ「コバイバ」バルサム一グラムヲ取り其遊離酸ノ中和ニ酒精製二分定規カリ液二.八立方センチメートル(其一立方センチメートル)ハ水酸化カリウム二八.〇五ミリグラムニ對應ス)ヲ要シタリトセハ左式ニヨリ酸數ヲ算出シ得ヘシ

$$\frac{2.8 \cdot 28.055}{1} = 78.55$$

一鹼化數トハ脂肪、油、蠟又ハ「バルサム」一グラム(1g)中遊離酸ノ中和及エステルノ分解ニ要スル水酸化カリウム「ミリグラム數」ヲ云フ其檢定ハ特別ニ規定セル外檢體一乃至二グラム(1-2g)ヲ内容百五十立方センチメートル(150cc)ノ硬質硝子壺ニ秤取シ之ニ酒精製二分定規カリ液二十五立方センチメートル(25cc)ヲ加ヘ長サ七十五センチメートル(75cm)ノ硝子管ヲ附シタル栓ヲ壺口ニ挿入シ重湯煎上ニ於テ十五分時間微ニ沸騰セシメ其際注意シテ屢、硝子壺ヲ搖動シ鹼化ヲ結了セシムヘシ然ル後温ニ乘シ其溶液ニ「フェノールフタレイン」溶液一立方センチメートル(1cc)ヲ添加シ直チニ二分定規鹽酸ヲ以テ還測スヘシ

凡例

(註解)

例之ハ油一・五六二グラムヲ取リ、鹼化ニ添加セル酒精製カリ液二十五立方センチメートルハ二分定規鹽酸  
 二十三・五立方センチメートルニ對應シ鹼化後尙存在スル遊離ノ水酸化カリウムヲ中和スルニ二分定規鹽酸十二・八立方セ  
 ンチメートルヲ要シタリトセハ茲ニ使用セル油ノ鹼化ニ要スル水酸化カリウムニ對應スル二分定規鹽酸ノ量ハ十・七立方  
 センチメートル (53.5-12.8=40.7 cc) ナリ故ニ鹼化數ハ左式ニヨリ之ヲ算出シ得ヘシ

$$\frac{10.7 \cdot 28.055}{1.562} = 192.5$$

一 エステル數トハ揮發油又ハ蠟一グラム(一〇)中エステルノ鹼化ニ要スル水酸化カリウムノ「ミリグラ  
 ム數ヲ云フ其檢定法ハ藥品ノ各條ニ掲ク

一 ヨード數トハ脂肪又ハ脂肪油百分中ノ不飽和化合物ト結合スヘキ「ヨード量ヲ云フ其檢定ニハ熔融  
 セル脂肪又ハ脂肪油ノ一定量(カカオ脂〇・八乃至一グラム、亞麻仁油〇・六乃至〇・七グラム、桐油、落花生  
 亞麻仁油〇・五乃至〇・六、椰子油、杏仁油、胡麻油、山茶油〇・三乃至〇・四グラム、大風子油、肝油、  
 一八グラム(〇・15)ヲ硝子栓ヲ有スル内容約二百五十立方センチメートル (250 cc)ノ壺中ニ取リ  
 「クロロフォルム十五立方センチメートル (15 cc)ニ溶解シ酒精製ヨード溶液及酒精製昇汞溶液各  
 同容量ノ混液(混和後少ナクモ四十八時間ヲ經タルモノ)三十立方センチメートル (30 cc)ヲ和シ搖  
 動スルニ至ク清澄ナラサルトキハ少許ノ「クロロフォルム」ヲ追加スヘシ又少時ノ後殆ト全ク脱色ス  
 ルトキハ更ニ「ヨード昇汞溶液」ヲ添加スヘシ其量ハ常溫ニ於テ直射日光ヲ避ケ二時間(亞麻仁油及肝  
 油ニ在テハ十八時間)ヲ經ルモ著シク褐色ヲ呈スル程度ニ於テ存セサルヘカラス尋テ其混和液ニ「ヨ  
 ードカリウム溶液十五立方センチメートル (15 cc)ヲ加ヘ搖動シタル後水百立方センチメートル  
 (100 cc)ヲ注加スヘシ其際赤色ノ沈澱ヲ生スルコトアルトキハ「ヨードカリウム溶液」ヲ追加シ屢々  
 振盪シツツ十分定規次亞硫酸ナトリウム液ヲ滴加シ水液及クロロフォルム層ノ微ニ色ヲ存スルニ至  
 リ澱粉溶液ヲ加ヘ更ニ次亞硫酸鹽液ヲ滴加シ脱色スルニ至ルヘシ  
 前上ノ試験ニハ毎回檢體ヲ用ヒスシテ對照試験ヲ行ヒ「ヨード昇汞溶液」ノ効力ヲ檢定スヘシ

(註解)

例之ハ豚脂〇・六〇五グラム及ヨード昇汞混液三十立方センチメートルヲ使用シ又對照試験ニ於テ「ヨード」ノ  
 測定十分定規次亞硫酸ナトリウム液四十五・五立方センチメートル、本試験ニ於テ其十八・七立方センチメートルヲ要シタ  
 リトセハ二十六・八立方センチメートル (45.5-18.7=26.8 cc)ノ十分定規次亞硫酸ナトリウム液ニ對應スル「ヨード」ノ量即チ  
 〇・三四二グラム(十分定規次亞硫酸ナトリウム液一立方センチメートルハ「ヨード」〇・一二六九二グラムニ對應シ從テ  
 26.8, 0.012692=0.3402 g)ハ茲ニ使用セル量ノ豚脂ト結合セルモノナリ故ニ其ヨード數ハ左式ニヨリ算出シ得ヘシ

$$\frac{0.3402 \cdot 100}{0.605} = 56.23$$

一 判截及粉末藥品ヲ製スルニ使用スヘキ篩ハ左ノ六種トス

- 第一號 内徑四ミリメートル (4 mm)ノ篩眼ヲ有スルモノ
- 第二號 内徑三ミリメートル (3 mm)ノ篩眼ヲ有スルモノ
- 第三號 内徑二ミリメートル (2 mm)ノ篩眼ヲ有スルモノ
- 第四號 長サ一センチメートル (1 cm)ニ付キ十篩眼ヲ有スルモノ
- 第五號 長サ一センチメートル (1 cm)ニ付キ二十六篩眼ヲ有スルモノ
- 第六號 長サ一センチメートル (1 cm)ニ付キ四十篩眼ヲ有スルモノ

一 藥品ノ判截及粉末ノ等差ハ左ノ如シ

- 粗判截藥 第一號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
- 中判截藥 第二號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
- 細判截藥 第三號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
- 粗末藥 第四號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
- 中末藥 第五號篩ヲ以テ篩過シタルモノ
- 細末藥 第六號篩ヲ以テ篩過シタルモノ

粗中、細判截藥及粗末藥ヲ製スルニ當リ第五號條ヲ通過スル部分ヲ除去スヘシ但判截藥ヲ浸出シテ製劑ヲ製スルニハ特別ニ記載セル外微細ノ部分ヲ除去スヘカラス

一藥局方ノ末尾ニハ試藥及定規液ヲ掲ケ定規液ノ各條ニハ各之ニ對應スル物質ノ量ヲ記ス

一藥局方ニハ左ノ諸表ヲ附ス

第一表 藥局ニ於テ常ニ貯藏スルヲ要スル藥品ノ表

此種ノ藥品ハ各條藥名ノ上ニ〇標ヲ附シテ之ヲ別ツ

第二表 他藥ト區別シ閉鎖スヘキ場所ニ貯フヘキ藥品即チ毒藥名表

此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「最モ注意シテ貯フヘシ」ト記ス

第三表 他藥ト區別シテ貯フヘキ藥品即チ劇藥名表

此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「注意シテ貯フヘシ」ト記ス

第四表 大人ニ對スル藥品一回及一日極量ノ表

醫師ハ其處方箋中藥品分量ノ下特ニ注意標ヲ附スルニ非サレハ極量ヲ超エテ處方スルコトヲ得

ス

第五表 重要ナル原素ノ記號及原子量表

一藥局方ノ卷尾ニハ法定藥品名及慣用藥品名對照表並藥品ノ「ラテン主名及別名ヲ」アルファベット順

ニ日本主名及別名ヲ「イロハ順」ニ序列セル索引ヲ附ス

### 第四 改正 日本藥局方通解

日本藥局方調査會主査委員 藥學博士 池口慶三著

○ Acetanilidum. Antifebrinum.

アセトアニリド アンチフェブリン

$C_8H_9NO = 135.13$

アセトアニリド(一)ハ光輝アル白色無臭ノ葉狀結晶ニシテ味微ニ辛ク百十三乃至百十四度ニ於テ熔融シ二百三十分ノ水並約二十二分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ(二)酒精並クコロフォルムニ容易ニ又エトアルニ溶解ス

本品〇・一グラム(0.1g)ニ「カリ」滴液五立方センチメートル(5ccm)ヲ加ヘテ熱スレハ「アニリン」ノ臭氣ヲ發シ之ニ「コロフォルム」二三滴ヲ點加シタル後更ニ熱スレハ「イソニトリール」ノ惡臭ヲ放ツ(三)

本品〇・二グラム(0.2g)ニ鹽酸二立方センチメートル(2ccm)ヲ加ヘテ煮沸シテ溶解シタル後石炭酸溶液四立方センチメートル(4ccm)ヲ和シ「クロール石灰溶液」ヲ加フレハ汚紫藍色ヲ呈シ之ヲ「アムモニア水」ヲ以テ過飽スレハ永ク藍色ヲ呈ス(四)

アセトアニリド

本品ノ冷飽和水溶液ハ稀過クロール鐵溶液ニ由テ變化スヘカラス(五)  
本品〇・一グラム(0.1g)ハ硫酸一立方センチメートル(1cm)ニ染色セスシテ溶解スヘシ(六)又本品〇・一  
グラム(0.1g)ヲ硝酸一立方センチメートル(1cm)ニ和シ振盪スルニ染色スヘカラス(七)  
本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)  
注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・三グラム(0.3g)  
一日ノ極量 一グラム (1g)

(註 解)

(1)  $C_6H_5NHCOCH_3$  ナル構造ヲ有ス (II) 酸性ナレハ鹼酸ノ存在ヲ徵ス (III) 質性反應  $C_6H_5NHCOCH_3 + KOH =$   
 $C_6H_5NH_2 + CH_3COOK; C_6H_5NH_2 + OCl_2 + 3KOH = C_6H_5NO + 3KCl + 3H_2O$  (IV) 所謂インドンフェニール反應 (五) 本品ノ水溶液  
ヲ蒸シテ

ハ過クロール鐵ニ由テ變化セス之ニ反シテ「アンチピリン」ハ赤色、タルリン」ハ綠色、アニリン」ハ帶綠黑色ヲ呈ス(六)砂糖類其他有  
機性夾雜物ノ試験(七)フェナセチン」ノ試験(八)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

内服ニハ解熱劑、鎮痛劑トシテ實用セラレ一日一―三回〇・一―〇・三ヲ數劑又ハ丸劑トナシ用セ外用ニハ防腐的敷  
布粉トシテ惡性潰瘍ニ用フルコトアリ

Acetonum.

アセトン



アセトン(一)ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ點火スレハ光輝アル火焰ヲ放テ燃燒ス水、  
酒精、エーテル又クロロフォルム」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ比重〇・七九五乃至〇・七九八ニシテ五十五乃

至五十七度ニ於テ殆ト全ク蒸餾ス

本品十立方センチメートル(10ccm)ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ見ルヘカラス(二)

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ「フェノール」フタレイン溶液二三滴ヲ加ヘ持續スル紅色ヲ呈セシム  
ルニハ定規カリ液ヲ費スコト一滴ニ過クヘカラス(三)

本品二十立方センチメートル(20ccm)ニ十分定規過マンガン酸カリウム液三滴ヲ加ヘタルモノハ十五分  
時間以内ニ其紅色消失スヘカラス(四)

(註 解)

(1)  $HOCH_2COCH_3$  ナル構造ヲ有ス(二)揮發性物質ノ試験(三)酸度ノ試験(四)無機物質ノ試験

(應 用)

主トシテ發泡膏ノ原料ニ用フ

Acetum pyrolignosum crudum.

粗製木醋

粗製木醋(一)ハ褐色ノ液ニシテ木タール及醋酸ニ類スル臭氣ヲ有シ味ハ酸クシテ稍苦シ永ク貯フレハ木  
タール様ノ物質ヲ分離ス

本品ハ百分中六分以上ノ純醋酸( $C_2H_4O_2 = 60.04$ )ヲ含有ス

本品ニ同容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ濾過シテ得タル液ハ黄色血滿鹽溶液ニ由テ淡藍色ヲ呈スルニ過クヘカ  
ラス(二)又硝酸バリウム溶液並硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ止マルヘシ(三)又硫化水素水ニ由  
テ變化スヘカラス(四)

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ定規カリ液十立方センチメートル(10ccm)ヲ加ヘタルモノハ「アル

アセトン 粗製木醋

粗製木醋 醋酸

カリ性反應ヲ徴スヘカラス(五)

(註)

解) (一)成分ハ木精、醋酸其他揮發性脂肪酸類、アセトン、フェニール標物質、クレオソート、ピリヂン等トス(二)醋酸

酸化鐵ノ試験  $4Fe(OH_2COO)_2 + 3[K_2Fe(OH)_2] = Fe_2[Fe(OH)_2] + 12OH_2COOK$  (三)痕跡以上硫酸並に酸又チロール化物ノ試験(四)

金屬珠ニ銅、鉛、亜鉛ノ試験(五)十分定規カリ液一立方センチメートルハ醋酸〇・〇六〇〇四グラムヲ中和シ醋酸ノ最少含量六%

ニ該當ス 其ママ又ハ稀釋シテ消毒又ハ洗滌ニ使用ス其他慢性咽頭加答兒ニ塗布劑トシテ一週二三回用フ

(醫治効用)

Acidum aceticum.

醋酸

醋酸(一)ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ酸性ノ臭味ヲ有ス比重一・〇四一ナリ

本品ハ百分中三十分ノ純醋酸( $C_2H_4O_2 \equiv 60.04$ )ヲ含有ス

本品一容量ニ水五容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ「ナトロン油液ヲ以テ中和シタル後過クロール鐵溶液

ニ由テ赤色ヲ呈ス(二)

本品ハ「ナトロン油液ヲ以テ中和スルニ焦臭ヲ放ツヘカラス(三)又同容量ノ硫酸ヲ混和スルニ染色セス(四)冷後之ニ半容量ノ硫酸亞酸化鐵溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス。

(五)

本品一立方センチメートル(1ccm)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ヲ和スルニ一時間

以內ニ暗色ヲ呈スヘカラス(六)

本品一容量ニ水五容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸バリウム溶液(七)硝酸銀溶液(八)アムモニア水(九)又硫化水素水(十)ニ由テ變化スヘカラス

本品二十立方センチメートル(20ccm)ニ過マンガン酸カリウム溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和スルニ三十分時間以內ニ其紅色ヲ消失スヘカラス(十一)

本品五立方センチメートル(5ccm)ヲ中和スルニハ定規カリ液二十六立方センチメートル(26ccm)ヲ費スヘシ(標示藥フェニールフタレイン溶液)(十二)

(註)

解) (一)  $OH_2COOH$  ナル構造ヲ有ス (二) 實性反應  $3OH_2COOH + 3NaOH + FeCl_2 = Fe(OH_2COO)_2 + 3NaCl + 3H_2O$

(三) 無性物質ノ試験(四) アセトン其他有機性夾雜物ノ試験(五) 硝酸ノ試験  $2HNO_3 + 6FeSO_4 + 3H_2SO_4 = 3Fe_2(SO_4)_3 + 2NO + 4H_2O$

致ニ生シタル酸化窒素ハ過剰ノ硫酸亞酸化鐵ト共ニ褐色ノ化合物ヲ生ス(六) 砒素ノ試験  $As_2O_3 + 3SnCl_2 + 6HCl = As_2Cl_3 + 3SnCl_4 + 3H_2O$

銅ノ試験  $H_2SO_4 + Ba(NO_3)_2 = BaSO_4 + 2HNO_3$  (七) 鐵酸ノ試験  $HCl + AgNO_3 = AgCl + HNO_3$  (八) 亞硝酸ノ試験  $As_2O_3 + 3SnCl_2 + 6HCl = As_2Cl_3 + 3SnCl_4 + 3H_2O$

銅ノ試験  $OH_2COOH + KOH = OH_2COOK + H_2O$  ナル反應ニヨリ定規カリ液一立方センチメートルハ醋酸〇・〇六〇〇四グラムヲ中和シ正條ノ規定ニヨリ本品五立方センチメートル(即チ  $5 \times 1.041 = 5.205$  グラム)中ニハ醋酸一五

六一〇四グラム ( $36 \times 0.06004$ )ヲ含有ス故ニ次ノ比例ニヨリ  $5.205 : 1.5104 = 100 : x$  純醋酸ノ含量三十%ヲ徵ス

(醫治効用)

主トシテ外用ニ稀法劑トシ綿帶水トシ又ハ止血劑トシテ用フ

Acidum aceticum dilutum.

稀醋酸

稀醋酸ハ

醋酸 稀醋酸



醋酸

一分(1)  
四分(4)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ無色澄明ノ液ニシテ酸性ノ臭味ヲ有ス

本品ハ百分中六分ノ純醋酸( $C_2H_3O_2$   $\parallel$  60.04)ヲ含有ス

本品ノ試験ハ醋酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品十立方センチメートル(10ccm)ヲ中和スルニハ定規カリ液十立方センチメートル(10ccm)ヲ費スヘシ  
(標示薬フェノールフタレイン溶液)(1)

(註) 解 (一)正條ノ規定ニヨレハ本品十立方センチメートル(比重一・〇〇八トスレハ十・〇八グラム)中ニハ醋酸〇・六〇〇

四グラムヲ含有ス即チ純醋酸ノ含量六%ヲ數ス

(醫治効用)

内服ニハ合劑又ハ飽和劑(100:150:100)トシテ熱病ニ止渴劑トシ又ハ麻酔藥及アルカリ中毒ニ解毒劑トシテ用フ  
外用ニハ慢性咽喉炎、扁桃腺炎、壞血性齒齦等ニ含嗽水トシ挫傷、皮下出血、惡性ノ化膿性創傷等ニ藥法劑トシ細菌、膿出血、腦充血  
等ニ瀉腸劑トシ出血、動血ニ注射劑トシ又ハ病室ノ蒸氣ニ用フ

Acidum aceticum glaciale.  
氷醋酸

氷醋酸ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ刺スカ如キ酸臭及強キ酸味ヲ有シ寒冷ニ逢ヘハ凝結シテ結晶塊トナリ水、酒精又エーテルニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重約一・〇五六乃至一・〇六四、凝固點九度以上ナリ

本品ハ百分中九十六分以上ノ純醋酸( $C_2H_3O_2$   $\parallel$  60.04)ヲ含有ス

本品一容量ニ水二十容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ、ナトロン滴液ヲ以テ中和シタル後過クロール鐵溶液ニ由テ赤色ヲ呈ス

本品一容量ニ水二容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ、ナトロン滴液ヲ以テ中和スルニ焦臭ヲ放ツヘカラス又同容量ノ硫酸ヲ混和スルニ染色セス冷後之ニ半容量ノ硫酸亞酸化鐵溶液ヲ加ヘテ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス

本品一容量ニ水二容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノ一立方センチメートル(1ccm)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス

本品一容量ニ水二十容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸バリウム溶液、硝酸銀溶液、アムモニア水又硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス

本品五立方センチメートル(5ccm)ニ水十五立方センチメートル(15ccm)ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ過マンガン酸カリウム溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和スルニ三十分時間以内ニ其紅色ヲ消失スヘカラス

本品五グラム(5g)ニ水ヲ加ヘ五十立方センチメートル(50ccm)ニ稀釋シタル液十立方センチメートル(10ccm)ヲ中和スルニハ定規カリ液少ナクモ十六立方センチメートル(16ccm)ヲ費ササルヘカラス(標示薬フェノールフタレイン溶液)(1)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註)

解

(一)定規カリ液一立方センチメートルハ醋酸〇・六〇〇四グラム從テ其十六立方センチメートルハ醋酸〇・九六

グラムニ對應ス即チ純醋酸ノ含量九十六%ヲ數ス其ノ他試驗ニ關シテハ醋酸ノ條ヲ參照スヘシ

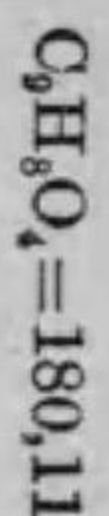
(醫治効用)

主トシテ外用ニ腐蝕劑トシテ蠍眼、皮膚硬結ニ又ハ吸入劑トシテ失神時ニ用フ

アセチールサリチール酸

Acidum acetylsalicylicum.

アセチールサリチール酸



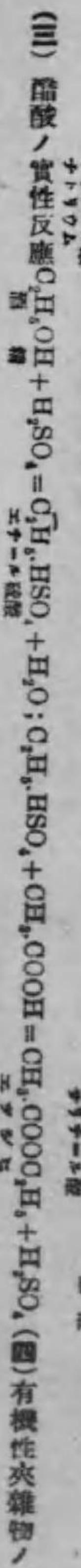
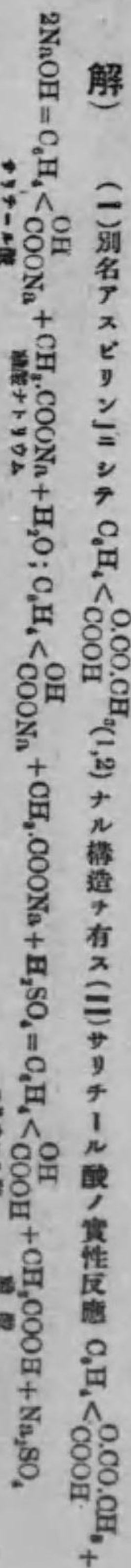
アセチールサリチール酸(白色結晶性ノ粉末或ハ鱗片状ノ結晶ニシテ殆ト臭氣ナク水ニ僅微ニ、熱湯、酒精又エーテルニ容易ニ溶解シ約百三十五度ニ於テ熔融ス

本品〇・五グラム(0.5g)ニ「ナトロン」滴液十立方センチメートル(10ccm)ヲ和シ二三分時間煮沸シ冷後其澄明液ニ過剰ノ稀硫酸ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタル後百五十六乃至百五十七度ニ於テ熔融シ其水溶液ハ過クロール鐵溶液ニ由テ紫色ヲ呈ス(二)又白色ノ沈澱ヲ濾過シテ得タル液ニ酒精及硫酸ヲ加ヘテ煮沸スレハ醋酸エーテルノ香氣ヲ發ス(三)

本品〇・一グラム(0.1g)ハ硫酸一立方センチメートル(1ccm)ニ殆ト染色セスシテ溶解スヘシ(四)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ酒精五立方センチメートル(5ccm)ニ溶解シ之ニ水二十立方センチメートル(20ccm)ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ過クロール鐵溶液一滴ニ由テ直チニ紫色ヲ呈スヘカラス(五)本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(六)

(註) 解



試験(五)アセチール化セサル「サリチール酸」試験(六)無機性夾雜物ノ試験ニシテ此試験ニハ本品〇・二グラムヲ用フヘシ(醫治効用) 主トシテ腸内ニ於テ分解シ「サリチール酸」ヲ放チ胃ヲ害スルコト尠ナキヲ以テ「サリチール酸ナトリウム」ノ代用

品トシテ實用セラレ内服ニハ一日三回〇・五—一・〇ヲ用フ

Acidum arsenicosum.

亞砒酸



亞砒酸ハ白色瓷質様或ハ硝子様ノ塊片或ハ白色ノ粉末ニシテ臭味ナク十五分ノ熱湯ニ徐々ニ全ク溶解ス試験管内ニ於テ注意シテ熱スレハ昇華シテ硝子様ノ光澤ヲ有スル八面體或ハ四面體ノ結晶ヲ生シ木炭上ニ熱スレハ蒜臭ヲ放テ揮散ス

本品ハ百分中九十九分以上ノ純亞砒酸ヲ含有ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和シタルモノハ硫化水素水ニ由テ「アムモニア」水ニ溶解スヘキ黄色ノ沈澱ヲ生ス(一)

本品一分二十分ノ「アムモニア」水ヲ加ヘテ温ムレハ澄明ニ溶解スヘシ(二)此溶液ニ十分ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ過剰ノ鹽酸ニ由テ黄色ヲ呈スヘカラス(三)

本品ヲ硝子管内ニ熱スレハ昇華シテ固性物ヲ殘留スヘカラス或ハ之アルモ百分ニ付キ〇・一分ニ過クヘカラス(四)

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ重碳酸ナトリウム三グラム(3g)ト共ニ熱湯ニ溶解シ冷後水ヲ加ヘテ百立方センチメートル(100ccm)トナシタルモノ十立方センチメートル(10ccm)ハ十分定規ヨリ少量ナクモ十立方センチメートル(10ccm)ヲ脱色セサルヘカラス(標示藥澱粉溶液)(五)最モ注意シテ貯フヘシ

亞砒酸

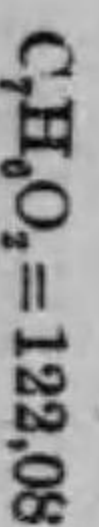
一回ノ極量 〇・〇〇五グラム(0.005 g)  
一日ノ極量 〇・〇一五グラム(0.015 g)

(註) 解 (一) 質性反應 (二) 潤滑又ハ沈澱ヲ生セハ酸化アンチモン、石膏、滑石、硫酸重土等ヲ夾雜スル微 (三) 硫化砷素ノ試験  
ニシテ硫化砷素「 $\text{As}_2\text{S}_3$ 」ニヨリ「 $\text{As}_2\text{S}_5$ 」メタ亞砷酸及メタ硫酸砷素「 $\text{As}_2\text{O}_3$ 」トナリ溶解シ鹽酸ニヨリ再ビ析出スルモノナ  
 $\text{As}_2\text{S}_5 + 4\text{NH}_3 + 2\text{H}_2\text{O} = (\text{NH}_4)_2\text{AsO}_4 + 3(\text{NH}_4)_2\text{S}_2\text{O}_8 + (\text{NH}_4)_2\text{AsO}_3 + 3(\text{NH}_4)_2\text{S}_2\text{O}_7 + 4\text{HCl} = 2\text{As}_2\text{S}_5 + 4\text{NH}_4\text{Cl} + 2\text{H}_2\text{O}$  (四)  
石膏、滑石、硫酸重土等ヲ夾雜セサル微 (五) 本定量法ニ於テ亞砷酸ハ次ノ如ク酸化セラル  $\text{As}_2\text{O}_3 + 4\text{I} + 4\text{NaHCO}_3 = \text{As}_2\text{O}_5 +$   
 $4\text{NaI} + 4\text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$  而シテ十分定規ヨリ一立方センチメートル「 $\text{As}_2\text{O}_3$ 」ニ六九二グラム「 $\text{As}_2\text{O}_5$ 」ヲ含有シテ此ヨリ  
下量ハ亞砷酸  $\text{As}_2\text{O}_3$  〇・〇〇四九四八グラム (507.88:197.92 = 0.012692:1:1 = 0.0012692) 又該液十立方センチメートル「 $\text{As}_2\text{O}_3$ 」ハ其  $\text{As}_2\text{O}_3$  〇・〇四九四  
八グラム「 $\text{As}_2\text{O}_5$ 」ニ對應ス此量タル供試量  $\text{As}_2\text{O}_3$  〇・〇五グラム「 $\text{As}_2\text{O}_5$ 」ノ十分「 $\text{As}_2\text{O}_3$ 」中ニ含有セラル、ヲ以テ本品ハ少ナクモ純亞砷酸九十  
九%ヲ含有ス「 $\text{As}_2\text{O}_3$ 」トス

(醫治効用) キニイネノ奏效ナキ間歇熱及麻刺利亞惡液質、諸種ノ皮膚病(乾癬、赤色苔癬、濕疹等)、惡性淋巴腺腫、白血病、惡性貧  
血、萎黃病、佝僂病、骨軟化症、神經痛、脾臟肥大症、肺結核等ニ一四〇・〇〇一—一〇・〇〇五(一日〇・〇一五以內)ヲ丸劑又ハ水溶液ト  
ナシテ内服セシメ(食後十五乃至三十分頃、空腹ヲ忌ム)外用ニハ泥劑又ハ軟膏トナシ腐蝕劑トシテ特ニ瘰癧ニ用ヒ又齒科術ニ於  
テ「モルヒネ」又ハ「タレオソート」ニ混シ齒髓破壞ニ用フ

Acidum benzoicum.

安息香酸



安息香酸(一)ハ白色或ハ類黄色ノ小葉狀結晶若クハ鍼狀結晶ニシテ約百二十度ニ於テ熔融シ熱スレハ昇

華ス酒精、エーテル、クロロフォルム又ナトロン滴液ニ溶解シ水ニ僅少ニ、熱湯ニ多量ニ溶解ス

本品ノ水溶液ニ「カリ滴液」ヲ加ヘテ殆ト中和シタルモノハ過クローレル鐵溶液ニ由テ淡赤褐色ノ沈澱ヲ生

ス(一)

本品ハ之ヲ熱スルニ全ク揮散スヘシ或ハ固性物ヲ殘留スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(三)

本品及過マンガン酸カリウム各一分ヲ十分ノ水ト共ニ試験管中ニ容レ寬ク栓塞シテ數分時間微温ヲ與ヘ

冷後之ヲ開クニ揮發苦扁桃油ニ類スル香氣ヲ放ツヘカラス(四)

本品〇・二グラム(0.2 g)ニ炭酸カルチウム〇・三グラム(0.3 g)及少許ノ水ヲ加ヘテ混和シ蒸發乾涸シ熾灼シ

其殘留物ヲ硝酸ニ溶解シ之ニ水ヲ加ヘテ十立方センチメートル(10 ccm)トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ

由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(五)

光ヲ遮リ貯フヘシ

(註) 解 (一)  $\text{C}_7\text{H}_6\text{COOH}$  ナル構造ヲ有シ從前ノ如ク安息香ヨリ製セサルモノ可ナリ(二) 質性反應(三) 無機性夾雜物ノ試験(四)

スマトラ安息香チ原料トスルニ基因スル桂酸ノ試験  $\text{C}_7\text{H}_6\text{OH} = \text{CH}_2\text{COOH} + 4\text{O} = \text{C}_7\text{H}_6\text{OHO} + 2\text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O}$  (五) クローレル安息香酸

例之  $\text{C}_7\text{H}_6\text{GLCOOH}$  ノ試験即チ此等ノ化合物ハ炭酸カルチウムト共ニ熾灼スレハ分解シ「クローレルカルチウム」ヲ生シ硝酸銀

ニヨリテ沈降ス

(醫治効用) 興奮、祛痰、利尿又防腐、解熱ノ效アリ内用ニハ主ニ祛痰劑トシテ一日數回〇・〇五—〇・五ヲ散劑又ハ丸劑トナシ外

用ニハ防腐劑トシテ用フ

Acidum boricum.

硼酸



安息香酸 硼酸

硼酸ハ真珠様ノ光澤ヲ有スル無色ノ鱗片狀結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ二十五分ノ水ニ徐々ニ三分ノ熱湯竝ニ二十五分ノ酒精ニ溶解シ又グリセリンニ溶解ス熱スレハ膨起シ次ニ熔融シ冷後固結シテ無色透明硝子様ノ物質ニ變ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和シタルモノヲ以テ黄色試験紙ヲ濡ホシ乾燥スレハ褐赤色ヲ呈シ更ニ少量ノアムモニア水ヲ注ケハ綠黑色ニ變ス又本品ノ酒精溶液ハ之ニ點火スレハ綠色ノ邊緣ヲ有スル火焰ヲ放テ燃燒ス(一)

本品ノ水溶液(一)ニ(二)ハ硫化水素水ニ由テ染色セス(三)硝酸バリウム溶液、硝酸銀溶液又醋酸アムモニウム溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)又アムモニア水ヲ加ヘタル後磷酸ナトリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス(五)又其五十立方センチメートル(50 ccm)ニ鹽酸ヲ加ヘタルモノハ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(五)

(註)

(一)質性反應(二)金屬ノ試驗(三)痕跡以上硫酸、クロール、石灰ノ試驗(四)マグネシウムノ試驗(五)鐵ノ試驗

(醫治効用)

無刺激性良好ナル防腐劑コレヲ主ニ外用ニ供シ不潔創面、膀胱加答兒、胃擴張、内外耳炎、鼻炎、亞布答、露口瘡、濕疹、痒疹、火傷、凍傷等ニ用フ而シテ創面洗滌ニハ三%水溶液ヲ、胃及膀胱ノ洗滌ニハ二%水溶液ヲ、點眼水及含嗽水トシテハ二—四%水溶液ヲ、外耳炎ノ注射ニハ四%水溶液ヲ、撒布粉トシテハ澱粉ト配伍シ(一)也、軟膏又ハ綿帶トシテハ十%ノモノヲ用フ

樟腦酸

Acidum camphoricum.

$C_{10}H_{16}O_4 = 200,18$

樟腦酸(一)ハ白色殆ト無臭ノ小葉狀結晶ニシテ約百五十分ノ水竝ニ二十分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴シ酒精竝ニエーテルニ溶ケ易ク、クロロフォルムニ較シ溶ケ難シ百八十六度ニ於テ熔融ス(二)

本品七・五グラム(7.5 G)ヲ純アルコホルニ溶解シ常溫ニ於テ五十立方センチメートル(50 ccm)トナシタルモノハ旋光度(α<sub>D20</sub>)右旋約四十七・一度ナリ

本品ニ煨製石灰ヲ混和シテ熱スレハ薄荷様ノ香氣ヲ放ツ

本品ノ冷飽和水溶液ハ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス(三)又其水溶液二立方センチメートル(2 ccm)ニ硫酸二立方センチメートル(2 ccm)ヲ混和シ冷後硫酸亞酸化鐵溶液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス(四)

本品ヲ熱スルニ刺激性ノ臭氣ヲ有スル白色ノ蒸氣ヲ放テ全ク揮散スヘシ或ハ固性物ヲ殘留スルコトアルモ百分ニ付キ〇・一分ニ過クヘカラス(五)

本品ノ乾燥セルモノ〇・四グラム(0.4 G)ヲ酒精二十立方センチメートル(20 ccm)ニ溶解シタルモノヲ中和スルニハ十分定規カリ液四十立方センチメートル(40 ccm)ヲ費スヘシ(標示藥フェノールフタレイン溶液)

(註)

(一) $C_{10}H_{16}(COOH)_2$ ナル記載ヲ有ス(二)熔點低キトキハ「カンフオロン酸」存在ヲ徵ス熔點ヲ檢スルニハ硫酸除

濕器内ニ於テ乾燥シタル後ニ於テス(三)鹽酸並硫酸ノ試驗(四)硝酸ノ試驗(五)殊ニ「アルカリ鹽類」ノ試驗(六)供試品ハ「殊メ流

酸除濕器内ニ於テ乾燥スヘシ而シテ十分定規カリ液一立方センチメートル」ハ「樟腦酸〇・〇一〇〇一グラム」ニ該當シ本試驗法ハ

純品ヲ要求ス  $2KOH + C_{10}H_{16}(CO_2H)_2 = 2H_2O + C_{10}H_{14}(CO_2K)_2$

(醫治効用)

内服ニハ肺結核盜汗ニ賞用シ發汗ニ三時間前ニ一〇—四〇チ「オプラート」ニ包ミテ與フ外用ニハ收斂劑トシテ〇・五—二%酒精性水溶液ヲ氣道粘膜炎加答兒ニ含嗽水又ハ吸入劑トナシ用フ

石炭酸

○ Acidum carbolicum.

石炭酸

$C_6H_6O = 94.08$

石炭酸(一)ハ無色長キ尖鋭ノ結晶或ハ白色結晶性ノ塊ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ十五分ノ水ニ溶解シテ澄明ノ液トナル酒精、エーテル、クロロフォルム、グリセリン、硫化炭素又ナトロン滴液ニ容易ニ溶解ス凝固點三十九乃至四十一度、沸騰點百七十八乃至百八十二度ナリ

本品二十分及酒精十分ノ溶液ハ過クロール鐵溶液一分ニ由テ汚綠色ヲ呈シ水ヲ以テ之ヲ稀釋シ十分トナセハ稍々持續スル美麗ナル紫色ニ變ス又本品一分及水五萬分ノ溶液ハ尙ブローム水ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス(二)

本品十分ニ水一分ヲ混和スレハ澄明ノ液トナリ更ニ多量ノ水ニ加フレハ濁濁シ百五十分ニ至レハ全ク溶解シテ復タ澄明ノ液トナル(三)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(四) 密閉シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・一グラム(0.1g)

一日ノ極量 〇・三グラム(0.3g)

(註) 解) (I)  $C_6H_5OH$  ナル構造ヲ有ス (II) 質性反應  $C_6H_5OH + Br_2 = C_6H_4Br_2 + OH + 3HBr$  (III) クレゾール類ノ試驗 (IV) 無機性夾雜物ノ試驗

(醫治効用)

防腐消毒ノ目的ニ汎ク常用セラル主トシテ外用ニ供レ創傷、咬傷、手、病室、器具等消毒ニハ二―五%溶液ヲ、腐敗性氣管枝加答兒、肺壞疽等ノ吸入劑ニハ二%溶液ヲ、膀胱及子宮ノ注射ニハ〇・一―〇・五%溶液ヲ、傷口瘡ノ塗布劑ニハ二%溶液

ヲ用ヒ丹毒周圍ノ皮下ニハ二%液ヲ注射ス其他齒科術ニ於テ齦齒ニ於ケル疼痛ヲ減センカ爲糖ニ加ヘテ用フ

Acidum carbolicum liquefactum.

流動石炭酸

流動石炭酸ハ

石炭酸

ヲ取リ微温ヲ與ヘテ熔融セシメ之ヲ

蒸留水

ヲ混和シ製スヘシ

十分(10)

一分(1)

本品ハ無色或ハ微ニ紅色ヲ帶フル澄明ノ液ニシテ石炭酸ノ臭氣ヲ有シ比重一・〇六八乃至一・〇七一ナリ本品十立方センチメートル(10cc)ニ十五度ニ於テ水二・三立方センチメートル(23.3cc)ヲ加フルニ濁濁セス(一)更ニ水八乃至十滴ヲ加フレハ濁濁スヘシ(二)又其濁濁液ニ百三十五乃至百四十四立方センチメートル(135-140cc)ノ水ヲ加フルニ再ヒ澄明ノ液トナラサルヘカラス(三) 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

(註) 解) (一) 濁濁スルトキハ水分多キ故ニ(二) 濁濁セサルトキハ「アルコホル」又ハ「グリセリン」ヲ加ヘテ溶解セシメタル故(三) 百三十五立方センチメートル以内ノ水ニ溶解スルトキハ石炭酸ノ含量少キ故又百四十四立方センチメートルノ水ニ溶解セサル

トキハ「クレゾール」ヲ夾雜スル故

(應用) 石炭酸溶液ヲ製スルニ用フ

流動石炭酸

○ Acidum carbolicum pro desinfectione.

防疫用石炭酸

防疫用石炭酸ハ無色或ハ殆ト白色或ハ微ニ紅色ヲ帶フル長キ尖銳ノ結晶又ハ結晶性ノ塊ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ酒精、エーテル、クロロフォルム又グリセリンニ溶解ス凝固點三十四度以上、沸騰點約百七十七度ナリ

本品ノ水溶液ハ過クロール鐵溶液ニ由テ紫色ヲ呈シ、ブローム水ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス(一)

本品ノ熔融セルモノ一容量ハ四容量ノ「ナトロン」滴液ニ殆ト證明ニ溶解スヘシ(二)

本品十分ニ水一分ヲ混和スレハ證明ノ液トナリ更ニ多量ノ水ヲ加フレハ濁濁シ百五十分ニ至レハ復タ溶解シテ殆ト證明ノ液トナル(三)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(四)

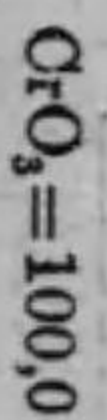
光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

(註) 解 (一) 質性反應 (I) トルオール、シモールノ如キ炭化水素ノ試験 (II) クレゾール類ノ試験 (四) 無機性夾雜物ノ試験

(應用) 專ラ防疫用石炭酸水ヲ製スルニ用フ

Acidum chromicum.

クローム酸



クローム酸ハ暗褐色鋼様ノ光澤アル結晶ニシテ氣中ニ於テ潮解シ水ニ溶解シ易シ酒精其他酸化シ易キ

物質ニ混和スレハ爆發シ又ハ火ヲ發スルコトアリ

本品ヲ熱スレハ熔融シテ酸素ヲ發シ暗綠色ニ變ス又鹽酸ヲ和シテ熱スレハ「クロール」ヲ發ス(一)

本品ノ水溶液(1:100)ニ鹽酸ヲ和シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ僅微ノ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(二)

本品〇・二グラム(0.2g)ヲ熾灼シテ得タル殘留物ハ水ニ溶解スヘキ物質ヲ含有スヘカラス(三)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

(註) 解 (一) 質性反應  $2Cr_2O_3 + 12HCl = 2CrCl_3 + 6Cl + 6H_2O$  (II) 痕跡以上硫酸ノ試験 (III) アルカリ鹽類及重クロール酸カリウ

マノ試験  $2Cr_2O_3 = Cr_2O_3 + 3O$

(醫治効用)

主ニ腐蝕藥トシテ其ママ又ハ十一至十五%水溶液トナシ疣、惡性潰瘍、コンヂローム等ニ用ヒ又鼻口咽喉疾患(潰瘍、粘

膜乳狀斑、舌乾癬等)ニ用フ其他足汗症ニ對シテモ效アリト謂フ

Acidum citricum.

枸橼酸



枸橼酸(一)ハ無色透映ノ結晶ニシテ熱スレハ熔融シ次ニ刺戟性ノ臭氣ヲ有スル蒸氣ヲ發シテ炭化ス〇・六分ノ水、一・五分ノ酒精又約五十分ノ「エーテル」ニ溶解ス

本品ノ水溶液(1:10)一立方センチメートル(1ccm)ニ石灰水四十乃至五十立方センチメートル(40-50ccm)ヲ加フルニ澄明ヲ失セス一分時間煮沸スレハ白色絮狀ノ沈澱ヲ生シ冷後三時間以內ニ其白澱復タ溶解ス

(三)

本品一グラム(一)ヲ硫酸十立方センチメートル(10 ccm)ニ和シ重湯煎上一時間之ヲ温ムルニ黄色ヲ呈スルニ止マリ褐色ヲ呈スヘカラス(三)  
 本品ノ水溶液(1:10)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)「アムモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタル後硝酸アムモニウム溶液ヲ加フルモ亦然リ(五)  
 本品五グラム(5)ヲ水十立方センチメートル(10 ccm)ニ溶解シ之ニ「アムモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタル後硫化水素水ヲ和スルニ微ニ染色スルニ過クヘカラス(六)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス(七)

(註) 解) (一)  $C_8H_{12}O_4$ 、 $COOH$ 、 $H_2O$  ナル構造ヲ有ス (二) 實性反應且酒石酸ヲノ區別  $2C_8H_{12}O_4 + 3Ca(OH)_2 = (C_8H_{11}O_4)_2Ca_3 + 6H_2O$   
 $OH_2COOH$  有性

(三) 酒石酸ノ試験 (四) 痕跡以上硫酸ノ試験 (五) 石灰ノ試験  $CaSO_4 + (NH_4)_2CO_3 + H_2O = CaCO_3 + H_2O + (NH_4)_2SO_4$  (六) 鉛、銅ノ試験 有性

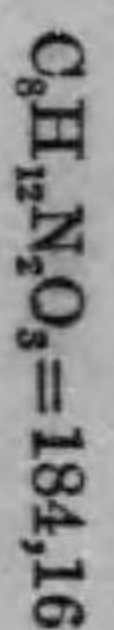
(七) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) 主トシテ内用ニ熱性病、胃加答兒、痲瘋質斯等ニ清涼性リモノナリ(0.5:100—200)飽和劑等トナシテ用フ

Acidum diethylbarbituricum.

サエチールバルビツール酸

サエチールマロニール尿素



サエチールバルビツール酸(一)ハ無色小葉狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ百八十八乃至百九十一度ニ於テ熔融シ百七十分ノ水並十七分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微ス酒精

エーテル又ナトロン滴液ニ容易ニ溶解シ「クロロフォルム」ニ溶解シ難シ

本品〇・二グラム(0.2)ニ苛性カリ約三グラム(3)ヲ加ヘ熔融スレハ「アムモニア」ヲ發シ冷後其熔融物ヲ水ニ溶解シ稀硫酸ヲ以テ酸性トナセハ炭酸瓦斯ヲ發シ敗油性牛酪様ノ臭氣ヲ放ツ(二)

本品ノ冷飽和水溶液二立方センチメートル(2 ccm)ニ硝酸一滴ヲ和シ之ニ黄色酸化汞一分ヲ硝酸二・五分ニ溶解シテ得タル液ヲ滴加スレハ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス(三)

本品ノ冷飽和水溶液ハ「ブローム水」ヨリ得タル溶液、硝酸バリウム溶液、マニエル試薬又硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス(四)

本品〇・一グラム(0.1)ハ硫酸一立方センチメートル(1 ccm)ニ無色ニ溶解シ又本品ニ硝酸ヲ和シテ振盪スルニ染色スヘカラス(五)

本品ヲ燃化スルニ炭化セスニ〇・又百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス(七) 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・五グラム(0.5g)  
 一日ノ極量 一グラム (1g)

(註)

解) (一) 別名ツロホナル Veronal  $C_8H_{12}N_2O_3$   $CO-NH > CO-NH > CO$  ナル構造ヲ有ス (二) 實性反應ニシテ苛性カリ

ニ違ウテ「アムモニア」ヲ發生シ且熔融殘渣ヲ酸性トナストキハ炭酸瓦斯ノ外敗油性牛酪様ノ臭氣ヲ有スル「サエチール」酸ヲ生

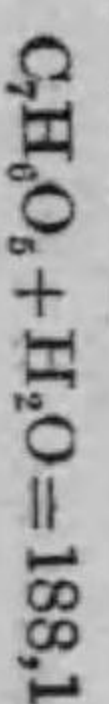
ス  $C_8H_{12}N_2O_3 + 5KOH = (C_2H_5)_2COHCOOK + 2K_2CO_3 + 2NH_3$  (三) 實性反應 (四) 異物ヲ夾雜スレハ沈澱ヲ生ス (五) 有機性夾雜物ノ

(醫治効用)

良催眠藥ナリ船暈ニモ實用セラル用量〇・二五—〇・七五トス

Acidum gallicum.

沒食子酸



沒食子酸(二)ハ絹絲様ノ光澤アル白色或ハ微ニ類黄色ヲ帶フル鍼狀結晶ニシテ臭氣ナク味澁ク微ニ酸味ヲ帶フ百分ノ水竝三分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ六分ノ酒精又十二分ノ「グリセリン」ニ溶解シ「エーテル」ニ溶解シ難シ

本品ノ冷飽和水溶液ハ「アムモニア」性硝酸銀溶液ヲ還元シ稀過クロール鐵溶液ニ由テ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス(三)

本品ノ冷飽和水溶液ハ膠溶液又蛋白質溶液ニ由テ沈澱ヲ生スヘカラス(三)

本品ノ熱水溶液(1:30)ハ無色ナルヘシ或ハ黄色ヲ呈スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(四)又鹽酸ヲ和シタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ濁濁スヘカラス(五)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ十分ニ過クヘカラス(六)

本品ヲ燃化スル百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)

壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

(註) 解

(一)  $10C_7H_5O_5 \cdot COOH(1.235)H_2O$  ナル構造ヲ有ス(二) 實性反應(三) タンニン酸ノ試驗(四) 異物ヲ夾雜スレハ花ダレ

ク著色ス(五) 硫酸ノ試驗(六) 水分ノ試驗(七) 無機性夾雜物ノ試驗

(醫治効用)

軟劑劑ニシテ「タンニン」酸ニ代用スルコトアリ然レトモ其効用之ニ及ハス内服ニハ一日數回〇・一—〇・五ヲ用フ

Acidum hydrochloricum.

鹽酸

鹽酸ハ無色澄明ノ液ニシテ刺戟性ノ臭氣ヲ有シ熱ニ逢ウテ全ク揮散ス比重一・一五二ナリ

本品ハ百分中三十分ノ「クロール」水素(HCl  $\parallel$  36.47)ヲ含有ス

本品ハ硝酸銀溶液ニ由テ「アムモニア」水ニ全溶スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス又本品ヲ褐石ト共ニ温ムレハ「クロール」ヲ發ス(一)

本品一立方センチメートル(1ccm)及亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ノ混液ハ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(二)

本品一容量ニ六容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ「アムモニア」水ヲ以テ殆ト中和シタルモノハ「ヨード」亞鉛澱粉溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈セス(三)又硫化水素水ニ由テ變化セス(四)又硝酸バリウム溶液ニ由テ五分時間以内ニ變化スヘカラス(五)「ヨード」溶液ヲ加ヘテ淡黄色トナシタル後モ亦然リ(六)

本品一容量ニ十二容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノ十立方センチメートル(10ccm)ハ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(七)

本品三立方センチメートル(3ccm)ニ水十五立方センチメートル(15ccm)ヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十八・四立方センチメートル(28.4ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチールオレンジ溶液)ハ壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

(註) 解

(一) 實性反應  $MnO_2 + 4HCl = MnCl_2 + 2H_2O + Cl_2$  (二) 砒素ノ試驗  $2AsCl_3 + 3SnCl_2 = As_2 + 3SnCl_4$  (三) 遊離クロール

ノ「ノ」試驗  $ZnI_2 + Cl_2 = ZnCl_2 + I_2$  (四) 重金属ノ試驗ニシテ銅、鉛、暗色、砒素ハ黄色ヲ呈ス(五) 硫酸ノ試驗(六) 亞硫酸ノ試驗  $H_2SO_4 + J_2 + H_2O = H_2SO_4 + 2HJ$  (七) 鐵ノ試驗(八)  $HCl + KOH = KCl + H_2O$  ナル反應ニヨリ定規カリ液一立方センチメートルヲ



稀鹽酸

1111

ハ「クロール水素〇・〇三六四七グラム」ヲ中和スルヲ以テ本品三・四五六グラム(3 x 1.5g)中ニハ「クロール水素一・〇三五七グラム(28.4 x 0.3647)」ヲ含有ス即チ「クロール水素」含量三十%ニ該當ス

(醫治効用)

主トシテ内用ニ滴劑(一回二―八滴合劑(一・〇ナニ〇〇・〇ノ水ニ混シ又ハ之ニ苦味丁糖或ハ單合ヲ配伍シ二日量トス)等トナシ(一)熱病患者ノ止渴藥トシ(二)消化器系諸疾患即チ嘔吐、腹部膨滿、胃液中遊離鹽酸ノ缺乏ニ因スル消化不良、胃擴張、貧血患者ノ消化不良等(三)腸内異常發酵ニ因スル下痢、胃腸加答兒、小兒夏目下痢等(四)腸管扶斯、赤痢(五)ウエルホッフ氏紫斑病、壞血病ニ用フ

O Acidum hydrochloricum dilutum.

稀鹽酸

稀鹽酸ハ

鹽酸 一分(1),  
蒸餾水 二分(2)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ無色澄明ノ液ニシテ比重一・〇五ナリ

本品ハ百分中約十分ノ「クロール水素(HCl = 36.47)」ヲ含有ス

本品ノ試験ハ鹽酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品十立方センチメートル(10 ccm)ニ同容量ノ水ヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十八・八立方センチメートル(28.8 ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチールオレンジ溶液)(1)

壇中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註 解)

(1)本品十・五グラム(10 x 1.5g)中ニ「クロール水素一・〇五グラム(28.8 x 0.3647)」ヲ含有ス即チ「クロール水素」含有十%ニ該當ス

(醫治効用)

鹽酸ニ同シ其約三倍量ヲ用フ

Acidum hydrocyanicum dilutum.

稀靑酸

稀靑酸ハ揮發苦扁桃油様ノ香氣ヲ有スル無色澄明ノ液ニシテ弱酸性ノ反應ヲ徴ス比重〇・九九七ナリ

本品ハ百分中二分ノ「チアン水素(HCN = 27.02)」ヲ含有ス

本品ハ「ナトロン滴液」ヲ以テ過飽シ硫酸亞酸化鐵溶液及二三滴ノ過クロール鐵溶液ヲ和シタル後過剰ノ鹽酸ニ由テ暗藍色ヲ呈ス(1)

本品ニ硝酸銀溶液ヲ和シテ生シタル沈澱ハ其上澄液ヲ充分ニ除去シタル後硫酸及水各同容量ヨリ成レル混液ト共ニ煮沸スレハ全ク溶解スヘシ(2)又本品ニ硝酸一二滴ヲ加ヘタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ僅微ノ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(3)又本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(4)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ニ水九十立方センチメートル(90 ccm)ヲ加ヘテ稀釋シ「カリ滴液」二立方センチメートル(2 ccm)ヲ和シ攪拌シツツ之ニ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ復タ消失セサル類白色ノ濁濁ヲ生スルニ至ルニハ十分定規硝酸銀液十八・五立方センチメートル(18.5 ccm)ヲ費ササルヘカラス(5)光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・一グラム(0.1g)

稀靑酸

1111

一日ノ極量 〇・三グラム(0.3g)

(註) 解 (一) 質性反應 (二) 鹽酸ノ試験 (三) 痕跡以上ノ硫酸ノ試験 (四) 揮發性夾雜物ノ試験 (五) 十分定規硝酸銀液一立方センチメートル「」チアン水素〇・〇四〇四グラム「」ニ對應シ純チアン水素ノ含量二%ヲ徵ス  
(醫治効用) 鎮靜、鎮痙劑ニシテ主トシテ喘息、結核、百日咳ノ乾咳等ニ二一六滴ヲ用フ

Acidum lacticum.

乳酸

乳酸(一)ハ無色澄明或ハ微ニ類黃色ヲ帶フル舍利別稠ノ液ニシテ殆ト臭氣ナク純酸味ヲ有シ水、酒精又エ「」テルニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重一・二二乃至一・二二ナリ  
本品ハ百分中約七十五分ノ純乳酸(C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>O<sub>2</sub> = 90.06)ヲ含有ス  
本品ハ過マンガン酸カリウム溶液ト共ニ温ムレハ「」アセトアルデヒド「」ノ臭氣ヲ放ツ(二)又本品ハ強ク熱スレハ炭化シ光輝アル火焰ヲ放テ燃燒ス  
本品ヲ温ムルニ脂肪酸ニ類スル臭氣ヲ發スヘカラス(三)又同容量ノ硫酸ヲ加ヘテ二液層トナスニ十五分時間以內ニ其境界ニ於テ染色セル輪帶ヲ生スヘカラス(四)  
本品一分ニ九分ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化水素水、硝酸バリウム溶液、硝酸銀溶液又醋酸アムモニウム溶液ニ由テ變化セス(五)又石灰水ノ過剩ヲ和スルニ變化スヘカラス(六)熱スルモ亦然リ(七)  
本品一立方センチメートル(1ccm)ヲ「」エーテル二立方センチメートル(2ccm)ニ滴加スルニ潤濁スヘカラス(八)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)

本品五グラム(5g)ニ水ヲ加ヘテ五十立方センチメートル(50ccm)トナシタルモノ二十立方センチメートル

ル(20ccm)ヲ中和スルニハ定規カリ液少ナクモ十六・六立方センチメートル(16.6ccm)ヲ費ササルヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液)(十)

(註) 解 (一) CH<sub>3</sub>CH(OH)COOH ナル構造ヲ有ス (二) 質性反應 CH<sub>3</sub>CH(OH)COOH + O = CH<sub>3</sub>CHO + CO<sub>2</sub> + H<sub>2</sub>O (三) 鹽酸  
又ハ乳糖ノ試験(四) 砂糖ノ試験(五) 金屬(鉛、銅、亜鉛)、硫酸、鹽酸又石灰ノ試験(六) 酒石酸及枸橼酸ノ試験 C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>O<sub>2</sub> + Ca(OH)<sub>2</sub> = C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>CaO<sub>2</sub> + 2H<sub>2</sub>O ; 2C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>O<sub>2</sub> + 3Ca(OH)<sub>2</sub> = (C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>O<sub>2</sub>)<sub>2</sub>Ca<sub>3</sub> + 6H<sub>2</sub>O (七) 枸橼酸ノ試験 (八) グリセリン、砂糖、「」マンニット「」ノ試験  
(九) 無機性夾雜物殊ニ亞鉛、カルチウム、ナトリウム化合物ノ試験(十) 定規カリ液一立方センチメートル「」ハ乳酸〇・〇九〇〇六グラムニ對應シ共十六・六立方センチメートル「」ハ乳酸一・四九五グラムニ對應ス此量タル本品二グラム中ニ含有セラル、ヲ以テ其百分グラム中ニハ少クトモ 50 × 1.495 = 74.8 グラム「」ノ乳酸ヲ含有ス

(醫治効用) 内用ニハ小兒下痢(二%溶液ヲ一日五―十食匙)大人下痢及虎列拉(一〇・〇―一五・〇)合劑又ハ「」リモナーデ「」トナシ(ニ)外用ニハ喉頭結核ニ二十一―八十%溶液ヲ塗布劑トシテ實用シ其他腐蝕劑トシテ實扶的里亞、狼瘡等ニ用フ

Acidum nitricum.

硝酸

硝酸ハ無色澄明ノ液ニシテ熱スレハ揮散ス比重一・一五三ナリ  
本品ハ百分中二十五分ノ純硝酸(HNO<sub>3</sub> = 63.02)ヲ含有ス  
本品ニ銅屑ヲ投シ温ムレハ黃赤色ノ蒸氣ヲ發シテ溶解シ其液ハ藍色ヲ呈ス(一)  
本品一容量ニ水五容量ヲ加ヘ「」アムモニア水ヲ以テ殆ト中和シタルモノハ硫化水素水ニ由テ變化セス(二)  
硝酸バリウム溶液ヲ加ヘテ五分時間ヲ經ルモ微ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(三)  
本品一容量ニ水五容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス(四)

硝酸

本品一容量ニ水二容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ純亞鉛少許ヲ加ヘタル後少量ノクロロフォルムヲ和シテ振盪スルニ之ヲ紫色ニ染ムヘカラス(五)

本品一容量ニ水九容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノ十立方センチメートル(10ccm)ハ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(六)

本品五立方センチメートル(5ccm)ニ水二十五立方センチメートル(25ccm)ヲ加ヘ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十二・九立方センチメートル(22.9ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチールオランジュ溶液)

(七)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

(註)

(一)實性反應  $3Cu + 8HNO_3 = 3Cu(NO_3)_2 + 4H_2O + 2NO$  (I) 重金属殊ニ銅、鉛ノ試験 (II) 硫酸ノ試験 (四) クロール及

一ドノ試験 (五) ニード酸ノ試験  $Zn + 2HNO_3 = Zn(NO_3)_2 + H_2$ 、 $H_2O_2 + 2H_2 = H_2 + 3H_2O$ 、 $H_2O_2 + 5H_2 = 3H_2 + 3H_2O$  (六) 鐵ノ試験

(七)  $HNO_3 + KOH = KNO_3 + H_2O$  ナル反應ニヨリ定規カリ液一立方センチメートルノ硝酸(HNO<sub>3</sub>)〇・六三〇ニグラムヲ中和スルヲ以テ本品五・七六五グラム(5×1.153)中ニハ硝酸一・四四三八グラム(32.9×0.06303)ヲ含有ス即チ硝酸ノ含量二十五%ニ該

當ス

(醫治効用) 主ニ外用ニ腐蝕劑トシテ疣、コンヂローム、狼瘡、侵蝕性潰瘍、癌腫等ニ用フ

Acidum nitricum crudum.

粗製硝酸

粗製硝酸ハ無色澄明或ハ淡黄色ノ液ニシテ氣中ニ於テ赤霧ヲ發シ熱スレハ残渣ヲ遺サスシテ揮散ス比重一・三八乃至一・四〇ナリ

本品ハ百分中約六十一乃至六十五分ノ純硝酸(HNO<sub>3</sub> ≡ 63.02)ヲ含有ス

本品ニ銅屑ヲ投スレハ黄赤色ノ蒸氣ヲ發シテ溶解シ綠色ヲ呈シ水ヲ以テ稀釋スレハ藍色ニ變ス(二) 注意シテ貯フヘシ

(註)

(一)實性反應

(應)

稀ニ腐蝕劑トシテ用ヒ主トシテ「コロヂウム」ヲ製スルニ用フ

Acidum nitricum dilutum.

稀硝酸

稀硝酸ハ

硝酸

十分 (10)

蒸餾水

十五分 (15)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ無色澄明ノ液ニシテ比重一・〇五六ナリ

本品ハ百分中十分ノ純硝酸(HNO<sub>3</sub> ≡ 63.02)ヲ含有ス

本品ノ試験ハ硝酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ同容量ノ水ヲ和シ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液十六・

八立方センチメートル(16.8ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチールオランジュ溶液)(I)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註)

(一)硝酸ノ含量十%ニ該當ス

(醫治効用)

硝酸ノ條ヲ參照スヘシ

粗製硝酸 稀硝酸

Acidum nitricum fumans.

發烟硝酸

發烟硝酸ハ赤褐色澄明ノ液ニシテ氣中ニ於テ窒息性ノ黃赤色蒸氣ヲ放チ熱スレハ全ク揮散ス比重一・四八六乃至一・五〇〇ナリ  
本品ハ百分中約八十六分ノ純硝酸(HNO<sub>3</sub> = 63.02)ヲ含有ス  
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ  
(應用) 稀ニ硝酸ノ如ク腐蝕劑トシテ用ヒ製藥上ニ用途汎レ

Acidum oleicum.

油酸

C<sub>18</sub>H<sub>34</sub>O<sub>2</sub> = 282.36

油酸(一)ハ淡黄色或ハ帶褐黄色油狀ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭味ヲ有シ氣中ニ於テ酸素ヲ吸收シ漸次暗色ニ變ス比重約〇・九ナリ水ニ溶解セズ酒精ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ徵シ「エーテル、クロロフォルム、脂肪油又揮發油ニ溶解ス約四度ニ冷却スレハ半流動體トナリ更ニ冷却スレハ遂ニ凝結シテ白色ノ固塊トナル  
本品ハ之ヲ約九十五度ニ熱スレハ刺激性ノ蒸氣ヲ發シ更ニ高度ノ熱ニ逢ヘハ全ク分解ス  
本品ニ等分ノ酒精ヲ混和スルニ澄明ノ液ヲ生シ其上面ニ油滴ヲ析出スヘカラス(二)  
本品一グラムニ(一)Bニ酒精二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ加ヘテ熱シタルモノニ「フェノール、フタレイ」ン溶液二滴ヲ添加シ次ニ濃厚ノ「ナトロン」液(一)Cヲ滴加シテ持續スル紅色ヲ呈スルニ至リ之ニ醋酸ヲ

加ヘテ紅色ノ褪消スルヲ度トシ濾過シテ得タル澄明ノ液十立方センチメートル(10 ccm)ニ「エーテル」十立方センチメートル(10 ccm)及醋酸鉛溶液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ混和スルニ濁濁スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(三)  
壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註解) (一)C<sub>17</sub>H<sub>33</sub>COOH ナル記載ヲ有ス(二)脂肪油ノ試験(三)僅微以上軟脂酸及硬脂酸ヲ夾雜セザル微(應用) 主トシテ油酸未ヲ製スルニ用ス

Acidum phosphoricum.

磷酸

磷酸ハ無色澄明無臭ノ液ニシテ比重一・一二ナリ  
本品ハ百分中二十分ノ純磷酸(H<sub>3</sub>PO<sub>4</sub> = 98.06)ヲ含有ス  
本品ハ炭酸ナトリウム溶液ヲ以テ中和シタル後硝酸銀溶液ニ由テ硝酸竝アムモニア水ニ溶解スヘキ黃色ノ沈澱ヲ生ス(一)  
本品一立方センチメートル(1 ccm)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和スルニ一時間以內ニ暗色ヲ呈スヘカラス(二)  
本品ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス(三)之ヲ溫ムルモ亦然リ(四)又本品ニ硫化水素水ヲ和スルニ變化スヘカラス(五)  
本品一容量ニ三容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ濁濁スヘカラス(六)又過剰ノ「アムモニア」水ニ由テ(七)又「アムモニア」水ヲ以テ過飽シタル後醋酸アムモニウム溶液ニ由テ變化スヘカ

ラス(八)

本品一容量ニ四容量ノ酒精ヲ混和スルニ澄明ニ止マルヘシ(九)  
 本品二立方センチメートル(2ccm)ニ硫酸二立方センチメートル(2ccm)ヲ混和シ冷後硫酸亞酸化鐵溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス(十)  
 本品五立方センチメートル(5ccm)ニ「クロールナトリウム冷飽和水溶液十立方センチメートル(10ccm)ヲ和シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十二・九立方センチメートル(22.9ccm)ヲ費スヘシ(標示藥フェノールフタレイン溶液)(十一)  
 壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註)

解 (一) 質性反應  $\text{Na}_2\text{HPO}_4 + 3\text{AgNO}_3 = \text{Ag}_3\text{PO}_4 + 2\text{NaNO}_3 + \text{HNO}_3$  (II) 砒素ノ試驗  $2\text{H}_3\text{AsO}_4 + 5\text{SnCl}_2 + 10\text{HCl} = \text{As}_2\text{S}_3 + 5\text{SnCl}_4 + 8\text{H}_2\text{O}$  (III) 鹽酸ノ試驗 (IV) 亞磷酸ノ試驗  $\text{H}_2\text{PO}_3 + 2\text{AgNO}_3 + \text{H}_2\text{O} = \text{Ag}_2 + \text{H}_3\text{PO}_4 + 2\text{HNO}_3$  (V) 暗色ヲ呈スレハ重金屬ノ黃色ヲ呈スレハ砒素ノ存在ヲ微シ乳濁スレハ亞硫酸及ヨード酸ノ存在ヲ微ス(六) 痕跡以上硫酸ノ試驗(七) 藍色ヲ呈スレハ銅、白濁シ又ハ絮狀ノ沈渣ヲ生セハ礬土ノ存在ヲ微ス(八) カルチウム鹽ノ試驗(九) カルチウム及マグネシウム鹽類ノ試驗(十) 硝酸及亞硝酸ノ試驗(十一)  $\text{H}_2\text{PO}_4 + 2\text{KOH} = \text{K}_2\text{HPO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$  ニ從ヒ定規カリ液一立方センチメートル「ハ」磷酸〇・〇四九〇三グラム」ニ對シ從テ二十%ノ純磷酸含量ニ該當ス

(醫治効用)

内用ニハ一日一・〇—二・〇ヲ解熱劑トシテ熱病患者ニ用フ

*Acidum phosphoricum dilutum.*

稀磷酸

稀磷酸ハ

磷酸

一分(1)

蒸餾水

一分(1)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ無色澄明ノ液ニシテ比重一・〇五七ナリ

本品ハ百分中十分ノ純磷酸( $\text{H}_2\text{PO}_4$ )ヲ含有ス

本品ノ試験ハ磷酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ「クロールナトリウム冷飽和水溶液同容量ヲ和シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十一・五立方センチメートル(21.5ccm)ヲ費スヘシ(標示藥フェノールフタレイン溶液)(1)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註) 解 (一) 定規カリ液一立方センチメートル「ハ」磷酸〇・〇四九〇三グラム」ニ對シ從テ磷酸ノ含量十%ヲ微ス

(醫治効用)

磷酸ノ條ヲ參照スヘシ

*Acidum picrinicum.*

ピクリン酸

$\text{C}_9\text{H}_7\text{N}_3\text{O}_7 = 229.08$

ピクリン酸(二)ハ淡黄色ノ光澤アル小葉狀或ハ鍼狀結晶ニシテ臭氣ナク味甚タ苦ク八十六分ノ水ニ溶解シテ鮮黄色ヲ呈シ酸性ノ反應ヲ微シ熱湯酒精又エーテルニ較シ溶解シ易シ百二十二度ニ於テ熔融シ尙強

ピクリン酸

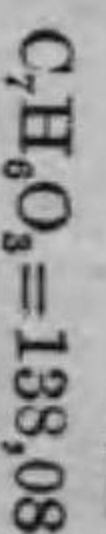
ク熱スレハ爆噴シテ燃化ス  
 本品ノ酒精溶液ハ白色ノ羊毛若クハ絹絲ヲ鮮黄色ニ染ム又本品ノ温飽和水溶液ニ「チアンカリウム溶液  
 (1:3)ヲ加フレハ暗赤色ヲ呈ス(II)  
 本品ヲ石油ペンチンニ溶解スルニ殆ト無色ノ澄明溶液ヲ生スヘシ(III)  
 本品ヲ注意シテ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス(四)  
 注意シテ貯フヘシ

(註) 解) (I)  $C_7H_5(NO_2)_3$  OH  $[OH, NO_2, NO_2, NO_2 = 1, 2, 4, 6]$  ナル構造ヲ有ス (II) 質性反應 (III) 樹脂様物質ノ試験 (四) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) 本品溶液ヲ諸種ノ皮膚病ニ用フルコトアリ

**Acidum salicylicum.**

サリチール酸



サリチール酸(一)ハ白色絨狀ノ結晶或ハ白色輕鬆ノ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク味甘酸ニシテ稍ク苛辣ナリ  
 約五百分ノ水竝十五分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ酒精、エーテル、熱クロロフォルム又脂肪油ニ容易  
 ニ溶解ス

本品ハ約百五十七度ニ於テ熔融シ注意シテ熱スレハ分解セスシテ昇華シ急ニ之ヲ熱スレハ石炭酸ノ臭氣  
 ヲ放テ揮散ス(III)  
 本品ノ水溶液ハ過クローレル鐵溶液ニ由テ持續スル藍紫色ヲ現ハシ甚シク稀釋スルトキハ紫紅色ヲ呈ス(III)

本品一グラム(1g)ニ五立方センチメートル(5ccm)ノ硫酸ヲ和スルニ微ニ黄色ヲ呈スルニ過クヘカラス(四)  
 本品〇・五グラム(0.5g)ハ常温ニ於テ炭酸ナトリウム溶液(1:10)十立方センチメートル(10ccm)ニ澄明ニ  
 溶解スヘシ(五)此溶液ニ「エーテル」ヲ和シテ振盪シタル後其エーテル液ヲ揮散セシムルニ残留物アルモ僅  
 微ニ過キス(六)其残留物ハ石炭酸ノ臭氣ヲ有スヘカラス(七)又本品一分ヲ九分ノ酒精ニ溶解シタルモノハ  
 常温ニ於テ酒精分ヲ揮散セシムルニ純白色ノ残留物ヲ遺ササルヘカラス(八)又少量ノ硝酸ヲ加ヘタル後  
 硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(九)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス(十)

(註) 解) (I)  $C_7H_5(OH)(COOH)(NO_2)_3$  ナル構造ヲ有ス (II) 質性反應  $C_7H_5(OH)COOH = C_7H_5OH + CO_2$  (III) 質性反應 (四) 粉塵、魚  
 性物質、樹脂様物質ノ如キ有機物ノ試験 (五) 機械的混合セル混合物又サロールノ試験ニシテ正品ハ  $2C_7H_5(OH)COOH + Na_2CO_3$   
 $= 2C_7H_5(OH)COONa + CO_2$  ニ從ヒ溶解ス (六) 及 (七) フェノールノ試験 (八) 鐵鹽類、フェノール、着色夾雜物ノ試験 (九) 鹽酸ノ試験  
 (十) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) サリチール酸及其ナトリウム鹽ハ急性關節痛、痲瘋質斯ノ特效藥タリ其他痲瘋質斯性疾患、神經痛等ニ又解熱劑トシテ  
 種々ノ熱性病ニ效アリ内服ニハ一回約〇・五、一日約四〇ヲ用ヒ此目的ニハ「サリチール酸ナトリウム」ヲ可トス外用ニハ寄生  
 性疾患、濕疹、足汗症、膿臭、播種性皮膚病、痲疹等ニ撒布粉、滑石又ハ澱粉ト混シ二一十%ノモノ、軟膏(5:10-100)、洗滌劑(三  
 百-千倍溶液)等トナシテ用ヒ其他消毒ガーゼ及綿トシテ四-十%ノモノヲ用フ

**Acidum stearicum.**

ステアリン酸



サリチール酸 ステアリン酸

ステアリン酸(二)ハ脂肪様ノ感覺アル白色結晶性ノ粉末或ハ顆粒狀結晶性ノ破折面ヲ有スル固塊ニシテ殆ト臭味ナク水ニ溶解セス熱酒精並エーテルニ溶解ス熔融點六十乃至六十五度ナリ  
 本品ヲ熱酒精ニ溶解シ「ナトロン」油液ヲ以テ中和シ蒸發スルニ其殘留物ハ石油ペンチンニ溶解セス或ハ溶解スルモノアルモ痕跡ニ止マルヘシ(II)  
 本品一グラム(1g)ヲ炭酸ナトリウム一グラム(1g)及水三十立方センチメートル(30 ccm)ト共ニ澗大ナル硝子壺中ニ煮沸スルニ澄明ノ溶液ヲ生スヘシ(III)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(IV)  
 (註 解) (I)  $C_{17}H_{35}COOH$  ナル構造ヲ有ス(II)「ナトロン」ノ試驗(III)脂肪ノ試驗(IV)無機性夾雜物ノ試驗  
 (應用) 主トシテ「グリセリン」坐劑ヲ製スルニ用フ

Acidum sulfuricum.

硫酸

硫酸ハ無色無臭澄明油稠ノ液ニシテ熱スレハ全ク揮散シ比重一・八三六乃至一・八四〇ナリ  
 本品ハ百分中九十四乃至九十八分ノ純硫酸( $H_2SO_4 \parallel 98.06$ )ヲ含有ス  
 本品ノ水ヲ以テ稀釋シタルモノニ硝酸バリウム溶液ヲ加フレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス(一)  
 本品一容量及水二容量ノ冷混液一立方センチメートル(1 ccm)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(II)  
 本品一容量ニ酒精五容量ヲ和スルニ久シキヲ經ルモ潤滑スヘカラス(III)又五容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタル冷液十立方センチメートル(10 ccm)ニ三乃至四滴ノ過マンガン酸カリウム溶液ヲ和スルニ直チニ脱色スヘカラス(IV)

本品一容量ニ水十九容量ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス(五)其十立方センチメートル(10 ccm)ニ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ヲ加フルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(六)又アムモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタル後硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(七)  
 本品二立方センチメートル(2 ccm)ニ硫酸亞酸化鐵溶液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス(八)  
 本品二立方センチメートル(2 ccm)ニ結晶亞硫酸ナトリウム一二小片ヲ溶解セル鹽酸二立方センチメートル(2 ccm)ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類赤色ノ輪帶ヲ生スヘカラス又之ヲ温ムルニ赤色ノ沈澱ヲ生スヘカラス(九)  
 本品五グラム(5g)ニ水ヲ加ヘ五十立方センチメートル(50 ccm)ニ稀釋シタル冷液十立方センチメートル(10 ccm)ヲ中和スルニハ定規カリ液十九・二乃至二十立方センチメートル(19.2-20 ccm)ヲ費スヘシ(標示藥場中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ)  
 (註 解) (I) 實性反應 (II) 砒素ノ試驗 (III) 硫酸鉛ノ試驗 (IV) 亞硫酸及亞硝酸ノ試驗  $5HNO_3 + 2KMnO_4 + 3H_2SO_4 = K_2SO_4 + 2MnSO_4 + 5HNO_2$  (V) 鐵ノ試驗 (六) 鐵ノ試驗 (七) 銅、鉛ノ試驗 (八) 硝酸ノ試驗 (九) 亞セレンニウム酸又セレンニウム酸ノ試驗  $Na_2SO_4 + 2HCl = H_2SO_4 + 2NaCl$  (十)  $H_2SeO_4 + H_2O = Se + 2H_2SO_4 + H_2O$  可シテ「マンニウム酸」鹽酸ト共ニ温ムルニハ亞セレンニウム酸ニ還元セラレ然ル後亞硫酸ニヨリ「マンニウム」還元セラレ  $H_2SeO_4 + 2HCl = 2H_2SO_4 + Cl_2 + H_2O$  (十一) 定規カリ液一立方センチメートル(1 ccm)ニ硫酸〇・四九〇四グラム「ナ」ヲ中和スルヲ以テ九十四%ノ硫酸一グラム「ナ」ヲ中和スルニハ該カリ液十九・二立方センチメートル「ナ」又九十八%ノ硫酸一グラム「ナ」ヲ中和スルニハ其二十立方センチメートル「ナ」ヲ要ス

粗製硫酸 稀硫酸

(應用) 主として稀硫酸ヲ製スルニ用フ

Acidum sulfuricum crudum.  
粗製硫酸

粗製硫酸ハ無色或ハ類褐色澄明油稠ノ液ニシテ比重一・八二五以上ナリ  
本品ハ百分中九十一分以上ノ純硫酸(H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> ≡ 98.08)ヲ含有ス  
燻中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ  
(應用) 製藥原料及排泄物消毒等ニ用フ

Acidum sulfuricum dilutum.  
稀硫酸

稀硫酸ハ  
硫酸  
ヲ取り之ヲ  
蒸留水  
中ニ漸次注加シ冷後更ニ蒸留水ヲ和シ稀釋シ比重一・〇六九トナシ製スヘシ  
本品ハ無色澄明ノ液ニシテ百分中十分ノ純硫酸(H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> ≡ 98.08)ヲ含有ス  
一分(1)  
八分(8)

本品ノ試験ハ硫酸ノ條ニ據クル所ニ準據スヘシ

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ同容量ノ水ヲ和シ稀釋シタルモノヲ中和スルニハ定規カリ液二十  
一・八立方センチメートル(21.8ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチールオレンジ溶液)(11)  
燻中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

(註) 解 (1) 定規カリ液一立方センチメートルハ硫酸〇・〇四九〇四グラムニ對應シ正條ノ規定ニヨレハ硫酸ノ含量十%  
ヲ費ス  
(醫治効用) 内服ニハ鹽酸ト同一ノ目的ニ五―三十滴ヲ砂糖水ニ和シ外用ニハ合嗽水(一―三%)、塗布液(五―十%)トシテ用フル  
コトアリ

〇 Acidum tannicum.

タンニン酸

タンニン酸ハ白色或ハ類黄色ノ輕キ無晶形ノ粉末或ハ殆ト無色光輝アル鬆疎ノ鱗屑片ニシテ微ニ特異ノ  
臭氣ヲ有シ味甚タ澁ク五分ノ水ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ二分ノ酒精竝グリセリンニ溶解シ純クロロ  
フォルム竝ペンツォールニ溶解セス  
本品ノ水溶液(1:5)ニ硫酸或ハクローロルナトリウム飽和溶液ヲ加フレハ沈澱ヲ生シ過クローロル鐵溶液ヲ  
和スレハ硫酸ニ由テ再ヒ溶解スヘキ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス(11)  
本品ノ水溶液(1:5)1立方センチメートル(3ccm)ニ酒精二立方センチメートル(3ccm)ヲ和スルニ澄明ニ  
止マリ(11)之ニエーテル一立方センチメートル(1ccm)ヲ加フルニ濁濁スヘカラス(111)  
本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ十分ニ付キ十二分以上ノ重量ヲ減失スヘカラス(114)

稀硫酸 タンニン酸



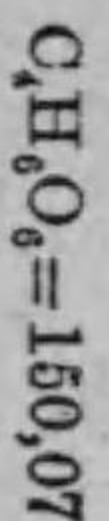
本品五グラム(5g)ヲ燃化スルニ0.01グラム(0.01g)以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(五)此殘留物ヲ二立方センチメートル(2ccm)ノ醋酸ニ溶解シ水八立方センチメートル(8ccm)ヲ加ヘテ稀釋シ濾過シテ得タル液五立方センチメートル(5ccm)ニ硫化水素水ヲ和スルニ濁濁スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(六)褐色場中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註) 解 (一)實性反應(二)デツキストリン、エキス質ノ試驗(三)砂糖類、鹽類ノ試驗(四)水分ノ試驗(五)僅微以上無機性物質ノ試驗(六)重金屬ノ試驗

(醫治効用) 收斂止血劑ニシテ内服ニハ一日數回0.5-1.0-3.0散劑、丸劑等トナシ下痢症、胃腸出血、腎臟出血、膀胱出血、慢性實質性腎臟炎等ニ又アルカロイド及金屬中毒ニ解毒劑トシテ用フ外用ニハ潰瘍面ニ撒布シ、澱粉ニ混シテ鼻腔喉頭内吹入粉(1-10)トシ、合嗽、吸入、尿道内注射、眼洗液劑(0.5-1%水溶液)トシ其他濕疹ニ藥法劑(5-10%水溶液)トシ凍傷ニ軟膏(1%)トナシ用フ

〇 Acidum tartaricum.

酒石酸



酒石酸(二)ハ無色透映柱狀ノ結晶或ハ白色ノ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス一分ノ水、四分ノ酒精又二百五十分ノ「エーテル」ニ溶解シ「クロロフォルム」並「ベンツォール」ニ殆ト溶解セス熱灼スレハ砂糖ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放ツ

本品ノ水溶液(一)ニ醋酸カリウム溶液ヲ加フレハ結晶性ノ沈澱ヲ生シ又過剩ノ石灰水ヲ加フレハ初メ絮狀ニシテ後結晶性ニ變スル沈澱ヲ生ス此沈澱ハ「クロールアムモニウム」溶液並「ナトリオン」滴液ニ溶解シ

其「ナトリオン」滴液ヲ煮沸スレハ凝膠様ノ沈澱ヲ生シ冷ユレハ復タ溶解ス(三)

本品ノ水溶液(1:10)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(三)又アムモニア水ヲ加ヘテ殆ト中和シタルモノハ「醋酸アムモニウム」溶液(四)並「硫酸カルチウム」溶液(五)ニ由テ變化スヘカラス  
本品五グラム(5g)ヲ水十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ之ニ「アムモニア」水ヲ加ヘテ殆ト中和シタル後硫化水素水ヲ和スルニ染色スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(六)  
本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ0.1分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)

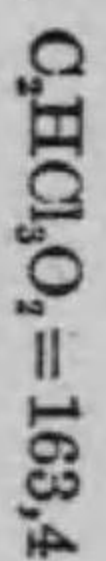
(註) 解 (一)  $\frac{OH(OH).COOH}{OH(OH).COOH}$  ナル構造ヲ有ス (II) 實性反應  $\frac{COOH}{COOH} + CH_3COOK = \frac{COOK}{COOH} +$

$CH_3COOH; \frac{COOH}{COOH} + Ca(OH)_2 = \frac{COO}{COO} + Ca + 2H_2O$  (III) 痕跡以上硫酸鹽ノ試驗 (四) カルチウム鹽ノ試驗

(五) 醋酸、葡萄糖ノ試驗ニシテ之ヲ夾雜スレハ白色ノ沈澱又ハ濁濁ヲ生ス  $\frac{COO}{COO} + Ca + 2H_2O = \frac{COO}{COO} + Ca + H_2O + H_2SO_4 + H_2O$  (六) 鉛、銅、鐵ノ試驗(七)耐火性物質ニ「カルチウム、アルミニウム、カリウム」化合物ノ試驗  
(醫治効用) 主トシテ内服ニ清涼止渴劑トシテ「リモナーデ」又ハ「沸騰散」トナシ用フ

Acidum trichloroaceticum.

トリクロール醋酸



トリクロール醋酸(一)ハ無色潮解性ノ結晶ニシテ微弱ノ刺戟性臭氣ヲ有シ水ニ溶解シ強酸性ノ反應ヲ微シ酒精並「エーテル」ニ容易ニ溶解シ約五十五度ニ於テ熔融シ約百九十五度ニ於テ沸騰ス熱スレハ殘留物ヲ止メスシテ全ク揮散ス(三)

本品一グラム(1g)ニ「カリ満液三立方センチメートル(3ccm)ヲ加ヘテ熱スレハ」クロロフォルム」ノ臭氣ヲ發ス(III)

本品ノ水溶液(1:10)十立方センチメートル(10ccm)ニ十分定規硝酸銀液二滴ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ呈スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(IV)

本品ノ除濕器内ニ於テ乾燥セルモノ〇・五グラム(0.5g)ヲ水二十立方センチメートル(20ccm)ニ溶解シタルモノヲ中和スルニハ十分定規カリ液三十・五立方センチメートル(30.5ccm)ヲ費スニ過クヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液(五))

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

〔註 解〕

(I)  $\text{CCl}_3\text{COOH}$  ナル構造ヲ有ス (II) 異物ヲ夾雜スレハ殘留物ヲ止ム (III) 實性反應  $\text{CCl}_3\text{COOH} + 3\text{KOH} = \text{CCl}_3\text{K} + \text{K}_2\text{CO}_3 + \text{H}_2\text{O}$  (IV) 痕跡以上クロール水素酸ノ試験(五)  $\text{CCl}_3\text{COOH} + \text{KOH} = \text{CCl}_3\text{COOK} + \text{H}_2\text{O}$  ナル反應ニヨリ十分定規カリ液一立方センチメートル「ハ」トリクロロール酢酸〇・一六三四グラム「ヲ」中和スルヲ以テ茲ニ消費セル該液三十・五立方センチメートル「ハ」トリクロロール酢酸〇・四九八三七グラム「ニ」對應シ從テ本品ハ純トリクロロール酢酸九十九・六七%ヲ含有スヘキモノトス若シ定規カリ液ノ消費量多キトキハ「トリクロロール酢酸」又ハ「酒石酸」ノ如キモノヲ夾雜シ其消費量少ナキトキハ「抱水クロール」ヲ夾雜スル徵

〔醫治効用〕 外用ニ腐蝕藥トシテ其ママ又ハ濃厚液ヲ疥、癬、母斑、コンデローム、肥天性鼻炎、扁桃腺及惡癬並ニ肥天性癬等ニ又收斂性塗布劑トシテ一%水溶液ヲ慢性咽喉炎ニ用フ

*Adeps benzoatus.*

安息香豚脂

安息香豚脂ハ

豚脂

五十分(50)

安息香細末

一分(1)

ヲ取り重湯煎上ニ熔和シ屢々攪拌シツツ一時間温メ濾過シ製スヘシ

(應用)

主トシテ軟膏基礎劑ニ供ス

*Adeps lanae anhydricus.*

無水ラノリン

無水ラノリン「ハ」羊毛ヨリ採集シ精製シタル無水ノ脂肪ナリ

本品ハ淡黄色軟膏様ノ塊ニシテ殆ト臭氣ナク約四十度ニ於テ熔融ス「エーテル、クロロフォルム、石油ペンチン」又熱純アルコホル「ニ」溶解シ水ニ溶解セス又水ニ倍重量ヲ混和スルモ尙軟膏様ノ稠度ヲ失ハス

本品ノ「クロロフォルム」溶液(1:50)ヲ注意シテ硫酸上ニ注キニ液層トナスニ其接界ニ於テ漸次帯褐赤色ノ輪帶ヲ生シ約二十四時間ノ後其色最モ鮮明トナル(II)

本品二グラム(2g)ヲ「エーテル」十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ「フェノールフタレイン」溶液二滴ヲ加フルニ其溶液無色ニ止マリ(III)之ニ十分定規カリ液〇・一立方センチメートル(0.1ccm)ヲ和スルニ赤色ヲ呈セサルヘカラス(IV)

本品十グラム(10g)ニ水五十立方センチメートル(50ccm)ヲ和シ重湯煎上ニ於テ絶ヘス攪拌シツツ熔融セシメタル後冷却スルニ淡黄色ノ脂肪層ヲ析出シ(五)其下層ノ水液ハ澄明ニシテ中性ノ反應ヲ徴シ(六)之ヲ

蒸發スルニ「グリセリン」ヲ殘留セス(七)又石灰水ヲ加ヘテ熱スルニ「アルカリ性」ノ蒸氣ヲ發スヘカラス(八)又其水液ノ豫メ濾過シタルモノ十立方センチメートル(10ccm)ニ過マンガン酸カリウム溶液二滴ヲ加フルニ其赤色少ナクモ十分時間持續セサルヘカラス(九)

本品一グラム(1g)ニ純アルコホル二十立方センチメートル(20ccm)ヲ加ヘテ煮沸シ冷後濾過シテ得タル液ニ硝酸銀ノ酒精溶液(1:20)ヲ注クニ濁濁スルコトアルモ温ムレハ復タ澄明トナリ或ハ微ニ蛋白石濁ヲ遺スニ過クヘカラス(十)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコトアルモ百分ニ付キ一分ニ過クヘカラス(十一)

本品ヲ熱灼スルニ固性物ヲ殘留スルコトアルモ百分ニ付キ〇・一分ニ過クヘカラス此殘留物(十二)ハ水ヲ以テ濡ホセル赤色試験紙ヲ藍變スヘカラス(十三)

(註)

解 (一)コレステリン及イソコレステリン「如キ」アルコホル類ト種々ノ酸類ト「エステル」ヨリ成ル(二)コレステリンノ實性反應(三)遊離アルカリ「ヲ夾雜スレハ赤色ヲ呈ス(四)本品百グラム中水酸化カリウム〇・〇二八グラム」ニ對應スル以上ノ酸ヲ夾雜セザル(五)石鹼ヲ夾雜スル不純品ハ泡沫ヲ生シ且脂肪層澄明ナラス(六)アルカリ性反應ヲ呈スレハ炭酸アルカリ「ヲ夾雜セル(七)グリセリン」ヲ夾雜セザル(八)アムモニウム鹽ノ試験(九)グリセリン及酸化サレ易キ有機性夾雜物ノ試験(十)クロール又クヨール化物ノ試験(十一)水分ノ試験(十二)殘留物ハ主トシテ酸化鐵ヨリ成ル(十三)炭酸アルカリ「ヲ夾雜セザル」

(應)

用) 軟膏ノ基礎劑トシテ實用ス

O Adeps Lanae cum Aqua.

含水ラノリン

含水ラノリン(15)

無水ラノリン

七十五分(15)

蒸餾水

二十五分(25)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ帶黃白色軟膏樣ノ塊ニシテ殆ト臭氣ナク重湯煎上ニ温ムレハ熔融シテ澄明ナル水液及油層ニ分離ス

本品ヲ攪拌シツツ重湯煎上ニ乾燥シテ得タル脂肪ノ試験ハ無水ラノリンノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其減失量百分ニ付キ二十六分ニ過クヘカラス

(註)

解 (一)約二十六%ノ水分ニ該當ス

(應)

用) 無水ラノリンニ同シ

Adeps suillus.

豚脂

Sus scrofa L.

豚脂(一)ハ健康ナル本動物ノ新鮮ニシテ洗淨セル大網膜及腎臟周圍ノ脂肪組織ヨリ熔出シ水分ヲ除去シテ得タル脂肪ナリ

本品ハ白色柔軟全質均等ノ塊ヲナシ臭氣ハ微弱特異ニシテ敗油性ナラス四十三乃至五十一・五度ニ於テ熔融シテ澄明ノ液トナリ其液ハ厚サ一センチメートル(1cm)以下ノ層ニ於テハ無色ナリ、ヨード數四十六

含水ラノリン 豚脂

乃至八十、酸度二以下ナリ(二)

本品二分ニ、カリ滴液三分及酒精二分ヲ加ヘ其混和液ノ澄明トナルニ至ル迄煮沸シ之ニ水五十分及酒精十分ヲ和スルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(三)

本品五グラム(5g)ヲ硝子壺ニ取り之ニ硝酸銀〇・〇五グラム(0.05g)ヲ、エーテル三立方センチメートル(3cm)酒精十二立方センチメートル(12cm)及稀硝酸二滴ニ溶解シテ得タル溶液ヲ和シ還流冷却器ヲ附シテ十五分時間重湯煎上ニ熱スルニ褐色或ハ黒色ヲ呈スヘカラス(四)

(註)

(一)主トシテ油酸、軟脂酸、硬脂酸ノ「グリセリンエステル」即チ油脂  $C_{17}H_{33}O_2$ 、 $C_{18}H_{35}O_2$ 、 $C_{19}H_{37}O_2$  及硬脂酸  $C_{17}H_{33}O_2$ 、 $C_{18}H_{35}O_2$ 、 $C_{19}H_{37}O_2$  ナル

(二)ヨード数及酸度ノ檢定ハ凡例ニ於ケル如ク施行スヘシ即チ硝子壺硝子壺中ニ本品〇・六乃至〇・七グラムヲ取り「クロロフォルム」十五立方センチメートルニ溶解シ酒精製ヨード溶液及酒精製昇汞溶液各同量混液(使用前少ナクモ四十八時間ニ調製スルヲ要ス)三十立方センチメートルヲ注加シ(若シ其液全ク澄明ナラザルトキハ尙若干量ノ「クロロフォルム」ヲ加フヘシ)短時ノ後全ク脱色スルコトアルトキハ尙ヨード昇汞溶液ヲ添加スヘシ液ハ直射日光ヲ避ケ室温ニ二時間放置シタル後(液ハ尙褐色ヲ呈セサルヘカラス)ヨードカリウム溶液「(二)十五立方センチメートル」ヲ和シ搖動シテ水百立方センチメートルヲ加ヘ劇シク振盪シツテ十分定規次硫酸ナトリウム液ヲ滴加シテ淡黄色ヲ呈スルニ至リ數滴ノ澱粉糊液ヲ加ヘ更ニ該定規液ヲ滴加シテ脱色スルニ至ルヘシ

前項ノ試験ヲ行フニ當リ常ニ前項ノ試験ト同一條件(但シ豚脂ヲ用フルコトナク)ノ下ニ次硫酸ナトリウム液ヲ以テ測定シ「ヨード昇汞混液」ノ力價ヲ檢定スヘシ

ヨード數ノ算定ニハ力價檢定ニ要シタル十分定規次硫酸ナトリウム液量ヨリ本檢定ニ要シタル該液量ヲ減シ其差  $0.001 - 0.002$  六九ニ乗スヘシ十分定規次硫酸ナトリウム液一立方センチメートルハ「ヨード〇・〇一二六九ニグラム」ニ對應ス(茲ニ得タル「ヨード」量ヲ豚脂百分ニ改算シ「ヨード」數ヲ得)

既定ノ「ヨード」數ヨリ低キトキハ牛脂類又高キトキハ純實油類ヲ夾雜スル微ナリ  
酸度ノ檢定ニハ本品五乃至十グラム「ヲ酸ヲ含マサル」アルコール及エーテル各同量ノ混液三十乃至四十立方センチメートルニ

溶解シ之ニ「フェノルフタレイン」溶液一立方センチメートルヲ加ヘ次ニ十分定規カリ液ヲ滴加シテ著明ナル赤色ヲ呈スルニ至ルヘシ例之ハ本品六グラムニ對シ十分定規カリ液一・二立方センチメートル(即チ定規カリ液〇・一二立方センチメートル)ヲ使用シタルトキハ酸度ハ  $\frac{0.12 \times 100}{6} = 2$  ナリ

(三)粉末狀ノ沈着物ヲ析出スレハ無機性夾雜物、乳劑狀ノ液ヲ生セハ不鹼化性有機夾雜物(礦油ノ類)ノ存在ヲ微ス(四)ベツヒ氏ノ純實油試驗

(應用) 容易ニ溶解スルヲ以テ軟膏基礎劑トシテハ「ラノリン」ワセリン、パラフィン等ニ劣ルモノトス

Aether.

エーテル



エーテル(一)ハ無色澄明揮散シ易キ液ニシテ點火シ易ク中性ノ反應ヲ微シ特異ノ氣味ヲ有ス水ニ僅ニ溶解シ酒精並脂肪油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ三十五度ニ於テ沸騰ス比重〇・七二ナリ

本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス(二)又本品十立方センチメートル(10cm)ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ見ルヘカラス(三)

本品五立方センチメートル(5cm)ヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシメ濕潤セル内面ニ藍色試驗紙ヲ接スルニ赤變スヘカラス(四)

本品二十立方センチメートル(20cm)ヲ新ニ破碎セル豌豆大ノ苛性カリ約五グラム(5g)上ニ撒注シ密閉シ光ヲ遮リ放置スルニ三十分時間以内ニ其苛性カリ並エーテル染色スヘカラス(五)  
本品十容量ヲ硝子壺ニ取り之ニ「ヨードカリウム」溶液一容量ヲ加ヘ殆ト全滿密閉シ屢ニ振盪シ光ヲ遮リ放

置スルニ一時間以内ニ染色スヘカラス(六)  
壇中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ(七)

(註) 解 (一)  $(C_2H_5)_2O$  ナル構造ヲ有ス(二) フーセル油ノ試験(三) 不揮發物ノ試験(四) 硫酸、醋酸ノ如キ酸類存スレハ試験紙ナ  
赤變シ亞硫酸存スレハ之ヲ褪色セシム(五) グイニールアルコホル、アルデヒド」ノ試験ニシテ之ヲ夾雜スレハ此ノ際類黃色ヲ呈  
ス(六) 過酸化水素、過酸化エチール等ノ試験  $H_2O_2 + 2KI = 2KOH + I_2$  (七) エーテル」ハ空氣及日光ニ逢ワテ次ノ如ク分解ス  
 $(C_2H_5O)_2 + O_2 = 2CH_3 = CHOH + H_2O_2$ ;  $3(C_2H_5O)_2 + 9H_2O_2 = 6(CH_2 = CHOH) + 12H_2O + O_2$

(醫治効用) 麻醉劑、興奮劑、鎮痛劑ニシテ内服ニハ五—十五滴ヲ砂糖又ハ茶ニ混シ若クハ膠囊ニ容レ失神、虚脱、疼痛、歇斯の里  
性發作、喘息性發作、痲回嘔吐、胃痛、胆石痲痛等ニ用ヒ外用ニハ失神時ノ吸入劑トシ假死及痲痛時ノ洗滌劑トシ、點滴シ又ハ「スア  
レ」ヲ用ヒテ局所痲痛劑トシ虚脱ニ皮下注射劑トシ其他外科術ニ於テ一般又ハ局所痲痛劑トシテ用フ

Aether acetious.

醋酸エーテル



醋酸エーテル(二)ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異爽快清凉ノ香氣ヲ有シ酒精、エーテル又ククロロフォル  
ムニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ七十四乃至七十七度ニ於テ沸騰ス比重〇・九〇〇乃至〇・九〇六ナリ  
本品ハ藍色試験紙ヲ直チニ赤變スヘカラス(二)  
本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ異種ノ「エーテル」臭ヲ放ツヘカラス(三) 又重湯煎上ニ蒸發スルニ  
殘留物ヲ見ルヘカラス(四)

本品ヲ注意シテ同容量ノ硫酸上ニ注キ二液層トナスニ十五分時間以内ニ其境界ニ於テ染色セル輪帶ヲ生

スヘカラス(五)

本品ニ同容量ノ水ヲ加ヘテ強ク振盪スルニ水ノ容量ヲ増スコト十分ノ一ニ過クヘカラス(六)  
壇中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

(註)

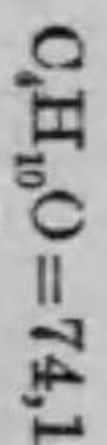
解 (一)  $CH_3COOC_2H_5$  ナル構造ヲ有ス(二) 遊離ノ酸味ニ醋酸ノ試験(三) 乳脂酸エーテル、アミール化合物ノ如キ「エーテ  
ル」様物質ノ試験(四) 不揮發性夾雜物(殊ニ鹽類、脂肪ノ類)ノ試験(五) 醋酸アミールエーテル其他有機性夾雜物ノ試験(六) 水ノ増容ハ  
多量ノ「アルコホル」ヲ夾雜スル也

(醫治効用)

内用ニハ一日數回五—二十滴ヲ「エーテル」ニ同シク應用ス外用ニハ先軛、虚脱ニ吸入劑トシ頭痛ニ塗擦劑トシテ用  
フ

O Aether pro narcosi.

麻醉用エーテル



麻醉用エーテル(一)ハ無色澄明揮散シ易キ液ニシテ點火シ易ク中性ノ反應ヲ微シ特異ノ氣味ヲ有ス水ニ  
僅ニ溶解シ酒精並脂肪油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ三十五度ニ於テ沸騰ス比重〇・七二ナリ

本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス(二) 又重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ見ル  
ヘカラス(三)

本品二十立方センチメートル(30 ccm)ヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシメ濕潤セル内面ニ藍色試験紙ヲ接ス  
ルニ褪色或ハ赤變スヘカラス(四)

醋酸エーテル 麻醉用エーテル

本品二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ新ニ破碎セル豌豆大ノ苛性カリ約五グラム(5g)上ニ撒注シ密閉シ光ヲ遮リ放置スルニ六時間以内ニ其苛性カリ竝エーテル染色スヘカラス(五)  
本品十容量ヲ硝子壺ニ取り之ニ「ヨードカリウム溶液」一容量ヲ加ヘ殆ト全滿密閉シ屢々振盪シ光ヲ遮リ放置スルニ三時間以内ニ染色スヘカラス(六)  
褐色小壺中ニ殆ト全滿シ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ(七)

(註 解) 検査法ハ「エーテル」ニ同シ唯酸ナルノミ  
(醫治効用) 主トシテ外用ニ麻醉劑トシテ用フ

Aethylum bromatum.

プロロムエチール



プロロムエチールハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ強ク光線ヲ屈曲シ中性ノ反應ヲ徵シ佳快エーテル様ノ香氣ヲ有シ水ニ混和セス酒精竝エーテルニ澄明ニ混和シ三十八乃至四十度ニ於テ沸騰ス比重一・四五三乃至一・四五七ナリ(一)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ同容量ノ硫酸ト共ニ内徑三センチメートル(3 cm)ノ共栓硝子圓筒中ニ屢々振盪スルニ其硫酸一時間以内ニ染色スヘカラス(二)  
本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシムルニ蒜臭ヲ放タス又重湯煎上ニ蒸發ス

ルニ残留物ヲ見ルヘカラス(三)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ同容量ノ水ト共ニ數秒時間振盪シタル後迅速ニ水液二・五立方センチメートル(2.5 ccm)ヲ分取シ之ニ硝酸銀溶液一滴ヲ加フルニ少ナクモ五分時間澄明ニ止マルヘシ(四)  
褐色小壺中ニ殆ト全滿シ密栓シ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ(五)

(註 解)

(一)プロロムエチレントノ區別ニシテ此物ハ沸點(百二十九度)及比重(二・一七九)高シ又酒精及エーテルノ含量ニヨリテハ沸點及比重ニ影響アリ(二)有機性硫黃化合物又ハ「エチレン」若クハ「アミール」化合物ノ試験(三)燐化合物ノ試験(四)プロロム水素酸又ハ「プロロムアルカリ」ノ試験(五)然ラサレハ分解ノ處アリ  $C_2H_5Br + H_2O = C_2H_5OH + HBr$ ;  $2HBr + O = 2Hr + H_2O$

(醫治効用)

内服ニハ一日數回五—十滴ヲ砂糖ニ混シ又ハ膠囊ニ容レ鎮痛劑トシテ痲痺、喘息、斯歇的里性痲痺ニ用ヒ外用ニ十—十五分以内ニ結了スル小手術時ノ麻醉劑トシテ用フ

Aethylum chloratum.

クロールエチール



クロールエチールハ無色澄明揮散シ易キ液ニシテ特異ノ氣味ヲ有ス水ニ僅微ニ、酒精竝エーテルニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス點火スレハ綠色ノ邊縁ヲ有スル火焰ヲ放テ燃燒シ十二乃至十二・五度ニ於テ沸騰ス比重零度ニ於テ〇・九二一ナリ

本品五立方センチメートル(5 ccm)ニ零度ノ水同容量ヲ和シテ振盪スルニ水液ハ藍色試験紙ヲ赤變セス又之ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液一滴ヲ和スルニ潤濁スヘカラス(一)

プロロムエチール クロールエチール

本品五立方センチメートル(5ccm)ヲ皿上ニ取り自然ニ揮散セシムルニ固性物ヲ遺ナス其際蒜臭ヲ放ツヘカラス(二)

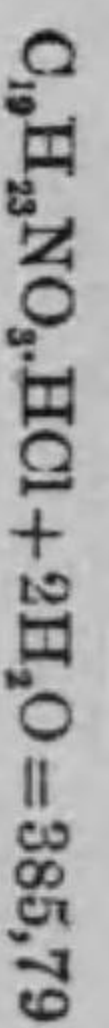
硝子器中ニ密閉シ光ヲ遮リ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ

(註) 解 (一)鹽酸ノ試験(二)燐化合物ノ試験

(醫治効用) 局處麻酔藥トシテ使用セラル

Aethymorphinum hydrochloricum.

鹽酸エチールモルヒネ



鹽酸エチールモルヒネ(一)ハ白色結晶性粉末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ十二分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス又二十五分ノ酒精ニ溶解シ「エーテル」並「クロロフォルム」ニ殆ト溶解セス

本品〇・〇一グラム(0.01g)ヲ硫酸十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解スレハ鹽酸瓦斯ヲ發シテ無色ニ溶解ス之ニ過クロール鐵溶液一滴ヲ和シ微温ヲ與フレハ綠色ヲ呈シ漸次深藍色トナル更ニ硝酸二三滴ヲ和スレハ深赤色ニ變ス又本品ノ水溶液(1:20)ハ硝酸銀溶液並「カ」滴液ニ由テ沈澱ヲ生ス(二)

本品ノ水溶液(1:100)一立方センチメートル(1ccm)ニ赤色血滴鹽一小粒ヲ水十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ之ニ過クロール鐵溶液一滴ヲ和シタルモノヲ注加スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(三)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ水二立方センチメートル(2ccm)ニ溶解シ之ニ「アムモニア」水一二滴ヲ和スルニ白色ノ沈澱ヲ生シ更ニ「アムモニア」水十乃至十五滴ヲ和スルニ溶解セス此沈澱ヲ洗滌シ乾燥シタルモノハ

八十九乃至九十度ニ於テ熔融スヘシ(四)

本品ヲ百十度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ九・五分ニ過クヘカラス(五)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固物性ヲ殘留スヘカラス(六)

注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・〇三グラム(0.03g)

一日ノ極量 〇・一グラム(0.1g)

(註) 解

(一)別名チオニン Dioxin, ナンテ  $C_{12}H_{10}O_2N(O_2C_2H_5)_2 \cdot HCl \cdot 3H_2O$  ナル記號ヲ有ス(二)實性反應(三)「モルヒネ」ノ試験

(四)「コデイン」ノ試験(五)水分ノ試験ニシテ理論上減失量ハ九・三四%トス(六)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) 鎮痛藥ニシテ其作用「コデイン」ニ同シク一回〇・〇一—〇・〇五内服セシメ又ハ〇・〇一皮下注射ス

Agar-Agar.

寒天

Gelidium Amansii Lam. 及其他 Gelidium 屬ノ諸種

寒天(一)ハ晒白シタル本植物ノ粘漿ヲ凍結セシメ乾燥セルモノナリ

本品ハ類白色透映ニシテ多少光澤ヲ帶ヒ表面皺縮セル四稜柱體ヲナシ其質輕鬆ニシテ強韌ナリ

本品一グラム(1g)ヲ百立方センチメートル(100ccm)ノ水ト共ニ煮沸スレハ僅少ノ不溶性分ヲ遺シテ溶解シ多少濁濁セル粘漿ヲ生シ冷後半透明ノ凝膠トナル此粘漿ハ藍色試験紙ヲ赤變セス(二)又其三立方センチメートル(3ccm)ニ一滴ノ「ヨード」溶液ヲ加フルニ黃色ニ止マリ直チニ脱色セス(三)更ニ〇・五立方センチメートル(0.5ccm)ノ「ヨード」溶液ヲ加フルニ濃紫色ヲ呈セサルヘカラス(四)

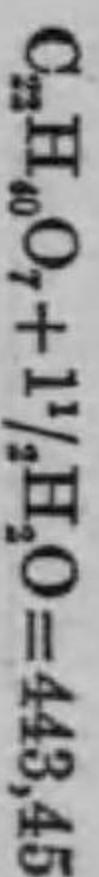
鹽酸エチールモルヒネ 寒天

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ一・五分ニ過クヘカラス(五)  
本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ四・五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(六)

(註 解) (一)成分ハ寒天粘液質及ガラクトーゼノ類トス(二)遊離酸類ニ硫酸ノ試験(三)亞硫酸ノ試験(四)正品ノ特性且  
澱粉ノ試験(五)水分ノ試験(六)無機性夾雜物ノ試験  
(應 用) 珠ニ細菌類培養基ノ製造ニ使用ス

Agaricium.

アガリチン



アガリチン(一)ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭味ナク水ニ僅微ニ溶解シ温湯ニ膨脹シ熱湯ニ甚シク泡沫ヲ  
生シテ澄明ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徵ス此液ヲ冷却スレハ著シク稠濁ス百八十分ノ酒精竝十分ノ熱酒精ニ  
溶解シ温水醋酸竝温テレピン油ニ較シ溶解シ易ク「エーテル」ニ僅微ニ溶解シ「クロロフォルム」ニ殆ト溶解セ  
ス「カリ油液竝アムモニア水ニ溶解シテ澄明ノ液トナリ之ヲ振盪スレハ甚シク泡沫ヲ生ス  
本品ノ百度ニ乾燥シタルモノハ約百四十度ニ於テ熔融シ較強ク熱スレハ白霧ヲ發シテ炭化シ脂肪ヲ燒  
クカ如キ臭氣ヲ發ス(二)

本品〇・一グラム(0.1g)ニ稀硫酸十立方センチメートル(10ccm)ヲ和シテ熱スレハ稠濁セル溶液ヲ生シ重  
湯煎上ニ放置スルニ其液中ヨリ油滴ヲ析出シ其油滴ハ冷却ノ際結晶性ニ凝固スヘシ(三)  
本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(四)

注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・一グラム(0.1g)

(註 解) (一)  $C_6H_5(OH)_2COOH$  ナル構造ヲ有ス(二)酸性反應(三)正品ノ特性(四)無機性夾雜物ノ試験  
 $OH(O_2H_2)_2COOH$   
(醫治効用) 止汗劑ニシテ汗ニ實用シ最初〇・〇〇五—〇・〇二ヨリ漸次増量シテ〇・〇五ヲ散劑又ハ丸劑トシテ發汗五—六時  
間前ニ内服セシム

Albuminum tannicum.

タンニン酸アルブミン

タンニン酸アルブミン(一)ハ類褐色ノ粉末ニシテ殆ト臭味ナク水竝酒精ニ僅微ニ溶解ス  
本品ニ水ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ニ過クロール鐵溶液一滴ヲ和スレハ深藍色ヲ呈ス又本品ニ水  
ヲ和シテ煮沸シ濾過シ其濾液ニ蛋白溶液ヲ加フレハ沈澱ヲ生ス(二)

本品ニ「ナトロン」滴液ヲ和シテ煮沸シ冷後之ニ鹽酸ヲ加ヘテ過飽スレハ硫化水素ノ臭氣ヲ發ス(三)  
本品一グラム(1g)ヲ取り之ニ含糖ペプシン〇・二五グラム(0.25g)ヲ水百立方センチメートル(100ccm)ニ  
溶解シタルモノ及稀鹽酸一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ三時間四十度ニ温メタル後濾過シ濾紙上ノ  
殘渣ヲ逐次三回各十立方センチメートル(10ccm)ノ水ヲ以テ洗滌シ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量少ナク  
モ〇・五グラム(0.5g)ナラサルヘカラス(四)  
本品二グラム(2g)ニ石油ベンチン二十立方センチメートル(20ccm)ヲ和シ十五分間屢強ク振盪シタル  
後濾過シテ得タル液十立方センチメートル(10ccm)ヲ蒸發スルニ〇・〇五グラム(0.05g)以上ノ殘留物ヲ遺



スヘカラス(五)

本品二グラム(2g)ヲ灰化シ之ニ稀鹽酸五立方センチメートル(5ccm)ヲ注加シ温ヲ與ヘテ溶解シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素水ニ由テ變化セス或ハ染色スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(六)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ五分以上ノ重量ヲ減失スヘカラス(七)  
本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)

(註)

植物性蛋白ヨリ製スルコトアリ是レ脂肪量五%以内ニ制限セラレタル所以ナリ(六)重金屬ノ試験(七)水分ハ五%以内トス(八)灰分ハ一%以内トス

(醫治効用)

胃液ニ透ワテ變化セザレトモ「アルカリ性腸液ニ透ウテ漸次ニ分解シ」タンニン酸ヲ遊離シ諸種ノ下痢ニ特效アリ  
一日數回一〇—二〇(小兒ニハ〇・三—〇・六)ヲ散劑トナレ用フ

Alcohol absolutus.

純アルコール

$C_2H_5O = 46,06$

純アルコール(一)ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ徵シ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味灼クカ如ク七十八乃至七十九度ニ於テ沸騰シ水、エーテル、クロロフォルム又ベンツォールニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重〇・七九六乃至〇・七九七ナリ

本品ハ百容量中九十九・六六乃至九十九・四六容量或ハ百分中九十九・四四乃至九十九・二一分ノ純エチールアルコールヲ含有ス

本品ハ異臭ヲ有セス又水ニ潤濁セスシテ混和スヘシ(二)又本品十立方センチメートル(10ccm)ニ同容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノニ硝酸銀溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ其混液ニ「アムモニア水」ヲ加ヘテ初メ生シタル沈澱ノ溶解スルニ至リ暗處ニ放置スルニ十二時間以内ニ染色或ハ潤濁スヘカラス(三)

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ「カリウム液〇・二立方センチメートル(0.2ccm)ヲ加ヘ蒸散セシメテ約一立方センチメートル(1ccm)トナルニ至リ稀硫酸ヲ以テ過飽スルニ「フリーゼル油ノ臭氣ヲ發スヘカラス(四)

本品五立方センチメートル(5ccm)ヲ豫メ硫酸五立方センチメートル(5ccm)ヲ容レタル試験管中ニ注意シテ注キ二液層トナシ永ク放置スルモ其境界ニ於テ蕃薇紅色ノ輪帶ヲ生スヘカラス(五)

本品十立方センチメートル(10ccm)ニ過マンガン酸カリウム溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ加ヘタルモノハ二十分時間以内ニ黄色ニ變スヘカラス(六)

本品百立方センチメートル(100ccm)ヲ一分時間ニ十滴以内滴出スル速度ヲ以テ徐々ニ蒸餾シテ得タル初縮液十立方センチメートル(10ccm)中ヨリ其〇・一立方センチメートル(0.1ccm)ヲ試験管ニ取り之ニ過マンガン酸カリウム溶液(1:100)五立方センチメートル(5ccm)及硫酸〇・二立方センチメートル(0.2ccm)ヲ加ヘ二乃至三分時間ノ後稀酸溶液(1:12)一立方センチメートル(1ccm)ヲ以テ脱色シ試験管内ノ混液黄色ヲ呈スルニ至ラハ更ニ硫酸一立方センチメートル(1ccm)ヲ加ヘテ振盪シ全ク脱色シタル後之ニ「フクシン」亞硫酸溶液五立方センチメートル(5ccm)ヲ加ヘ試験管ヲ栓塞シ輕ク搖動シタル後放置スルニ一時間以内ニ呈色セス或ハ呈色スルコトアルモ微ニ藍色ヲ帶フルニ過クヘカラス又前上初縮液殘餘ノ全部ヲ取り之ニ過マンガン酸カリウム溶液(1:100)二百五十立方センチメートル(250ccm)及硫酸十立方センチメートル(10ccm)ヲ加ヘテ振盪シ二乃至三分時間ノ後稀酸溶液(1:12)ヲ以テ脱色シ蒸餾スヘシ蒸餾中ハ時々縮液約

五立方センチメートル(5ccm)ヲ取り之ニ鹽酸フェニールヒドラン約0.03グラム(0.03g)ニトロプル  
シドナトリウム溶液(1:40)四滴及ナトロン溶液(1:10)一立方センチメートル(1ccm)ヲ加フルニ暗赤色ヲ  
呈セサルニ至ラハ受器ヲ換ヘ餾液ヲ採集シ之ニ炭酸カルチウム三グラム(3g)ヲ加ヘテ更ニ蒸餾シ其餾液  
ニ過剰ノ「アムモニア」水ヲ注キ八十度ヲ超エサル温ニ於テ蒸發シ濃厚トナシ其二滴ヲ物體硝子上ニ取り  
之ニ昇汞溶液一滴ヲ加ヘ顯微鏡下ニ檢スルニ三放線又ハ多放線狀ノ星狀結晶ヲ認ムヘカラス(七)  
本品ハ硫化水素水(八)竝アムモニア水(九)ニ由テ染色スヘカラス  
本品十立方センチメートル(10ccm)ヲ重湯煎上ニ揮散セシムルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス(十)  
壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註)

解 (一)  $C_2H_5OH$  ナル構造ヲ有ス (二) フーゼル油又ハ化學工業ノ目的ニ一度使用セラレ副産物トシテ得タル不純アル  
コホルン試験(III)「 $Na_2CO_3$ 」ノ試験  $OH_2COH + 2AgNO_3 + 3NH_3 + H_2O = CH_3COONH_4 + 2NH_4NO_3 + Ag_2$  (四) フーゼル油ノ  
試験  $CH_3COO(C_2H_5) + KOH = OH_2COOK + C_2H_5OH$  (五) 糖蜜ヨリ製シタル不純品ヲラサレ微(六)「アルヂビード」ノ試験(七)メチ  
ールアルコールノ試験ニシテ若シ之アレハ「フォルムアルデヒド」ニ變シ其ノ特有反應ヲ呈ス(八)重金屬鹽ニ銅、鉛ノ試験(九)  
靛酸、エキス質ノ試験(十)エキス質ノ如キ不揮發性物質ノ試験

(應)

用) 治療用ニ供スルコトナシ主ニ試薬トシテ用フ

Aloe.

蘆薈

アフリカニ産スル Aloe 屬ノ諸種

蘆薈(一)ハ本屬諸種植物ノ葉ヨリ採集セル津液ヲ煎稠シテ得タルモノナリ  
本品ハ暗褐色ノ塊ヲナシ破砕シ易ク其碎片ハ透明ニシテ貝殼狀ヲナシ銳稜ヲ現ハシ硝子様ノ光澤ヲ帶ヒ

類赤色乃至淡褐色ヲ有シ顯微鏡下ニ檢スルニ結晶性ヲ呈セス(二)臭氣ハ特異ニシテ味ハ苦シ

本品ニ「クロロフォルム」ヲ加ヘテ煮沸シ又ハ「エーテル」ヲ加フルハ微ニ類黄色ヲ呈スルニ止マリ其エーテ  
ル液ハ之ヲ蒸散セシムルニ甚タ僅微ニ黄色ヲ有スル粘著性ノ殘渣ヲ遺ス(三)又本品ヲ熱湯ニ溶解シ硼砂  
ノ濃厚溶液ヲ加フルハ類綠色ノ螢石彩ヲ現ハス(四)

本品五分ニ水六十分ヲ加ヘテ煮沸スレハ殆ト透明ノ液ヲ生シ(五)其溶液ヲ冷却セシムルニ約三分ヲ析出  
スヘシ又本品一分ニ酒精五分ヲ和シ加熱シ濾過シテ得タル溶液ハ冷後濁濁ヲ生スヘカラス(六)

本品ノ碎片ニ硝酸ヲ注ケハ三分時間以内ニ其周邊ニ微ニ類綠色ヲ生スルニ止マリ赤色ヲ呈スヘカラス(七)  
本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ一・五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)

本品ノ粉末ヲ製スルニハ充分ニ乾燥セルモノヲ用フヘシ(九)

(註)

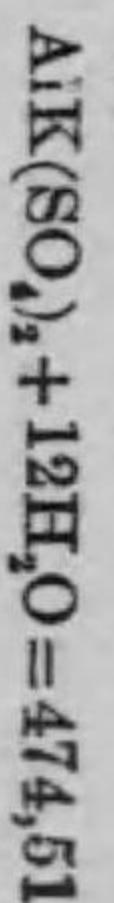
解 (一) 成分ハ「アロイン」、エモジン、樹脂、痕跡ノ揮發油等トス (二) ナタル蘆薈、バルバドス蘆薈、アロエソコトリナ  
多量ノ結晶ヲ現ハス (三) 樹脂ヲ以テ製造セルモノハ「クロロフォルム」又ハ「エーテル」分時色ヲ呈シ且蒸散セシムルニ著シク殘渣  
ヲ遺ス(四) 喜望峰蘆薈、キヌソノ蘆薈、バルバドス蘆薈ハ此反應ヲ呈スレトモ「ナタール蘆薈」ハ之ヲ呈セス(五) クロロフォルム、  
ピッチ其他沸湯ニ溶ケサル物質ノ試験(六) エム様物質、糊精、無機性夾雜物等ノ試験(七) 喜望峰蘆薈ハ綠色ヲ呈スレトモ他ノ種類  
ハ橙赤色ヲ呈ス(八) 無機性夾雜物ノ試験(九) 粉末ニシテ乾燥不充分又ハ肝色蘆薈ヨリ製シタルモノハ粘著シ且暗色ヲ呈ス

(醫治効用)

下劑ニシテ内服ニハ緩下劑トシテ0.02—0.2ナ、緩下劑トシア0.3—1.0ナ丸劑トナレ用ヒ外用ニハ0.5—  
3.0ナ浣腸劑トナシ用フ

Alumen.

明礬



蘆薈 明礬

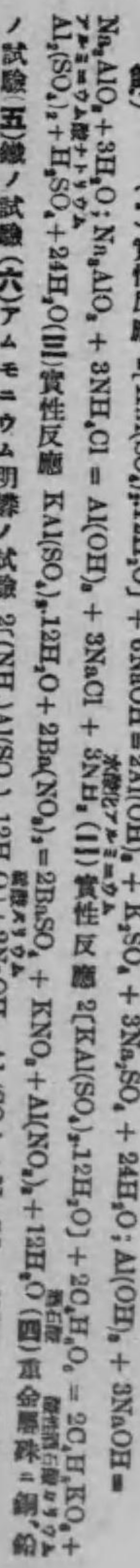
明礬ハ無色透射堅硬ナル正整八面晶或ハ結晶性粉末ヲナシ屢ニ表面ニ白色ノ粉霜ヲ帯フ其味微甘ニシテ收斂性ナリ十一分ノ水ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴シ酒精ニ殆ト溶解セス熱スレハ熔融シ次ニ甚シク膨起シ終ニ白色鬆疎ノ塊トナル

本品ノ水溶液ニ「ナトロン」滴液ヲ和スレハ凝膠様ノ白濁ヲ生シ其過剰ヲ加フレハ溶解ス更ニ過剰ノ「クロール」アムモニウム溶液ヲ和スレハ復タ白濁ヲ生ス(一)又本品ノ飽和水溶液ニ酒石酸溶液ヲ加ヘ強ク振盪スレハ三十分時間以内ニ結晶性ノ沈澱ヲ生シ(二)又硝酸バリウム溶液ヲ加フレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス(三)

本品ノ水溶液(1:20)ハ硫化水素水ニ由テ變化セス(四)又其二十立方センチメートル(20 ccm)ハ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(五)

本品「グラム」(1g)ニ水一立方センチメートル(1 ccm)及「ナトロン」滴液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和シテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(六)

(註 解)



(醫治効用)

收斂劑ニシテ主ニ外用ニ約一%溶液ヲ口瘻炎、喉頭加答兒ニ含嗽水又ハ吸入劑トシ、淋疾ニ注射劑トシ、洗滌劑トシ、其他吐血、潰瘍、足汗症ニ撒布粉トシテ用フ

Alumen ustum.

枯礬

枯礬(一)ハ白色ノ粉末ニシテ三十分ノ水ニ徐々ニ殆ト全ク溶解ス

本品ノ水溶液(1:10)ノ試験ハ明礬ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

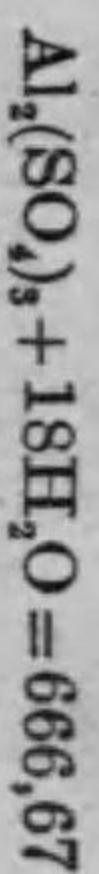
本品ヲ弱ク熾灼スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ十分ニ過クヘカラス(二) 燻中ニ容レ密閉シ貯フヘシ

(註 解)

(一)  $\text{KAl(SO}_4)_2$  ナル肥號ヲ有ス(二)本品ノ氣中ヨリ濕氣ヲ引キタルモノハ減失量多シ (醫治効用) 緩和ナル腐蝕劑ニシテ主ニ贅肉ニ撒布粉トナシ用フ

Aluminium sulfuricum.

硫酸アルミニウム



硫酸アルミニウムハ白色結晶性ノ塊片ニシテ一・二分ノ水ニ溶解シ熱湯ニ極メテ溶解シ易ク酸性ノ反應ヲ徴シ酒精ニ殆ト溶解セス味ハ酸ク且澁シ

本品ノ水溶液ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又「ナトロン」滴液ニ由テ其過剰ニ溶解スヘキ白色凝膠様ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ヲ過剰ノ「ナトロン」滴液ニ溶解シテ得タル液ニ多量ノ「クロール」アムモニウム溶液ヲ和スレハ再ヒ沈澱ヲ析出ス(一)

本品ノ水溶液(1:10)ハ無色ニシテ殆ト澄明ナラサルヘカラス(二)之ニ硫化水素水ヲ和スルモ變化スヘカラス(三)又十分定規次亞硫酸ナトリウム液同容量ヲ和スルニ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)

本品ノ水溶液(1:20)二十立方センチメートル(20 ccm)ニ黄色血滴鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ヲ和スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(五)

本品ノ百度ニ於テ乾燥セル粉末一グラム(1g)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(六)

(註) 解 (一) 質性反應  $Al_2(SO_4)_3 \cdot 18H_2O + 3Ba(NO_3)_2 = 2Al(NO_3)_3 + 3BaSO_4 + 18H_2O$ ;  $Al_2(SO_4)_3 \cdot 18H_2O + 6NaOH = 2Al(OH)_3 + 3Na_2SO_4 + 18H_2O$ ;  $Al(OH)_3 + 3NaOH = Na_3AlO_3 + 3H_2O$ ;  $Na_3AlO_3 + 3H_2O = Na_2Al_2O_4 + 3H_2O$ ;  $Na_2Al_2O_4 + 3NaCl + 3NH_4Cl = Al(OH)_3 + 3NaCl + 3NH_3$  (1) 硫酸及硫酸カルチウムノ試験(三) 鉛又ハ銅ノ試験(四) 痕跡以上ノ遊離硫酸ノ試験ニシテ之ヲ夾雜スルトキハ次ノ如ク硫酸ヲ析出ス  $Na_2SO_4 + H_2SO_4 = Na_2SO_4 + H_2O + SO_3 + S$  (五) 鐵ノ試験(六) 砒素ノ試験  
(應用) 稀ニ軟飲劑トシテ用ヒ主トシテ硫酸アルミニウム液ヲ製スルニ用フ

**Ammoniacum.**

**アムモニアウム**

Dorema Ammoniacum Don.

アムモニアウム(一)ハ本植物ヨリ得タル「ゴム樹脂ナリ

本品ハ箇々分離シ或ハ多少粘合セル顆粒或ハ稍「巨大ナル塊片ヨリ成リ類褐色ヲ有シ其新破砕面ハ曇類白色ヲ呈ス寒冷ノ時ハ脆ク溫熱ニ逢ヘハ軟化スレトモ澄明ニ熔融セス臭氣ハ特異ニシテ味ハ苦ク辛烈ニシテ芳香性ナリ

本品一分ニ水十分ヲ加ヘ煮沸シテ得タル濁濁液ハ過クロール鐵溶液ニ由テ汚赤紫色ヲ呈ス又本品一分ニ水三分ヲ加ヘテ研磨スレハ白色ノ乳劑ヲ生シ之ニ「ナトロン滴液ヲ加フレハ黄色ヲ呈シ終ニ褐色トナ

**Ammonium benzoicum.**

本品ヲ成ルヘク細微ニ研磨シテ其五グラム(5g)ニ發烟鹽酸約十三立方センチメートル(13 ccm)ヲ加ヘテ

十五分時間煮沸シ濾過シテ得タル澄明ノ液ニ注意シテ「アムモニア水ヲ加ヘ過飽セシムルニ其混液ハ

落射光ニ於テ藍色ノ螢石彩ヲ現ハスヘカラス(三)

本品ニ熱酒精ヲ加ヘ充分ニ浸出スルニ其殘留物ハ乾燥ノ後百分ニ付キ四十分ニ過クヘカラス(四)又本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(五)

本品ヲ粉末トナスニハ之ヲ除濕器内ニ於テ乾燥シ成ルヘク低度ノ溫ニ於テ粉碎スヘシ  
(註) 解 (一) 成分ハ樹脂「サリチール酸」レシノタンノールエステル「ヨリ成ル」少量ノ「サリチール酸」揮發油、ゴム質等トス  
(二) 質性反應(三) ガルバヌム又ハ阿魏ノ試験(四) 酒精ニ不溶性分ノ制限量試験(五) 灰分多キハ細砂ヲ夾雜セル劣等品  
(醫治効用) 刺激性ノ祛痰劑ニシテ稀ニ丸劑又ハ乳劑トナシ一日數回〇・三—一・〇ヲ内服セシム外用ニハ硬膏トシテ用フ

**Ammonium benzoicum.**

**安息香酸アムモニウム**

$C_7H_5NO_2 = 139.13$

安息香酸アムモニウム(一)ハ白色ノ薄板狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク或ハ微ニ安息香酸ノ香氣ヲ有シ百九十多ニ於テ熔融シ強ク熱スレハ「アムモニア及安息香酸ノ蒸氣ヲ放テ揮散ス六分ノ水竝約二分ノ熱湯ニ溶解シ中性或ハ微弱酸性ノ反應ヲ徴シ三十分ノ酒精ニ溶解ス

本品ノ水溶液ハ「ナトロン滴液ト共ニ溫ムレハ」アムモニア臭ヲ發シ過クロール鐵溶液ニ由テ類赤黄色ノ

アムモニアウム 安息香酸アムモニウム

沈澱ヲ生ス又其水溶液ニ鹽酸ヲ和スレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生シ熱スレハ復タ溶解ス(二)  
 本品ノ水溶液(1:30)ハ硫化水素水、硫化アムモニウム又硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス(三)又同容量ノ  
 酒精及少量ノ硝酸ヲ和シタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)  
 本品〇・一グラム(0.1g)ニ炭酸ナトリウム溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ加ヘ蒸發乾涸シタル後弱ク  
 熾灼シ其殘留物ヲ水三十立方センチメートル(30ccm)ニ溶解シ濾過シテ得タル液ハ硝酸ヲ以テ酸性トナ  
 シタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(五)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(六)  
 器中ニ容レ密閉シテ貯フヘシ

(註)

解) (一) $C_6H_5COONH_4$ ナル構造ヲ有ス(二)實性反應(三)金屬硫酸ノ試驗(四)痕跡以上クロール化物ノ試驗(五)痕跡以上  
 有機性クロール化合物ノ試驗(六)無機性夾雜物ノ試驗

(醫治効用)

利尿、防腐、解熱及祛痰ノ效アリ氣管枝炎、喘息、傷風、腎臟炎等ニ一日三―四回〇・六一二〇ヲ用フ

Ammonium bromatum.

ブロームアムモニウム

$NH_4Br = 97.96$

ブロームアムモニウムハ白色ノ結晶或ハ結晶性粉末(一)ニシテ一・五分ノ水並約百五十分ノ酒精ニ溶解  
 シ熱スレハ全ク揮散ス(二)  
 本品ノ水溶液ニ少量ノクロール水及クロロフォルムヲ加ヘテ振盪スレハ其クロロフォルムハ赤褐色ヲ呈

シ又ナトロン油液ヲ和シテ熱スレハアムモニアヲ發ス(三)

本品ノ粉末少量ヲ白色ノ瓷皿ニ取り之ニ稀硫酸二三滴ヲ注クニ直チニ黃色ヲ呈スヘカラス(四)

本品ノ水溶液(1:30)ハ無色澄明ニシテ中性或ハ殆ト中性ノ反應ヲ徴シ硫化水素水至、硝酸バリウム溶液

又稀硫酸(二)ニ由テ變化スヘカラス又其二立方センチメートル(20ccm)ハ黃色血滴鹽溶液〇・五立方セ

ンチメートル(0.5ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(七)

本品ノ水溶液(1:20)十立方センチメートル(10ccm)ニ過クロール鐵溶液三滴及少量ノ澱粉溶液ヲ和スル

ニ十分時間以內ニ藍色ヲ呈スヘカラス(八)

本品ノ百度ニ於テ乾燥シタルモノ三グラム(3g)ヲ水五百立方センチメートル(500ccm)ニ溶解シ其溶液五

十立方センチメートル(50ccm)ニクローム酸カリウム溶液一二滴ヲ加ヘ次ニ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シ

テ復タ消失セサル赤色ヲ呈スルニハ其銀液三十・六乃至三十・九立方センチメートル(30.6-30.9ccm)ヲ費

スヘシ(九)

(註)

解) (一)黃色ヲ呈スレハ鐵ヲ夾雜スル徵(二)揮散セザレハ耐火性質ヲ夾雜スル徵(三)實性反應  $NH_4Br + Cl = NH_4Cl$

+ Br;  $NH_4Br + NaOH = NH_3 + NaBr + H_2O$  (四)ブローム酸鹽ノ試驗  $NH_4BrO_3 + NH_4Br + H_2SO_4 = HBrO_3 + HBr + (NH_4)_2SO_4$

$5HBr + HBrO_3 = 6Br + 3H_2O$  (五)暗色ヲ呈スレハ金屬、白濁スレハ「ブローム酸鹽ヲ夾雜スル徵(六)硫酸並「シリウム」ノ試驗(七)

鐵ノ試驗(八)ヨード化物ノ試驗  $NH_4I + FeCl_2 = FeCl_3 + NH_4Cl + I_2$  (九)十分定規硝酸銀液一立方センチメートル「ブローム

アムモニウム〇・〇〇九七九六グラム又クロールアムモニウム〇・〇〇五三五〇グラム」ニ對應スルヲ以テ純ブロームアムモニ

ウム〇・三グラム」ヲ沈降スルニハ銀液三十・六二立方センチメートル」ヲ、又純クロールアムモニウム〇・三グラム」ヲ沈降スル

ニハ其五十六・〇八立方センチメートル」ヲ要ス故ニ消費増量二十五・四六立方センチメートル(56.08-50.52)ハ百分クロールア

ムモニウム」ノ含量ヲ示シ正條ノ規定ニ於テ尙想セル消費増量〇・三立方センチメートル(30.9-30.6)ハ次ノ比例ニ由リ約一・二

％ノクロールアムモニウム夾雜量ニ相當ス  $35.46 \text{ ccml} : 100\% NH_4Cl = 0.3 \text{ ccml} : x$ ;  $x = 1.18\%$  銀液ノ消費量三十・六立方センチメ

ブロームアムモニウム

夾雜ス

(醫治効用)

内用ニ一日數回〇・三—一〇ヲ散劑又溶液トナシ痼病、百日咳等ニ用フ

Ammonium carbonium.

炭酸アムモニウム

炭酸アムモニウム(一)ハ無色透映緻密堅硬ナル纖維狀結晶性ノ塊ニシテ強キ、アムモニア臭ヲ有シ氣中ニ風化シテ不透映白色トナリ熱ニ逢ウテ揮散ス約五分ノ水ニ徐々ニ全ク溶解シ、アルカリ性ノ反應ヲ徴シ稀酸類ニ劇シク泡沸シテ溶解ス

本品ノ水溶液(一:30)ハ醋酸ヲ以テ過飽シタル後(二)硝酸バリウム溶液、蓆酸アムモニウム溶液又硫化水素水ニ由テ變化セス(三)又鹽酸ヲ以テ過飽シタル後過クロール鐵溶液ニ由テ赤色ヲ呈セス(四)又過剰ノ硝酸銀溶液ヲ和シタル後硝酸ノ過剰ヲ注クニ褐色ヲ呈セス(五)或ハ二分時間以内ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(六)

本品一グラム(一〇)ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽シ重湯煎上ニ蒸發スルニ白色ノ殘留物ヲ得ヘシ此殘留物ハ熱スルニ全ク揮散セサルヘカラス(七) 塩中ニ容レ容栓シ貯フヘシ

(註)

解 (一)  $NH_4HCO_3 \cdot NH_4CO_2NH_2$  ナル記號ニ該當ス (二)  $NH_4HCO_3 \cdot NH_4CO_2NH_2 + 3OH \cdot COOH = 2CH_3COONH_4 + CO_2 + H_2O$  (三) 硫酸鹽、石灰鹽又金屬ノ試驗 (四) ロードンアムモニウムノ試驗  $3ONSNH_4 + FeCl_3 = Fe(OHNS)_3 + 3NH_4Cl$  (五) 次亜硫酸アムモニウムヲ夾雜スレハ褐色、クロールアムモニウムヲ夾雜スレハ白濁ヲ生メ  $(NH_4)_2S_2O_8 + 2AgNO_3 = Ag_2S_2O_8 + (NH_4)_2SO_4$   $NO_3 : Ag_2S_2O_8 + 2HNO_3 = 2AgNO_3 + SO_4 + S + H_2O : 2AgNO_3 + SO_4 + S + 2H_2O = Ag_2S + H_2SO_4 + 2HNO_3$  (六) クロールアムモニウム

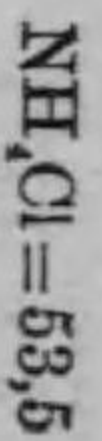
(醫治効用)

祛痰劑又ハ興奮劑ニシテ内服ニハ溶液トナシ一日數回〇・二—〇・五ヲ用ヒ外用ニハ吸入劑トナス

Ammonium chloratum.

クロールアムモニウム

硝砂



クロールアムモニウムハ白色結晶性ノ粉末或ハ纖維狀ノ堅キ結晶塊ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス熱スレハ揮散シ三分ノ水並等分ノ熱湯ニ溶解シ酒精ニ溶解シ難シ

本品ノ水溶液ニ硝酸銀溶液ヲ和スレハアムモニア水ニ全溶スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス又ナトロン滴液ヲ和シテ熱スレハアムモニアヲ發ス(一)

本品ノ水溶液(一:30)ハ無色澄明ニシテ微弱ノ酸性反應ヲ徴シ(二)硫化水素水、硝酸バリウム溶液、蓆酸アムモニウム溶液又稀硫酸ニ由テ變化セス(三)又鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ過クロール鐵溶液ニ由テ赤色ヲ呈スヘカラス(四)

本品ノ水溶液(一:30)二十立方センチメートル(30 ccm)ハ黄色血濁鹽溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(五)

本品一グラム(一〇)ニ少量ノ硝酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ白色ナラサルヘカラス(六)又之ヲ熱スルニ全ク揮散スヘシ(七)

(註)

解 (一) 酸性反應  $NH_4Cl + AgNO_3 = AgCl + NH_4NO_3$   $NH_4Cl + NaOH = NH_3 + NaCl + H_2O$  (二) 強酸性ナレハ遊離鹽酸ヲ夾雜スル徴 (三) 金屬珠ニ銅、鉛、硫酸鹽、石灰鹽又硫酸鉛、可溶性バリット鹽ノ試驗 (四) ロードンアムモニウムノ試驗(炭酸

スルフォイヒチオール酸アムモニウム

六六

アムモニウム参照(五)鐵ノ試験  $4FeCl_2 + 3K_2Fe(OH)_6 = Fe_4(Fe(OH)_6)_3 + 12KCl$  (六)褐色又ハ黒色ナレハ「タール物質其他有機性物質ヲ夾雜スル微七耐火物質ヲニ」ナトリウム鹽又ハ「カルチウム鹽」ニ試験  
(醫治効用) 溶解性祛痰劑ニシテ内用ニハ一日數回〇・三—一〇ヲ氣管枝加答兒ニ賞用シ外用ニハ合嗽水又ハ吸入劑トナヌ

*Ammonium sulfochtholicum.*

スルフォイヒチオール酸アムモニウム

スルフォイヒチオール酸アムモニウム(一)ハ帶赤褐色舍利別稠ノ液ニシテ焦性ノ臭氣ヲ有シ熱スレハ炭化シテ強ク膨起シ熱灼スレハ固性物ヲ遺サスシテ炭化ス水ニ澄明ニ混和シ微ニ酸性ノ反應ヲ徵ス酒精ニ著シク、エーテル、石油、ベンゼンニ僅ニ溶解シ酒精及エーテル各同容量ノ混液ニ殆ト全溶ス

本品ニ「カリ」滴液ヲ和シテ熱スレハ「アムモニア」ヲ發シ更ニ此混和物ヲ熱シテ炭化シ之ニ鹽酸ヲ加フレハ硫化水素ヲ發ス(三)

本品ノ水溶液(1:20)ニ鹽酸ヲ和スレハ暗色樹脂様ノ物質ヲ沈降ス此沈澱ハ「エーテル」並水ニ溶解シ其ノ水溶液ニ鹽酸或ハ「クロール」ナトリウムヲ加フレハ復タ析出ス(三)

本品ノ水溶液(1:20)ハ之ヲ熱スルニ濁濁或ハ變色スヘカラス(四)

本品ノ水溶液(1:20)ニ稀硫酸ヲ和スルニ三十分時間以内ニ亞硫酸ノ臭氣ヲ放ツヘカラス(五)

本品ノ水溶液(1:20)ニ硝酸ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液並硝酸バリウム溶液ニ由テ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(六)

本品ノ百度ニ於テ乾燥セルモノ〇・五グラム(0.5g)ニ硝酸カリウム二グラム(2g)及無水炭酸ナトリウム三グラム(3g)ヲ混和シ注意シツツ燃化シテ得タル白色ノ熔塊ヲ溫湯ニ溶解シ鹽酸ヲ以テ酸性トナシ之ニ「ク

ロール」バリウム溶液ヲ加ヘテ得タル硫酸バリウムノ量ハ〇・五—一乃至〇・六一グラム(0.51—0.62g)ナラサルヘカラス(七)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ五十分ニ過クヘカラス(八)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・三分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)

(註)

解 (一)別名イヒチオール(二)及(三)實性反應(四)正品ノ特徴(五)亞硫酸ノ試験(六)クロール並硫酸鹽ノ試験(七)硫黃

含量十四—十七%ニ該當ス(八)水分ノ試験(九)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

主ニ外用ニ尿管縮小、消炎、鎮痛ノ目的ニ皮膚病(疥、丹毒、鱗屑癬、濕疹、疳疔疹)諸種癢性症、淋巴腺炎、乳腺炎、關節

痛、眼腺炎、パンノニス、子宮炎、卵巢炎等ニ用フ

*Amygdalae amarae.*

苦扁桃

*Prunus Amygdalus Stoica.*

苦扁桃(一)ハ本植物ノ種子ナリ

本品ハ不相對性ノ卵圓形ヲナシ壓扁セラレ長ヲ平均ニセンチメートル(2cm)幅一〇センチメートル(1.3cm)ニ至リ一端ハ尖銳ニシテ他ノ一端ハ圓形ヲナシ此部位ニ於テハ厚サ〇・八センチメートル(0.8cm)ニ至ル其子殻ハ褐色ニシテ外面ハ脱落シ易キ厚壁性ノ上皮細胞ニ由テ粉末狀ヲ呈シ内部ニハ電點ヨリ出ツル多數ノ脈管東通走ス

本品ヲ熱湯中ニ軟化セシムレハ薄キ胚乳ノ殘片ト共ニ子殻ヲ剝離スルコトヲ得子葉ハ純白色ナリ

スルフォイヒチオール酸アムモニウム 苦扁桃

六七

本品ハ味甚タ苦クシテ敗油性ナラス(三)又水ヲ注キテ搗碎スルニ揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ放タサルヘカラ

(註) 解 (一)本品ハ三十五—五十%ノ脂肪油、二—三%ノ「ゴム質」、五%ノ砂糖、二十五—三十五%ノ蛋白質、一・七五—三・三%ノ「アミグダリン」、五%以下ノ灰分及九—十二%ノ水分ヲ含有ス(二)敗油性ナレハ變敗シタル徵(三)甘扁桃トノ區別

(應) 用 苦扁桃水ヲ製スルニ用フ

*Amygdalae dulces.*

甘扁桃

*Prunus Amygdalus Stokes.*

甘扁桃(二)ハ本植物ノ種子ナリ

本品ハ不相對性ノ卵圓形ヲナシ壓扁セラレ長サ平均二—二五センチメートル(0.25cm)幅一・五センチメートル(1.5cm)ニ至リ一端ハ尖銳ニシテ他ノ一端ハ圓形ヲナシ此部位ニ於テハ厚サ一センチメートル(1cm)ヲ超ユルコトアリ其子殻ハ褐色ニシテ外面ハ脫落シ易キ厚壁性ノ上皮細胞ニ由テ粉末狀ヲ呈シ内部ニハ電點ヨリ出ツル多數ノ脈管東通走ス

本品ヲ熱湯中ニ軟化セシムレハ薄キ胚乳ノ殘片ト共ニ子殻ヲ剝離スルコトヲ得子葉ハ純白色ナリ  
本品ノ味ハ緩和油様粘性ニシテ微ニ甘ク敗油性ナラス(三)又水ヲ注キテ搗碎スルニ揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ放ツヘカラス(三)

(註) 解 (一)本品ハ四十三—五十六%ノ脂肪油、六—十%ノ砂糖、三%ノ「ゴム質」、二十一—二十五%ノ蛋白質、三—五%ノ灰分、六—八%ノ水分其他少量ノ「アスパラギン」等ヲ含有ス(二)敗油性ナレハ變敗シタル徵(三)苦扁桃トノ區別

(應) 用 甘扁桃乳劑ヲ製スルニ用フ

*Amylium nitrosum.*

亞硝酸アミール

$C_6H_5NO_2 = 117,12$

亞硝酸アミール(一)ハ類黄色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ其味芳香性ニシテ灼クカ如ク九十七乃至九十九度ニ於テ沸騰ス水ニ殆ト溶解セス酒精或エーテルニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス點火スレハ光輝アル黄色ノ火焰ヲ放チ煤烟ヲ發シテ燃燒ス比重〇・八七乃至〇・八八ナリ

本品ニ過剰ノ「カリ油液ヲ和シテ煮沸スレハ「アミールアルコホル」ノ臭氣ヲ放チ冷後之ニ「ヨードカリウム」ヲ加ヘ醋酸ヲ以テ酸性トナセハ「ヨード」ヲ析出ス(三)

本品五立方センチメートル(5ccm)ニ「アムモニア水〇・一立方センチメートル(0.1ccm)」及水一立方センチメートル(1ccm)ノ混液ヲ加ヘ振盪シテ得タル液ハ酸性ノ反應ヲ呈スヘカラス(四)又本品一立方センチメートル(1ccm)ニ硝酸銀溶液「純アルコホル各一・五立方センチメートル(1.5ccm)」及「アムモニア水二三滴ヨリ成レル混液ヲ加ヘテ微温ヲ與フルニ褐色或ハ黑色ヲ呈スヘカラス(四)

本品ハ冷却シテ零度ニ至ルモ濁濁スヘカラス(五)  
硝子器中ニ密閉シ光ヲ遮リ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

(註) 解 (一) $(OH)_2CH_2CH_2CH_2ONONO$  ナル記號ヲ有ス(二)實性反應(三)酸性ヲ呈スレハ製造又ハ貯藏不注意ニ基因シテ著量ノ遊離酸(本品百立方センチメートル中〇・四二八グラム)ノ亞硝酸ニ對應スル以上ノ酸量(存在スル徵)アルデビッド殊ニ「ツァレルアルヒド」ノ試驗  $C_6H_5COOH + 2AgNO_3 + 2NH_4OH + H_2O = Ag_2 + 2(NH_4)NO_3 + C_6H_5COONH_4$  (五)水分含有モノハ

亞硝酸アミール



澱粉ス

(醫治効用)

血管擴張劑ニシテ主ニ外用ニ供シ數滴ヲ布片ニ濡ホシ吸入セシメ胸痛、嘔息、耳門痙攣、偏頭痛、胃痛、痙攣、鉛質  
クロム、フォルム假死、コカイン中毒等ニ用フ

Amylum.

澱粉

(甲) カタクリ澱粉

*Erythronium japonicum Makino.*

カタクリ澱粉ハ本植物ノ根ヨリ得タル澱粉ナリ

本品ハ純白色無味ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク顯微鏡下ニ檢スレハ大小不同多クハ卵圓形ノ顆粒ヲナシ直  
徑〇・〇〇七乃至〇・〇〇九ニミリメートル(0.007-0.009 mm)ニシテ著明ナラサル紋理ヲ現ハシ通例其狹端ニ  
近キ處ニ核ヲ有ス

(乙) 葛澱粉

*Pueraria hirsuta Makino.*

葛澱粉ハ本植物ノ根ヨリ得タル澱粉ナリ

本品ハ純白色無味ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク顯微鏡下ニ檢スレハ大小不同多クハ數面ヨリ成レル顆粒ヲ  
ナシ直徑〇・〇〇二乃至〇・〇一八ミリメートル(0.002-0.018 mm)ナリ

(丙) 馬鈴薯澱粉

*Solanum tuberosum L.*

馬鈴薯澱粉ハ微ニ光澤ヲ帶フル白色無味ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク顯微鏡下ニ檢スレハ貝殻形或ハ卵圓  
形ヲナシ直徑〇・〇七乃至〇・〇九ミリメートル(0.07-0.09 mm)ニシテ往々〇・一ミリメートル(0.1 mm)ヲ超  
ユル顆粒ヲナシ顯著ナル偏心性ノ紋理ヲ現ハス核ハ通常其ノ狹端ニ存ス又間ニ複合性顆粒ヲ混有スルコ  
トアリ

澱粉ハ冷水並酒精ニ溶解セス百分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スルトキハ中性ノ粘漿トナリ(ニ其粘漿ハ  
「ヨード溶液ニ由テ暗藍色ヲ呈ス(三)」

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(三)

(註 解)

(一)酸性ナルトキハ洗滌不十分ナル(二)澱粉ノ實性反應(三)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

主ニ外用ニ撒布粉トシテ濕疹、濕爛等ニ又灌腸劑トシテ用フ

*O Antidotum Arsenici.*

砒石解毒劑

砒石解毒劑ハ

硫酸酸化鐵液

蒸餾水

ヲ取り混和シテ後豫メ

蒸餾水

ト密ニ研和セル

煨製マグネシア

百分 (100)

二百五十分 (250)

二百五十分 (250)

十五分 (15)

澱粉 砒石解毒劑

ヲ加ヘ全質均等ノ糜粥トナルニ至ル迄注意シテ振盪シ製スヘシ(一)  
本品ハ用ニ臨テ製スヘシ但常ニ硫酸酸化鐵液百グラム(100g)及煨製マグネシア十五グラム(15g)ヲ各別ニ秤量シ貯フヘシ

(註) 解 (一)本製法ニヨリ硫酸マグネシウム混有ノ水酸化鐵  $Fe_2(SO_4)_3 + 3MgO + 3H_2O = 2Fe(OH)_3 + 3MgSO_4$  ナ生シ此物ハ亞硫酸ト共ニ不溶性ノ鹽基性亞硫酸々々化鐵ヲ生シ解毒ノ效ヲ爲スモノナリ但新ニ製シタルモノニ非サレハ效力薄シ  
(醫治効用) 用ニ臨テ製シタルモノヲ混和振盪シテ急性砒素中毒ニ初メ毎五乃至十分時ニ一―三食匙、後ニ毎十五乃至三十分時ニ一食匙ヲ内服セシム

Antipyrino-Caffeinum citricum.

枸橼酸カフェインアンチピリン

枸橼酸カフェインアンチピリン(一)

アンチピリン

九十分(90)

カフェイン

九分(9)

枸橼酸

一分(1)

蒸餾水

八分(8)

ヲ取り重湯煎上ニ於テ溶解シ蒸發乾涸シ冷後粉末トナシ製スヘシ

本品ハ白色ノ粉末ニシテ苦味ヲ有シ百四乃至百八度ニ於テ熔融ス二分ノ水ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徵ス酒精並クコロフォルムニ容易ニ溶解シ「エーテル」ニ溶解シ難シ  
本品〇・一グラム(0.1g)ヲ水十立方センチメートル(10cm)ニ溶解シ之ニ發烟硝酸四五滴ヲ和スレハ徐々ニ

美綠色ヲ呈ス又本品〇・二グラム(0.2g)ニ硝酸二三滴ヲ和シテ重湯煎上ニ蒸發シ其殘渣ニ少量ノ「アムモニ」ア水ヲ和スレハ紫紅色ヲ呈ス(三)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(三)  
注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 一グラム(1g)

一日ノ極量 三グラム(3g)

(註) 解 (一)別名ミダグレン Migtalen (二)實性反應(三)無機性夾雜物ノ試驗

(醫治効用) 半頭痛ノ特效藥トシテ一回一〇―二回散劑又ハ錠劑トナシ内服ニ使用セラル

Antipyrinum.

アンチピリン



アンチピリン(一)ハ無色稜柱狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク味微ニ苦ク百十乃至百十三度ニ於テ熔融シ水、酒精又クコロフォルム約等分ニ溶解シ又約八十分ノ「エーテル」ニ溶解ス

本品ノ水溶液(1:100)ニ「タンニン」酸溶液ヲ和スレハ白濁ヲ生ス又其二立方センチメートル(2cm)ニ二滴ノ發烟硝酸ヲ加フレハ綠色ヲ呈シ之ヲ熱シテ沸騰スルニ至リ更ニ發烟硝酸數滴ヲ和スレハ赤色ニ變ス(三)

本品ノ水溶液(1:1000)ニ立方センチメートル(3cm)ニ一滴ノ過クロール鐵溶液ヲ和スレハ血赤色ヲ呈シ尋テ硫酸十滴ヲ加フレハ淡黄色ニ變ス(三)

本品ノ水溶液(一)ハ無色ニシテ(四)中性ノ反應ヲ徴シ(五)又硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(六)本品ハ硫酸ニ無色ニ溶解スヘシ(七)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 一グラム(1g)

一日ノ極量 三グラム(3g)

(註)

解 (1) フェニールヂメチルエーテルヨウオロン  $C_6H_5N \begin{matrix} / \\ \backslash \\ \text{O} \end{matrix} \begin{matrix} \text{N}(\text{OH})_2 \text{COCH}_3 \\ \text{OH} \end{matrix}$  ナリ (II) 實性反應ニシテ硝酸ニヨリテ綠色ナ呈スル「イソニトロソアンチピリン」  $C_{11}H_{11}(\text{NO})N_2O$  ナ生スルニヨル (III) 實性反應此場合ニ於テ石炭酸ハ藍色ナ呈シ硫酸ニヨリ

淡黄色、サリチール酸ハ紫藍色ナ呈シ硫酸ニヨリ無色、レゾルチン「ハ藍色ナ呈シ硫酸ニヨリ黄褐色、カイリン」ハ淡褐色後暗褐色ナ呈シ硫酸ニヨリ紫赤色ナ呈シ「キニーネ」ハ無色、硫酸チ加フルモ亦然リ (四) 著色スレハ著色夾雜物又ハ樹脂様物質ヲ夾雜スル徴(五)遊離酸又ハ「アルカリ性物質」ノ試験(六)重金屬ノ試験(七)有機性夾雜物ノ試験(八)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

内服ニハ一般解熱劑トシテ常用シ一回〇・五—一〇、一日二〇—三〇ヲ常トスルモ尙多量ヲ用アルコトアリ其他鎮痛劑トシテ偏頭痛、一般神經痛、急性關節炎、麻痺等ニ用ヒ外用ニハ五%溶液ヲ止血劑トシテ創傷、撒布粉トシテ創傷、潰瘍ニ用ヒ又等分ノ水ニ溶解シタルモノヲ注射劑トシテ神經痛、腎石痛、胆石痛等ニ用フ

Antipyrinum salicylicum.

サリチール酸アンチピリン



サリチール酸アンチピリン(一)ハ白色無臭結晶性ノ粉末或ハ六邊形ノ板狀結晶ニシテ微ニ甘味ヲ有シ二

百五十分ノ水竝四十分ノ熱湯ニ溶解シ酒精竝クロロフォルムニ容易ニ溶解シ「エーテル」ニ較シ溶解シ難シ 熔融點九十一乃至九十二度ナリ

本品ノ水溶液(1:350)ニ「タンニン」酸溶液ヲ加フレハ白色ノ濁濁ヲ生シ又發烟硝酸數滴ヲ和スレハ綠色ヲ呈ス(二)又其溶液十立方センチメートル(10ccm)ニ過クロール鐵溶液一滴ヲ加フレハ深紅色ヲ呈ス更ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ紫紅色ニ變ス(III)

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ水十五立方センチメートル(15ccm)及鹽酸一立方センチメートル(1ccm)ト共ニ熱スレハ溶解シテ無色澄明ノ液ヲ生シ之ヲ冷却スレハ白色細針狀ノ結晶ヲ析出ス此結晶ハ水ヲ以テ洗滌シ乾燥シタル後約百五十七度ニ於テ熔融ス又之ヲ二十立方センチメートル(20ccm)ノ熱湯ニ溶解シ其溶液ニ過クロール鐵溶液五滴ヲ和スレハ濃紫色ヲ呈ス(四)

本品ノ水溶液(1:350)ハ硝酸銀溶液、硝酸バリウム溶液又硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(五)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(六)注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 一グラム(1g)

一日ノ極量 三グラム(3g)

(註)

解 (一) 別名サリピリン又サリチール酸フェニールヂメチルエーテルヨウオロン (II) アンチピリン「ノ實性反應(タンニン

酸アンチピリン又イソニトロソアンチピリン」ノ生成ニヨル (III) サリチール酸ノ實性反應(四) 茲ニ析出セル結晶ハ「サリチール酸」ニシテ此試驗タル本品ハ純サリチール酸ヨリ製スヘキコトヲ指示ス  $C_{11}H_{12}N_2O_5 \cdot C_7H_6O_3 + HCl = C_{11}H_{11}N_2O_4 + C_7H_5O_3$

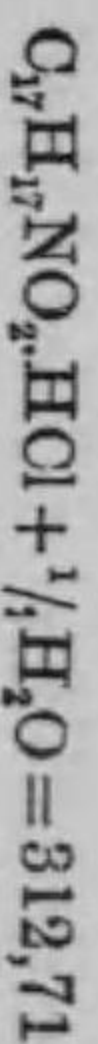
(五) クロール化物、硫酸鹽、重金屬及砒素ノ試験(六) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

解熱劑、鎮痛劑ニシテ一日數回〇・五—一〇ヲ用ヒ「インファルエンザ」ノ特效劑トモ稱スヘク其他急性亞急性關節炎、麻痺、急性鼻寒胃、神經痛、偏頭痛ニ用フ

Opomorphinum hydrochloricum.

鹽酸アポモルヒネ



鹽酸アポモルヒネハ白色或ハ灰白色ノ結晶ニシテ濕潤セル氣中ニ於テ殊ニ光ニ觸ルレハ漸次綠色ニ變ス約五十分ノ水粒約四十分ノ酒精ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ「エーテル」粒クロフォルムニ殆ト溶解セス本品ヲ硝酸ニ溶解スレハ血紅色ヲ呈ス又本品ヲ過剰ノ「ナトロン」滴液ニ溶解シタルモノハ氣中ニ於テ速ニ紅紫色ヲ呈シ終ニ黑色ニ變ス又本品ノ水溶液ニ重炭酸ナトリウム溶液ヲ加フレハ白色無晶形ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ氣中ニ於テ速ニ綠色ニ變シ「エーテル」ニ紫紅色、クロフォルムニ藍紫色ヲ呈シテ溶解ス又本品ノ水溶液ニ「アムモニア」水ヲ加ヘタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ直チニ黒變ス(一)本品ノ飽和水溶液ハ無色或ハ殆ト無色ナルヘシ(二)又本品ノ乾燥セルモノニ「エーテル」ヲ和シ振盪スルニ其「エーテル」ハ染色セス或ハ微ニ淡類紅色ヲ呈スルニ過クヘカラス(三)本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(四)壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ最モ注意シテ貯フヘシ(五)

一回ノ極量 〇・〇一二グラム(0,02g)

(註)

解 (一) 實性反應  $C_{17}H_{17}O_2 \cdot N \cdot HCl + NaHCO_3 = C_{17}H_{17}O_2 \cdot N + NaCl + CO_2 + H_2O$ ;  $C_{17}H_{17}O_2 \cdot N \cdot HCl + 2AgNO_3 + 3NH_4OH = NH_4Cl + 2NH_4NO_3 + Ag_2O + 7H_2O$  又  $C_{17}H_{17}O_2 \cdot N \cdot HCl + AgNO_3 = C_{17}H_{17}O_2 \cdot N \cdot Ag + HCl$  (二) 已ニ分解セル不純品ナラザルヲ檢(三) 酸化成績體ヲ含有セザルニ

(四) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

催吐劑トシテ實用セラレ〇・〇〇五—〇・〇〇一(小兒ニハ〇・〇〇〇五—〇・〇〇二)ヲ皮下注射シ又祛痰劑トシテ〇・〇〇一—〇・〇〇五(小兒ニハ〇・〇〇〇三—〇・〇〇〇五)ヲ内服セシム

Aqua Ammoniae.

アムモニア水

アムモニア水ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異竄透性ノ臭氣ヲ有シ強アルカリ性ノ反應ヲ徴シ稀鹽酸ヲ以テ濡ホシタル硝子棒ヲ近クレハ白霧ヲ放ツ比重約〇・九六ナリ本品百分中九・九四乃至十分ノ純アムモニア  $(NH_3 \parallel 17,03)$  ヲ含有ス本品一容量ニ四容量ノ石灰水ヲ混和シ一時間密閉器中ニ放置スルニ僅微ノ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(一) 又二容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化水素水(二) 並ニ尿酸アムモニア水(三) ニ由テ變化スヘカラス

本品ニ硝酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシタルモノハ無色無臭(四) ニシテ硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス(五) 又硝酸銀溶液ニ由テ微ニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(六)本品三立方センチメートル(3ccm)ニ硝酸ヲ加ヘテ過飽シ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ白色ナラサルヘカラス(七) 又之ヲ熱スルニ全ク揮散スヘシ(八)

本品五立方センチメートル(5ccm)ニ定規鹽酸三十立方センチメートル(30ccm)ヲ和シ定規カリ液ヲ以テ過剰ノ酸ヲ中和スルニハ該定規液一・八乃至二立方センチメートル(18-20ccm)ヲ費スヘシ(標示藥メチルオランヂニ溶液)(九)

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ冷處ニ貯フヘシ

(註)

解 (一) 炭酸アムモニアノ試験(二) 重金屬殊ニ鐵、亞鉛ノ試験(三) カルチウム鹽ノ試験(四) テール物質ノ試験(五) 硫酸アムモニアノ試験(六) 鹽酸ノ試験(七) テール成分殊ニ「アニリン、トルイヂン、ピリヂン、ピルロール類」ノ試験(八) 無機性夾雜物ノ試験(九)  $NH_3 + HCl = NH_4Cl$  ナル反應ニヨリ定規鹽酸一立方センチメートルハ「アムモニア」〇・〇一七〇三グラムヲ中和スルヲ以テ消費セル該酸液二十八乃至二十八・二立方センチメートル(30-32.5ccm)ハ「アムモニア」〇・四七六八

石灰水

七八

乃至〇・四八〇ニグラムニ對應ス此ノ量タル本品五立方センチメートル即チ四・八グラム(4.8g)中ニ含有セラル、モノナルヲ以テ「アムモニア」ノ含量九・九乃至十%ニ該當ス

(醫治効用) 二十倍ニ稀釋シタルモノヲ毒蟲、毒蛇ノ咬傷及發傷ニ皮下注射シ又ハ局部ノ洗滌ニ用テ其他興奮、祛痰ノ目的ニ使

Aqua Calcariae.

石灰水

石灰水ハ

煨製石灰

一分 (1)

ヲ取リ

常水

四分 (4)

ヲ加ヘテ水化石灰トナシ壺中ニ容レニ

常水

五十分 (50)

ヲ注加シ密栓シテ振盪シタル後靜置シテ沈定セシメ上清液ヲ傾瀉シ去リ其滓滓ニ

常水

五十分 (50)

ヲ混和シ密栓シテ數回劇シク振盪シタル後靜置シテ沈定セシメ用ニ臨ミ上清液ヲ傾瀉シ或ハ濾過スヘシ

本品ハ無色透明ノ液ニシテ強アルカリ性ノ反應ヲ徵シ大氣ニ觸レ或ハ煮沸スレハ濁濁ス

本品ニ炭酸ノ過剰ヲ通シテ少時之ヲ煮沸シタルモノハ「アルカリ性」ノ反應ヲ徵スヘカラス(1)

本品百立方センチメートル(100 ccm)ヲ中和スルニハ定規鹽酸四乃至四・五立方センチメートル(4-5 ccm)

ヲ費ササルヘカラス(標示藥フェノールフタレイン溶液)(11)

(註 解)

(1)アルカリ又ハ炭酸アルカリヲ試驗(1)  $2\text{HCl} + \text{Ca}(\text{OH})_2 = \text{CaCl}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$  ナル反應ニヨリ定規鹽酸一立方センチメートルハ水酸化カルチウム〇・〇三七〇五グラムヲ中和スルヲ以テ該液四立方センチメートルハ水酸化カルチウム〇・一四八グラム、又該液四・五立方センチメートルハ水酸化カルチウム〇・一六六グラムニ對應シ從テ本品ハ水酸化カルチウム〇・一四八—〇・一六六%ヲ含有スヘキモノトス

(醫治効用)

内服ニハ二五・〇—一四〇・〇ヲ單味ニ又ハ牛乳、肉汁ニ混シ吞酸嘔吐、慢性下痢(特ニ肥滿セル小兒ノ)、膀胱炎、腎孟炎、實扶的里亞(牛乳又ハ粘液ニ混シ一時間毎ニ半—一食匙ヲ)等ニ用テ外用ニハ吸入劑又ハ含嗽劑トシテ肺癆、惡臭分泌

物ヲ伴フ喉頭加答兒、格魯布、實扶的里亞ニ用テ實ニ石灰水ハ義膜ヲ溶解スル最良藥タルカ如シ又等分ノ亞麻仁油ト和シ火傷ニ

用テ

〇 Aqua carbolisata.

石炭酸水

石炭酸水ハ

流動石炭酸

十一分 (11)

ヲ取リ

蒸餾水

四百八十九分 (489)

ニ混和シ製スヘシ

本品ハ無色透明ノ液ニシテ百分中二分ノ純石炭酸( $\text{C}_6\text{H}_6\text{O} = 94.08$ )ヲ含有ス

(醫治効用) 石炭酸ノ條ヲ參照スヘシ

石灰水 石炭酸水

七九

防疫用石炭酸水 クロロフォルム水

*Agua carbolisata pro desinfectione.*

VO

防疫用石炭酸水

防疫用石炭酸水ハ

普通食鹽

ヲ取リ

常水

ニ溶解シ製スヘシ

(應 用)

傳染病消毒劑トシテ用フ

三分 (3)  
五分 (5)

九十二分 (92)

*Agua Chloroformii.*

クロロフォルム水

クロロフォルム水ハ

クロロフォルム

ヲ取リ

蒸餾水

ニ混和シ振盪シ製スヘシ

本品ハ無色透明ノ液ナリ

一容量

四百容量

用ニ臨テ製スヘシ

(醫治効用)

胃痙攣、痙痛、下痢ニ用ヒ又苦味ヲ有スル合劑トナス

*Agua Cinnamomi.*

桂皮水

桂皮水ハ

桂皮油

微温蒸餾水

ヲ取リ混和シ強ク振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

本品ハ透明或ハ微ニ濁セル液ナリ

(醫治効用)

矯味劑トス

一分 (1)

千分 (1000)

*Agua communis.*

常水

常水ハ無色澄明無臭ニシテ味清冽ナリ

本品ハ化學及細菌學上ノ關係ニ於テ衛生上ノ要求ニ適合スヘシ

本品ノ判定標準及試験方法ハ別ニ定ム

(註 解)

水ノ検査法其ノ他ニ就テハ附録ヲ參觀スヘシ

桂皮水 常水

クレゾール水 蒸餾水

Aqua cresolica.

クレゾール水

クレゾール水

クレゾール石鹼液

水

三分 (3)  
四十七分 (47)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ヲ治療用ニ供スルニハ蒸餾水ヲ用ヒ消毒用ニ供スルニハ常水ヲ用ヒ製スヘシ

本品ハ百分中約三分ノ粗製クレゾールヲ含有ス

本品ノ蒸餾水ヲ以テ製シタルモノハ淡黄色澄明ノ液ナリ

本品ノ常水ヲ以テ製シタルモノハ少シク濁濁セル液ヲナスモ油滴ヲ析出スルコトアルヘカラス(一)

(註) 解 (一) 常水ヲ使用シタルトキハ石灰及マグネシア石鹼ノ析出ニヨリ濁濁スルコトアリ油滴ヲ析出スレハ「クレゾール」

ヲ夾雜ス

(應) 用 防腐、消毒ノ目的ニ使用ス

O Aqua destillata.

蒸餾水

H<sub>2</sub>O = 18,02

蒸餾水ハ無色澄明ノ液ニシテ臭味ナク中性ノ反應ヲ徴ス。

本品二十立方センチメートル(20 ccm)ハ「ネスレル試薬、硝酸銀溶液、硝酸バリウム溶液、磷酸アムモニウム溶液、硫化水素水又アムモニア水ヲ和シタル後硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(一)又本品二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ硝子壺ニ取り之ニ石灰水五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ和シ密栓シテ放置スルニ一時間以内澄明ニ止マルヘシ(II)

本品百立方センチメートル(100 ccm)ニ稀硫酸一立方センチメートル(1 ccm)及過マンガン酸カリウム溶液

〇・三立方センチメートル(0,3 ccm)ヲ加ヘ三分時間煮沸スルニ脱色スヘカラス(III)

本品百立方センチメートル(100 ccm)ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(IV)

(註) 解 (一) アムモニア、鹽酸、硫酸、カルチウム鹽類、重金属(銅、鉛、鐵ノ如キ)ノ試験(二) 炭酸ノ試験(三) 痕跡以上有機質ノ試験

(四) 揮發性夾雜物ノ試験

(應) 用 溶解薬及浸出薬トシテ用フ

Aqua Florum Aurantii.

橙花水

橙花水ハ

橙花油

微温蒸餾水

一分(1)  
千分(1000)

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ  
本品ハ無色澄明ノ液ナリ

(醫治効用) 痲臭劑トシテ用フ

蒸餾水 橙花水

茴香水 フォルマリン水

Aqua Foeniculi.  
茴香水

茴香水ハ

茴香油

微温蒸餾水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ  
本品ハ澄明或ハ殆ト澄明ノ液ナリ

(醫治効用)

内服ニハ驅風祛痰ノ目的ニ用ヒ外用ニハ點眼水トシテ用フ

一分 (2)

千分 (1000)

Aqua formalinata.  
フォルマリン水

フォルマリン水ハ

フォルマリン

常水

ヲ取り混和シ製スヘシ

(醫治効用)

消毒劑トシテ用フ

一分 (1)

三十四分 (34)

Aqua Menthae.  
薄荷水

薄荷水ハ

薄荷油

微温蒸餾水

ヲ取り混和シ強ク振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

本品ハ澄明或ハ殆ト澄明ノ液ナリ

(醫治効用)

矯味薬トシテ用フ

二分 (2)

千分 (1000)

Aqua Pruni armeniaca.  
杏仁水

杏仁水ハ

杏仁

ヲ取り搗碎シ温ヲ與ヘスシテ壓搾シ成ルヘク充分ニ脂肪油ヲ除去シ中末トナシ之ニ

常水

ヲ混和シ潤大ナル蒸餾器ニ容レ十二時間放置シタル後水蒸氣ヲ通シテ蒸餾シ豫メ酒精三分ヲ容レタル受

器中ニ其九分ヲ餾取シ下ニ掲クル方法ニ據リ「チアン水素」含量ヲ檢定シ之ニ

酒精

蒸餾水

ノ混液ヲ加ヘテ其千分中チアン水素一分ヲ含ムノ度トナルニ至ル迄稀釋シ製スヘシ

薄荷水 杏仁水



本品ハ澄明或ハ微ニ濁濁シ藍色試験紙ヲ殆ト赤變セス(一)著シク揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ有ス硝酸銀液溶液ヲ加ヘ振盪シテ「チアン水素ヲ結合シタル後ト雖モ亦然リ(二)比重〇・九七乃至〇・九八ナリ  
 本品十立方センチメートル(10 ccm)ニ十分定規硝酸銀液〇・八立方センチメートル(0.8 ccm)及硝酸二三滴ヲ和シ生シタル沈澱ヲ濾過シテ得タル液ニ更ニ硝酸銀液ヲ加フルニ濁濁ヲ起スヘカラス(三)

本品ニ容量ニ「アムモニア水」一容量ヲ加フルニ十分時間以内ニ微ニ濁濁シ二十分時間以内ニ濁濁スヘシ(四)

本品五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ蒸發シ殘留物ヲ水十立方センチメートル(10 ccm)及稀硝酸三滴ニ溶解シ之ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス(五)

本品百立方センチメートル(100 ccm)ニ「アムモニア水」十立方センチメートル(10 ccm)ヲ和シ十分時間放置シタル後逐次三回各五十立方センチメートル(50 ccm)ノ「エーラル」ヲ用ヒテ振盪シ「エーラル」液ヲ取り蒸餾シ其殘留物ニ二分定規カリ液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ加ヘ白金皿ニ移シ蒸發シ注意シテ炭化シ之ニ熱湯ヲ注キテ數回浸出シ濾過シ濾紙ハ前ノ白金皿ニ容レ乾燥シ熱灼シ灰化シ白色トナルニ至リ之ニ先キノ濾液ヲ移シ蒸發シ乾燥シ稀硝酸一立方センチメートル(1 ccm)及水二立方センチメートル(2 ccm)ヲ注キテ溶解シ濾過シテ得タル澄明ノ液ハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス又之アルモ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(六)

本品五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ蒸發シ殘留物ヲ少量ノ稀鹽酸ニ溶解シ水ヲ加ヘ稀釋シテ二十立方センチメートル(20 ccm)トナシ其一半ニハ直チニ他ノ一半ニハ「アムモニア水」ヲ加ヘテ「アルカリ性」トナシタル後硫化水素水ヲ加フルニ著色スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(七)

本品二十五立方センチメートル(25 ccm)ニ水百立方センチメートル(100 ccm)ヲ加ヘテ稀釋シ之ニ「カリ油」液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ和シタル後絶ヘス攪拌シツツ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ復タ消失セ

サル類白色ノ濁濁ヲ生スルニ至ルニハ其硝酸銀液ヲ費スコト四・四乃至四・七立方センチメートル(4.4-4.7 ccm)ナラサルヘカラス(八)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)  
 本品ハ「バクチ水」ニ代用スルコトヲ得  
 光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 二グラム(2g)
- 一日ノ極量 六グラム(6g)

(註)

解 (一)遊離酸ノ試験(二)本品中チアン水素ハ一部ハ遊離シ一部ハ化合物シ「ペンツアルデヒド」チアンヒドリン C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>CHOHONトナリ存在シ硝酸銀ヲ以テ遊離チアン水素ヲ沈降セシ後ト雖モ分解セサル且溶解セル「ペンツアルデヒド」ノ爲ニ固有ノ香氣ヲ有スルモノナリ若シ香氣ナキトキハ酒精、水及チアン水素ヨリ製シタル人工品タル徵(三)遊離チアン水素ノ最高含量〇・二%タルコトヲ示ス濾液若シ濁濁セハ之ヨリ多量ノ遊離チアン水素存在スルコトヲ證シ從テ「チアン水素」少量少キ杏仁水ノ含量ヲ増ス爲膏酸ヲ添加シ又ハ全ク人工品タル疑アル品トス(四)「ペンツアルデヒド」ト「アムモニア」トノ化合物ニヨリ生シタル「ペンツヒド」ニ基因シ此反應ヲ缺クトキハ「ペンツアルデヒド」ヲ含有セサルノ徵(五)硫酸ノ試験ニシテ本品製造ニ常水ヲ使用シタルニ基因ス(六)假面性コロイドノ試験ニシテ若シ之アルハ「コロイド」ヲ原料トナシタル苦扁桃油ヲ以テ製シタル製造品タル徵(七)重金屬ノ試験(八) 2KCN + AgNO<sub>3</sub> = AgCN.KCN + KNO<sub>3</sub> ナル方程式ニ從ヒ二分子ノ「チアン水素」ハ一分子ノ硝酸銀ニ對シテ十分定規硝酸銀液一立方センチメートル「アルカリ性」ニ於ケル「チアン水素」〇・〇五四〇四グラムニ對シテ該液四・四立方センチメートル「ハ」〇・〇二三七七八グラム又其四・七立方センチメートル「ハ」〇・二五三九九グラム「チアン水素」ニ對シテ此量タル本品二十五立方センチメートル即チ本品ノ比重ヲ〇・九七乃至〇・九八トスルハ二十四・一五乃至二十四・五グラム(25.0970乃至24.25)中ニ含有セラル、モノナルヲ以テ本品百グラム中ニ 0.23778乃至0.25391、100 = 0.097乃至0.1047「チアン水素」即チ約〇・一重量%「チアン水素」含有ス(九)固性物多キトキハ「チアンカリウム」コロイドナトリウム」ノ如キモノヲ添加セル人工品タルノ疑アルモノトス

(醫治効用)

鎮靜劑ニシテ内服ニ呼吸器加管兒、乾咳、神經性劇性嘔吐、胃痛等ニ一日數回〇・五—一・五ヲ用フ

O Aqua Pruni macrophyllae.

バクチ水

新鮮ナルバクチ葉

十五分 (15)

ヲ取り潤大ナル蒸餾器ニ容レ之ニ

四十五分 (45)

ヲ和シ其十二分ヲ縮取シ下ニ掲クル方法ニ據リ「チアン水素ノ含量ヲ檢定シ之ニ蒸餾水ヲ加ヘテ其千分

中チアン水素一分ヲ含ムノ度トナルニ至ル迄稀釋シ製スヘシ

本品ハ澄明或ハ殆ト澄明ニシテ藍色試験紙ヲ殆ト赤變セス(一)著シク揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ有ス硝酸銀

溶液ヲ加ヘ振盪シテ「チアン水素ヲ結合シタル後ト雖モ亦然リ(二)

本品十立方センチメートル(10 ccm)ニ十分定規硝酸銀液〇・八立方センチメートル(0.8 ccm)及硝酸二三滴

ヲ和シ生シタル沈澱ヲ濾過シテ得タル液ニ更ニ硝酸銀液ヲ加フルニ潤濁ヲ起スヘカラス(三)

本品ニ容量ニ「アムモニア水」一容量ヲ加フルニ十分時間以内ニ微ニ潤濁シ二十分時間以内ニ潤濁スヘ

シ(四)

本品五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ蒸發シ殘留物ヲ水十立方センチメートル(10 ccm)及稀硝酸三滴ニ

溶解シ之ニ硝酸バリウム溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス(五)

本品百立方センチメートル(100 ccm)ニ「アムモニア水」十立方センチメートル(10 ccm)ヲ和シ三十分時間放

置シタル後逐次三回各五十立方センチメートル(50 ccm)ノ「エーテル」ヲ用ヒテ振盪シ「エーテル」液ヲ取り

蒸餾シ其殘留物ニ二分定規カリ液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ加ヘ白金皿ニ移シ蒸發シ注意シテ炭化

シ之ニ熱湯ヲ注キテ數回浸出シ濾過シ濾紙ハ前ノ白金皿ニ容レ乾燥シ熱灼シ灰化シ白色トナルニ至リ之

ニ先キノ濾液ヲ移シ蒸發シ乾燥シ稀硝酸一立方センチメートル(1 ccm)及水二立方センチメートル(2 ccm)

ヲ注キテ溶解シ濾過シテ得タル澄明ノ液ハ硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス又之アルモ蛋白石濁ヲ起ス

ニ過クヘカラス(六)

本品五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ蒸發シ殘留物ヲ少量ノ稀鹽酸ニ溶解シ水ヲ加ヘ稀釋シテ二十立

方センチメートル(20 ccm)トナシ其一半ニハ直チニ他ノ一半ニハ「アムモニア水」ヲ加ヘテ「アルカリ性」トナ

シタル後硫化水素水ヲ加フルニ著色スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(七)

本品二十五立方センチメートル(25 ccm)ニ水百立方センチメートル(100 ccm)ヲ加ヘテ稀釋シ之ニ「カリ」滴

液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ和シタル後絶ヘス攪拌シツツ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ復タ消失セ

サル類白色ノ潤濁ヲ生スルニ至ルニハ其硝酸銀液ヲ費スコト四・五乃至四・八立方センチメートル(4.5-

4.8 ccm)ナラサルヘカラス(八)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)

本品ハ杏仁水ニ代用スルコトヲ得

光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 二グラム (2g)

一日ノ極量 六グラム (6g)

(註) 本品ノ試驗ニ就テハ杏仁水ヲ參照スヘシ但シ「チアン水素」ノ含量ハ〇・〇九七三乃至〇・一〇三八即チ約〇・一重量

%トス

(醫治効用) 杏仁水ニ同シ

バクチ水

八九

薔薇水 コロイド銀

九〇

Agua Rosae.

薔薇水

薔薇水ハ

薔薇油

ヲ取リ

四滴

微温蒸餾水

千立方センチメートル(1000 ccm)

ニ混和シ暫時振盪シ冷後濕潤セル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ製スヘシ

本品ハ佳快ノ香氣ヲ有スル殆ト澄明ノ液ナリ

(醫治効用)

矯味、矯臭劑トス

Argentum colloidal.

コロイド銀

コロイド銀ハ類緑黑色或ハ類藍黑色ノ小葉片ニシテ金屬様ノ光澤ヲ有シ水ニ溶解ス

本品ハ百分中七十四乃至八十分ノ純銀(Ag=107.88)ヲ含有ス

本品ノ水溶液(1:50)ハ暗褐色不透明ニシテ之ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ透射光ニ於テハ澄明トナリ

落射光ニ於テハ微濁様ノ觀ヲ呈ス

本品ノ水溶液(1:50)ニ稀硫酸ヲ和スレハ沈澱ヲ生シ、ナトロン濾液ヲ以テ中和スレハ復タ溶解ス(一)

本品ヲ熾灼スレハ毛髮ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放テ燃化シ其殘留物ニ硝酸ヲ注加スレハ少許ノ固性物ヲ遺シ

テ溶解ス之ヲ濾過シテ得タル液ニ鹽酸ヲ和スレハ、アムモニア水ニ溶解スヘキ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス(二)  
本品ノ水溶液(1:50)十立方センチメートル(10 ccm)ニ「クロールナトリウム」溶液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ混和スルニ濁濁セス之ニ「クロールナトリウム」末ヲ加ヘテ過飽スレハ沈澱ヲ生シ水ヲ以テ稀釋スレハ復タ溶解スヘシ(三)

本品〇・一二五グラム(0.125 g)ヲ水一十五立方センチメートル(25 ccm)ニ溶解シ數時間靜置シタル後其上清液二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ取リ搖動シツツ之ニ過マンガン酸カリウムノ粉末〇・二グラム(0.2 g)ヲ加ヘテ溶解シ硫酸十立方センチメートル(10 ccm)ヲ徐々ニ注加シ混液澄明トナルニ至ル迄煮沸シ冷後水ヲ加ヘテ約白立方センチメートル(100 ccm)トナシ更ニ硫酸亞酸化鐵溶液ヲ以テ過剩ノ過マンガン酸カリウムヲ脱色セシメ十分定規硫チアンアムモニウム液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト六・九乃至七・四立方センチメートル(6.9-7.4 ccm)ナラサルヘカラス(五)  
光ヲ遮リ貯フヘシ

(註)

解)

(一)(二)及(三)實性反應(四)本品〇・一グラムニ相當ス(五)十分定規硫チアンアムモニウム液一立方センチメートルハ〇・〇一〇七八グラムノ銀ニ對應スルヲ以テ本品中銀ノ含量七十四・一四乃至七十九・八三%トス

(醫治効用)

殺菌、消毒作用ヲ有シ局處藥トシテ創面、眼鼻、頭部等ノ炎症ニ效アリ外用ニハ水劑、軟膏(十五%)、撒布藥トシ又腸管扶助、赤痢等ニ對シ一%液ヲ一茶匙乃至一食匙一日三四回内服セシム全身藥トシテハ産褥熱又ハ痲菌性ノ敗血症、膿血病等ニ血管内注射ス

Argentum nitricum.

硝酸銀

AgNO<sub>3</sub> = 169.89

コロイド銀 硝酸銀

九一

硝酸銀ハ光輝アル無色板狀ノ結晶ニシテ〇・六分ノ水竝約十四分ノ酒精ニ溶解ス  
本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和スレハ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生シ其沈澱ハ「アムモニア水ニ全溶シ硝酸ニ溶解セ  
ス」

本品ノ水溶液(1:10)ハ中性ノ反應ヲ微スヘシ(11)

本品一分ヲ「アムモニア水三分ニ溶解シタルモノハ無色ニシテ澄明ナラサルヘカラス(13)

本品ノ水溶液(1:20)五立方センチメートル(5ccm)ニ過剰ノ鹽酸ヲ加ヘテ煮沸シ濾過シテ得タル液ヲ蒸發  
スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(14)  
光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・〇三グラム (0.03g)

一日ノ極量 〇・一グラム (0.1g)

(註 解) (1)實性反應(2)硝酸ノ試驗(3)若シ「アムモニア性液藍色ヲ呈スレハ銅、白濁スレハ鉛又ハ砒、夾雜スル徵

(四)固性物ヲ殘留スレハ「アルカリ鹽類又ハ鉛鹽類等ヲ夾雜スル徵

(醫治効用) 收斂、腐蝕劑ニシテ内服ニハ一日數回〇・〇五—〇・一〇ニナ陶土丸劑又ハ溶液トナシ下劑、慢性腸加答兒、腸結核、

胃潰瘍、赤痢、胃痛又ハ癩癩、春體癆等ニ用ヒ外用ニハ溶液又ハ熔製硝酸銀若クハ硝酸銀加硝石ヲ咽喉、喉頭加答兒(二—十%溶液  
ヲ塗布ス)、尿道加答兒(〇・〇五%溶液ヲ注射ス)、結膜炎(〇・五—二%溶液)、初生兒眼炎(二%溶液)、惡性ノ化膿性潰瘍、火傷等  
ニ用フ

Argentum nitricum cum Kalio nitrico.

硝酸銀加硝石

硝酸銀

一分(1)

硝酸カリウム

二分(2)

ヲ取り混和シ注意シテ熔融シ挺子形ニ鑄成シ製スヘシ

本品ハ白色或ハ帶灰白色ノ堅キ小挺子ニシテ其破断面ハ顆粒狀結晶性ヲ現ハス

本品一グラム(1g)ヲ水十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ之ニ十分定規クロールナトリウム液二十

立方センチメートル(20ccm)及クロロム酸カリウム溶液一二滴ヲ和シ次ニ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ

赤色ヲ呈スルニハ其銀液ヲ費スコト〇・五乃至一立方センチメートル(0.5-1ccm)ナラサルヘカラス(1)

光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

(註 解) (1)本品量ハ次ノ反應ニヨル  $AgNO_3 + NaCl = AgCl + NaNO_3$ ;  $2AgNO_3 + K_2CO_3 = Ag_2CO_3 + 2KNO_3$  而シテ十分

定規クロールナトリウム液一立方センチメートル「ハ硝酸銀〇・〇一六九グラム」ヲ沈降スルヲ以テ茲ニ消費セル該液十九・五

乃至十九(20—0.5=19.5; 20—1=19)立方センチメートル「ハ硝酸銀〇・三三三乃至〇・三三一グラム」ニ對應シ純硝酸銀ノ含量三

十二・三乃至三十三・一%ヲ徵ス

(醫治効用) 主トシテ外用ニ緩和ナル腐蝕劑トシテ用フ(硝酸銀ノ條ヲ參照スヘシ)

Argentum nitricum fusum.

熔製硝酸銀

熔製硝酸銀ハ白色或ハ帶灰白色ノ小挺子ニシテ其破折面ハ放線狀ノ結晶紋理ヲ現ハシ熱スレハ熔融ス

本品一分ハ二十分ノ水ニ澄明ニ溶解スヘシ或ハ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス(2)其他ノ試驗ハ硝酸

銀ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

(註) 解 (一) クロー銀ノ試験  
(醫治効用) 硝酸銀ニ同シトシテ外用ニ腐蝕抵子トナシ用フ

Argentum proteanicum.

プロテイン銀

プロテイン銀(一)ハ淡黄色或ハ類褐色細微ノ粉末ニシテ微ニ鑛味ヲ有シ水ニ容易ニ溶解シ中性若クハ微ニアルカリ性ノ反應ヲ徴ス  
本品ハ百分中八分以上ノ純銀(Ag=107.88)ヲ含有ス  
本品ヲ熱スレハ毛髮ヲ燒クカ如キ臭氣ヲ放テ炭化シ更ニ熾灼スレハ帶灰白色ノ殘留物ヲ遺ス(二)之ヲ硝酸ニ溶解シ其溶液ニ鹽酸ヲ加フレハ「アムモニア水ニ溶解スヘキ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス(三)  
本品ノ水溶液(1:50)五立方センチメートル(5cm)ニ「ナトロン滴液五立方センチメートル(5cm)及水十立方センチメートル(10cm)ヲ和シ之ニ硫酸銅溶液(1:50)二立方センチメートル(2cm)ヲ加フレハ數分時間ノ後紫色ヲ呈ス(四)  
本品ノ水溶液(1:50)ハ「クロールナトリウム溶液ヲ混和スルニ直チニ濁濁セス(五)又アムモニア水ヲ和シタル後硫化水素水ヲ加フルニ微ニ暗色ヲ呈スルニ過クヘカラス(六)  
本品一グラム(1g)ニ酒精十立方センチメートル(10cm)ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ鹽酸ニ由テ變化スヘカラス(七)  
本品ノ八十度ニ於テ乾燥シタルモノ一グラム(1g)ヲ堯製坩堝内ニ於テ徐々ニ灰化シ其殘渣ニ約五立方センチメートル(5cm)ノ硝酸ヲ和シ熱シテ著色セル瓦斯ノ發生熄ムニ至リ其溶液ニ水ヲ加ヘテ約百立方センチメートル(100cm)トナシ之ニ硫酸酸化鐵アルミニウム溶液二立方センチメートル(2cm)ヲ和シ十分

ンチメートル(100cm)トナシ之ニ硫酸酸化鐵アルミニウム溶液二立方センチメートル(2cm)ヲ和シ十分  
定規硫チアンアムモニウム液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニハ該液ヲ費スコト少ナクモ七・四立方センチメートル(7.4cm)ナラサルヘカラス(八)  
壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

(註) 解

(一) 別名プロタルゴール(二) シテ蛋白質ト銀トノ化合物(三) 實性反應ニシテ殘渣ハ主トシテ金屬性銀ヨリ成ル(三)  
實性反應(四) 蛋白質ノ實性反應タル「ビウレット反應(五) 正品ノ特徵(六) 正品ノ特性ニシテ他ノ銀鹽ヲ與雜スレハ暗色ノ硫化銀ヲ沈降ス(七) 銀鹽ノ試験(八) 本定置法ハ次ノ反應ニ基キ  $AgNO_3 + (NH_4)CNS = AgCNS + NH_4NO_3$ ;  $Fe_2(NH_4)SO_4 + 6(NH_4)CNS = 2Fe(CNS)_2 + 4(NH_4)_2SO_4$  十分定規硫チアンアムモニウム液一立方センチメートル(1cm)ハ〇・〇一〇七八グラムノ銀ヲ從テ七・四立方センチメートル(7.4cm)ハ〇・七九八グラムノ銀ニ對應シ銀ノ最少含量七・九八%ヲ徴ス  
(醫治効用) 防腐、消毒ノ効チ有シ殊ニ痲疾ニ尿道注射トシテ〇・二五—一・〇%溶液ヲ用フ

Asa foetida.

阿魏

「アシヤ」ニ産スル Ferula 屬ノ諸種殊ニ  
Ferula Assu foetida L.  
Ferula Narthex Boiss.  
Ferula foetida Rgl.

阿魏(一)ハ本屬諸種植物ヨリ得タル「ゴム樹脂ナリ  
本品ハ箇々分離シ或ハ相粘合シ或ハ稍巨大ノ塊片ヲナシ外面ハ類黄色、類紫色又ハ類褐色ヲ有シ其新破碎面ハ白色ニシテ漸次紅色ノ虹彩ヲ現ハシ後褐色トナル蒜臭ヲ有シ味苦辛ナリ

本品一分ニ水三分ヲ加ヘテ研磨スレハ類白色ノ乳劑トナリ之ニ少許ノ「アムモニア水ヲ加フレハ黄色ヲ呈ス(一)」

本品ニ熱酒精ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其不溶分ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ五十分ニ過クヘカラス(三)又本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ十五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(四)本品ヲ粉末トナスニハ之ヲ除濕器内ニ於テ乾燥シ低度ノ温ニ於テ粉碎スヘシ

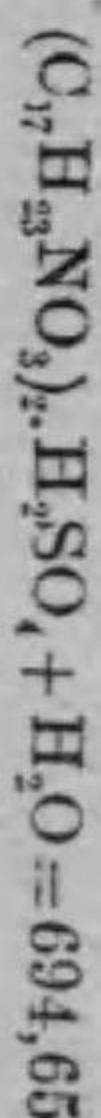
壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註) 解 (一)成分ハ「エーテル可溶性樹脂(アサレシノタンノール)」「フェルラ酸エステル」エーテル不溶性樹脂(アサレシノタンノール)」「ゴム質、硫黄含有揮發油、ワニリン、フェルラ酸等トス(二)實性反應(三)砂、石膏、石灰等ノ試験(四)土様夾雜物ノ試験

(醫治効用) 歇斯の里ニ用ヒ一日數回〇・二—一・〇ヲ丸劑トナシ内服セシム

Atropinum sulfuricum.

硫酸アトロピン



硫酸アトロピンハ白色結晶性ノ粉末ニシテ等分ノ水並三分ノ酒精ニ溶解シテ無色中性ノ溶液トナリ「エーテル並ククロロフォルム」ニ殆ト溶解セス

本品〇〇一グラム(0.01g)ヲ小硝子管中ニ熱シテ白霧ヲ起スニ至リ硫酸一・五立方センチメートル(1.5ccm)ヲ和シ更ニ熱シテ褐色ヲ呈スルニ至リ直チニ水二立方センチメートル(2ccm)ヲ加フレハ佳快特異ノ香氣ヲ放チ次ニ過マンガン酸カリウムノ小結晶一片ヲ加フレハ揮發苦扁桃油様ノ香氣ヲ發ス(一)

本品〇〇一グラム(0.01g)ヲ瓷皿ニ取り發烟硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ微ニ類黄色ヲ有シ冷後之ニ酒精製カリ油液ヲ滴加スレハ紫色ヲ呈ス(三)又本品ノ水溶液ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ稀酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス(三)

本品ノ水溶液(1:1000)ハ味苛辣ニシテ苦ク之ヲ眼結膜上ニ點滴スレハ瞳孔ヲ散大ス(四)

本品ノ水溶液(1:60)ハ「ナトロン」油液ニ由テ濁濁シ(五)又其溶液十立方センチメートル(10ccm)ハ「アムモニア水四立方センチメートル(4ccm)ニ由テ直チニ濁濁スヘカラス(六)

本品〇一グラム(0.1g)ハ硫酸二立方センチメートル(2ccm)ニ由テ殆ト染色セス之ニ少量ノ硝酸ヲ加フルモ亦然リ(七)

本品ノ水溶液(1:30)ニ「アムモニア水ヲ加ヘ二三分時間ノ後析出セル結晶ヲ集メ水ヲ以テ洗滌シ硫酸上ニ乾燥シタルモノハ百十五度以上ニ於テ熔融セサルヘカラス(八)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ二・六分ニ過クヘカラス(九)本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(十)最モ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・〇〇一グラム(0.001g)

一日ノ極量 〇・〇〇三グラム(0.003g)

(註) 解

(一)實性反應(二)實性反應ニシテ本品ハ硝酸ニヨリ「アポアトロピン」ナルモノニ變ス  $C_{17}H_{23}ON = C_{17}H_{21}ON + HO$  (三)及(四)實性反應(五)實性反應ニシテ此際アトロピンヲ析出ス(六)「アポアトロピン」及「バロドニン」ノ試験(七)砂糖、サリチン、モルヒネ等他ノ「アルカロイド」ノ試験(八)スコポラミン、アポアトロピン、バロドニン、ヒオスチアミン」ヲ夾雜セルモノハ熔融點ニ影響ス(九)水分ノ試験(十)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

瞳孔散大劑、止汗劑、神經劑ニシテ内服ニハ一回〇・〇〇〇五—〇・〇〇一ヲ、一日〇・〇〇二ヲ丸劑、溶液等トナシ

硫酸アトロピン

百日咳、癩癧、夜尿症、蕁麻疹、流涎、喘息、セルヒネ中毒其他肺癆患者盜汗等ニ用ル外用ニハ〇・一—%溶液ヲ點眼ニ供シ診斷上腫孔散大ヲ要スルトキニ、虹彩炎ニ、虹彩ノ脫出及癒著ヲ防ク爲ニ又毛様神經痛ニ用フ又頭痛、咯血、神經痛、胃腸痙攣性疼痛等ニ注射スルコトアリ

Balsamum Copaivae.

コバイバルサム

Copaifera 屬ノ諸種殊ニ

Copaifera officinalis L.

Copaifera guyanensis Desfont.

Copaifera coriacea Mart.

コバイバルサム(一)ハ本屬諸種植物ノ幹部ニ附セル截痕ヨリ滲出セル「バルサム」ナリ

本品ハ帶黃類褐色澄明多少濃稠ノ液ニシテ螢石彩ヲ現ハサス或ハ之アルモ僅微ニ過キス香氣ハ特異味ハ辛烈ニシテ少シク苦シ「クロフォルム」純アルコホルニ全ク或ハ殆ト澄明ニ混和シ同量ノ石油ベンチンニ澄明ニ混和ス比重〇・九八〇乃至〇・九九三、酸數七十五・八乃至八十四・二、鹼化數八十四・二乃至九十二・六ナリ

本品五グラム(5g)ヲ酒精十五立方センチメートル(15ccm)ニ溶解シ還流冷却器ヲ附シテ一分時間煮沸シタルモノハ冷後一時間以内ニ油狀物ヲ析出スヘカラス或ハ之アルモ其油狀物ハ氷醋酸ニ溶解セサルヘカラス(一)

本品二十滴ニ酒精製カリ濾液一立方センチメートル(1ccm)ヲ加ヘテ二分時間煮沸シ冷後エーテル二立方センチメートル(2ccm)ヲ混和スルニ凝膠狀ニ變スヘカラス(二)

本品三容量ニアムモニア水一容量ヲ攪和スルニ凝膠物ヲ析出スヘカラス(四)

本品三滴ヲ氷醋酸三立方センチメートル(3ccm)ニ溶解シ之ニ亞硝酸ナトリウム溶液二三滴ヲ和シ注意シテ硫酸二立方センチメートル(2ccm)上ニ疊積スルニ其醋酸層三十分時間以内ニ紫色ヲ呈スヘカラス(五)本品一グラム(1g)ヲ酒精五十立方センチメートル(50ccm)ニ溶解シ「フェノール」溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ酒精製二分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト二・七乃至三立方センチメートル(2.7-3ccm)ナラサルヘカラス(六)

本品一グラム(1g)ヲ酒精五十立方センチメートル(50ccm)ニ溶解シ之ニ酒精製二分定規カリ液二十立方センチメートル(20ccm)ヲ注加シ還流冷却器ヲ附シテ重湯煎中ニ三十分時間加熱シ「フェノール」溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ液」中和スルニハ該酸液ヲ費スコト十六・七乃至十七立方センチメートル(16.7-17ccm)ナラサルヘカラス(七)

(註 解)

(一)成分ハ揮發油(主トシテ「カリオフィレン」 Caryophyllen C<sub>15</sub>H<sub>14</sub>、ヨル成ル)樹脂(メタコバイバ酸類ヨリ成ル)等トス(二)「バラフィン」ノ試験(三)脂肪油ノ試験(四)「コロフォニウム」ノ試験(五)「グルンバルサム」ノ試験(六)「グラム」ノ「バルサム」中遊離酸ノ中和ニ要スル水酸化カリウム「ミリグラム」量即チ酸數ハ約七十五・八—八十四・二タルヲ要ス(二分定規カリ液一立方センチメートル)ハ水酸化カリウム二十八・〇五五ミリグラム「含有シテ」消費セル立方センチメートル「ニ」乘スレハ之ヲ得(七)此試験ニ於テ鹼化ニ要シタル二分定規カリ液ハ三(30—17)—三・三(30—16.7)立方センチメートル「ナル」ヲ以テ鹼化數ハ八十四・二—九十二・六ニ該當ス而シテ酸數又ハ鹼化數ニシテ以上範圍外タルトキハ「グルンバルサム」脂肪油、テレピンチーナ、コロフォニウム」ノ類ヲ以テ製造シタル微

(醫 効 用)

分泌制限及利尿劑ニシテ一回〇・五—二・〇、一日四〇—六〇ヲ膠囊ニ包ミ炎症刺激消失後ノ淋疾、慢性膀胱炎、腎稀ニ氣管枝腫痛、肺出血等ニ用フ

O Balsamum peruvianum.

Myroxylon Peruvianum Klotzsch.

ペルーバルサム

ペルーバルサム(一)ハ本植物ノ皮部ヲ烘焦シテ得タル「バルサム」ナリ

本品ハ暗褐色ノ液ニシテ牽絲セス其層薄ケレハ澄明ナリ香氣ハ佳快ニシテ「ワニルラ」ニ類シ味ハ辛辣ニシテ稍苦シ氣中ニ於テ乾燥セス等分ノ酒精ニ澄明ニ混和ス比重一・一四〇乃至一・一五八、鹼化數二百二十四・四以上、チンナメイン鹼化數二百三十六・五以上ナリ

本品一グラム(一〇)ハ抱水クロロール三グラム(三〇)ヲ水二立方センチメートル(二〇〇)ニ溶解セル液ニ澄明ニ溶解セサルヘカラス(二)

本品一グラム(一〇)ニ石油ベンチン十立方センチメートル(一〇)ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シテ十分時間重湯煎上ニ於テ温メ冷後傾瀉シテ得タル澄明液五立方センチメートル(五)ヲ取り蒸發シ其殘留物ニ粗製硝酸一滴ヲ加フルニ黄色ヲ呈シ持續スル綠色或ハ藍綠色ヲ呈スヘカラス(三)又前上ノ澄明液三立方センチメートル(三)ニ同容量ノ醋酸銅溶液ヲ和シテ振盪スルニ綠色或ハ藍綠色ヲ呈スヘカラス(四)

本品一グラム(一〇)ヲ酒精二十立方センチメートル(二〇)ニ溶解シ酒精製二分定規カリ液五十立方センチメートル(五〇)ヲ混和シ還流冷却器ヲ附シ重湯煎中ニ三十時間煮沸シ水六百立方センチメートル(六〇〇)ヲ加ヘテ稀釋シ「フェノール」フタレイン溶液一立方センチメートル(一)ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ」液ヲ中和スルニハ該酸液ヲ費スコト四十二立方センチメートル(四二)ニ過クヘカラス(五)

本品二・五グラム(二五)水五立方センチメートル(五)及ナトロン滴液五立方センチメートル(五)ノ混液ニ「エーテル」五十立方センチメートル(五〇)ヲ加ヘテ振盪シ澄明ノ「エーテル」液二十五立方センチメートル(二五)ヲ蒸發シテ得タル殘留物ヲ百度ニ於テ三十分時間乾燥スルニ其重量少ナクモ〇・七グラム(〇・七)ナラサルヘカラス(六)此殘留物ヲ酒精二十五立方センチメートル(二五)ニ溶解シ之ニ酒精製二分定規カリ液二十五立方センチメートル(二五)ヲ混和シ還流冷却器ヲ附シ三十分時間重湯煎中ニ熱シタル後フェノールフタレイン溶液一立方センチメートル(一)ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ」液ヲ中和スルニハ該酸液ヲ費スコト十九・一立方センチメートル(一九・一)ニ過クヘカラス(七)

(註)

解

(一)成分ハ約六十%ノ「チンナメイン」Cinnamoin(安息香酸メチルエステル C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>COOC<sub>6</sub>H<sub>4</sub>及桂酸メチルエステル C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>COOC<sub>2</sub>H<sub>5</sub>ノ混合物)、遊離桂酸、ワニリン、樹脂トス(二)脂肪油ノ試験(三)テレピン油及コロフォオニウムノ試験

(四)コロフォオニウム及コロバイバルサムノ試験(五)鹼化數二百二十四・四タルヲ徵ス  $50 \text{ cm}^3 \times 23.015 = 234.41 \text{ mg}$  (六)「チンナメイン」ノ最少含量五十六%タルヲ徵ス  $0.7 \times 100 = 56$  (七)チンナメイン鹼化數少ナクモ二百三十六・五タルヲ徵ス  $5.9(= 25 \text{ cm}^3 - 19.1 \text{ cm}^3) \times 28.055 = 236.46$

(醫治効用)

内服ニハ膠囊劑、丸劑又ハ乳劑トナシ一日數回〇・二—一〇ヲ氣管枝膿漏及慢性淋疾ニ用ヒ外用ニハ主に疥癬ニ塗擦シ又ハ創傷、潰瘍ノ繃帶材料トナス

Balsamum toluifanum.

トルーバルサム

Myroxylon toluiferum Humb. & Bonpl. et Kunth.

トルーバルサム(一)ハ本植物ヨリ得タル樹脂ナリ

本品ハ帶褐赤色結晶性ノ塊ヲナシ乾燥セルモノハ類黄色ノ粉末トナスヲ得香氣ハ佳快、味ハ芳香性ニシテ酸味ヲ帶ヒ少シク苦辣ナリ酸數百九・四乃至百六十八・三、鹼化數百五十四・三乃至二百十八・八ナリ



本品ハ酒精、クロロフォルム又カリ滴液ニ溶解シ僅微ノ木屑ヲ遺スニ過クヘカラス(二)  
 本品一グラム(1g)ニ石油ベンチン十立方センチメートル(10ccm)ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シテ十分時間重  
 湯煎上ニ温メ冷後傾瀉シテ得タル澄明液五立方センチメートル(5ccm)ヲ取り蒸發シ其殘留物ニ粗製硝酸  
 一滴ヲ加フルニ黄色ヲ呈シ持續スル綠色或ハ藍綠色ヲ呈スヘカラス(三)又前上ノ澄明液三立方センチメ  
 ートル(3ccm)ニ同容量ノ醋酸銅溶液ヲ和シテ振盪スルニ綠色或ハ藍綠色ヲ呈スヘカラス(四)  
 本品一グラム(1g)ヲ酒精五十立方センチメートル(50ccm)ニ溶解シ「フェノール」溶液一立方セン  
 チメートル(1ccm)ヲ和シ酒精製二分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト三・  
 九乃至六立方センチメートル(39-60ccm)ナラサルヘカラス(五)

本品一グラム(1g)ヲ酒精五十立方センチメートル(50ccm)ニ溶解シ之ニ酒精製二分定規カリ液二十立方セ  
 ンチメートル(20ccm)ヲ混和シタル後三十分時間重湯煎中ニ熱シ「フェノール」溶液一立方センチ  
 メートル(1ccm)ヲ和シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノ「カリ」液ヲ中和スルニハ該酸液ヲ費スコト十二・二乃  
 至十四・五立方センチメートル(12.2-14.5ccm)ナラサルヘカラス(六)

(註) 解 (一)成分ハ「トルーバルサム」ニ類シ唯多量ノ樹脂ヲ含ム(二)木屑ノ如キ不純物ノ試験(三)テレピン油及コロ  
 フォニウムヲ試験(四)コロフォニウム、コバイババルサムノ試験(五)酸數九・九一六六十八・三タルコトヲ要ス(六)鹼化數百五十  
 四・三一・二百十八・八タルコトヲ要ス

(醫治効用) 内服ニハ「トルーバルサム」ニ同シク祛痰劑トシテ用ヒ外用ニハ瘡臭劑トス

Benzaldehydum.

ベンツアルデヒド

人工揮發苦扁桃油



ベンツアルデヒドハ無色或ハ微ニ黄色ヲ帶フル液ニシテ強ク光線ヲ屈曲シ特異ノ香氣ヲ有ス三百分  
 ノ水ニ溶解シ酒精竝エーテルニ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス比重一・〇四六乃至一・〇五五、沸騰點百七十七乃  
 至百七十九度ナリ

本品一グラム(1g)ヲ疊折セル濾紙ノ一片ニ浸潤セシメ瓷皿中ニ於テ點火シ水ヲ以テ内面ヲ濡ホセル大硝  
 子盃ヲ以テ覆ヒ燃燒後硝子盃ノ内面ヲ少量ノ水ヲ以テ洗滌シ濾過シ濾液ニ硝酸ヲ和シ酸性トナシタルモ  
 ノニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(一)

本品〇・二グラム(0.2g)ニ水十立方センチメートル(10ccm)及ナトロン滴液二三滴ヲ和シ振盪シタルモノ  
 ニ硫酸亞酸化鐵一小粒及一滴ノ過クロール鐵溶液ヲ加ヘ微温ヲ與ヘ鹽酸ヲ以テ過飽スルニ綠藍色ヲ呈ス  
 ヘカラス(二)

本品一グラム(1g)ヲ酒精二十立方センチメートル(20ccm)ニ溶解シ水ヲ以テ稀釋シ微ニ濁濁ヲ起スニ至  
 リ之ニ亞鉛未及稀硫酸ヲ加ヘ香氣ノ消失スルヲ俟テ濾過シ其濾液ヲ蒸發シテ酒精ヲ去リ殘液ニ二三滴ノ  
 クロール石灰溶液ヲ和シテ温ムルニ紅色又ハ紫紅色ヲ呈スヘカラス(三)  
 壺中ニ密栓シ貯フヘシ

(註) 解 (一)クロール化合物ノ試験(二)青酸ノ試験(三)ニトロベンツオールノ試験即チ之アレハ發生機ノ水素ニヨリ「ア  
 ン」ニ變シ紅色或ハ紫紅色ヲ呈ス  $Zn + H_2SO_4 = ZnSO_4 + H_2$ ;  $C_7H_5NO_2 + OH = C_7H_5NH_2 + 2H_2O$  而シテ「ベンツアルデヒ  
 ド」ト主トシテ「ベンツアルコホル」ト變シ  $C_7H_5CHO + H_2 = C_7H_5CH_2OH$   $C_7H_5CHO + H_2 = C_7H_5CH_2OH$   $C_7H_5CHO + H_2 = C_7H_5CH_2OH$   
 (應) 肝油乳劑ニ香氣ヲ附スルニ使用ス而シテ純「ベンツアルデヒド」ハ毒性ナラヌ

石油ベンチン

石油ベンチン(一)ハ石油中低温ニ於テ沸騰スル部分ニシテ無色澄明點火シ易キ揮發性ノ液ナリ螢石彩ヲ現ハサス不快ナラサル特異ノ臭氣ヲ有シ中性ノ反應ヲ徵ス水ニ溶解セス約五分ノ酒精ニ溶解ス比重約〇・六〇乃至〇・六七ナリ

本品ハ五十乃至七十五度ニ於テ百立方センチメートル(100 ccm)ニ付キ八十立方センチメートル(80 ccm)ヲ縮出セサルヘカラス(二)

本品五立方センチメートル(5 ccm)ニ「アムモニア水一立方センチメートル(1 ccm)」純アルコホル五立方センチメートル(5 ccm)及硝酸銀溶液十滴ヲ和シ五分時間約六十度ノ温ヲ與フルニ褐色ヲ呈スヘカラス(三)

本品ニ同容量ノ硫酸ヲ加ヘテ振盪スルニ其容積ヲ減少セス又發熱或ハ染色スヘカラス(四)

本品二分ニ硫酸一分及發烟硝酸四分ヨリ成レル冷混液ヲ加ヘテ振盪スルニ揮發苦扁桃油ニ類スル香氣ヲ放ツヘカラス或ハ之アルモ極メテ微弱ニ過クヘカラス(五)

樽中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

(註)

解) (一)主ヤンテ「 $C_6H_6$ 」及「 $C_7H_8$ 」ヨリ成ル(二)正品ノ特徴(三)石炭、褐炭、コールターノ昇華發

性成分ノ試験ニシテ此等ノ成分中ニハ還元性物質ヲ含有ス(四)水分並異種ノ炭化水素及酸素含有夾雜物ノ試験(五)ベンツォールノ試験

(醫治効用)

内服ニハ一日數回〇・二—〇・五ヲ膠囊ニ容レ胃ノ異常酸酵、慢性腸加答兒等ニ用ヒ外用ニハ疥癬、頭虱等ニ用フ

Benzoin.

安息香

(甲) スマトラ安息香

Siamak Benzoin Dryander.

スマトラ安息香(一)ハ不整ノ塊片ヲナシ赤褐色乃至灰褐色ノ實質中ニ多數ノ類白色ノ顆粒ヲ散在ス本品ハ常温ニ於テハ堅脆ニシテ佳快ノ香氣ヲ有ス硝子管中ニ熱スレハ軟化シ刺戟性ノ蒸氣ヲ發シ(二)結晶性物質ヲ昇華ス

本品〇・五グラム(0.5 g)ニ過マンガン酸カリウム溶液十立方センチメートル(10 ccm)ヲ加ヘ約四十度ニ温ムレハ揮發苦扁桃油様ノ香氣ヲ發ス(三)

本品ニ熱酒精ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其殘留物ヲ乾燥スルニ百分ニ付キ十五分ニ過クヘカラス(四)

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(五)

(乙) シヤム安息香

後印度ニ産スル Benzoin 屬

シヤム安息香(一)ハ扁平或ハ圓形褐色ノ塊片ニシテ内部ハ白色ヲ呈ス重湯煎上ニ熱スレハ甚タ佳快ノ香氣ヲ發シ強ク熱スレハ刺戟性ノ蒸氣ヲ發ス

本品ニ酒精ヲ加ヘテ熱シ濾過シテ得タル液ハ酸性ノ反應ヲ徵シ(七)水ヲ和スレハ乳狀ヲ呈ス

本品一分ニ硫化炭素十分ヲ加ヘテ熱スレハ軟化シ其無色ノ液ヲ冷却スレハ安息香酸ノ結晶ヲ析出ス

本品〇・五グラム(0.5 g)ニ過マンガン酸カリウム溶液十立方センチメートル(10 ccm)ヲ加ヘテ約四十度ニ温ムルニ揮發苦扁桃油様ノ香氣ヲ發セス(八)

本品ニ熱酒精ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ其殘留物ヲ乾燥スルニ百分ニ付キ五分ニ過クヘカラス(九)

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ二分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(十)

安息香

(註 解)

(一)主成分ハ安息香酸、シアレンノタンノール  $C_{11}H_{10}O_2$  及ベンツォルノール  $C_{10}H_8O_2$  等リ成ル  
 他遊離安息香酸、ワニリン及桂酸トス  
 (二)蒸氣ハ安息香酸ヨリ成ル  
 (三)桂酸ニ因スル反應  $C_6H_5OH = CHCOOH + 4O = C_6H_5OCHO + 2CO_2 + H_2O$   
 (四)酒精不溶性成分ハ十五%以内トス  
 (五)灰分ハ五%以内トス  
 (六)成分ハ「スマトラ産」モノニ同シ但シ桂酸ヲ缺ク  
 (七)酸性反應ハ安息香酸ノ存在ニヨル  
 (八)シヤム産安息香酸ハ桂酸ヲ含有セサルヲ以テ「ベンツアルデヒド」ヲ發生セス  
 (九)酒精不溶性成分ハ五%以内トス  
 (十)灰分ハ二%以内トス

(醫治効用)

矯臭劑、煙劑トシテ又ハ麴菌粉ヲ製スルニ用フ

Benzolium.

ベンツォール



ベンツォールハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ微シ特異ノ臭氣ヲ有ス純アルコホル、エーテル又クロロフォルムニ隨意ノ比例ニ於テ混和シ水ニ溶解セス零度ニ冷却スレハ凝結シテ結晶塊トナリ約四度ニ於テ復タ熔融シ七十九乃至八十二度ニ於テ沸騰ス比重〇・八八〇乃至〇・八八七ナリ  
 本品ヲ發烟硝酸中ニ注意シテ滴加シ溶解スルニ至リ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ揮發苦扁桃油様ノ香氣ヲ有スル油滴ヲ析出ス

本品二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ硫酸十立方センチメートル(10 ccm)ト共ニ内徑三センチメートル(3 cm)ノ共栓硝子圓筒中ニ屢振盪スルニ其硫酸三十分時間以内ニ染色スヘカラス  
 (二)又本品二立方センチメートル(2 ccm)ニ硫酸〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)發烟硝酸一滴ヲ加ヘテ振盪スルニ綠色乃至藍色ヲ呈スヘカラス

本品二十立方センチメートル(20 ccm)ニ苛性カリ一分ヲ純アルコホル九分ニ溶解セルモノ二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ和シ常溫ニ於テ一時間放置シタル後水二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ加ヘテ振盪シ其水液ヲ分取シ醋酸ヲ以テ中和シ之ニ硫酸銅溶液ヲ加フルニ沈澱ヲ生スヘカラス  
 (四)本品十立方センチメートル(10 ccm)ヲ重湯煎上ニ揮散セシムルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス  
 (五)壺中ニ容レ密栓シ貯フ

(註 解)

(一)黃性反應  $C_6H_5 + HNO_3 = C_6H_5NO_2 + H_2O$  (II)異種ノ炭化水素及酸含有夾雜物ノ試驗 (III)チオフェン  $C_6H_5S$  ノ試驗 (IV)硫化炭素ノ試驗 (V)揮發性夾雜物ノ試驗

(醫治効用)

一日三〇—五〇ヲ白血病ニ用フ

Bismutum iodatum subgalicum.

次沒食子酸ヨード蒼鉛



次沒食子酸ヨード蒼鉛(一)ハ灰綠色殆ト無臭ノ粉末ニシテ微ニ不決ノ味ヲ有シ注意シテ熱スレハ結晶性ノ物質ヲ昇華シ水、酒精又エーテルニ殆ト溶解セス

本品ニ稀硝酸ヲ和シテ溫ムレハ紫色ノ蒸氣ヲ發シテ溶解ス又本品ニ「ナトロン」滴液ヲ和スレハ黃色ノ濁液ヲ生シ振盪スレハ赤色ヲ呈ス

本品〇・一グラム(0.1 g)ヲ稀鹽酸〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ニ溫ヲ與ヘテ溶解シ之ニ多量ノ水ヲ和スレハ白色又ハ類黃色ノ沈澱ヲ生ス  
 (三)本品一分ニ水十分ヲ和シテ振盪シ靜置スルニ其沈澱ハ黃色ノ物質ヲ混スヘカラス  
 (四)又其上清液ハ微弱

ノ酸性ヲ呈スルニ過クヘカラス(五)

本品〇・五グラム(0.5g)ニ「ナトロン」滴液五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ之ニ亞鉛及鐵粉各〇・五グラム(0.5g)ヲ加ヘテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(六)

本品一グラム(1g)ヲ強硝酸ニ溶解シ熱シテ瓦斯ノ發生熄ムニ至リ瓷製坩堝ニ移シ蒸發乾燥シタル後熾灼スルニ少ナクモ〇・三九グラム(0.39g)ノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス(七)此殘留物ヲ二分シ其一半ヲ少量ノ鹽酸ニ溶解シ之ニ二倍容量ノ亞クロール錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(八)又他ノ一半ヲ硝酸五立方センチメートル(5ccm)ニ溶解シ之ニ二倍容量ノ稀硫酸ヲ和スルニ變化スヘカラス(九)

本品〇・五グラム(0.5g)ニ稀鹽酸五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ煮沸シタル後水五立方センチメートル(5ccm)ヲ注加シ硫化水素ヲ通シテ充分沈降セシメ濾過シテ得タル液ニ半容量ノ石灰水ヲ和スルニ變化スヘカラス(十)

本品〇・一グラム(0.1g)ニ稀硝酸五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ温ヲ與ヘテ溶解シ之ニ「アムモニア」水五立方センチメートル(5ccm)ヲ注加シ十分定規硝酸銀液三立方センチメートル(3ccm)ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ稀硝酸ヲ以テ酸性トナスニ微ニ潤濁ヲ生スルニ過クヘカラス(十一)

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ「ナトロン」滴液十立方センチメートル(10ccm)ニ温ヲ與ヘテ溶解シ冷後十分定規硝酸銀液並強硝酸各二十立方センチメートル(20ccm)ヲ和シ三四分時間煮沸シ水ヲ加ヘ稀釋シテ百立方センチメートル(100ccm)トナシ之ニ硫酸酸化鐵アムモニウム溶液一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ十分定規硫チアンアムモニウム液ヲ滴加シテ類赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト十二・一立方センチメートル(12.1ccm)ニ過クヘカラス(十二)

(註 解)

(一)別名アイロール Arrol ニシテ  $C_6H_5(OH)_2COOH \cdot H_2O$  ナル構造ヲ有ス(II)及(III)實性反應(四)鹽基性沒食子酸蒼鉛ノ試験(五)遊離酸ノ試験(六)硝酸鹽ノ試験(七)酸化蒼鉛ノ理論數ハ四十四・六％トス(八)砒素ノ試験(九)鉛ノ試験(十)タンニンノ試験(十一)クロールノ試験(十二)二十％ノ「ヨード」含量ニ該當ス

(醫 用 効 用)

收斂及防腐ノ效アリ「ヨード」フォルム代用品トシテ腐敗性潰瘍、軟性下疳、新鮮ナル梅毒性潰瘍、火傷等ニ撒布劑トシテ實用セラル又新創面ノ縫合ニ「バスター」劑トシテ貼付ス

Bismutum subcarbonicum.

次炭酸蒼鉛

次炭酸蒼鉛(一)ハ白色或ハ類黃白色無晶形ノ粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セズ水並酒精ニ溶解セズ

本品ハ硝酸並鹽酸ニ泡沸シテ溶解シ此溶液ハ多量ノ水ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス

本品ハ硝酸ニ澄明ニ溶解シ(二)之ニ少量ノ水ヲ和シテ稀釋シタル澄明液ハ硝酸銀溶液、硝酸バリウム溶液又二倍容量ノ稀硫酸ニ由テ潤濁スヘカラス(三)又過剩ノ「アムモニア」水ヲ注キ濾過シテ得タル液ハ全ク無色(四)ニシテ硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(五)又燐酸ナトリウム溶液ニ由テ潤濁スヘカラス(六)

本品一グラム(1g)ニ過剩ノ「ナトロン」滴液ヲ和シテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(七)

本品一グラム(1g)ヲ弱ク熾灼スレハ黃色ノ酸化蒼鉛〇・八五乃至〇・九一グラム(0.85-0.91g)ヲ殘留スルシ此殘留物ヲ十立方センチメートル(10ccm)ノ鹽酸ニ溶解シ其溶液五立方センチメートル(5ccm)ニ一・五立方センチメートル(1.5ccm)ノ亞クロール錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(八)又其溶液二立方センチメートル(2ccm)ニ水ヲ和シテ稀釋シ硫化水素ヲ以テ充分ニ沈降セシメ之ヲ濾過シテ得

タル液ハ蒸發ノ後熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)

本品〇・二グラム(0.2g)ニ硫酸一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ之ニ硫酸亞酸化鐵溶液二立方センチメートル(2ccm)ヲ加ヘテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ノ輪帶ヲ生スヘカラス(十)

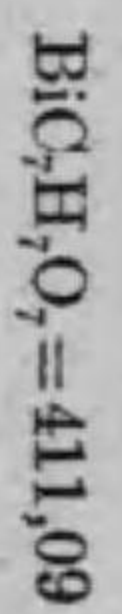
(註) 解 (一)( $\text{FeO}_2\text{CO}_3 + \frac{1}{2}\text{H}_2\text{O}$  ナル記號ヲ有スルナルヘシ) (二) 證明ニ溶解セサルトキハ砒酸蒼鉛ノ類ヲ夾雜スル徵(三)

クロール、硫酸又鉛ノ試験(四) 藍色ナルトキハ銅ヲ夾雜スル徵(五) 金屬ノ試験(六) マグネシウム(二)ノ試験(七) アムモニウム鹽ノ試験(八) 砒素ノ試験(九) アルカリ及アルカリ土類ノ試験(十) 硝酸ノ試験

(醫治効用) 次没食子酸蒼鉛ニ同シ

Bismutum subgallicum.

次没食子酸蒼鉛



次没食子酸蒼鉛(一)ハ黄色無晶形ノ粉末ニシテ臭味ナク水、酒精又エーテルニ溶解セス熾灼スレハ熔融セスシテ炭化シ終ニ黄色ノ物質ヲ殘留ス

本品ニ過剰ノ硫化水素水ヲ和シ振盪スレハ黒褐色ヲ呈ス之ヲ濾過シテ得タル液ヲ煮沸シ冷却シ之ニ稀過クロール鐵溶液ヲ滴加スレハ藍色ヲ呈ス(二)

本品一グラム(1g)ヲ弱ク熾灼シ極メテ少量ノ硝酸ニ溶解シテ蒸發乾燥シ更ニ熱灼スルニ少ナクモ〇・五二グラム(0.52g)ノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス(三) 此殘留物ヲ硝酸ニ溶解シ水ヲ以テ二十立方センチメートル(20ccm)ニ稀釋シタルモノ五立方センチメートル(5ccm)ハ硝酸バリウム溶液並硝酸銀溶液ニ

由テ蛋白石濁ヲ起スニ過キス(四) 又二倍容量ノ稀硫酸ニ由テ變化スヘカラス(五) 又其溶液四立方センチメートル(4ccm)ニ過剰ノ「アムモニア」水ヲ和シ濾過シテ得タル液ハ全ク無色ニシテ硫化水素水ヲ和スルモ變化セス(六) 之ヲ蒸發シ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)

本品一グラム(1g)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(八)

本品一グラム(1g)ニ十立方センチメートル(10ccm)ノ酒精ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ヲ蒸發スルニ秤定シ得ヘキ殘留物ヲ遺スヘカラス(九)

本品一グラム(1g)ハ「ナトロン」油液五立方センチメートル(5ccm)ニ證明ニ溶解スヘシ(十) 之ニ亞鉛及鐵粉各〇・五グラム(0.5g)ヲ混和シ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(十一)

(註) 解 (一) 別名「マター」ニシテ  $\text{C}_2\text{H}_3(\text{OH})_2\text{COOBi}(\text{OH})_2$  ナル構造ヲ有ス (二) 質性反應  $2(\text{C}_2\text{H}_3\text{O}_7\text{Bi}(\text{OH})_2) + 3\text{H}_2\text{S} = \text{Bi}_2\text{S}_3 + 4\text{C}_2\text{H}_3\text{O}_7 + 4\text{H}_2\text{O}$  (三)  $2(\text{C}_2\text{H}_3\text{O}_7\text{Bi}(\text{OH})_2) = \text{Bi}_2\text{O}_3$  ナル式ニヨリ蒼鉛ノ最少含量四十六・六%ニ相當ス (四) 硫酸鉍(クロール)ノ試験 (五) 鉛ノ試験 (六) 銅又ハ亞鉛ノ試験 (七) アルカリ、アルカリ土類ノ試験 (八) 砒素ノ試験  $2\text{H}_3\text{AsO}_4 + 5\text{SnCl}_2 + 10\text{HCl} = \text{As}_2 + 2\text{BiCl}_3 + 5\text{SnCl}_4 + 8\text{H}_2\text{O}$  (九) 遊離沒食子酸ノ試験 (十) 不溶物アルカリ土類ノ試験 (十一) 此際鐵ハ反應ヲ増進スルノニ

(醫治効用) 内服ニハ收斂劑トシテ一日數回〇・二五—〇・五ヲ散劑トナシ下痢、室扶斯、腸結核等ニ用ヒ外用ニハ「ヨード」フォルムニ代用シ撒布粉トシテ創傷、潰瘍面等ニ用フ

Bismutum subnitricum.

次硝酸蒼鉛

次硝酸蒼鉛ハ

次没食子酸蒼鉛 次硝酸蒼鉛

蒼鉛粗末

一分 (1)

ヲ取り豫メ七十五乃至九十度ニ熱シタル

硝酸(比重一・二)

五分 (5)

中ニ少量ツツ漸次ニ投入シ終リニ臨ミ硝酸ノ作用衰フルニ至リ更ニ強熱ヲ與ヘテ蒼鉛ノ溶解ヲ助クヘシ尋テ蒼鉛ノ溶液ヲ數日間放置シタル後上層ノ澄明液ヲ傾瀉シ之ヲ蒸發シテ結晶セシメ茲ニ得タル結晶ヲ硝酸含有ノ蒸餾水少量ヲ以テ一二回洗滌シ此

結晶

一分 (1)

蒸餾水

四分 (4)

ヲ加ヘテ研和シ次ニ之ヲ

熱蒸餾水

二十一分 (21)

中ニ攪拌シツツ投入シ茲ニ生シタル沈澱ノ沈著スルニ至リ速ニ上清液ヲ除去シ沈澱ヲ漏斗中ニ採集シ液分ノ充分ニ滴下シタル後

冷蒸餾水

二十五分 (25)

ヲ以テ洗滌シ三十度ノ温ニ於テ乾燥シ製スヘシ

本品ハ白色細微結晶性ノ重キ粉末ニシテ顯微鏡下ニ檢スレハ略均等ノ小柱狀結晶ヲナス反應ハ酸性ナリ

本品ヲ煖灼スレハ黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ終ニ百分ニ付キ七十九乃至八十二分ノ酸比蒼鉛ヲ殘留ス(一)

本品〇・五グラム(0.5g)ハ常温ニ於テ稀硫酸(比重一・一〇九乃至一・一一四)二十五立方センチメートル(25 ccm)ニ澄明ニ全溶シ(二)炭酸ヲ發スヘカラス(三)此溶液十立方センチメートル(10 ccm)ヲ取り過剰ノ「アム

モニア水ヲ和シタル後濾過スルニ全ク無色ノ液ヲ得ヘシ(四)又其溶液十立方センチメートル(10 ccm)ニ多

量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ硫化水素ヲ以テ飽和シ濾過シテ得タル液ハ蒸發ノ後煖灼スルコト秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス(五)

本品一グラム(1g)ヲ熱灼シテ蒸氣ノ發生全ク熄ムニ至リ其殘留物ヲ少量ノ鹽酸ニ溶解シ之ニ二倍容量ノ

亞クロール錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(六)

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ硝酸五立方センチメートル(5 ccm)ニ溶解シテ得タル澄明液ハ硝酸銀溶液〇・五

立方センチメートル(0.5 ccm)ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ温キス(七)又同容量ノ水ヲ以テ稀釋シタル硝酸バ

リウム溶液〇・五立方センチメートル(0.5 ccm)ニ由テ變化セス(八)又過剰ノ「ナトロン滴液ニ和シテ熱スル

ニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(九)

(註)

解 (一)酸化蒼鉛含量七十九・八二從テ蒼鉛含量七十・八一七三・五%ヲ要求スル所ニヨレハ種々ノ割合ニ於ケル

Bi(NO<sub>3</sub>)<sub>3</sub>・5H<sub>2</sub>O及BiONO<sub>2</sub>+BiOOHノ混合物ナルハ(二)鉛(又石灰、バリット)ヲ夾雜スレハ全溶ヤス(三)炭酸蒼鉛、炭酸カル

チウム等ノ試験(四)藍色ナレハ銅ヲ夾雜ス(五)アルカリ土類、アルカリノ試験(六)砒素ノ試験(七)鹽酸ノ試験(八)硫酸ノ試験

(九)アムモニウム鹽ノ試験

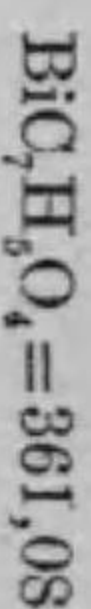
(醫治効用)

緩和收斂劑ニシテ内服ニハ一日數回〇・五—一・〇ヲ散劑トシテ慢性下痢、胃痛又ハ胃潰瘍(此場合ニハ少量ヲ用フ)

ニ用ヒテ良效アリ外用ニハ收斂性又ハ消毒性撒布粉トシテ潰瘍、火傷等ニ又ハ二・〇—五・〇ヲ一〇〇・〇ノ水ニ浮遊セシメ注射劑トシテ痲疾ニ用フ

*Osmitum subsalicicum.*

次サリチール酸蒼鉛



次サリチール酸蒼鉛(一)ハ白色或ハ帶黄白色無晶形ノ粉末ニシテ臭味ナク水並酒精ニ殆ト溶解セス煨灼スレハ熔融セスシテ炭化シ終ニ黄色ノ物質ヲ残留ス

本品ニ稀過クロール鐵溶液ヲ注ケハ紫色ヲ呈シ硫化水素水ヲ和スレハ黒褐色ヲ呈ス(二)

本品〇・五グラム(0.5g)ニ水五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ藍色試験紙ヲ直チニ赤變スヘカラス(三)

本品一グラム(1g)ヲ弱ク煨灼シテ極メテ少量ノ硝酸ニ溶解シ注意シテ蒸發乾燥シ更ニ煨灼スルニ少ナクモ〇・六三グラム(0.63g)ノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス(四)此残留物ヲ硝酸ニ溶解シ水ヲ以テ二十立方センチメートル(20ccm)ニ稀釋シタルモノ五立方センチメートル(5ccm)ハ硝酸バリウム溶液並硝酸銀溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キス(五)又二倍容量ノ稀硫酸ニ由テ變化スヘカラス(六)又其溶液四立方センチメートル(4ccm)ニ過剩ノアムモニア水ヲ和シ濾過シテ得タル液ハ無色ニシテ硫化水素水ヲ和スルモ變化セス(七)之ヲ蒸發シ熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ残留スヘカラス(八)

本品一グラム(1g)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(九)

本品〇・五グラム(0.5g)ニ「ナトロン」滴液五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ之ニ亞鉛及鐵粉各〇・五グラム(0.5g)ヲ加ヘテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(十)

光ヲ遮リ貯フヘシ

(註) 解 (I)  $C_6H_5CO_2Pb(OH)$  ナル構造ヲ有ス (II) 實性反應  $3C_6H_5CO_2Pb(OH) + 3H_2S = H_2S_3 + 2C_6H_5(OH)COOH + 3H_2O$  (III) 遊離サリチール酸ノ試験 (IV)  $3C_6H_5CO_2Pb(OH) + H_2O = H_2O_3 + 3C_6H_5CO_2H$  ナル式ニヨリ蒼鉛ノ最少含量五十六・四%ニ相當ス(五) 硫酸クロールノ試験(六) 鉛ノ試験(七) 銅ヲ夾雜スレハ濾液藍色ヲ呈シ且硫化水素水ニ由テ暗色ヲ呈シ又ハ暗色ノ沈澱ヲ生ズ

一鉛ヲ夾雜スレハ白銀ヲ生ス(八) アルカリ、アルカル土類ノ試験(九) 砒素ノ試験(十) 硝酸鹽ノ試験

(醫治効用)

次硝酸蒼鉛ニ同シ

Bismutum tribromphenylicum.  
トリブローム石炭酸蒼鉛

トリブローム石炭酸蒼鉛(一)ハ黄色中性ノ粉末ニシテ臭味ナク水並酒精ニ溶解セス

本品ニ稀薄ノ「ナトロン」滴液ヲ加ヘテ熱スレハ黄色ノ酸化蒼鉛ヲ遺シテ溶解シ冷後濾過シテ得タル液ニ鹽酸ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生ス(二)

本品一グラム(1g)ニ硝酸ヲ加ヘテ蒸發シ煨灼スルニ少ナクモ〇・五三グラム(0.53g)ノ酸化蒼鉛ヲ遺ササルヘカラス(三)此残留物ヲ約十立方センチメートル(10ccm)ノ鹽酸ニ溶解シ之ニ三立方センチメートル(3ccm)ノ亞クロール錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(四)

本品〇・五グラム(0.5g)ニ酒精五立方センチメートル(5ccm)ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液一立方センチメートル(1ccm)ニ水十五立方センチメートル(15ccm)ヲ和スルニ潤濁セス又絮狀ノ析出物ヲ生スヘカラス(五)

本品一グラム(1g)ニ「ナトロン」滴液十立方センチメートル(10ccm)ヲ加ヘテ振盪スルニ其液染色スヘカラス(六)

(註) 解

(一) 別名キセロフォルム (II) 實性反應 (III) 五十三%ノ酸化蒼鉛ニ相當ス (IV) 砒素ノ試験 (五) 遊離トリブローム石炭酸ノ試験 (六) 次沒食子酸蒼鉛ノ試験

(醫治効用)

内服ニハ腸防腐劑トシテ下痢ニ一日數回〇・五—一・〇ヲ「オブライト」ニ包ミ用ヒ外用ニハ「ヨートフォルム」代用

トリブローム石炭酸蒼鉛

品トシ創傷及潰瘍等ニ撒布粉、軟膏十—二十%トナシ用フ

Bolus alba.  
白陶土

白陶土ハ主トシテ抱水珪酸アルミニウム(一)ヨリ成リ白色或ハ類白色土様ノ磨碎シ易キ塊或ハ粉末ニシテ物ニ觸ルレハ汚著シ水ヲ以テ濡ホセハ微ニ特異ノ臭氣ヲ有スル可塑性ノ塊トナリ水中ニ投スレハ潰崩スレトモ溶解セス

本品ハ之ニ鹽酸ヲ注クニ泡沸スヘカラス(二)又淘汰スルモ砂狀ノ殘留物ヲ遺スヘカラス(三)

本品一グラム(一)ニ水二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ中性ノ反應ヲ微シ硝酸銀溶液ヲ和スルニ微ニ蛋白石濁ヲ呈スルニ過クヘカラス(四)

(註) 解 (一)  $Al_2Si_2O_7 + 2H_2O = Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 + 2H_2O$  ナル記號ヲ有ス (二) 炭酸カルチウムノ試験 (三) 砂ノ試験 (四) クロールノ試験

(應用)

丸劑、錠劑ノ賦形藥トナシ又ハ撒布粉、齒粉等ヲ製スルニ用フ又蜂蜜ノ精製ニ用フ

Borax.

硼砂



硼砂ハ白色堅硬ノ結晶或ハ結晶性塊片ニシテ約二十五分ノ水竝〇五分ノ熱湯ニ溶解シ弱アルカリ性ノ

反應ヲ微シ、グリセリンニ多量ニ溶解シ酒精ニ殆ト溶解セス熱スレハ初メ其結晶水中ニ溶解シ著シク膨起シ終ニ白色鬆疎ノ塊トナリ更ニ強ク熱スレハ熔融シテ無色硝子様ノ物質ニ變ス

本品ヲ無色焰中ニ熱スレハ其火焰ヲ黃色ニ染ム又本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和シタルモノヲ以テ黃色試験紙ヲ濡ホシ乾燥スレハ褐色ヲ呈シ更ニ少量ノ「アムモニア」水ヲ注ケハ綠色ニ變ス(一)

本品ノ水溶液(1:50)ハ硫化水素水竝ニ尿酸アムモニウム溶液ニ由テ變化スヘカラス(二)又硝酸ヲ以テ酸性トナスニ泡沸セス(三)之ニ硝酸バリウム溶液竝ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)

本品ノ鹽酸性水溶液(1:50)五十立方センチメートル(50 ccm)ニ黃色血滴鹽溶液〇五立方センチメートル(0.5 ccm)ヲ和スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(五)

(註) 解 (一) 質性反應 (二) 金屬石灰ノ試験 (三) 尿酸鹽ノ試験 (四) 痕跡以上硫酸鹽鉍コロイド物ノ試験 (五) 鐵ノ試験

(醫治効用) 内服ニハ尿酸素質(腎石、膀胱結石)、月經困難、癩癩等ニ一日二三回〇・五—二〇ヲ用ヒ外用ニハ點眼水、合嗽劑

(一—五%)トシ又ハ亞布答、傷口瘡ニ塗布劑(一—5%)グリセリン又蜂蜜トス

Bromum.

ブローム



ブロームハ暗赤褐色揮發性ノ液ニシテ常溫ニ於テ強キ刺激性ノ臭氣ヲ有スル黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ三十分ノ水ニ溶解シ酒精、エーテル、硫化炭素又クロロフォルムニ容易ニ溶解シテ赤褐色ヲ呈ス比重約三・〇ナリ

本品ハ「ナトロン」鹼液ニ溶解シ久シク澄明ニ止マルヘシ(一)又本品ノ飽和水溶液ニ鐵粉ノ過剩ヲ和シテ振



盪シ濾過シテ得タル液ニ過ク<sup>〇</sup>ル鐵溶液及澱粉溶液ヲ加フルニ藍色ヲ呈スヘカラス(二)  
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

(註 解)

(一) 潤濁シ且油滴ヲ析出スルトキハ「プロモフォルム」四ブローム炭素等ヲ夾雜スル微  $5\text{Br}+6\text{NaOH}=\text{NaBrO}_2+$   
 $5\text{NaBr}+3\text{H}_2\text{O}(\text{II})\text{m. l.} \text{ノ試驗 } \text{J}_2+\text{Fe}=\text{FeJ}_2; \text{FeJ}_2+2\text{FeOJ}_2=3\text{FeOJ}_2+\text{J}_2$

(醫治効用)

外用ニ塗布劑(〇・二—〇・五%溶液)トシテ實扶的里亞ニ用ヒ又ハ消毒劑トナス

Bulbus Scillae.

海葱

*Urginea maritima* Berk.

海葱(一)ハ本植物ノ肉質様葱葉ヲ剝截シテ條片トナシ乾燥セルモノナリ

本品ハ帶黃白色半透明角質様ノ截片ニシテ破碎シ易ク又容易ニ濕潤ス長サ五センチメートル(5cm)厚サ  
五ミリメートル(5mm)ニ至リ殆ト臭氣ナク味不快粘液様ニシテ苦シ

本品ノ表皮ハ兩面共ニ裂孔ヲ具有シ葉肉組織ハ主トシテ澱粉粒ヲ含有セサル略球圓形ノ細胞ヨリ成リ  
多數ノ束絨晶細胞ヲ含蓄シ竝行セル一側性脈管束ヲ圍繞ス

本品ノ粉末ハ束絨狀ノ尿酸鹽結晶ニ富ミ僅微ノ澱粉粒ヲ含有スルニ過クヘカラス又厚膜細胞ヲ含有スヘ  
カラス(二)

密閉シ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・ニグラム(0.2g)

一日ノ極量 一グラム (1g)

(註 解)

(一)成分ハ「ジニストリン(含水炭素)、スチルリビクリン、スチルリトキシシ、スチルリン等トス(二)澱粉又ハ他ノ  
不明植物部分ノ試験

(醫治効用)

利尿劑、祛痰劑ニシテ體血性水腫ニ一日數回〇・〇三—〇・二ヲ散劑又ハ浸劑、煎劑(3—6:200)トナシ用フ

Caffeino-Natrium benzoicum.

安息香酸ナトリウムカフェイン

安息香酸ナトリウムカフェイン<sup>一</sup>ハ

カフェイン

五十分 (50)

安息香酸ナトリウム

五十九分 (59)

ヲ取り之ヲ

蒸餾水

一百分 (100)

ニ溶解シ蒸發乾燥シ製スヘシ

本品ハ白色無晶形粉末或ハ顆粒狀塊ニシテ臭氣ナク苦味ヲ有シ二分ノ水竝四十分ノ酒精ニ溶解シ無色ノ  
液トナル

本品ヲ硝子管中ニ熱スレハ白色ノ蒸氣ヲ發シ其蒸氣ハ管ノ冷部ニ凝縮シテ「カフェイン」ノ細微結晶ヲ附  
著ス(一)

本品ノ水溶液(1:10)ハ鹽酸ニ由テ「エーテル」ニ溶解スヘキ白色ノ結晶ヲ析出ス又過ク<sup>〇</sup>ル鐵溶液ニ由  
テ淡赤褐色ノ沈澱ヲ生シ此沈澱ハ鹽酸及酒精ニ由テ再ヒ溶解ス又本品ヲ「クロロフォルム」ト共ニ温メ濾  
過シテ得タル液ハ蒸散ノ後カフェイン<sup>一</sup>ノ反應ヲ微スル結晶性ノ残渣ヲ留ム(二)

安息香酸ナトリウムカフェイン

本品ノ水溶液(一)ハアルカリ性ノ反應ヲ徵スルコトアルモ微弱ニ過クヘカラス(三)  
 本品〇・一グラム(0.1g)ヲ硫酸一立方センチメートル(1cm)ニ溶解スルニ泡沸又ハ著色スヘカラス(四)  
 本品ノ水溶液(一)ハ硫化水素水並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス(五)又其水溶液ニ酒精三容  
 量ヲ和シ硝酸ヲ以テ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(六)  
 本品〇・一七グラム(0.17g)ヲ弱ク熾灼シ其殘留物ヲ水三十立方センチメートル(30cm)ニ溶解シ濾過シ  
 テ得タル液ハ硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(七)  
 本品〇・五グラム(0.5g)ヲ水十立方センチメートル(10cm)ニ溶解シ之ニ「ナトロン」液一立方センチメー  
 トル(1cm)ヲ加ヘタル後逐次三回各十立方センチメートル(10cm)ノ「クロロフォルム」ヲ和シテ五分時  
 間振盪シ其クロロフォルム液ヲ集メテ重湯煎上ニ蒸發シ百度ニ於テ乾燥スルニ少ナクモ〇・二グラム  
 (0.2g)ノ乾燥カフェインヲ殘留セサルヘカラス(八)  
 注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 一グラム(1g)  
 一日ノ極量 三グラム(3g)

(註 解) (一)及(二)實性反應(三)アルカリノ試験(四)炭酸アルカリ及有機物ノ試験(五)金屬並硫酸ノ試験(六)痕跡以上  
 クロロル化物ノ試験(七)有機性クロロル化物ノ試験(八)四十三・七%ノ「カフェイン」一分子結晶水含有含量ニ該當ス  
 (醫治効用) カフェインニ同シ但シ用量ハ其二倍トス

Caffeino-Natrium salicylicum.  
 サリチール酸ナトリウムカフェイン

サリチール酸ナトリウムカフェインハ

カフェイン

五分 (5)

ヲ取り之ヲ

サリチール酸ナトリウム

六分 (6)

蒸餾水

二十分 (20)

ニ溶解シ蒸發乾燥シ製スヘシ

本品ハ白色無晶形ノ粉末或ハ白色顆粒狀ノ塊ニシテ臭氣ナク味微ニ苦クシテ甘味ヲ帶フ二分ノ水並約五  
 十分ノ酒精ニ溶解ス

本品ノ水溶液(一)ハ過クロロル鐵溶液ニ由テ紫色ヲ呈シ鹽酸ニ由テ「エーラル」ニ溶解スヘキ白色ノ結  
 晶ヲ析出ス又本品ヲ「クロロフォルム」ト共ニ温メ濾過シテ得タル液ハ蒸散ノ後カフェインノ反應ヲ徵ス  
 ル結晶性ノ殘渣ヲ留ム(二)

本品ノ水溶液(一)ハ無色或ハ殆ト無色ニシテ暫時放置ノ後呈色スルコトアルモ微ニ淡紅色ヲ呈スルニ  
 過クヘカラス(二)又酸性ノ反應ヲ徵スルモ微弱ニ過クヘカラス(三)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ硫酸一立方センチメートル(1cm)ニ溶解スルニ泡沸(四)又ハ著色スヘカラス(五)  
 本品ノ水溶液(一)ハ硫化水素水並硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス(六)又其二容量ニ酒精三容量ヲ和  
 シ硝酸ヲ以テ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス(七)

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ水十立方センチメートル(10cm)ニ溶解シ之ニ「ナトロン」液一立方センチメー  
 トル(1cm)ヲ加ヘタル後逐次三回各十立方センチメートル(10cm)ノ「クロロフォルム」ヲ和シテ五分時間  
 振盪シ其クロロフォルム液ヲ集メテ重湯煎上ニ蒸發シ百度ニ於テ乾燥スルニ少ナクモ〇・二グラム(0.2g)  
 ノ乾燥カフェインヲ殘留セサルヘカラス(八)

注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 一グラム(1g)
- 一日ノ極量 三グラム(3g)

(註)

解 (一) 實性反應 (二) 鐵ヲ夾雜スレハ呈色ス (三) 遊離サリチル酸ノ試験 (四) 炭酸鹽類ノ試験 (五) 砂糖、サリチン等ノ試験 (六) 金屬並硫酸ノ試験 (七) 痕跡以上ノ「クロール」ノ試験 (八) 四十三・七%ノ「カフェイン」(結晶水含有) 含量ニ該當ス

(醫治効用)

安息香酸ナトリウムカフェインニ同シ

Caffeinum.

カフェイン



カフェイン (一) ハ絹絲様ノ光澤アル白色柔軟ノ鍼狀結晶ニシテ味微ニ苦ク八十分ノ水ニ無色ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ二分ノ熱湯ニ溶解シ冷後凝結シテ結晶性ノ糜糊トナル「クロロフォルム」並約五十分ノ酒精ニ溶解シ「エーテル」ニ僅ニ溶解ス氣中ニ於テ風化シ百度ニ於テ結晶水ヲ失ヒ二百三十乃至二百三十四度ニ於テ熔融ス又本品ヲ徐々ニ熱スレハ約百度ニ於テ一部揮散シ百八十度ニ至リ全ク昇華ス

本品ノ水溶液ニ「タンニン」酸溶液ヲ和スレハ其過剰ニ溶解スヘキ沈澱ヲ生ス又本品〇・一グラム(0.1g)ヲ「クロール」水十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル殘留物ハ黃赤色ヲ有シ之ニ少量ノ「アムモニア」水ヲ和スレハ紫紅色ヲ呈ス(二)本品ノ冷飽和水溶液ハ「クロール」水或ハ「ヨード」溶液ニ由テ濁濁セス(三)又「アムモニア」水ニ由テ染色スヘカ

ラス(四) 又本品〇・一グラム(0.1g)ハ硫酸並硝酸各一立方センチメートル(1ccm)ニ無色ニ溶解スヘシ(五)注意シテ貯フヘシ

- 一回ノ極量 〇・五グラム(0.5g)
- 一日ノ極量 一・五グラム(1.5g)

(註)

解 (一)  $OH_2N \cdot O \cdot N \cdot OH_2 \cdot H_2O$  ナル構造ヲ有シ「トリメチルキサントス」(二) 實性反應ニシテ本品ハ「ク

ロール」ニヨリ「アマリン」酸ナルモノニ變シ此ノ物ハ「アムモニア」ニヨリ紫紅色ヲ呈ス(三)「オアロミン」或ハ他ノ「アルカロイド」ノ試験(四) 著色性夾雜物ノ試験(五) 硫酸ニ由テ暗色ヲ呈スレハ含水炭素例之ハ砂糖、赤色ヲ呈スレハ「サリチン」、硝酸ニ由テ赤色ヲ呈スレハ「モルヒネ」又ハ「アルチン」ヲ夾雜スル徵

(醫治効用)

散劑、丸劑又ハ錠劑トナシ一日數回〇・〇五—〇・五ヲ利尿劑トシテ心臟又ハ腎臟病ニ因スル水腫症ニ、興奮劑トシテ心臟衰弱、モルヒネ及他ノ麻酔劑中毒ニ其他神經痛、偏頭痛ニ用フ

Calcaria chlorata.

クロール石灰

晒粉

クロール石灰(一)ハ白色或ハ類白色ノ粉末ニシテ「クロール」様ノ臭氣ヲ放チ其一部ハ水ニ溶解ス本品ニ醋酸ヲ加フレハ「クロール」ヲ發シテ溶解シ之ニ水ヲ加ヘテ稀釋シ濾過シテ得タル液ハ「醋酸アムモニウム」溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス(二)本品ハ百分中二十五分以上ノ有力クロール(Cl=35.46)ヲ含有ス

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ水二十立方センチメートル(20ccm)ニ和シテ研磨シ「ヨードカリウム一グラム(1g)及鹽酸二十滴ヲ加ヘテ遊離セシメタル「ヨード」ヲ結合スルニハ十分定規次亞硫酸ナトリウム液少クモ三十五・二立方センチメートル(35.2ccm)ヲ費ササルヘカラス(III) 密閉シテ冷處ニ貯フヘシ

(註) 解 (I)主トシテ次亞クロール酸カルチウム及クロールカルチウム  $\text{Ca}(\text{ClO})_2 + \text{CaCl}_2$  ヨリナル(II)質性反應  $\text{Ca}(\text{ClO})_2 + \text{CaCl}_2 + 4\text{CH}_3\text{COOH} = 2(\text{CH}_3\text{COO})_2\text{Ca} + 4\text{Cl} + \text{H}_2\text{O}; (\text{CH}_3\text{COO})_2\text{Ca} + (\text{NH}_4)_2\text{O} + \text{H}_2\text{O} = \text{Ca}(\text{O})\cdot\text{H}_2\text{O} + 2\text{CH}_3\text{COONH}_4$  (III)本定法ハ次ノ反應ニヨル  $[\text{CaCl}_2 + \text{Ca}(\text{ClO})_2] + 4\text{HCl} = 2\text{CaCl}_2 + 4\text{Cl} + 2\text{H}_2\text{O}; \text{K}_2 + \text{Cl} = \text{KCl} + \text{Cl}_2$   $2\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_5 + 5\text{H}_2\text{O} = 2\text{Na}_2\text{SO}_4 + 10\text{H}_2\text{O}$  即チ十分定規次亞硫酸ナトリウム液一立方センチメートル「ハ」クロール  $\text{O} \cdot \text{O} \cdot \text{O}$  三五六グラム從テ茲ニ消費セル該液三十五・二立方センチメートル「ハ」其  $\text{O} \cdot \text{O} \cdot \text{O}$  一二四八グラムニ對應シ此量タル本品〇・五グラム中ニ含有セラルヲ以テ有力クロールノ最少含量二十四・九六%ヲ數ス

(醫治効用)

本品ノ稀薄溶液  $\text{O} \cdot \text{O} \cdot \text{O}$  五%ハ惡性惡臭ノ創傷、潰瘍等ノ洗滌ニ用ヒ濃厚溶液ハ消毒劑トシテ汎ク用フ

Calcaria sulfurata.

硫化石灰

硫化石灰(II)

煨製硫酸カルチウム

木炭末

澱粉

七十分 (70)  
十分 (10)  
二分 (2)

ヲ取り親密ニ混和シ坩堝内ニ容レ蓋閉シテ煨灼シ其内容物黑色ヲ失フニ至リテ放冷シ之ヲ研磨シテ粉末

トナシ直チニ壘中ニ密閉スヘシ

本品ハ淡灰色ノ粉末ニシテ微ニ硫化水素ノ臭氣ヲ放チ氣中ニ於テ漸次ニ分解シ水ニ僅微ニ溶解シ熱湯ニ較シ溶解シ易ク酒精ニ溶解セス

本品ニ稀醋酸ヲ和スレハ夥シク硫化水素瓦斯ヲ發シ濁濁シテ溶解ス其溶液ヲ濾過シテ得タル澄清液ニ醋酸アムモニウム溶液ヲ加フレハ稀鹽酸ニ溶解スヘキ白色ノ沈近ヲ生ス(II)

硫酸銅二・〇八グラム(2.08g)ヲ水五十立方センチメートル(50ccm)ニ溶解シテ得タル液ヲ熱シテ沸騰スルニ至リ之ニ本品一グラム(1g)ヲ漸次ニ投入シ次ニ重湯煎上ニ於テ十五分時間温メ冷後濾過シテ得タル液ニ黄色血滴鹽溶液一滴ヲ和スルニ呈色スヘカラス(III)

壘中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註) 解 (I) CAS ナル記號ヲ有ス(II)質性反應(III)少クモ六十%ノ硫化カルチウム「ヲ含有スルコトヲ要ス (醫治効用) 内服ニハ少量(〇・〇五)ヲ流行性寒胃ノ豫防ニ用ヒ外用ニハ軟膏(2.5%)ヲセリ「トナシ皮膚病、疥癬ニ用ヒ又ハ脫毛劑トシテ用フ

Calcaria usta.

煨製石灰

CaO = 56.07

煨製石灰ハ類白色堅實ノ塊ニシテ半量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ漸々崩壊シテ白色ノ粉末ニ變シ更ニ三乃至四分ノ水ヲ加フレハ全質均等ノ稠粥トナル之ニ硝酸ヲ注ケハ泡沸セスシテ始ト全ク溶解シ此溶液ニ水ヲ

煨製石灰 沈降炭酸カルチウム

加ヘテ稀釋シ過剩ノ醋酸ナトリウム溶液ヲ加ヘタル後醋酸アムモニウム溶液ヲ注ケハ白濁ヲ生ス(二) 密閉シテ貯フヘシ

(註 解)

(一) 質性反應

(醫治効用) 腐蝕劑トシ、石灰水ヲ製シ消毒劑トシテ汎ク用フ

Calcium carbonium praecipitatum.

沈降炭酸カルチウム



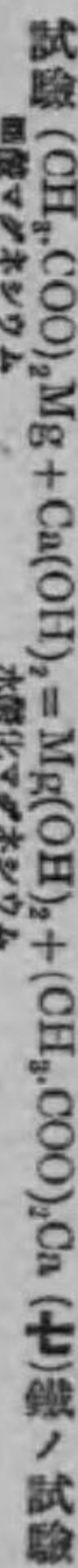
沈降炭酸カルチウムハ白色細微結晶性ノ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス  
本品ハ醋酸ニ泡沸シテ全溶シ其溶液ニ醋酸アムモニウム溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス(一)  
本品ニグラム(30)ニ新ニ煮沸シ冷却シタル水五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ加ヘテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ赤色試験紙ヲ藍變セス又之ヲ蒸發スルニ0.01 g以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(II)

本品ニ稀醋酸ヲ加ヘ煮沸シテ得タル水溶液(1:50)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ變化セス(三)硝酸銀溶液ニ由テ五分時間ヲ經ルモ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(四)又アムモニア水(五)若クハ石灰水(六)ヲ以テ過飽スルニ變化スヘカラス

本品一グラム(10)ヲ鹽酸性ノ水五十立方センチメートル(50 ccm)ニ溶解シタルモノハ黄色血油鹽溶液〇・五立方センチメートル(0,5 ccm)ニ由テ藍色ヲ呈スヘカラス(七)

(註 解)

(一) 質性反應 (二) 炭酸ナトリウムノ試験 (三) 硫酸鹽ノ試験 (四) 痕跡以上クロール化物ノ試験 (五) 白色又ハ類黄色ノ濁濁ヲ生スルハ鐵及礬土ヲ夾雜スル徵

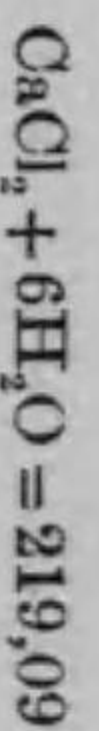


(醫治効用)

内服ニハ一日數回〇・五—二・〇ナ糖漿、慢性下痢等ニ用ヒ外用ニハ齒粉トシ又ハ火傷、潰瘍、濕疹ニ撒布粉トナス

Calcium chloratum.

クロールカルチウム



クロールカルチウムハ無色稜柱狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ潮解シ一・五分ノ水竝三分ノ酒精ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵ス

本品ノ水溶液ニ醋酸アムモニウム溶液ヲ和スレハ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸銀溶液ヲ和スレハアムモニア水ニ溶解スヘキ白色乾酪様ノ沈澱ヲ生ス(一)

本品ノ水溶液(1:10)十立方センチメートル(10 ccm)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(II)

本品ノ水溶液(1:10)五立方センチメートル(5 ccm)ハ稀鹽酸及ヨード亞鉛澱粉溶液ニ由テ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(III)

本品ノ水溶液(1:30)ニアムモニア水ヲ和スルニ變化スヘカラス煮沸スルモ亦然リ(四)又稀鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハクロールバリウム溶液、稀硫酸又硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(五)

沈降炭酸カルチウム クロールカルチウム

本品ノ熱水溶液(1:30)十立方センチメートル(10 ccm)ニ砒酸アムモニウム溶液十立方センチメートル(10 ccm)ヲ和シ三時間ノ後濾過シテ得タル液ヲ蒸發乾涸シ煇灼スルニ0.002グラム(0.002 gr)以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(六)

本品ノ水溶液(1:30)二十立方センチメートル(20 ccm)ニ稀鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシ之ニ黄色血滴鹽溶液0.5立方センチメートル(0.5 ccm)ヲ和スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(七)  
塚中ニ容レ密栓シテ貯フヘシ

(註)

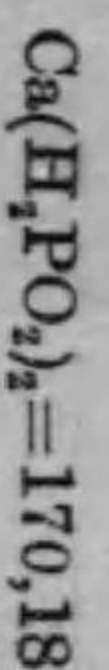
解 (一) 實性反應 (二) 砒素ノ試驗 (三) 次亜クロール酸ノ試驗 (四) 鐵、マグネシウム、磷酸鹽等ノ試驗 (五) 硫酸、バリウム  
又金屬ノ試驗 (六) マグネシウム、アルカリノ試驗 (七) 鐵ノ試驗

(醫治効用)

血液ノ凝結性ヲ充進スル藥品ニシテ出血ノ原因アルモノ、痲痺性疾患、蕁麻疹其他癩痒性疾患ニ内服一回0.2-0.5、一日數回、皮下又ハ靜脈内注射ニハ1%溶液一回一筒(即チ0.01)ヲ用フ局處ニハ出血、癢痒等ニ2-10%水溶液ヲ用フ

Calcium hypophosphosum.

次亜燐酸カルチウム



次亜燐酸カルチウムハ無色透映ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セズ七分ノ水ニ溶解シ酒精ニ溶解セズ

本品ヲ試験管中ニ熱スルハ自然性ノ瓦斯ヲ發シ冷後類赤褐色ノ物質ヲ殘留ス(一) 又本品ノ水溶液ニ砒酸アムモニウム溶液ヲ和スレハ白色ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ醋酸ニ溶解セズ稀鹽酸ニ容易ニ溶解ス(二) 又本

品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノヲ過剩ニ昇汞溶液ニ和スレハ初メ白色後灰色ニ變スル沈澱ヲ生ス(三)

本品ノ水溶液(1:30)ハ中性或ハ微ニ酸性ノ反應ヲ徵シ濁濁スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(四)

本品ノ澄明ナル水溶液(1:30)ニ硫酸カルチウム溶液ヲ和スルニ濁濁セス(五) 又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ヲ和スルニ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(六) 又クロールアムモニウム溶液及炭酸アムモニウム溶液ヲ加ヘテ濾過シタル後燐酸ナトリウム溶液ヲ和スルニ濁濁スヘカラス(七) 又醋酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後醋酸鉛溶液ヲ和スルニ直チニ濁濁ヲ起スヘカラス(八)

本品一グラム(一 gr)ニ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(九)

(註)

解

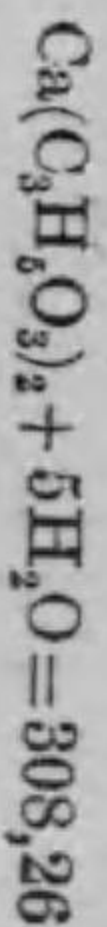
(一) 實性反應ニシテ自燃性ノ瓦斯ハ燐化水素ヨリ成リ且燐ヲ昇華シ燐酸カルチウム  $Ca_3(PO_4)_2$  ヲ殘留ス (二) 實性反應  $Ca(H_2PO_2)_2 + (NH_4)_2O_2 + H_2O = Ca_3(PO_4)_2 + 2[(NH_4)_2H_2PO_2]$  (三) 實性反應ニシテ初メ甘汞ヲ析出シ後水銀ニ還元セラル (四) 強酸性ヲ呈スルニ遊離酸ヲ次雜シ濁濁スルハ燐酸、炭酸、硫酸、カルチウム鹽ヲ夾雜スル微(五) バリウム鹽ノ試驗  $Ba(NO_3)_2 + CaSO_4 = BaSO_4 + Ca(NO_3)_2$  (六) 硫酸ノ試驗 (七) マグネシウム鹽ノ試驗 (八) 燐酸及亞燐酸ノ試驗  $2H_3PO_4 + 3(OH)_2COO.Pb = Pb_3(PO_4)_2 + 6CH_3COOH$  (九) 砒素ノ試驗

(醫治効用)

内服ニハ溶液ヲナシ一日數回0.2-0.5ヲ衰弱症、肺癆、萎黃病等ニ用フ

Calcium lacticum.

乳酸カルチウム



次亜燐酸カルチウム

乳酸カルチウム

乳酸カルチウム(一)ハ無色絨狀ノ結晶或ハ白色ノ顆粒狀塊或ハ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク二十分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス

本品ノ水溶液ニ蓆酸アムモニウム溶液ヲ和スレハ醋酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス又稀硫酸及過マンガン酸カリウム溶液ト共ニ温ムレハ「アセトアルデヒド」ノ臭氣ヲ放ツ(二)

本品ノ水溶液(1:30)ハ無色或ハ帶微黄色澄明ニシテ其二十立方センチメートル(20 ccm)ニ「フェノール」フタレイン溶液二滴ヲ和スルニ赤色ヲ呈スヘカラス(三)又之ニ十分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト一立方センチメートル(1 ccm)ニ過クヘカラス(四)

本品〇・五グラム(0.5 g)ニ硫酸一立方センチメートル(1 ccm)ヲ和スルニ揮發脂肪酸ノ臭氣ヲ放ツヘカラス温ムルモ亦然リ(五)

本品ノ水溶液(1:20)ニ「アムモニア」水ヲ和スルニ變化スヘカラス煮沸スルモ亦然リ(六)又稀鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ「クロール」バリウム溶液稀硫酸又硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(七)

本品ノ熱水溶液(1:30)十立方センチメートル(10 ccm)ニ蓆酸アムモニウム溶液八立方センチメートル(8 ccm)ヲ和シ三時間ノ後濾過シテ得タル液ヲ蒸發乾涸シ熾灼スルニ〇・〇〇五グラム(0.005 g)以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)

本品ヲ百二十度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ二十五乃至二十九・五分ナラサルヘカラス(九)

本品ノ百二十度ニ於テ乾燥セルモノ一グラム(1 g)ヲ燃化シ其殘留物ヲ二分定規鹽酸二十五立方センチメートル(25 ccm)ニ溶解シ二分定規カリ液ヲ用ヒテ剩餘ノ酸液ヲ中和スルニハ該液ヲ費スコト七・一立方センチメートル(7.1 ccm)ニ過クヘカラス(標示藥メチールオレンジ溶液)(十) 塚中ニ容レ密栓シ貯フ(シ)

(註 解)

- (一)  $(C_2H_5O)_2Ca + 5H_2O$  ナル構造ヲ有ス
- (二) 質性反應
- (三) アルカリ
- (四) 酸度
- (五) 揮發脂肪酸ノ試驗(六) 鐵、アルミニウム、磷酸鹽等ノ試驗(七) 硫酸、バリウム及重金屬ノ試驗(八) マグネシウム及アルカリ
- (九) 水分ノ試驗(十) 水分ノ試驗而シテ本品ハ五分子ノ結晶水ヲ含有スルヲ以テ理論上水分量ハ二十九・二%トス(十一) 二分定規鹽酸一立方センチメートルハ「乳酸カルチウム」  $Ca(C_2H_3O_2)_2 \cdot O \cdot O$  五五五グラムニ對應シ本品ノ無水物九十七・六三%ニ該當ス
- (醫治効用) クロールカルチウムト同一ノ目的ニ同量ヲ用フ水ニ不溶性ナルヲ以テ散劑トナシ不快ノ味ナキ長所アリ

Calcium phosphoricum praecipitatum.

沈降磷酸カルチウム



沈降磷酸カルチウム「ハ」  
炭酸カルチウム 二十分(20)

ヲ取り之ニ  
鹽酸 五十分(50)

蒸留水 五十分(50)  
ノ混液ヲ攪拌シツツ徐々ニ注加シ炭酸ノ發生衰フルニ至リ微温ヲ與ヘ茲ニ得タル上澄液ヲ傾瀉シ之ニ「クロール」水ヲ過剰ニ加ヘ更ニ熱シテ全ク「クロール」臭ノ消失スルニ至リ

水化石灰 一分(1)  
ヲ加ヘ三十五乃至四十度ノ温ニ於テ三十分時間放置シタル後濾過シ冷後其濾液ニ  
磷酸 一分(1)

ヲ加へ別ニ

磷酸ナトリウム

六十一分 (61)

ヲ

三百分 (300)

ニ溶解シ濾過シ二十乃至二十五度ノ温ニ冷却シタルモノヲ攪拌シツツ徐々ニ注加シ茲ニ生シタル沈澱ヲ善ク攪拌シ其結晶性トナルヲ俟テ漉布上ニ採集シ水ヲ以テ反覆洗滌シ其洗液ニ硝酸ヲ加ヘ酸性トナシ硝酸溶液ヲ加フルニ微ニ蛋白濁ヲ起スニ過キサルニ至リ壓搾シテ水分ヲ去リ微温ニ於テ乾燥シ細粉トナシ製スヘシ

本品ハ白色ノ輕キ結晶性粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セス冷醋酸ニ僅ニ溶解シ鹽酸並硝酸ニ泡沸セスシテ容易ニ溶解ス(一)

本品ハ硝酸銀溶液ヲ以テ濡ホセハ黄色ヲ呈ス又本品ニ醋酸ヲ加ヘテ煮沸シ濾過シテ得タル液ニ蓆酸アムモニウム溶液ヲ加フレハ白色ノ沈澱ヲ生ス(二)

本品一グラム(一〇)ハ亞クロール錫溶液三立方センチメートル(3ccm)ニ由テ一時間以内ニ暗色ヲ呈スヘカラス(三)

本品一分ニ水二十分ヲ和シテ振盪シ其濾液ニ醋酸ヲ加ヘタル後硝酸バリウム溶液ヲ和スルニ變化スヘカラス(四)又硝酸銀溶液ヲ加フルモ蛋白濁ヲ起スニ過クヘカラス(五)

本品ノ硝酸性水溶液(1:30)ハ過剰ノ「アムモニア水及硫化水素水ニ由テ純白色ノ沈澱ヲ生セサルヘカラス(六)

本品ヲ煖灼スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ二十五乃至二十六分ナラサルヘカラス七此殘留物ハ硝酸銀溶液ヲ以テ濡ホスニ微ニ黄色ヲ呈スルニ過クヘカラス(八)

(註 解)

(一)泡沸スレハ炭酸鹽ヲ夾雜スル徵 (二)貴性反應  $\text{CaHPO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O} + 2\text{AgNO}_3 = \text{Ag}_2\text{HPO}_4 + \text{Ca}(\text{NO}_3)_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ ;  $2[\text{CaHPO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}] + 2\text{OH}_2 \cdot \text{CO}_2\text{H} = \text{Ca}_2\text{H}_2(\text{PO}_4)_2 + (\text{OH}_2\text{CO}_3)_2\text{Ca} + 4\text{H}_2\text{O}$  (三)紙索ノ試驗  $\text{Ca}_3(\text{AsO}_4)_2 + 5\text{SnCl}_2 + 16\text{HCl} = \text{As}_2 + 5\text{SnCl}_4 + 8\text{H}_2\text{O} + 3\text{CaCl}_2$  (四)硫酸鹽ノ試驗 (五)痕跡以上タロール化物ノ試驗 (六)アムモニア水ニヨリタル純白色ノ第三磷酸カルチウムト生ズ  $3[\text{Ca}_2\text{H}_2(\text{PO}_4)_2] + 4\text{NH}_3 = \text{Ca}_3(\text{PO}_4)_2 + 4[(\text{NH}_4)_2\text{P}_2\text{O}_7]$  此ノ沈澱ニシテ硫化水素ニヨリ暗色ヲ呈セハ鐵鹽ヲ夾雜スル徵 (七)煖灼スレハ焦性磷酸カルチウムヲ殘留シ  $2[\text{CaHPO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}] = \text{Ca}_2\text{P}_2\text{O}_7 + \text{H}_2\text{O}$  理論上二十六・一六%ノ水分ヲ減失ス(八)第三磷酸カルチウムヲ夾雜スレハ煖灼殘渣黄色ヲ呈ス  $\text{Ca}_3(\text{PO}_4)_2 + 6\text{AgNO}_3 = 2\text{Ag}_3\text{PO}_4 + 3\text{Ca}(\text{NO}_3)_2$  即チ本品ノ煖灼ニヨリテハ純白色ノ焦性磷酸銀ヲ生スルモ第三磷酸カルチウムハ焦性鹽ニ變化ス

(醫 治 効 用)

一日數回〇・五—二・〇小兒ニハ〇・二—一・〇ヲ數劑、丸劑トナレ又ハ滋養品ニ添加シ臍病兒ノ吐瀉ヲ患ヒ直復セ

ルモノ、脊椎炎、骨潰瘍、骨折、妊婦、授乳婦等ニ用フ

○Calcium sulfuricum ustum, Gypsum ustum,

煖製硫酸カルチウム 燒石膏

煖製硫酸カルチウムハ白色ノ粉末ニシテ其一分ニ〇・五分ノ水ヲ和スレハ五分時間以内ニ固結スヘシ密閉シテ貯フヘシ

(應 用) ギップス綑帯材料ニ用フ

○Cannphora depurata,

精製樟腦

$\text{C}_{10}\text{H}_{16}\text{O} = 152,13$

煖製硫酸カルチウム 精製樟腦



精製樟腦ハ無色透映若クハ白色結晶性柔軟ノ塊或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味ハ微苦ニシテ灼クカ如ク後清涼ナリ百七十五乃至百八十度ニ於テ熔融シ二百四度ニ於テ沸騰シ重湯煎ノ温ニ於テ全ク揮散シ點火スレハ媒烟多キ火焰ヲ放テ燃燒ス水ニ殆ト溶解セス酒精、エーテル又クロロフォルムニ容易ニ溶解シ又脂肪油ニ溶解ス

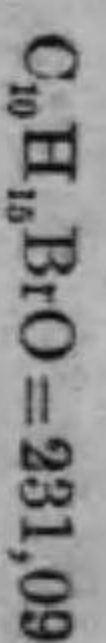
本品十グラム(10g)ヲ純アルコホルニ溶解シ常温ニ於テ五十立方センチメートル(50ccm)トナシタルモノハ旋光度(α<sub>D20</sub>)右旋約八・八度ナリ

本品ヲ粉碎スルニハ豫メ酒精或ハエーテルヲ以テ濡ホスヘシ  
場中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

(醫治効用)

内服ニハ散劑、丸劑、乳劑トナシ一日數回〇・〇三―〇・二ヲ興奮劑ノ目的ヲ以テ各種ノ虛脱及酒精、阿片、莨菪等中毒ニ又祛痰ノ目的ヲ以テ氣管枝炎、肺炎等ニ用ヒ外用ニハ一分ヲ十分ノ酒精、エーテル又ハオレーフ油ニ溶解シタルモノヲ虚脱ニ皮下注射シ(一―二筒)又ハ痲瘋質斯、坐骨神經痛、挫傷等ニ塗擦劑又ハ軟膏トナシ用フ

Camphora monobromata.  
ブローム樟腦



ブローム樟腦ハ無色稜柱形ノ鍼狀或ハ鱗片狀ノ結晶ニシテ氣中ニ於テ變化セス香味ハ樟腦ニ類シ較ト緩和ナリ約七十六度ニ於テ熔融ス水ニ殆ト溶解セス酒精、エーテル又クロロフォルムニ容易ニ溶解ス  
本品〇・一グラム(0.1g)ニ炭酸ナトリウム及硝酸カリウム各約〇・五グラム(0.5g)ヲ和シ熱灼シテ得タル熔

融物ヲ温湯ニ溶解シ之ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ加フレハ類黃白色ノ沈澱ヲ生

ス(一)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ硫酸一立方センチメートル(1ccm)ニ溶解スルニ無色或ハ類黃色ヲ呈スルニ止マルヘシ(三)

本品ニ水ヲ和シテ振盪シ濾過シテ得タル液ハ藍色試験紙ヲ赤變スヘカラス(三)

本品ノ酒精溶液ニ硝酸銀溶液ヲ加ヘテ煮沸スルニ沈澱ヲ生スヘカラス(四)

本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(五)

注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・三グラム(0.3g)

一日ノ極量 一グラム (1g)

(註 解)

(一)實性反應(二)有機性夾雜物ノ試験(三)重ブローム樟腦、ブローム水素酸等ノ試験

(四)無機性夾雜物ノ試験

(五)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

鎮靜劑ニシテ内服ニハ一日數回〇・一―〇・二ヲ散劑、丸劑トナシ神經痛、神經性疾患、神經性心悸亢進、生殖器刺激状態、遺精等ニ用フ

Cantharides.

カンタリス 豆斑猫

*Epicauta Goharimi Miers.*

カンタリス(一)ハ本昆蟲ヲ乾燥セルモノナリ

ブローム樟腦

カンタリス

本品ハ長サ一・五乃至一・八センチメートル(1.5-1.8cm)廣サ四乃至五ミリメートル(4-5mm)ナリ鞘翅ハ曇  
黒色ニシテ邊緣及中央ニ於テ類黄色ノ毛ヨリ成レル線條アリ頭ハ略ハ心臟形ヲナシ其後部ハ代赭色ヲ有  
ス腹部ハ黒色ニシテ光澤ヲ有シ下腹部ハ類黄色ノ毛ヨリ成レル四乃至五條ノ輪帶ヲ具フ

本品ノ中末十グラム(10g)ニ「クロロフォルム」百立方センチメートル(100ccm)及鹽酸二立方センチメートル  
(2ccm)ヲ加ヘ屢々振盪シツツ放置スルコト二十四時間ノ後濾過シ其濾液五十立方センチメートル(50ccm)  
ヲ豫メ乾燥シ秤量セル硝子壺ニ取り蒸餾シテ「クロロフォルム」ヲ去リ残渣ニ石油ペンチン五立方センチメ  
ートル(5ccm)ヲ注キ密栓シ時々搖動シツツ放置スルコト十二時間ノ後豫メ乾燥シ秤量シ次ニ石油ペンチ  
ンヲ以テ濡ホセル直徑五センチメートル(5cm)ノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ不溶分ニ逐次二回石油ペンチン各  
十立方センチメートル(10ccm)ヲ注キ前ノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ濾紙及硝子壺ヲ乾燥シ每十立方センチメ  
ートル(10ccm)中炭酸アムモニウム溶液一滴ヲ添加セル水少量ヲ以テ洗滌シ洗液ノ殆ト無色トナルニ至  
リ更ニ一回水五立方センチメートル(5ccm)ヲ以テ洗滌シ硝子壺及濾紙ヲ四十乃至五十度ニ於テ乾燥シタ  
ル後濾紙ハ内容ト共ニ硝子壺ニ容レ更ニ百度ニ於テ乾燥シ冷後秤量スルニ其結晶性残渣ノ重量少ナクモ  
〇・一グラム(0.1g)ナラサルヘカラス(II)

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ八分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(III)  
器中ニ密閉シ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・〇三グラム(0.03g)

一日ノ極量 〇・一グラム(0.1g)

(註 解) (I)本邦産ノ豆斑猫ニシテ主成分ハ「カンタリヂン」 $C_{12}H_{14}O_2$ トス(II)「カンタリヂン」ノ最少含量ニ對シテ該當ス(III)  
無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

發泡、引赤劑ニシテ主ニ外用ニ藥液膜ノ炎症(肋膜炎、心包炎等)、傷風質斯、神經痛、齒痛、眼炎等ニ用フ

Capsulae.

膠囊

膠囊ハ「ゼラチン」ニ「グリセリン」若クハ白糖ヲ加ヘ製シタルモノニシテ通常一端閉塞シ交互重合シ得ヘキ  
一對ノ圓筒形囊體ヨリ成ル

本品ハ透明ニシテ臭氣ナク彈力性ヲ有シ之ヲ三十九乃至四十度ノ溫湯ニ投シ屢々振盪スルニ十分時間以  
内ニ溶解シテ中性或ハ微ニ酸性ヲ呈スル無色澄明無臭ノ溶液トナラサルヘカラス(II)

(註 解) 正品ノ特性

Capsulae Copaivaе.

コバイバ膠囊

コバイバ膠囊ハ一箇中〇・五グラム(0.5g)ノ「コバイバルサム」ヲ含有スルモノナリ  
(醫治効用) コバイバルサムノ條ヲ參照スヘシ

Carbo Ossium pulveratus.

骨炭末

膠囊

コバイバ膠囊

骨炭末

骨炭末ハ骨炭ヲ粉碎シ數回稀鹽酸ヲ加ヘテ溫浸シ熱湯ヲ以テ充分ニ洗滌シタル後其一小部分ヲ取り燃燒スルニ固性物ヲ殘留スルコト極メテ僅微ニ過キサリニ至リ之ヲ乾燥シ更ニ坩堝ニ容レ蓋閉シテ熾灼シ微溫ニ乘シテ器中ニ密閉シ貯フヘシ

本品ハ黑色ノ粉末ニシテ之ニ水ヲ和シテ煮沸スルニ其液ハ酸性ノ反應ヲ徵スヘカラス(一)又稀鹽酸ヲ和シテ煮沸シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素水ニ由テ變化スヘカラス(二)

(註) 解 (一)酸殊ニ鹽酸ヲ含有セサル微(二)金屬ノ試験

(醫治効用) 内服ニハ散劑トナシ一日數回〇・五—二・〇ヲ胃腸ノ異常發酵ニ用ヒ外用ニハ防臭劑、消毒劑トシ又ハ齒粉ニ添加シ又ハ創傷ニ撒布粉トシ用フ

Caryophylli.

丁香 丁子

Engenia aromatica Baill.

丁香(一)ハ本植物ノ蕾ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

本品ハ長サ十二乃至十七ミリメートル(12—17 mm)ニ至リ褐色ヲ有シ其實礎ハ長ク鈍四稜性圓錐ヲナシ上部ニ二箇ノ小房ヲ具有ス上端ニハ四裂セル萼ヲ載キ内側ニハ殆ト圓形淡褐色ノ花瓣ヲ附着シ花瓣ハ多數ノ雄蕊ヲ擁包シ球狀ヲナス

本品ノ實礎ノ中央部ヲ横斷シテ顯微鏡下ニ檢スレハ周邊ニ近ク多數ノ巨大卵圓形ヲナセル分泌物貯藏器ヲ認メ内方ニハ内外二層ノ脈管束輪層存在シ各脈管束ニ少數ノ纖維及蓆酸鹽ノ結晶簇ヲ包有スル細胞列隨伴ス其外輪層ノ内部ニ於ケル柔組織ハ甚タ空隙ニ富ム

本品ヲ壓搾スレハ油分ヲ滲出ス

本品ハ氣味特異芳香性ニシテ峻烈ナリ

密閉シ貯フヘシ

(註) 解 (一)主成分ハ「オイゲノール」 $C_{15}H_{14}O_2$ ニシテ其他カリオフィレン  $C_{15}H_{14}$  ナルモノヲ含ム

(醫治効用) 内服ニハ食慾増進ノ目的ヲ以テ消化不良ニ又ハ矯味劑トシテ用ヒ外用ニハ齒粉ニ添加シ又ハ口臭ノ咀嚼劑トシテ用フ

Catechu.

阿仙藥

(甲)ガムビル

Uncaria Gambir Forst.

ガムビル(一)ハ本植物ノ葉及稚稍ヨリ製セル乾燥越幾斯ニシテ類褐色破碎シ易キ塊ヲナシ内部ハ淡色ナリ

(乙)ベグ阿仙藥

Acacia Catechu Willd.

Acacia Suma Kurz.

ベグ阿仙藥(二)ハ本兩種植物ノ木心ヨリ製セル乾燥越幾斯ニシテ内外共ニ暗褐色ヲ有スル塊ヲナシ時トシテハ孔穴ヲ有シ破砕面ハ大貝殼狀ヲ呈ス  
阿仙藥ハ味收斂性ニシテ稍苦ク後微甘ナリ

本品ノ稀薄酒精溶液ハ過クロール鐵溶液ニ由テ綠色ヲ呈ス(三)

本品一分ニ水十分ヲ加ヘテ煮沸スレハ帶褐赤色酸性ノ濁濁液ヲ生シ其不溶分ヨリ傾瀉シタル液ハ冷後夥シク褐色ノ沈澱ヲ生ス(四)前ノ不溶分ハ熱湯ヲ以テ之ヲ洗滌シ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ十五分ニ過クヘカラス(五)又本品ニ熱酒精ヲ加ヘテ充分ニ浸出シ茲ニ殘留スル物質ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ三十分ニ過クヘカラス(六)

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ六分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)

(註)

解

(一)及(二)主成分ハ「カテヒン」及「カテヒニ」糖酸トス(三)正品ノ特徴(四)沈澱ハ「カテヒン」及「カテヒニ」糖酸ヨリ

(醫治効用)

收斂劑ニシテ内服ニハ一日數回〇・五—二・〇ヲ咽頭加答兒、下痢症ニ用ヒ外用ニハ齒齦潰瘍、口内炎ノ塗布、合嗽劑トナシ又ハ淋疾、赤痢ノ注射、浣腸劑トナス

Gantschuc.

彈力ゴム

彈力ゴム(一)ハ熱帶地方ニ産スル桑科、蕁麻科、大戟科及夾竹桃科ニ屬スル諸種喬木ノ乳液ヨリ分離セル凝固物ヲ精製シテ得タルモノナリ

本品ハ褐色半透明ノ板形或ハ塊ヲナシ彈力ヲ有シ水並酒精ニ溶解セス「ペンツォール」、石油ペンチン、フロロフォルム又硫化炭素ニ徐々ニ溶解シテ濁濁セル濃稠ノ液トナル本品ハ熱湯ニ浸漬スルモ軟化セス又搓捏性トナラス

本品一分ニ石油ペンチン七・五分ヲ加フルニ數時間以内ニ溶解シ殘渣ヲ遺スヘカラス(二)

本品〇・二グラム(0.2g)ヲ細切シ之ヲ硝酸カリウム二分及無水炭酸ナトリウム一分ヨリ成レル熔和物二グラム(2g)中ニ注意シテ漸次投入シ燃化シテ得タル熔塊ハ冷後殘渣ヲ留メスシテ水ニ溶解スヘシ(三)又其溶液(1:50)ハ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ變化スヘカラス(四)

(註)

解

(一)主成分ハ炭化水素(C<sub>10</sub>H<sub>8</sub>)トス(二)殘渣アレハ不純品タル徵(三)殘渣アレハ白堊、滑石末、酸化亞鉛、鉛化合物等ヲ夾雜スル徵(四)硫黃ヲ含有スル火山性ゴムトノ區別

(應)

用) 絆創膏ヲ製スルニ用フ

Cera alba.

白蠟

白蠟ハ黃蠟ヲ日光ニ晒白シテ得タルモノナリ

本品ハ白色或ハ類白色ノ塊ニシテ約六十五度ニ於テ熔融シ無色ノ液トナル比重〇・九六五乃至〇・九七五、酸數四・六乃至七・九、エステル數八十・四乃至九十三・五ナリ

本品ハ敗油性ノ臭氣ヲ有スヘカラス(一)

酒精二分ニ水七分ヲ混和シ氣泡ノ消失シ盡クルニ至ル迄十五度ニ於テ放置シ之ニ本品ノ球粒狀ニ裝成セルモノヲ投スルニ其球粒ハ液中ニ懸留セサルヘカラス或ハ然ラサルモ更ニ水ヲ混和シテ其混液ノ比重ヲ〇・九六五乃至〇・九七五トナストキハ懸留スルニ至ラサルヘカラス(二)此用ニ供スル本品ノ球粒ヲ作ルニハ本品ヲ成ルヘク低度ノ溫ニ於テ熔融セシメ酒精ヲ容レタル硝子器中ニ滴下セシムヘシ但此球粒ハ二十四時間氣中ニ放置スルノ後試験ニ供スヘシ

本品一グラム(1g)ニ酒精二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ加ハ一二三分時間煮沸シ一時間ノ後濾過シテ

得タル無色ノ冷液ハ藍色試験紙ヲ赤變スルモ僅微ニ過クヘカラス又水ヲ和スルニ著シク濁濁スヘカラス(III)

本品一グラム(100)ニ水十立方センチメートル(10 ccm)及炭酸ナトリウム三グラム(300)ヲ加ヘ熱シテ劇シク沸騰スルニ至リ冷却セシムレハ本品ハ液面ニ析出シ其液ハ蛋白濁ヲ呈スルニ過クヘカラス(IV)

本品三グラム(300)ニ純アルコホル二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シテ重湯煎上ニ熱シ沸騰スルニ至リ直チニ「フェノール」フタレイソ溶液一立方センチメートル(1 ccm)ヲ添加シ之ニ酒精製二分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト〇・五乃至〇・八五立方センチメートル(0.5-0.85 ccm)ナラサルヘカラス(五)更ニ此混液ニ酒精製二分定規カリ液二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ注加シ一時間重湯煎上ニ熱シ直チニ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ過剰ノ「カリ液」ヲ中和スルニハ該酸液ヲ費スコト十乃至十一・四立方センチメートル(10-11.4 ccm)ナラサルヘカラス(六)

(註)

解 (一) 取油性ノ臭氣ヲ有スレハ「巴」ニ變敗シタル徵(二) 比重ノ試験ニシテ「パラフィン」脂肪等ヲ夾雜スレハ比重ヲ低クシ日本蠟、樹脂、硬脂酸ヲ夾雜スレハ比重ヲ高ム(三) 硬脂酸又コロフォニウムノ試験(四) 硬脂酸、植物蠟又脂肪ノ試験(五) 本品三グラム中遊離酸ヲ化合セシムルニ酒精製二分定規カリ液〇・五―〇・八五立方センチメートルヲ費シ該定規液一立方センチメートルハ水酸化カリウム〇〇・二八〇五五グラムヲ含有スルヲ以テ該液〇・五立方センチメートルハ〇・〇一四〇二七五又其〇・八五立方センチメートルハ〇・〇二三八四六五グラムノ水酸化カリウムニ該當ス之ヲ本品一グラムニ「還算スレハ〇・〇四六七八〇又ハ〇・〇〇七九四八九一グラム即チ四・六七五八又ハ七・九四八九一ミリグラム」ノ水酸化カリウムニ該當ス從テ酸數ハ約四・六八―七・九五トス(六) 最初ニ加ヘタル「カリ液」二十立方センチメートルヨリ其還測ニ用ヒタル鹽酸量十一・四立方センチメートルヲ減スレハ本品三グラム中エステルノ鹼化ニ要シタル該カリ液ノ量ハ六・一十立方センチメートルヲ得此液量タル〇〇・二四一二七三又ハ〇・二八〇五五グラムノ水酸化カリウムニ該當シ之ヲ本品一グラムニ「還算スレハ〇・〇八〇四二六三又ハ〇・〇九三五一六グラム即チ八・四又ハ九十三・五ミリグラム」ノ水酸化カリウムニ該當ス從テ「エステル數」ハ約八十・四―九十三・五トス而シテ硬脂酸、樹脂ヲ夾雜スレハ酸數ヲ高メ日本蠟、豚脂等ヲ夾雜スレハ「エステル數」ヲ高ム

(應)

用 軟膏、硬膏ノ基礎劑トシテ用テ

Cera Flava.

黄蠟

黄蠟(一)ハ蜂巢ヨリ蜂蜜ヲ採集シタル後注意シテ熔出セシモノナリ

本品ハ淡黄色乃至黄色ノ塊ヲナシ六十三乃至六十七度ニ於テ熔融シテ蜂蜜ノ香氣ヲ有スル澄明ノ液トナル比重〇・九六二乃至〇・九七二、酸數四・六乃至八、エステル數八十・四乃至九十三・六ナリ(II)

酒精二分ニ水七分ヲ混和シ氣泡ノ消失シ盡クルニ至ル迄十五度ニ於テ放置シ之ニ本品ノ球粒狀ニ裝成セルモノヲ投スルニ其球粒ハ液中ニ懸留セサルヘカラス或ハ然ラサルモ更ニ水ヲ混和シテ其混液ノ比重ヲ〇・九六二乃至〇・九七二トナストキハ懸留スルニ至ラサルヘカラス此用ニ供スル本品ノ球粒ヲ作ルニハ本品ヲ成ルヘク低度ノ温ニ於テ熔融セシメ酒精ヲ容レタル硝子器中ニ滴下セシムヘシ但此球粒ハ二十四時間氣中ニ放置スルノ後試験ニ供スヘシ(III)

本品少量ヲ約五倍量ノ「クロロフォルム」ニ溶解シ之ニ鹽酸ヲ加ヘテ振盪スルニ其鹽酸赤色ヲ呈スヘカラス(四)又本品ニ硼酸飽和溶液ヲ注キ重湯煎上ニ蒸發シテ乾燥セシムルニ赤褐色ヲ呈スヘカラス(五)

其他ノ試験ハ白蠟ノ條ニ掲クル所ニ同シ

(註)

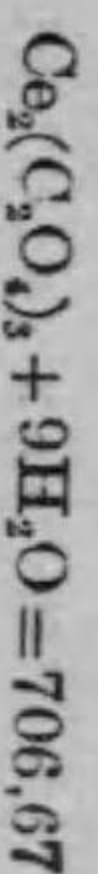
解 (I) 主成分ハ「チエロチン酸」(又「チエリン」)  $C_{27}H_{48}O_2$  及軟脂酸「リチールエステル」(又「リチン」)  $C_{18}H_{34}O_2$ 、 $COOC_{16}H_{33}$  トス(II) 酸數、エステル數ハ凡例ニ於ケル如ク檢定スヘシ(III) 比重ノ試験ナリ而シテ樹脂、日本蠟、硬脂酸ヲ夾雜スレハ比重ヲ高メ牛脂、パラフィン等ヲ夾雜スレハ比重ヲ低クス(四) テール色素ノ試験(五) クルクマ」ノ試験

(應)

用 白蠟ニ同シ

Cerium oxalicum

蓚酸セリウム



蓚酸セリウムハ白色或ハ殆ト白色無味無臭顆粒狀ノ粉末ニシテ氣中ニ於テ變化セス水並酒精ニ溶解セ

本品ノ鹽酸溶液ニ「ナトロン滴液」ヲ加フレハ其過剰ニ溶解セサル凝膠様ノ沈澱ヲ生ス其濾液ヲ醋酸ヲ以

テ過飽シ之ニ「クロールカルチウム溶液」ヲ加フレハ白澱ヲ生ス(一)  
本品ハ鹽酸ニ泡沸セスシテ溶解シ(二)其溶液ニ「ナトロン滴液」ヲ加ヘテ生シタル凝膠様ノ沈澱ヲ濾別シ此

濾液ニ過剰ノ「クロールアムモニウム溶液」ヲ和シテ熱スルニ沈澱ヲ生スヘカラス(三)之ニ硫化アムモニウ

ムヲ加フルモ亦然リ(四)  
本品一グラム(一〇)ヲ弱ク熾灼スルニ黄色或ハ帶黄赤色中性ノ粉末約〇・四八グラム(〇・五〇)ヲ殘留スヘシ

(五)此殘留物ヲ鹽酸五立方センチメートル(5 ccm)ニ溶解シ水ヲ以テ稀釋シ二十立方センチメートル(20 ccm)トナシタルモノハ硫化水素水ニ由テ沈澱ヲ生スヘカラス(六)此溶液ヲ「アムモニア水」ヲ以テ過飽シ濾

過シテ得タル液ハ蓚酸アムモニウム溶液並磷酸ナトリウム溶液ニ由テ沈澱ヲ生スヘカラス(七)  
本品一分ニ五十分ノ水ヲ加ヘ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液ニ由テ強蛋白石濁又硝酸バリウム溶

液ニ由テ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(八)  
本品ヲ「ナトロン滴液」ニ和シテ熱スルニ「アムモニア臭」ヲ發スヘカラス(九)  
注意シテ貯フヘシ  
一回ノ極量 〇・三グラム(0.3g)

一日ノ極量 一グラム(1g)

(註 解)

- (一) 實性反應 (二) 炭酸カルチウム、マグネシウムノ試験 (三) 礬土ノ試験 (四) 白磁ヲ生セハ亞鉛ノ存在ヲ徵ス(五)
- 殘留物ハ酸化セリウム  $Ce_2O_3$  ヨリ成ル (六) 金屬珠ニ著鉛、銅、鉛ノ試験 (七) カルチウム並マグネシウムノ試験 (八) タモール並
- 硫酸ノ試験 (九) アムモニウム鹽ノ試験

(醫治効用)

内服ニ一日數回〇〇五—〇・三ヲ散劑、丸劑トナシ胃、痛經婦ノ嘔吐、船暈等ニ用フ

Cetaceum.

鯨蠟

Physeter macrocephalus Laccopelta

鯨蠟(一)ハ主トシテ本動物ノ頭部ニ於ケル腔窩中ニ存スル油質ノ固形成分ヲ精製セルモノナリ

本品ハ巨葉狀ノ紋理ヲ有シ眞珠様ノ光澤アル白色ノ結晶塊ヲナシ破碎シ易ク四十五乃至五十度ニ於テ熔

融シテ敗油性ナラサル微弱ノ臭氣ヲ有スル無色澄明ノ液トナル(二)比重約〇・九四三ナリ

本品ハ「エーテル、クロロフォルム、硫化炭素又熱酒精」ニ溶解ス

本品一分ハ約五十分ノ熱酒精ニ全溶セサルヘカラス(三)此溶液ヲ放置シテ常溫ニ於テ結晶ヲ析出セシメ

タル後傾瀉シテ得タル液ハ試験紙ヲ變色セス又同容量ノ水ヲ和スルニ絮狀ノ沈澱ヲ生スヘカラス(四)

本品一グラム(一〇)ニ無水炭酸ナトリウム一グラム(一〇)及酒精五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ和シ煮

沸シ濾過シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナスモ濁濁ヲ生スルニ止マリ沈澱ヲ生スヘカラス(五)

(註 解)

- (一) 主成分ハ軟脂酸チニチルエステル(又チニチン)  $C_{14}H_{27}CO_2$ 、 $C_{16}H_{33}CO_2$ 、 $C_{18}H_{37}CO_2$ 、 $C_{20}H_{41}CO_2$ 、 $C_{22}H_{45}CO_2$ 、 $C_{24}H_{49}CO_2$ 、 $C_{26}H_{53}CO_2$ 、 $C_{28}H_{57}CO_2$ 、 $C_{30}H_{61}CO_2$ 、 $C_{32}H_{65}CO_2$ 、 $C_{34}H_{69}CO_2$ 、 $C_{36}H_{73}CO_2$ 、 $C_{38}H_{77}CO_2$ 、 $C_{40}H_{81}CO_2$ 、 $C_{42}H_{85}CO_2$ 、 $C_{44}H_{89}CO_2$ 、 $C_{46}H_{93}CO_2$ 、 $C_{48}H_{97}CO_2$ 、 $C_{50}H_{101}CO_2$ 、 $C_{52}H_{105}CO_2$ 、 $C_{54}H_{109}CO_2$ 、 $C_{56}H_{113}CO_2$ 、 $C_{58}H_{117}CO_2$ 、 $C_{60}H_{121}CO_2$ 、 $C_{62}H_{125}CO_2$ 、 $C_{64}H_{129}CO_2$ 、 $C_{66}H_{133}CO_2$ 、 $C_{68}H_{137}CO_2$ 、 $C_{70}H_{141}CO_2$ 、 $C_{72}H_{145}CO_2$ 、 $C_{74}H_{149}CO_2$ 、 $C_{76}H_{153}CO_2$ 、 $C_{78}H_{157}CO_2$ 、 $C_{80}H_{161}CO_2$ 、 $C_{82}H_{165}CO_2$ 、 $C_{84}H_{169}CO_2$ 、 $C_{86}H_{173}CO_2$ 、 $C_{88}H_{177}CO_2$ 、 $C_{90}H_{181}CO_2$ 、 $C_{92}H_{185}CO_2$ 、 $C_{94}H_{189}CO_2$ 、 $C_{96}H_{193}CO_2$ 、 $C_{98}H_{197}CO_2$ 、 $C_{100}H_{201}CO_2$ 、 $C_{102}H_{205}CO_2$ 、 $C_{104}H_{209}CO_2$ 、 $C_{106}H_{213}CO_2$ 、 $C_{108}H_{217}CO_2$ 、 $C_{110}H_{221}CO_2$ 、 $C_{112}H_{225}CO_2$ 、 $C_{114}H_{229}CO_2$ 、 $C_{116}H_{233}CO_2$ 、 $C_{118}H_{237}CO_2$ 、 $C_{120}H_{241}CO_2$ 、 $C_{122}H_{245}CO_2$ 、 $C_{124}H_{249}CO_2$ 、 $C_{126}H_{253}CO_2$ 、 $C_{128}H_{257}CO_2$ 、 $C_{130}H_{261}CO_2$ 、 $C_{132}H_{265}CO_2$ 、 $C_{134}H_{269}CO_2$ 、 $C_{136}H_{273}CO_2$ 、 $C_{138}H_{277}CO_2$ 、 $C_{140}H_{281}CO_2$ 、 $C_{142}H_{285}CO_2$ 、 $C_{144}H_{289}CO_2$ 、 $C_{146}H_{293}CO_2$ 、 $C_{148}H_{297}CO_2$ 、 $C_{150}H_{301}CO_2$ 、 $C_{152}H_{305}CO_2$ 、 $C_{154}H_{309}CO_2$ 、 $C_{156}H_{313}CO_2$ 、 $C_{158}H_{317}CO_2$ 、 $C_{160}H_{321}CO_2$ 、 $C_{162}H_{325}CO_2$ 、 $C_{164}H_{329}CO_2$ 、 $C_{166}H_{333}CO_2$ 、 $C_{168}H_{337}CO_2$ 、 $C_{170}H_{341}CO_2$ 、 $C_{172}H_{345}CO_2$ 、 $C_{174}H_{349}CO_2$ 、 $C_{176}H_{353}CO_2$ 、 $C_{178}H_{357}CO_2$ 、 $C_{180}H_{361}CO_2$ 、 $C_{182}H_{365}CO_2$ 、 $C_{184}H_{369}CO_2$ 、 $C_{186}H_{373}CO_2$ 、 $C_{188}H_{377}CO_2$ 、 $C_{190}H_{381}CO_2$ 、 $C_{192}H_{385}CO_2$ 、 $C_{194}H_{389}CO_2$ 、 $C_{196}H_{393}CO_2$ 、 $C_{198}H_{397}CO_2$ 、 $C_{200}H_{401}CO_2$ 、 $C_{202}H_{405}CO_2$ 、 $C_{204}H_{409}CO_2$ 、 $C_{206}H_{413}CO_2$ 、 $C_{208}H_{417}CO_2$ 、 $C_{210}H_{421}CO_2$ 、 $C_{212}H_{425}CO_2$ 、 $C_{214}H_{429}CO_2$ 、 $C_{216}H_{433}CO_2$ 、 $C_{218}H_{437}CO_2$ 、 $C_{220}H_{441}CO_2$ 、 $C_{222}H_{445}CO_2$ 、 $C_{224}H_{449}CO_2$ 、 $C_{226}H_{453}CO_2$ 、 $C_{228}H_{457}CO_2$ 、 $C_{230}H_{461}CO_2$ 、 $C_{232}H_{465}CO_2$ 、 $C_{234}H_{469}CO_2$ 、 $C_{236}H_{473}CO_2$ 、 $C_{238}H_{477}CO_2$ 、 $C_{240}H_{481}CO_2$ 、 $C_{242}H_{485}CO_2$ 、 $C_{244}H_{489}CO_2$ 、 $C_{246}H_{493}CO_2$ 、 $C_{248}H_{497}CO_2$ 、 $C_{250}H_{501}CO_2$ 、 $C_{252}H_{505}CO_2$ 、 $C_{254}H_{509}CO_2$ 、 $C_{256}H_{513}CO_2$ 、 $C_{258}H_{517}CO_2$ 、 $C_{260}H_{521}CO_2$ 、 $C_{262}H_{525}CO_2$ 、 $C_{264}H_{529}CO_2$ 、 $C_{266}H_{533}CO_2$ 、 $C_{268}H_{537}CO_2$ 、 $C_{270}H_{541}CO_2$ 、 $C_{272}H_{545}CO_2$ 、 $C_{274}H_{549}CO_2$ 、 $C_{276}H_{553}CO_2$ 、 $C_{278}H_{557}CO_2$ 、 $C_{280}H_{561}CO_2$ 、 $C_{282}H_{565}CO_2$ 、 $C_{284}H_{569}CO_2$ 、 $C_{286}H_{573}CO_2$ 、 $C_{288}H_{577}CO_2$ 、 $C_{290}H_{581}CO_2$ 、 $C_{292}H_{585}CO_2$ 、 $C_{294}H_{589}CO_2$ 、 $C_{296}H_{593}CO_2$ 、 $C_{298}H_{597}CO_2$ 、 $C_{300}H_{601}CO_2$ 、 $C_{302}H_{605}CO_2$ 、 $C_{304}H_{609}CO_2$ 、 $C_{306}H_{613}CO_2$ 、 $C_{308}H_{617}CO_2$ 、 $C_{310}H_{621}CO_2$ 、 $C_{312}H_{625}CO_2$ 、 $C_{314}H_{629}CO_2$ 、 $C_{316}H_{633}CO_2$ 、 $C_{318}H_{637}CO_2$ 、 $C_{320}H_{641}CO_2$ 、 $C_{322}H_{645}CO_2$ 、 $C_{324}H_{649}CO_2$ 、 $C_{326}H_{653}CO_2$ 、 $C_{328}H_{657}CO_2$ 、 $C_{330}H_{661}CO_2$ 、 $C_{332}H_{665}CO_2$ 、 $C_{334}H_{669}CO_2$ 、 $C_{336}H_{673}CO_2$ 、 $C_{338}H_{677}CO_2$ 、 $C_{340}H_{681}CO_2$ 、 $C_{342}H_{685}CO_2$ 、 $C_{344}H_{689}CO_2$ 、 $C_{346}H_{693}CO_2$ 、 $C_{348}H_{697}CO_2$ 、 $C_{350}H_{701}CO_2$ 、 $C_{352}H_{705}CO_2$ 、 $C_{354}H_{709}CO_2$ 、 $C_{356}H_{713}CO_2$ 、 $C_{358}H_{717}CO_2$ 、 $C_{360}H_{721}CO_2$ 、 $C_{362}H_{725}CO_2$ 、 $C_{364}H_{729}CO_2$ 、 $C_{366}H_{733}CO_2$ 、 $C_{368}H_{737}CO_2$ 、 $C_{370}H_{741}CO_2$ 、 $C_{372}H_{745}CO_2$ 、 $C_{374}H_{749}CO_2$ 、 $C_{376}H_{753}CO_2$ 、 $C_{378}H_{757}CO_2$ 、 $C_{380}H_{761}CO_2$ 、 $C_{382}H_{765}CO_2$ 、 $C_{384}H_{769}CO_2$ 、 $C_{386}H_{773}CO_2$ 、 $C_{388}H_{777}CO_2$ 、 $C_{390}H_{781}CO_2$ 、 $C_{392}H_{785}CO_2$ 、 $C_{394}H_{789}CO_2$ 、 $C_{396}H_{793}CO_2$ 、 $C_{398}H_{797}CO_2$ 、 $C_{400}H_{801}CO_2$ 、 $C_{402}H_{805}CO_2$ 、 $C_{404}H_{809}CO_2$ 、 $C_{406}H_{813}CO_2$ 、 $C_{408}H_{817}CO_2$ 、 $C_{410}H_{821}CO_2$ 、 $C_{412}H_{825}CO_2$ 、 $C_{414}H_{829}CO_2$ 、 $C_{416}H_{833}CO_2$ 、 $C_{418}H_{837}CO_2$ 、 $C_{420}H_{841}CO_2$ 、 $C_{422}H_{845}CO_2$ 、 $C_{424}H_{849}CO_2$ 、 $C_{426}H_{853}CO_2$ 、 $C_{428}H_{857}CO_2$ 、 $C_{430}H_{861}CO_2$ 、 $C_{432}H_{865}CO_2$ 、 $C_{434}H_{869}CO_2$ 、 $C_{436}H_{873}CO_2$ 、 $C_{438}H_{877}CO_2$ 、 $C_{440}H_{881}CO_2$ 、 $C_{442}H_{885}CO_2$ 、 $C_{444}H_{889}CO_2$ 、 $C_{446}H_{893}CO_2$ 、 $C_{448}H_{897}CO_2$ 、 $C_{450}H_{901}CO_2$ 、 $C_{452}H_{905}CO_2$ 、 $C_{454}H_{909}CO_2$ 、 $C_{456}H_{913}CO_2$ 、 $C_{458}H_{917}CO_2$ 、 $C_{460}H_{921}CO_2$ 、 $C_{462}H_{925}CO_2$ 、 $C_{464}H_{929}CO_2$ 、 $C_{466}H_{933}CO_2$ 、 $C_{468}H_{937}CO_2$ 、 $C_{470}H_{941}CO_2$ 、 $C_{472}H_{945}CO_2$ 、 $C_{474}H_{949}CO_2$ 、 $C_{476}H_{953}CO_2$ 、 $C_{478}H_{957}CO_2$ 、 $C_{480}H_{961}CO_2$ 、 $C_{482}H_{965}CO_2$ 、 $C_{484}H_{969}CO_2$ 、 $C_{486}H_{973}CO_2$ 、 $C_{488}H_{977}CO_2$ 、 $C_{490}H_{981}CO_2$ 、 $C_{492}H_{985}CO_2$ 、 $C_{494}H_{989}CO_2$ 、 $C_{496}H_{993}CO_2$ 、 $C_{498}H_{997}CO_2$ 、 $C_{500}H_{1001}CO_2$ 、 $C_{502}H_{1005}CO_2$ 、 $C_{504}H_{1009}CO_2$ 、 $C_{506}H_{1013}CO_2$ 、 $C_{508}H_{1017}CO_2$ 、 $C_{510}H_{1021}CO_2$ 、 $C_{512}H_{1025}CO_2$ 、 $C_{514}H_{1029}CO_2$ 、 $C_{516}H_{1033}CO_2$ 、 $C_{518}H_{1037}CO_2$ 、 $C_{520}H_{1041}CO_2$ 、 $C_{522}H_{1045}CO_2$ 、 $C_{524}H_{1049}CO_2$ 、 $C_{526}H_{1053}CO_2$ 、 $C_{528}H_{1057}CO_2$ 、 $C_{530}H_{1061}CO_2$ 、 $C_{532}H_{1065}CO_2$ 、 $C_{534}H_{1069}CO_2$ 、 $C_{536}H_{1073}CO_2$ 、 $C_{538}H_{1077}CO_2$ 、 $C_{540}H_{1081}CO_2$ 、 $C_{542}H_{1085}CO_2$ 、 $C_{544}H_{1089}CO_2$ 、 $C_{546}H_{1093}CO_2$ 、 $C_{548}H_{1097}CO_2$ 、 $C_{550}H_{1101}CO_2$ 、 $C_{552}H_{1105}CO_2$ 、 $C_{554}H_{1109}CO_2$ 、 $C_{556}H_{1113}CO_2$ 、 $C_{558}H_{1117}CO_2$ 、 $C_{560}H_{1121}CO_2$ 、 $C_{562}H_{1125}CO_2$ 、 $C_{564}H_{1129}CO_2$ 、 $C_{566}H_{1133}CO_2$ 、 $C_{568}H_{1137}CO_2$ 、 $C_{570}H_{1141}CO_2$ 、 $C_{572}H_{1145}CO_2$ 、 $C_{574}H_{1149}CO_2$ 、 $C_{576}H_{1153}CO_2$ 、 $C_{578}H_{1157}CO_2$ 、 $C_{580}H_{1161}CO_2$ 、 $C_{582}H_{1165}CO_2$ 、 $C_{584}H_{1169}CO_2$ 、 $C_{586}H_{1173}CO_2$ 、 $C_{588}H_{1177}CO_2$ 、 $C_{590}H_{1181}CO_2$ 、 $C_{592}H_{1185}CO_2$ 、 $C_{594}H_{1189}CO_2$ 、 $C_{596}H_{1193}CO_2$ 、 $C_{598}H_{1197}CO_2$ 、 $C_{600}H_{1201}CO_2$ 、 $C_{602}H_{1205}CO_2$ 、 $C_{604}H_{1209}CO_2$ 、 $C_{606}H_{1213}CO_2$ 、 $C_{608}H_{1217}CO_2$ 、 $C_{610}H_{1221}CO_2$ 、 $C_{612}H_{1225}CO_2$ 、 $C_{614}H_{1229}CO_2$ 、 $C_{616}H_{1233}CO_2$ 、 $C_{618}H_{1237}CO_2$ 、 $C_{620}H_{1241}CO_2$ 、 $C_{622}H_{1245}CO_2$ 、 $C_{624}H_{1249}CO_2$ 、 $C_{626}H_{1253}CO_2$ 、 $C_{628}H_{1257}CO_2$ 、 $C_{630}H_{1261}CO_2$ 、 $C_{632}H_{1265}CO_2$ 、 $C_{634}H_{1269}CO_2$ 、 $C_{636}H_{1273}CO_2$ 、 $C_{638}H_{1277}CO_2$ 、 $C_{640}H_{1281}CO_2$ 、 $C_{642}H_{1285}CO_2$ 、 $C_{644}H_{1289}CO_2$ 、 $C_{646}H_{1293}CO_2$ 、 $C_{648}H_{1297}CO_2$ 、 $C_{650}H_{1301}CO_2$ 、 $C_{652}H_{1305}CO_2$ 、 $C_{654}H_{1309}CO_2$ 、 $C_{656}H_{1313}CO_2$ 、 $C_{658}H_{1317}CO_2$ 、 $C_{660}H_{1321}CO_2$ 、 $C_{662}H_{1325}CO_2$ 、 $C_{664}H_{1329}CO_2$ 、 $C_{666}H_{1333}CO_2$ 、 $C_{668}H_{1337}CO_2$ 、 $C_{670}H_{1341}CO_2$ 、 $C_{672}H_{1345}CO_2$ 、 $C_{674}H_{1349}CO_2$ 、 $C_{676}H_{1353}CO_2$ 、 $C_{678}H_{1357}CO_2$ 、 $C_{680}H_{1361}CO_2$ 、 $C_{682}H_{1365}CO_2$ 、 $C_{684}H_{1369}CO_2$ 、 $C_{686}H_{1373}CO_2$ 、 $C_{688}H_{1377}CO_2$ 、 $C_{690}H_{1381}CO_2$ 、 $C_{692}H_{1385}CO_2$ 、 $C_{694}H_{1389}CO_2$ 、 $C_{696}H_{1393}CO_2$ 、 $C_{698}H_{1397}CO_2$ 、 $C_{700}H_{1401}CO_2$ 、 $C_{702}H_{1405}CO_2$ 、 $C_{704}H_{1409}CO_2$ 、 $C_{706}H_{1413}CO_2$ 、 $C_{708}H_{1417}CO_2$ 、 $C_{710}H_{1421}CO_2$ 、 $C_{712}H_{1425}CO_2$ 、 $C_{714}H_{1429}CO_2$ 、 $C_{716}H_{1433}CO_2$ 、 $C_{718}H_{1437}CO_2$ 、 $C_{720}H_{1441}CO_2$ 、 $C_{722}H_{1445}CO_2$ 、 $C_{724}H_{1449}CO_2$ 、 $C_{726}H_{1453}CO_2$ 、 $C_{728}H_{1457}CO_2$ 、 $C_{730}H_{1461}CO_2$ 、 $C_{732}H_{1465}CO_2$ 、 $C_{734}H_{1469}CO_2$ 、 $C_{736}H_{1473}CO_2$ 、 $C_{738}H_{1477}CO_2$ 、 $C_{740}H_{1481}CO_2$ 、 $C_{742}H_{1485}CO_2$ 、 $C_{744}H_{1489}CO_2$ 、 $C_{746}H_{1493}CO_2$ 、 $C_{748}H_{1497}CO_2$ 、 $C_{750}H_{1501}CO_2$ 、 $C_{752}H_{1505}CO_2$ 、 $C_{754}H_{1509}CO_2$ 、 $C_{756}H_{1513}CO_2$ 、 $C_{758}H_{1517}CO_2$ 、 $C_{760}H_{1521}CO_2$ 、 $C_{762}H_{1525}CO_2$ 、 $C_{764}H_{1529}CO_2$ 、 $C_{766}H_{1533}CO_2$ 、 $C_{768}H_{1537}CO_2$ 、 $C_{770}H_{1541}CO_2$ 、 $C_{772}H_{1545}CO_2$ 、 $C_{774}H_{1549}CO_2$ 、 $C_{776}H_{1553}CO_2$ 、 $C_{778}H_{1557}CO_2$ 、 $C_{780}H_{1561}CO_2$ 、 $C_{782}H_{1565}CO_2$ 、 $C_{784}H_{1569}CO_2$ 、 $C_{786}H_{1573}CO_2$ 、 $C_{788}H_{1577}CO_2$ 、 $C_{790}H_{1581}CO_2$ 、 $C_{792}H_{1585}CO_2$ 、 $C_{794}H_{1589}CO_2$ 、 $C_{796}H_{1593}CO_2$ 、 $C_{798}H_{1597}CO_2$ 、 $C_{800}H_{1601}CO_2$ 、 $C_{802}H_{1605}CO_2$ 、 $C_{804}H_{1609}CO_2$ 、 $C_{806}H_{1613}CO_2$ 、 $C_{808}H_{1617}CO_2$ 、 $C_{810}H_{1621}CO_2$ 、 $C_{812}H_{1625}CO_2$ 、 $C_{814}H_{1629}CO_2$ 、 $C_{816}H_{1633}CO_2$ 、 $C_{818}H_{1637}CO_2$ 、 $C_{820}H_{1641}CO_2$ 、 $C_{822}H_{1645}CO_2$ 、 $C_{824}H_{1649}CO_2$ 、 $C_{826}H_{1653}CO_2$ 、 $C_{828}H_{1657}CO_2$ 、 $C_{830}H_{1661}CO_2$ 、 $C_{832}H_{1665}CO_2$ 、 $C_{834}H_{1669}CO_2$ 、 $C_{836}H_{1673}CO_2$ 、 $C_{838}H_{1677}CO_2$ 、 $C_{840}H_{1681}CO_2$ 、 $C_{842}H_{1685}CO_2$ 、 $C_{844}H_{1689}CO_2$ 、 $C_{846}H_{1693}CO_2$ 、 $C_{848}H_{1697}CO_2$ 、 $C_{850}H_{1701}CO_2$ 、 $C_{852}H_{1705}CO_2$ 、 $C_{854}H_{1709}CO_2$ 、 $C_{856}H_{1713}CO_2$ 、 $C_{858}H_{1717}CO_2$ 、 $C_{860}H_{1721}CO_2$ 、 $C_{862}H_{1725}CO_2$ 、 $C_{864}H_{1729}CO_2$ 、 $C_{866}H_{1733}CO_2$ 、 $C_{868}H_{1737}CO_2$ 、 $C_{870}H_{1741}CO_2$ 、 $C_{872}H_{1745}CO_2$ 、 $C_{874}H_{1749}CO_2$ 、 $C_{876}H_{1753}CO_2$ 、 $C_{878}H_{1757}CO_2$ 、 $C_{880}H_{1761}CO_2$ 、 $C_{882}H_{1765}CO_2$ 、 $C_{884}H_{1769}CO_2$ 、 $C_{886}H_{1773}CO_2$ 、 $C_{888}H_{1777}CO_2$ 、 $C_{890}H_{1781}CO_2$ 、 $C_{892}H_{1785}CO_2$ 、 $C_{894}H_{1789}CO_2$ 、 $C_{896}H_{1793}CO_2$ 、 $C_{898}H_{1797}CO_2$ 、 $C_{900}H_{1801}CO_2$ 、 $C_{902}H_{1805}CO_2$ 、 $C_{904}H_{1809}CO_2$ 、 $C_{906}H_{1813}CO_2$ 、 $C_{908}H_{1817}CO_2$ 、 $C_{910}H_{1821}CO_2$ 、 $C_{912}H_{1825}CO_2$ 、 $C_{914}H_{1829}CO_2$ 、 $C_{916}H_{1833}CO_2$ 、 $C_{918}H_{1837}CO_2$ 、 $C_{920}H_{1841}CO_2$ 、 $C_{922}H_{1845}CO_2$ 、 $C_{924}H_{1849}CO_2$ 、 $C_{926}H_{1853}CO_2$ 、 $C_{928}H_{1857}CO_2$ 、 $C_{930}H_{1861}CO_2$ 、 $C_{932}H_{1865}CO_2$ 、 $C_{934}H_{1869}CO_2$ 、 $C_{936}H_{1873}CO_2$ 、 $C_{938}H_{1877}CO_2$ 、 $C_{940}H_{1881}CO_2$ 、 $C_{942}H_{1885}CO_2$ 、 $C_{944}H_{1889}CO_2$ 、 $C_{946}H_{1893}CO_2$ 、 $C_{948}H_{1897}CO_2$ 、 $C_{950}H_{1901}CO_2$ 、 $C_{952}H_{1905}CO_2$ 、 $C_{954}H_{1909}CO_2$ 、 $C_{956}H_{1913}CO_2$ 、 $C_{958}H_{1917}CO_2$ 、 $C_{960}H_{1921}CO_2$ 、 $C_{962}H_{1925}CO_2$ 、 $C_{964}H_{1929}CO_2$ 、 $C_{966}H_{1933}CO_2$ 、 $C_{968}H_{1937}CO_2$ 、 $C_{970}H_{1941}CO_2$ 、

引赤紙 エチール炭酸キニーネ

一四六

$H_2O : C_{12}H_{15}NaO_2 + CH_3COOH = C_{12}H_{15}O_2 + CH_3COONa$   
(醫治効用) 内服ニハ、腺病、小兒惡液質等ニ用ヒ外用ニハ、硬膏、軟膏ヲ製スルニ用フ

Charta rubefaciens.  
引赤紙

引赤紙ハ

カンタリス細末

黄蠟

鯨蠟

オレーフ油

テレピンチーナ

常水

- 一分(1)
- 八分(8)
- 三分(4)
- 四分(1)
- 一分(1)
- 十分(10)

ヲ取り混和シ絶ヘス攪拌シツツ二時間煮沸シ壓ヲ加ヘスシテ絨布ヲ以テ濾過シ濾液ノ凝塊ヲ扁皿中ニ容  
レ重湯煎上ニ熔融シテ液狀ヲ保タシメ平等ニ紙片ノ一面ニ塗布シ製スヘシ

密閉シテ貯フヘシ

(醫治効用) 皮膚引赤ノ目的ニ使用ス

Chininum aethylcarbonium.

エチール炭酸キニーネ

$C_{12}H_{15}NO_2 = 396,36$

エチール炭酸キニーネ(一)ハ無色柔軟ノ鍼狀結晶ニシテ殆ト臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ約九十五度ニ於テ  
熔融ス水ニ僅微ニ酒精、エーテル又クロロフォルムニ溶解ス

本品〇・一グラム(0.1g)ヲクロール水ニ溶解シ之ニ過剰ノ「アムモニア水ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又本品ハ  
少量ノ稀硫酸ヲ和シタル水ニ容易ニ溶解シ其液ハ藍綠色ノ螢石彩ヲ呈ス(二)

本品〇・一グラム(0.1g)ニ硫酸一立方センチメートル(1cm)ヲ和シ熱ヲ與ヘテ溶解シ之ニ重クローム酸カ  
リウム溶液一滴ヲ加フレハ綠色ノ溶液ヲ生シ「アセトアルデヒド」ノ臭氣ヲ放ツ(三)

本品ノ硝酸性水溶液(1:20)ハ硝酸バリウム溶液並硝酸銀溶液ニ由テ濁濁スヘカラス(四)  
本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ残留スヘカラス(五)

(註 解) (一)別名オイヒニン」ニシテ  $CO_2 \cdot CO_2H \cdot NO_2$  ナル記號ヲ有ス(II)キニーネ」ノ實性反應(III)エチールアルデヒ  
ド」生成ニ因スル實性反應(四)クロール並硫酸ノ試験(五)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) 微ニ苦味ヲ有スル爲メ「キニーネ代用品トシテ實用シ大人一回量ハ一〇—二〇トス而シテ豫防劑トシテハ一日二  
回〇・五(小兒ニハ〇・二五)ヲ用フ

Chininum ferro-citricum.

枸橼酸鐵キニーネ

枸橼酸鐵キニーネ」ハ

鐵粉

ヲ取り瓷皿ニ入レ之ニ

枸橼酸

三十分(30)

六十分(60)

エチール炭酸キニーネ

枸橼酸鐵キニーネ

一四七

蒸餾水

五千分 (5000)

ヲ以テ製シタル溶液ヲ加ヘ屢々攪拌シツツ四十八時間四十乃至五十度ニ温メ其溶液ヲ濾過シ同一ノ温度ニ於テ蒸發シ舍利別稠トナシ冷後之ニ

硫酸キニーネ

十三分 (13)

ヲ少量ノ稀硫酸ヲ加ヘタル水ニ溶解シ過剩ノ「アムモニア」水ヲ加ヘ茲ニ析出シタル沈澱ヲ水ヲ以テ充分ニ洗滌シテ得タル濕潤ノ「キニーネ」及

枸橼酸末

五分 (5)

ヲ加ヘテ溶解シ其溶液ヲ薄層トナシ四十乃至五十度ノ温ニ於テ乾燥シ製スヘシ

本品ハ光輝アル赤褐色透映ノ薄キ小葉片ニシテ其味苦ク鐵味ヲ帶ヒ水ニ徐々ニ酒精ニ僅微ニ溶解ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黄色血滴鹽溶液ニ由テ藍色ヲ呈シ「アムモニア」水ヲ加フレハ「エーテル」ニ全溶スヘキ白色ノ沈澱ヲ生ス(一)

本品ハ百分中九乃至十分ノ純キニーネ(C<sub>20</sub>H<sub>24</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub> = 324.31)及十一分ノ鐵(Fe = 55.84)ヲ含有ス

本品ヲ熱スレハ初メ炭化シ尋テ燃燒ス其殘留物ハ「アルカリ」性反應ヲ徵スヘカラス(二)

本品ノ水溶液(一〇)ニ「カリ」滴液ノ過剩ヲ和シテ煮沸シ其鐵分悉ク沈降スルニ至ルニ「アムモニア」ノ臭氣ヲ發スヘカラス(三)其近滓ヲ濾別シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナスニ久シキヲ經ルモ結晶性ノ沈澱ヲ生スヘカラス(四)又其水溶液(1:30)ニ硝酸バリウム溶液ヲ和スルモ僅微ノ濁濁ヲ起スニ過クヘカラス(五)

本品ノ百分ニ於テ乾燥セルモノ一グラム(一〇)ヲ水五立方センチメートル(5 ccm)ニ溶解シ之ニ「ナトロン」滴液ヲ和シテ強アルカリ性トナシ逐次四回各十立方センチメートル(10 ccm)ノ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ「エーテル」液ヲ採集シ蒸發シ其殘留物ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量少ナクモ〇〇・九グラム(0.9 g)

光ヲ遮リ貯フヘシ

ナラサルヘカラス(六)茲ニ得タル「キニーネ」ヲ酒精ニ溶解シ之ニ稀硫酸ヲ加ヘテ全ク中性トナシ蒸發シテ結晶セシメタルモノノ試験ハ硫酸キニーネノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品一グラム(一〇)ヲ弱ク熾灼シ硝酸ヲ以テ濡ホシ微温ニ於テ蒸發シ更ニ熾灼スルニ少ナクモ〇・三グラム(0.3 g)ノ酸化鐵ヲ殘留セサルヘカラス(七)

(註 解)

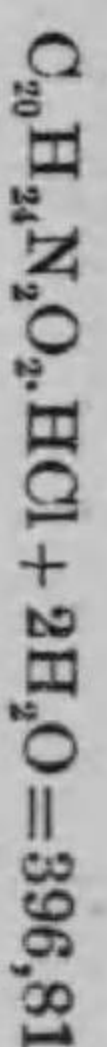
(一)實性反應(二)アルカリ鹽類ヲ含有セサル徵(三)アムモニウム鹽ノ試験(四)酒石酸ノ試験(五)痕跡以上硫酸ヲ夾雜セサル徵(六)キニーネノ最少含量九%ニ該當ス而シテ初メ「ナトロン」ニヨリ「キニーネ」及鐵ヲ析出シ「キニーネ」ハ「エーテル」ニ浸出セラルル七酸化鐵ノ最少含量三十%(金屬鐵二十一%)ニ該當ス

(醫治効用)

一日數回〇・一〇・五ヲ食血患者ニ強壯劑トシテ用フ

Chininum hydrochloricum.

鹽酸キニーネ



鹽酸キニーネハ白色錠狀ノ結晶ニシテ味甚タ苦ク三分ノ酒精並三十四分ノ水ニ溶解ス其水溶液ハ無色中性ニシテ螢石彩ヲ現ハサス

本品ノ水溶液(1:30)五立方センチメートル(5 ccm)ニ「クロール」水一立方センチメートル(1 ccm)ヲ和シ尋テ「アムモニア」水ノ過剩ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又其水溶液(1:300)ハ稀硫酸ニ由テ藍色ノ螢石彩ヲ現ハス又本品ノ水溶液ハ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ和スレハ白澱ヲ生ス(一)

本品ノ水溶液(1:50)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ濁濁スルコトアルモ僅微ニ過クヘカラス(二)又稀硫酸ニ



由テ潤濁スヘカラス(III)

本品〇・〇五グラム(0.05g)ニ硫酸十滴及硝酸一滴ヲ和スルニ類赤黄色ヲ呈スヘカラス(四)又本品ニ石灰乳ヲ和シテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(五)

本品二グラム(2g)ニ水二十立方センチメートル(20cch)ヲ和シ六十度ノ温ヲ與ヘテ溶解スルニ至リ其溶液ニ風化セサル硫酸ナトリウムノ新ニ粉末トナセルモノ一グラム(1g)ヲ加ヘ均等ニ混和シ冷後屢々攪拌シツツ十五度ニ於テ一時間放置シ其混和物ヲ約百平方センチメートル(100cch)ノ乾燥布片ニ包ミ絞搾シテ得タル液ヲ直徑七センチメートル(7cch)ノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ十五度ニ於テ其濾液五立方センチメートル(5cch)ヲ乾燥セル試験管ニ取リ十五度ニ於テ徐々ニ「アムモニア」水ヲ加ヘテ輕ク搖動スルニ初メ生シタル沈澱復タ全ク溶解シテ澄明トナルニ至ルニハ其「アムモニア」水ヲ費スコト五立方センチメートル(5cch)ニ過クヘカラス(六)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ九・一分ニ過クヘカラス(七)本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)

(註 解)

(一)實性反應(二)痕跡以上硫酸キニーネノ試験(三)クロールバリウムノ試験(四)硫酸ノミニテ赤色ヲ呈スレハ「サリチン」褐色ヲ呈スレハ砂糖、更ニ硝酸ヲ加フルニ赤黄色ヲ呈セハ「モルヒネ」ノ存在ヲ徵ス(五)「アムモニア」水ニ溶解スルルカロイド硫酸鹽ハ硫酸キニーネヨリモ水ニ溶解シ易ク之ニ反シテ硫酸キニーネハ副アルカロイド硫酸鹽ヨリモ比較的アムモニア水ニ溶解シ易キニアリ故ニ副アルカロイドヲ混有セル硫酸鹽ノ冷飽和溶液中ニハ硫酸キニーネノ一定量ノ外比較的多量ノ副アルカロイド硫酸鹽類ヲ含有シ之ニ「アムモニア」水ヲ加フレハ「アルカロイド」類ヲ析出シ之ヲ再溶解スルニハ愈々副アルカロイド多クモレバ愈々多量ノ「アムモニア」水ヲ消費スルモノトシテ茲ニ豫メ硫酸ナトリウムヲ加フルハ「硫酸キニーネ」ヲ硫酸キニーネニ變化スルニヨリ  $2(C_{20}H_{24}N_2O_2 \cdot HCl) + Na_2SO_4 = (C_{20}H_{24}N_2O_2)_2 \cdot H_2SO_4 + 2NaCl$ ;  $(C_{20}H_{24}N_2O_2)_2 \cdot H_2SO_4 + 2NH_3 + 6H_2O = 2(C_{20}H_{24}N_2O_2 \cdot 3H_2O) + (NH_4)_2SO_4$  (七)減失量多クハ「水」ヲ添加セテ増量シタル徵  $C_{20}H_{24}N_2O_2 \cdot HCl \cdot 2H_2O = C_{20}H_{24}N_2O_2 \cdot HCl$

+2H<sub>2</sub>O (八)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

内服ニハ間歇熱(發作前約四乃至八時間ニ〇・六一〇、該病豫防(一日數回〇・三—〇・五)、間歇性神經痛、頭痛、流行性感冒、百日咳、メニール氏眩暈等、其他一般解熱劑トシ又ハ重病快復強壯劑(此目的ニハ主ニ「キナ皮」ヲ用フ)トシテ用フ外用ニハ肺炎、百日咳ノ吸入劑トシ其他洗滌劑等トシテ用フ

Chininum sulfuricum.

硫酸キニーネ



硫酸キニーネハ白色細微ノ風化シ易キ鹹狀結晶ニシテ味甚タ苦ク約八百分ノ水、二十五分ノ熱湯又六分ノ熱酒精ニ溶解ス其水溶液ハ無色中性ニシテ螢石彩ヲ現ハサス之ニ稀硫酸一滴ヲ點加スレハ藍色ノ螢石彩ヲ現ハス

本品ノ冷飽和水溶液五立方センチメートル(5cch)ニ「クロール」水一立方センチメートル(1cch)ヲ和シ尋テ「アムモニア」水ノ過剩ヲ加フレハ綠色ヲ呈ス又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ヲ和スレハ白澱ヲ生ス(一)

本品〇・〇五グラム(0.05g)ハ之ヲ硫酸一立方センチメートル(1cch)ニ溶解スルニ淡類黄色ヲ呈スルニ過キス(二)又硝酸一立方センチメートル(1cch)ニ染色セスシテ溶解スヘシ(三)又本品ヲ石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ「アムモニア」ヲ發スヘカラス(四)又本品ノ冷飽和水溶液ハ稀硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ヲ加フルニ變化スヘカラス(五)

本品一グラム(1g)ニ「クロロフォルム」ニ容量及純アルコホル一容量ノ混液七立方センチメートル(7cch)ヲ

和シ少時四十乃至五十度ノ温ヲ與フルニ全ク溶解シ冷ユルモ殆ト澄明ニ止マルヘシ(六)  
 本品ノ四十乃至五十度ニ於テ充分風化シタルモノニグラム(20)ヲ試験管ニ取り水二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ和シ屢々攪拌シツツ三十分時間六十乃至六十五度ノ温ヲ與ヘ尋テ試験管ヲ十五度ノ水中ニ入レ屢々振盪シツツ二時間放置シ其内容物ヲ約百平方センチメートル(100 ccm)ノ乾燥布片ニ包ミ絞搾シテ得タル液ヲ直徑七センチメートル(7 cm)ノ濾紙ヲ用ヒテ濾過シ十五度ニ於テ其濾液五立方センチメートル(5 ccm)ヲ乾燥セル試験管ニ取り十五度ニ於テ徐々ニ「アムモニア水」ヲ加ヘテ輕ク搖動スルニ初メ生シタル沈澱復タ全ク溶解シテ澄明トナルニ至ルニハ其「アムモニア水」ヲ費スコト五立方センチメートル(5 ccm)ニ過クヘカラス(七)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ十六・二分ニ過クヘカラス(八)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(九)  
 壺中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

(註 解)

(一) 實性反應 (二) 硫酸ニ由テ褐色ヲ呈セハ「サリチン」ノ存在ヲ徵ス (三) 硝酸ニ由テ赤色ヲ呈セハ「セルヒネ、褐色ヲ呈セハ他ノ有機性夾雜物」ノ存在ヲ徵ス (四) 「アムモニア水」ノ試験 (五) 硫酸キニーネノ試験 (六) 砂糖他ノ「アルカロイド」ノ試験 (七) 他ノ「キナルカロイド」ノ試験 (鹽酸キニーネ參照) (八) 減失量多クハ水ヲ添加シテ増量シタル量 (九) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用) 鹽酸キニーネニ同シ

Chininum tannicum.  
 タンニン酸キニーネ

タンニン酸キニーネハ

硫酸キニーネ

ヲ取リ

二分 (2)

蒸餾水

六十分 (60)

稀硫酸

必要量

ヨリ成レル混液ニ溶解シ之ニ

タンニン酸

四分 (4)

蒸餾水

二十五分 (25)

ノ溶液ヲ少量ツツ加ヘ更ニ

タンニン酸

一分 (1)

蒸餾水

十六分 (16)

ノ溶液ヲ追加シ尋テ

アムモニア水

一分 (1)

ヲ攪拌シツツ注加シ玆ニ生シタル沈澱ヲ十二時間放置シタル後採集シ

蒸餾水

二十分 (20)

ヲ以テ洗滌シ絞搾シ

蒸餾水

十分 (10)

ヲ和シ熱シテ黄褐色透映樹脂様ノ物質ヲ生スルニ至リ液分ヲ傾瀉シ初メ三十乃至四十度後百度ノ温ニ於テ光ヲ遮リ乾燥シ粉碎シテ細末トナシ製スヘシ  
 本品ハ帶黄白色無臭無晶形ノ粉末ニシテ極メテ微弱ノ苦味並澁味ヲ有シ水ニ僅微ニ溶解シ酒精ニ較シ溶

解シ易シ

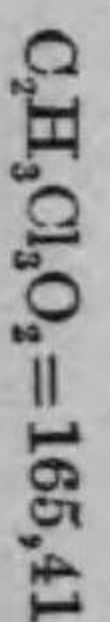
本品ハ百分中三十乃至三十二分ノ純キニーネ(C<sub>21</sub>H<sub>19</sub>N<sub>3</sub>O<sub>2</sub>=324.31)ヲ含有ス  
 本品ノ水溶液若クハ酒精溶液ニ過クロール鐵溶液ヲ加フレハ藍黑色ヲ呈ス(一)  
 本品一グラム(一〇)ニ水五十立方センチメートル(50 ccm)及硝酸一立方センチメートル(1 ccm)ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素水並硝酸銀溶液ニ由テ變化スヘカラス(二)又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ濁濁スルモ僅微ニ止マルヘシ(三)  
 本品ノ百度ニ於テ乾燥シタルモノ一グラム(一〇)ヲ分液漏斗ニ取り水五立方センチメートル(5 ccm)ヲ和シナトロン滴液ヲ以テ強アルカリ性トナシ十五立方センチメートル(15 ccm)ノ「エーテル」ヲ加ヘ強ク振盪シ其澄明ナル「エーテル」液ヲ豫メ秤量セル器中ニ取り尙二回各十五立方センチメートル(15 ccm)ノ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ分取シタル「エーテル」液ヲ合シテ蒸發シ殘留物ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量少ナクモ〇・二グラム(〇・2 g)ナラサルヘカラス(四)又本品ノ較多量ヲ取り同上ノ方法ニ由リ製出シタル「キニーネ」ヲ更ニ酒精ニ溶解シ稀硫酸ヲ加ヘテ精密ニ中和シ蒸發シテ得タルモノハ其性質總ヘテ硫酸キニーネノ條ニ掲クル所ニ一致セサルヘカラス(五)  
 本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ十分ニ過クヘカラス(六)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・二分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)  
 光ヲ遮リ貯フヘシ

(註 解)

(一)實性反應(二)金屬並クロール化物ノ試験(三)痕跡以上ノ硫酸ノ試験(四)三十%ノ「キニーネ」最少含量ニ該當ス(五)此目的ニハ約八グラムノ「タンニン酸キニーネ」ヲ用フヘシ(六)水分ノ試験(七)無機性夾雜物ノ試験  
 (醫治効用) 收斂、強壯劑ニシテ一日數回〇・一—一・〇ヲ散劑、丸劑トナシ下痢、肺癆ノ盜汗、赤痢又百日咳等ニ用フ

OChloralum hydratum.

抱水クロラール



抱水クロラール(一)ハ無色透明ノ乾燥結晶ニシテ竄透性ノ臭氣ヲ放チ味ハ腐蝕性ニシテ稍苦シ五十三乃至五十六度ニ於テ熔融シ水、酒精又エーテルニ容易ク、脂肪油並硫化炭素ニ僅ニ又五分ノ「クロロフォルム」ニ徐々ニ溶解ス  
 本品ニ「ナトロン」滴液ヲ和シテ熱スレハ初メ濁濁シ次ニ「クロロフォルム」ヲ析出シテ澄明ノ液トナル(二)本品一グラム(一〇)ヲ酒精十立方センチメートル(10 ccm)ニ溶解シテ得タル液ハ藍色試験紙ヲ殆ト赤變セス(三)之ニ硝酸銀溶液ヲ加フルニ直チニ變化スヘカラス(四)又本品〇・五グラム(〇・5 g)ヲ硫酸五立方センチメートル(5 ccm)ト共ニ硝子栓ヲ有スル内徑三センチメートル(3 cm)ノ硝子管ニ容レ屢、振盪シテ放置スルモ一時間以内ニ染色スヘカラス(五)  
 本品一グラム(一〇)ヲ水五立方センチメートル(5 ccm)ニ溶解シタルモノハ之ヲ温ムルニ「ペンツォール」ノ臭氣ヲ放ツヘカラス(六)  
 本品一グラム(一〇)ヲ瓷皿ニ取り之ニ粗製硝酸一立方センチメートル(1 ccm)ヲ注クニ黄色ヲ呈セス三四分時間重湯煎上ニ温ムルモ亦然リ更ニ十分時間温ムルニ類黄色ノ蒸氣ヲ發スヘカラス(七)  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(八)  
 壺中ニ容レ密栓シテ貯フヘシ

一回ノ極量 二グラム(2 g)  
 一日ノ極量 六グラム(6 g)

(註) 解

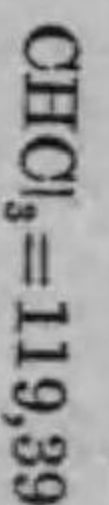
(一)  $\text{COCl}_2, \text{CH}_3\text{OH}$  ナル構造ヲ有ス (二) 實性反應  $\text{COCl}_2, \text{CH}_3\text{OH} + \text{NaOH} = \text{CHCl} + \text{HCO}_2\text{Na} + \text{H}_2\text{O}$  (三) 鹽酸又ハ「トリクロール酸」ノ試液 (四) 分解セルモノハ白濁ス (五) 有機性夾雜物ノ試液 (六) 再結晶法ニヨリ殘留セル「メチルアルコール」ノ試液 (七) クロラールアルコホラート」ノ試液  $\text{COCl}_2, \text{CH}_3\text{CO}_2\text{H}, \text{OH} + 2\text{HNO}_3 = \text{COCl}_2, \text{CO}_2\text{H} + \text{OH}_2\text{OOH} + \text{N}_2\text{O}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$  (八) 無機性夾雜物ノ試液

(醫治効用)

催眠劑、鎮靜劑ニシテ内服ニハ一回〇・五—二・〇ヲ水溶液トシ又ハ酒類ニ溶解シ神經性不眠症、精神興奮症、痙攣性諸疾患等ニ用ヒ外用ニハ浣腸劑、塗布劑トシ又ハ齒痛ニ用フ而シテ本品ハ心肺疾患、高熱、胃腸潰瘍ニハ禁忌トス

Chloroformium.

クロロフォルム



クロロフォルム (一) ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ味微ニ甘ク六十乃至六十二度ニ於テ沸騰ス水ニ極メテ僅微ニ溶解シ酒精、エーテル、脂肪油又揮發油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重一・四八五乃至一・四九五ナリ (二)

本品ノ酒精溶液ニカリ滴液及少量ノ「アニリン」ヲ和シテ熱スレハ不快臭透性ノ臭氣ヲ發ス (三) 本品ニ半容量ノ水ヲ和シテ振盪スルニ其水ハ藍色試験紙ヲ赤變セス (四) 又其水ヲ等分ノ水ヲ以テ稀釋シタル硝酸銀溶液中ニ注意シテ注加スルニ蛋白質濁ヲ起スニ過クヘカラス (五)

本品ハ之ニ「ヨード」亞鉛澱粉溶液ヲ和シ振盪スルニ染色セス又其「ヨード」亞鉛澱粉溶液ハ藍染スヘカラス (六)

本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス (七) 又本品十立方センチメートル (10 cc) ハ

重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ見ルヘカラス (八)

本品二十立方センチメートル (20 cc) ヲ硫酸十五立方センチメートル (15 cc) ト共ニ内徑三センチメートル (3 cm) ノ共栓硝子圓筒中ニ屢、振盪スルニ其硫酸一時間以內ニ染色スヘカラス (九)

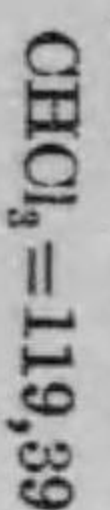
壇中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

(註) 解

(一) 通常〇・六乃至一%ノ無水アルコールヲ混有ス (二) 酒精含量多ケレハ比重低シ (三) 所謂「イソニトリール」反應ニシテ「イソチアソフホル」ヲ生スルニ  $\text{C}_6\text{H}_5\text{NH}_2 + \text{CHCl}_3 + 3\text{KOH} = 3\text{KCl} + 3\text{H}_2\text{O} + \text{C}_6\text{H}_5\text{NC}$  (四) 遊離鹽酸 (又ハ遊離硫酸又ハ醋酸等) ノ試液 (五) 白濁スレハ鹽酸、類黃色又ハ類赤色ノ濁濁ヲ生セハ「亞砒酸」又ハ「砒酸」ヲ夾雜スル徵 (六) 遊離クロール「チ夾雜スレハ」ヨード「ヨード」ヲ遊離シテ澱粉ヲ藍染シ一部ハ「クロロフォルム」ニ溶解シ之ヲ紫色ニ染ム  $\text{ZnI}_2 + \text{Cl}_2 = \text{ZnCl}_2 + \text{I}_2$  (七) 「ノオスゲン」ノ試液  $\text{CHCl}_3 + \text{O} = \text{HOI} + \text{COCl}_2$  (八) 不揮發性夾雜物ノ試液 (九) 染色スレハ他ノ「クロール」交換體 (殊ニ「クロール」エチリデン) 及「クロール」含有アミール化合物 (「フェーセル」油含有ノ酒精原料ニ使用シタルニヨル) ヲ夾雜スル徵 (醫治効用) 外科、産科手術ニ於テ吸入麻酔劑トシテ常用シ又鎮痙劑トシテ痙攣性諸疾患 (破傷風、ストリキニーネ中毒等) ニ用ヒ其他鎮痛劑トシテ痙攣質斯、神經痛等ニ塗擦ス内服ニハ二—十滴ヲ砂糖又ハ粘液性物質ニ和シ胃痛、吃逆、鉛痛、鉛毒、妊婦ノ嘔吐、梅毒等ニ用フ

Chloroformium pro narcosi.

麻酔用クロロフォルム



麻酔用クロロフォルム (一) ハ無色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ味微ニ甘ク六十乃至六十二度ニ於テ沸騰ス水ニ極メテ僅微ニ溶解シ酒精、エーテル、脂肪油又揮發油ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重一・四八五乃至一・四八九ナリ (二)

本品ノ酒精溶液ニ「カリ滴液及少量ノ「アニリン」ヲ和シテ熱スレハ不快竄透性ノ臭氣ヲ發ス(三)本品ニ半容量ノ水ヲ和シテ振盪スルニ其水ハ藍色試験紙ヲ赤變セス(三)又其水ヲ等分ノ水ヲ以テ稀釋シタル硝酸銀溶液中ニ注意シテ注加スルニ變化スヘカラス(四)

本品ハ之ニ「ヨード」亞鉛澱粉溶液ヲ和シ振盪スルニ染色セス又其ヨード亞鉛澱粉溶液ハ藍染スヘカラス(五)

本品ヲ濾紙上ニ點滴シテ揮散セシムルニ臭氣ヲ遺スヘカラス(六)又本品十立方センチメートル(10 ccm)ヲ重湯煎上ニ蒸發スルニ殘留物ヲ見ルヘカラス(七)

本品二十立方センチメートル(20 ccm)ヲ硫酸十五立方センチメートル(15 ccm)及「フォルマリン」四滴ト共ニ内徑三センチメートル(3cm)ノ共栓硝子圓筒中ニ屢振盪スルニ其硫酸三十分時間以内ニ染色スヘカラス(八)

本品三十立方センチメートル(30 ccm)ヲ新ニ破碎セル豌豆大ノ苛性カリ約五グラム(5g)上ニ撒注シ密閉シ強ク振盪シ光ヲ遮リ放置スルニ其苛性カリハ六時間以内ニ類黃色ヲ呈スヘカラス(九)褐色小壺中ニ殆ト全滿シ密栓シ冷暗處ニ注意シテ貯フヘシ

(註) 解

- (一) 酒精ヲ含有スレハ比重ヲ低下ス(二) イソニトリール反應(クロロフォルム)ノ條參照セヨ(三) 鹽酸ノ試験(四) 白濁ヲ生スレハ鹽酸、類黃色又ハ類赤色ノ濁濁ヲ生スレハ亞硫酸又ハ硫酸ヲ夾雜ス(五) クロロフォルムノ分解ニヨリテ生シタル遊離クロールノ試験(六) 「フオスゲン」ノ試験ニシテ「クロロフォルム」ニ於ケル酸素ノ作用ニヨリテ生ス  $\text{CHCl}_3 + \text{O}_2 = \text{HCl} + \text{COCl}_2$  (七) 不揮發物ノ試験(八) 第三ブチルアルコール、イソアミールアルコール、イソブチルアルコール又ハ「アミール」クロロイド」ノ如キ有機性夾雜物存在スレハ赤染又ハ褐染ス(九) ジイニール、アルコール又ハ「アルデヒド」ノ試験

(醫治効用)

吸入麻酔藥トシテ使用セラル

Chrysarobinum. *Araroba depurata.*

クリサロビン 精製ゴア末

*Andira Araroba Aublet.*

クリサロビン(一)ハ本植物ノ幹ノ空窩中ニ析出セル物質ヲ精製セルモノナリ

本品ハ黃色ノ輕キ結晶性粉末ニシテ二千倍ノ水ヲ加ヘテ煮沸スレハ少量ノ殘滓ヲ遺シテ溶解ス之ヲ濾過シテ得タル無味ノ液ハ微ニ帶褐類赤色ヲ呈シ試験紙ヲ變色セス又過クロール鐵溶液ニ由テ變色セス(二)本品ニ「アムモニア」水ヲ和シ振盪シテ二十四時間放置スレハ徐々ニ鮮紅色ヲ呈ス又本品〇・〇〇一グラム(0.001g)ヲ時計硝子ニ取り發烟硝酸一滴ヲ加ヘ其赤色ノ溶液ニ「アムモニア」水ヲ注キテ混攪スレハ紫色ヲ呈ス(三)

本品ヲ硫酸ニ撒布スルニ帶赤黃色ノ液ヲ生セサルヘカラス(四)又本品一分ヲ約三百分ノ熱酒精、溫クロロフォルム又硫化炭素ニ溶解スルニ僅微ノ不溶分ヲ遺スニ過クヘカラス(五)

本品ヲ熱スルニ熔融シテ黃色ノ蒸氣ヲ放チ炭化シ(六)更ニ之ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・二五分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(七)

(註) 解

- (一) クリサロビン  $\text{C}_{10}\text{H}_8\text{O}$ 、ヨル成ル(二) 及(三) 本品ノ特徴(四) 泡沸シ又ハ黑色ヲ呈スレハ他ノ物質ノ存在ヲ徵ス(五) 夾雜物ノ試験(六) 正品ノ特徴(七) 無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

主トシテ外用ニ軟膏(1:10)トナシ乾癬、輪癬、奇生性瘤行疹等ニ用フ

Cocainum hydrochlorium.

鹽酸コカイン



鹽酸コカイン(一)ハ無色小葉狀或ハ稜柱狀結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト至ク臭氣ナク水並酒精ニ溶解シ中性或ハ殆ト中性ノ反應ヲ徵ス(二)此溶液ハ苦味ヲ有シ舌上鈍麻ノ感覺ヲ起ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和シテ酸性トナシタルモノハ昇汞溶液ニ由テ白色ノ沈澱、ヨード溶液ニ由テ褐色ノ沈澱又カリ滴液ニ由テ酒精並エーテルニ溶解シ易キ白色ノ沈澱ヲ生ス又硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ白色ノ沈澱ヲ生ス(三)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ硫酸一立方センチメートル(1ccm)ト共ニ五分時間約百度ニ温メ冷後之ニ注意シテ水二立方センチメートル(2ccm)ヲ注ケハ安息香酸メチルエステルノ香氣ヲ發シ冷ユレハ夥シク結晶ヲ析出ス此析出物ハ酒精二立方センチメートル(2ccm)ニ由テ復タ溶解ス(四)

本品〇・〇五グラム(0.05g)ヲ水五立方センチメートル(5ccm)ニ溶解シ之ニ「クローム酸溶液五滴ヲ滴加スルニ毎滴黃澱ヲ生シ此沈澱ハ混液ヲ搖動スレハ溶解シ更ニ鹽酸〇・八立方センチメートル(0.8ccm)ヲ加フレハ復タ析出ス(五)

本品〇・一グラム(0.1g)ハ硫酸一立方センチメートル(1ccm)並硝酸一立方センチメートル(1ccm)ニ無色ニ溶解スヘシ(六)又本品〇・一グラム(0.1g)ヲ水五立方センチメートル(5ccm)ニ溶解シ之ニ稀硫酸三滴ヲ和シタル後過マンガン酸カリウム溶液五滴ヲ和スルニ紫色ヲ呈シ三十分時間以内ニ殆ト減色スヘカラス(七)

本品〇・一グラム(0.1g)ヲ水百立方センチメートル(100ccm)ニ溶解シ振盪スルコトナク之ニ「アムモニア水

四滴ヲ和シ靜ニ放置スルニ一時間以内ニ潤濁スヘカラス(八)

本品ノ水溶液(1:30)ハ硝酸バリウム溶液ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キス(九)又チトロン滴液ニ由テ白色結晶性ノ沈澱ヲ生シ其際「アムモニア」ヲ發スヘカラス(十)

本品ハ百度ニ於テ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ〇・五分ニ過クヘカラス(十一)本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ〇・一分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(十二) 燻中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・〇五グラム(0.05g)  
一日ノ極量 〇・一五グラム(0.15g)

(註)

(一) HCl.N(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>H<sub>2</sub> <math>\begin{matrix} \text{O} \\ \parallel \\ \text{C} \\ \parallel \\ \text{O} \end{matrix}>

ナル構造ヲ有ス(二)酸性ヲ呈スレハ遊離鹽酸ヲ夾雜ス(三)實性反應(四)實性反應即チ硫酸ニ由テ「エタニ」安息香酸及メチルアルコールニ分解シ冷後析出スル安息香酸ノ結晶ハ酒精ニ溶解ス  
C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>4</sub> + 2H<sub>2</sub>O = C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>2</sub> + O<sub>2</sub>H<sub>2</sub>COOH + CH<sub>3</sub>OH 而シテ安息香酸ノ一部ハ「メチルアルコール」ト化合シ安息香酸メチルエステルヲ生ズ  
C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>4</sub> + O<sub>2</sub>H<sub>2</sub>COH + CH<sub>3</sub>OH = C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>2</sub> + H<sub>2</sub>O (五)實性反應ニシテ再溶解タル「クローム酸コカイン」ハ鹽酸ニ逢フテ析出ス C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>4</sub>.HCl + CrO<sub>3</sub> + H<sub>2</sub>O = C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>2</sub>.CrO<sub>3</sub> + HCl (六)砂糖ヲ夾雜スレハ褐色「サリチン」ヲ夾雜スレハ赤色、不純品ナルカ又ハ他ノ「アルカロイド」ヲ夾雜スレハ硫酸ニヨリ黃色又ハ赤色ヲ呈シ、モルヒネ「ヲ夾雜スレハ硝酸ニヨリ赤色ヲ呈ス(七)チンナミールニクニ」ノ試験ニシテ此物ハ過マンガン酸カリウムニヨリ脱色力早シ(八)他ノ「コカイン」ノ試験、振盪スレハ「コカイン」ヲ析出スルヲ以テ注意スヘシ(九)痕跡以上硫酸ノ試験(十)チトロン滴液ニ由テ生スル白澱ハ「コカイン」ニシテ「アムモニア」ヲ發スレハ「アムモニウム鹽類」ヲ夾雜スル徵(十一)結晶水存在セサル徵(十二)無機性夾雜物ノ試験

(醫治効用)

内服ニハ一回〇・〇一—〇・〇五ヲ水溶液トナシ胃痛、妊婦嘔吐、船暈、百日咳、喘息等ニ用ヒ外用ニハ小手術局所麻酔劑トシテ殊ニ口腔、咽喉、喉頭、鼻、眼、膈等ノ疾患ニ用フ而シテ粘膜ノ知覺麻痺ニハ五—二十%溶液ヲ塗布シ點眼水トシテハ二%溶液ヲ、皮下注射ニハ一—十%溶液半—一筒ヲ用フ其他疼痛及刺激ヲ緩解スル爲ニ齒齦ニ塗布シ齒槽ニ結晶ヲ挿入シ又口内炎、扁桃腺炎、聲門痙攣、喉頭、百日咳、裏急後重等ニ塗布ス

Coccionella.

臙脂蟲 コセニル

Coccus anchi L.

臙脂蟲(一)ハ本昆蟲ノ雌蟲ヲ乾燥セルモノナリ

本品ハ長サ五ミリメートル(5mm)ニ至ル稍、卵圓形又ハ橢圓形ノ顆粒ヲナシ横徑ノ線條ヲ現ハシ上部ハ凸形、下部ハ平坦若クハ凹形ヲナシ帶紫黑色或ハ帶紫灰色ヲ有シ銀色ヲ帶フルヲ常トス研磨スレハ粉碎シ易ク其粉末ハ暗赤色乃至暗褐色ヲ有ス

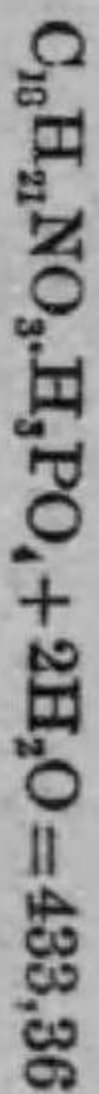
本品ハ異物ヲ混有スヘカラス

本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ六分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(三)

(註) 解 (一)主成分ハ「カルミン酸又カルミン赤素  $C_{12}H_{10}O_2$ 」トス(二)無機性夾雜物ノ試驗(應) 用 (齒粉、丁幾等ノ著色ニ用フ)

O Codeinum phosphoricum.

磷酸コデイン



磷酸コデイン(一)ハ白色細微ノ鍼狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ苦味ヲ有シ約三五分ノ水ニ溶解シ弱酸性ノ反應ヲ徵ス酒精ニ溶解シ難シ  
本品〇〇一グラム(0.01g)ヲ硫酸十立方センチメートル(10ccm)ニ投スレハ殆ト無色ニ溶解シ(二)更ニ之ニ

一二滴ノ過クロール鐵溶液ヲ加ヘ温ムレハ藍色次ニ紫色ヲ呈ス又本品ノ水溶液(1:30)ハ硝酸銀溶液ニ由テ黃疸又カリ滴液ニ由テ白淀ヲ生ス(三)

本品ノ水溶液(1:100)一立方センチメートル(1ccm)ニ赤色血滴鹽一小粒ヲ水十立方センチメートル(10ccm)ニ溶解シ之ニ過クロール鐵溶液一滴ヲ和シタルモノヲ注加スルニ直チニ藍色ヲ呈スヘカラス(四)  
本品ノ水溶液(1:30)ニ硝酸ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ硝酸銀溶液ニ由テ變化セス又硝酸バリウム溶液ニ由テ直チニ濁濁スヘカラス(五)

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ八・五分ニ過クヘカラス(六)  
注意シテ貯フヘシ

一回ノ極量 〇・一グラム(0.1g)  
一日ノ極量 〇・三グラム(0.3g)

(註) 解 (一)  $C_{16}H_{21}NO(OH)(OCH_2)H_2PO_4 \cdot 3H_2O$  ナキ構造ヲ有ス(二)赤色血滴鹽「ナルコチン、ナルチン、砂糖等ヲ夾雜スル鹽(III)實性反應  $C_{16}H_{21}NO_2 \cdot H_2PO_4 + 3AgNO_3 = Ag_3PO_4 + C_{16}H_{21}NO_2 \cdot HNO_3 + 2HNO_3$ ;  $C_{16}H_{21}NO_2 \cdot H_2PO_4 + 2KOH = C_{16}H_{21}NO_2 + K_2HPO_4 + 2H_2O$  (四)「セルロゼ」ノ試驗即チ「セルロゼ」ノ赤色血滴鹽ヲ黃色血滴鹽ニ還元セザルモノハ過クロール鐵ニヨリテ藍色ヲ呈ス  $4C_{16}H_{21}NO_2 + 4K_2Fe(OH)NO_2 = 2C_{16}H_{21}NO_2 + 4K_2Fe(OH)NO_2 + 4FeCl_2 + 3K_2Fe(OH)NO_2 = Fe_3[Fe(OH)NO_2]_3 + 12KCl$  (五)痕跡以上クロール化物又硫酸鹽ノ試驗(六)水分 試驗ニシテ理論上ハ八・三二%ノ結晶水ヲ含有ス

(醫治効用) 鎮靜劑ニシテ「モルヒネ」ニ代用ス其作用ハ「モルヒネ」ニ比シ約三倍弱キモ副作用ナキト習慣セサルトナリ以テ特長トシ一日數回〇〇一—〇〇五ヲ丸劑、散劑、錠劑又ハ溶液トナシ腸及下腹疼痛、氣管枝加答兒及肺癆患者ノ咳嗽、糖尿病、不眠症等ニ用フ

Cognac.

コニアク

コニアクハ葡萄酒ヲ蒸餾シテ製シタル品質良好ノ酒精性飲料ニシテ黄色澄明氣味佳快ナリ  
本品百立方センチメートル(100 ccm)中ハ三十五乃至三十九グラム(35-39 g)ノ純エチールアルコール  
( $C_2H_5O = 46.06$ )ヲ含有ス

本品百立方センチメートル(100 ccm)ヲ一分時間ニ十滴以内溜出スル速度ヲ以テ徐々ニ蒸餾シテ得タル初  
溜液十立方センチメートル(10 ccm)中ヨリ其〇・一立方センチメートル(0.1 ccm)ヲ試験管ニ取り之ニ過マ  
ンガン酸カリウム溶液(1:100)五立方センチメートル(5 ccm)及硫酸〇・二立方センチメートル(0.2 ccm)ヲ加  
ヘ二乃至三分時間ノ後稀酸溶液(1:12)一立方センチメートル(1 ccm)ヲ以テ脱色シ試験管内ノ混液黄色ヲ  
呈スルニ至ラハ更ニ硫酸一立方センチメートル(1 ccm)ヲ加ヘテ振盪シ全ク脱色シタル後之ニ「フクシン  
亞硫酸溶液五立方センチメートル(5 ccm)ヲ加ヘ試験管ヲ栓塞シ輕ク搖動シタル後放置スルニ一時間以内  
ニ呈色セス或ハ呈色スルコトアルモ微ニ藍色ヲ帶フルニ過クヘカラス又前上初溜液殘餘ノ全部ヲ取り之  
ニ過マンガン酸カリウム溶液(1:100)二百五十立方センチメートル(250 ccm)及硫酸十立方センチメートル  
(10 ccm)ヲ加ヘテ振盪シ二乃至三分時間ノ後稀酸溶液(1:12)ヲ以テ脱色シ蒸餾スヘシ蒸餾中ハ時々溜液約  
五立方センチメートル(5 ccm)ヲ取り之ニ鹽酸フェニールヒドラチン約〇・三グラム(0.3 g)ニトロプルシヤ  
ドナトリウム溶液(1:40)四滴及ナトロン溜液(1:10)一立方センチメートル(1 ccm)ヲ加フルニ暗赤色ヲ呈  
セサルニ至ラハ受器ヲ換ヘ溜液ヲ採集シ之ニ炭酸カルチウム三グラム(3 g)ヲ加ヘテ更ニ蒸餾シ其溜液ニ  
過剩ノ「アムモニア水ヲ注キ八十度ヲ超エサル温ニ於テ蒸發シ濃厚トナシ其二滴ヲ物體硝子上ニ取り之  
ニ昇汞溶液一滴ヲ加ヘ顯微鏡下ニ檢スルニ二三放線又ハ多放線狀ノ星狀結晶ヲ認ムヘカラス(二)

(註 解)

(一)メチールアルコールノ試験

(醫 治 効 用)

酒精ノ條ヲ參照スヘシ

Colla piscium, Ichthyocolla.

魚膠

Acipenser Hnaso L.

魚膠(一)ハ本魚ノ鰾ヨリ得タルモノナリ

本品ハ類白色強韌半透明角質様ノ皮膜或ハ無色透映ニシテ虹彩ヲ帶フル葉片或ハ纖細ナル截片ヲナシ臭  
味ナク水ニ浸セハ膨起シ熱湯竝熱稀酒精ニ殆ト全ク溶解ス

本品一分ヲ三十分ノ熱湯ニ溶解シタルモノハ冷後殆ト無色透明ノ凝膠トナルヘシ(二)  
本品ヲ灰化スルニ百分ニ付キ一・二分以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス(三)

(註 解)

(一)動物性膠質ナル「コラーゲン」トス(二)正品ノ特徴(三)夾雜物ノ試験

(應 用)

英法絆創膏ヲ製スルニ用フ

Collodium.

コロヂウム

コロヂウム

魚膠 コロヂウム



粗製硝酸

八十分 (80)

ヲ取り之ニ

粗製硫酸

二百分 (200)

ヲ注意シテ徐々ニ混和シ其混液ノ二十度ノ温ニ冷却スルニ至リ之ニ

精製綿

十一分 (11)

ヲ浸漬シ十五乃至二十度ノ温ニ於テ二十四時間放置シタル後漏斗中ニ移シ更ニ二十四時間放置シテ過剰ノ酸液ヲ滴瀝セシメ水ヲ以テ洗滌シ酸ノ全ク除去セラルルニ至リ壓搾シ二十五度ノ温ニ於テ乾燥セル

コロヂウム綿

二分 (2)

ヲ壺中ニ取り之ニ

酒精

七分 (7)

ヲ加ヘテ善ク濕潤セシメ尋テ

エーテル

四十二分 (42)

ヲ和シ反覆振盪シテ溶解シ静置シ其上澄液ヲ傾取シ製スヘシ

本品ハ無色或ハ微ニ黄色ヲ有スル舍利別稠ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ微シ薄層トナシテ「エーテル酒精ヲ蒸散セシムレハ無色靱性ノ皮膜ヲ止ム

本品ヲ蒸發スルニ百分ニ付キ約三・五分ノ殘留物ヲ遺ササルヘカラス

壺中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

(醫治効用)

皮膚ヲ被覆シ且其牽縮又ハ壓迫ヲ施サシメテ小創ヲ癒著セシメ、小出血ヲ止メ或ハ壓抵繃帶(舉丸ノ腫脹等ノ場合)

(醫治効用)

トナシ炎症ヲ治スル目的ニ使用ス

Colloidum cantharidatum.

カンタリスコロヂウム

カンタリスコロヂウム<sup>レ</sup>ハ

カンタリス中末

一分 (1)

ヲ取リ

エーテル

適宜量

ヲ和シテ冷浸シ濾過シ澄明ノ濾液ヲ取り微温ヲ以テ蒸發シ舍利別稠トナルニ至リ之ニ

コロヂウム

適宜量

ヲ混和シ其全量ヲ一分トナシ製スヘシ

本品ハ「オレ」フ綠色澄明舍利別稠ノ液ニシテ微ニ酸性ノ反應ヲ微シ其エーテル酒精ヲ揮散セシムレハ

綠色靱性ノ皮膜ヲ止ム

壺中ニ容レ密栓シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

(醫治効用)

發泡ノ目的ニ使用ス

Colloidum elasticum.

彈力コロヂウム

彈力コロヂウム<sup>レ</sup>ハ

コロヂウム

九十七分 (97)

カンタリスコロヂウム

彈力コロヂウム

蓖麻子油

三分 (3)

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ殆ト無色或ハ微ニ黄色ヲ有スル舍利別稠ノ液ナリ  
壺中ニ容レ密栓シ冷處ニ貯フヘシ

(醫治効用)

潰瘍、割脱、火傷、凍着等ニ被覆劑トシテ用フ

Colloidum jodoformiatum.

ヨードフォルムコロヂウム

ヨードフォルムコロヂウムハ

ヨードフォルム

一分 (1)

ヲ取リ

コロヂウム

九分 (9)

ニ溶解シ製スヘシ

本品ハ類褐色舍利別稠ノ液ナリ

本品ハ暗褐色ヲ呈スヘカラス

壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ冷處ニ貯フヘシ

(醫治効用)

コロヂウムニ同シ

Colophonium.

コロフォニウム

Plants 屬ノ諸種

コロフォニウム(一)ハ本屬諸種植物ノ滲出物ヨリ揮發油ヲ除去シテ得タル樹脂ナリ

本品ハ類黄色或ハ淡褐色硝子様透明ノ破碎シ易キ塊ニシテ表面ハ粉霜ヲ帶ヒ破碎面ハ大貝殼狀ヲ現ハシ  
重湯煎上ニ熱スレハ熔融シテ澄明粘靱性ノ液トナリ強ク熱スレハ白色芳香性ノ重キ蒸氣ヲ發ス酸數百五  
十一・五乃至百七十九・六ナリ

本品一分ハ等分ノ純アルコホル竝二分ノ氷醋酸ニ溶解シ又八分ノ稀薄苛性カリ溶液(一)ニ澄明ニ溶解  
ス

本品一グラム(1g)ヲ常溫ニ於テ酒精製二分定規カリ液二十五立方センチメートル(25 ccm)ニ溶解シ「フェノ  
ール」フタレイソ溶液十滴ヲ添加シタル後之ニ二分定規鹽酸ヲ滴加シテ脱色スルニ至ルニハ該酸液十八・  
六乃至十九・六立方センチメートル(18.6-19.6 ccm)ヲ費ササルヘカラス(11)

(註 解)

(一)主成分ハ「アビーチン酸」 $C_{24}H_{40}O_8$ ノ無水物トス(二)酸ノ中和ニハ「カリ液六・四乃至五・四立方センチメー  
ル(35-18.6乃至19.6)ヲ要シ此等ノ液中ニハ百七十九・五乃至百五十一・四九ミリグラム」ノ水酸化カリウム(38.055×6.4乃至5.4)  
ヲ含有ス即チ百五十一・五乃至百七十九・六ノ酸數ニ該當ス

(應 用)

主ニ硬膏ヲ製スルニ用フ

橙皮 カスカリラ皮

一七〇

*Cortex Aurantii Fructus.*

橙皮

*Citrus Aurantium L. Subsp. amara Engl.*

橙皮(ニハ本植物ノ稔熟セル果實ノ皮ヲ剝離シ白色海綿様ノ組織ヲ除去シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ其外面類褐色ヲ有シ粗糙ノ窩點ヲ現ハス  
本品ハ氣味芳香性ニシテ甚タ苦シ

(註) 解 (一)成分ハ約二%ノ揮發油、苦味質、ヘスベリチン(無臭無味ノ「グリコシド」等トス  
矯味、矯臭劑トシテ用フ

(醫治効用)

*Cortex Cascariillae.*

カスカリラ皮

*Cassia Eriaria Bernh.*

カスカリラ皮(ニハ本植物ノ幹及枝ノ皮ヲ採集シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ管狀又ハ半管狀ヲナシ厚サ〇・五乃至二ミリメートル(〇・5-2cm)外圍ニハ處々ニ類白色ノ胞層存在  
シ其胞層ハ横徑缺裂様ノ胞疔及不整ノ縦裂ヲ有シ胞層ノ脱落セル部位ハ類褐色ヲ現ハス内面ハ灰褐色ヲ  
呈シ破折面ハ滑澤ニシテ角質様ナリ  
本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ胞細胞ハ外方ニ厚化シ内方ニ薄キ被壁ヲ有シ蓚酸鹽ノ細微ナル砂狀結晶ヲ包  
藏ス外皮部ニ於テハ少數ノ厚膜細胞ヨリ成レル韌皮纖維束ヲ、内皮部ニ於テハ通常單獨ニ散在セル厚膜

纖維ヲ有シ又褐色ノ内容物ヲ包有セル分泌細胞ヲ見ル髓線ハ一乃至二列ニシテ其細胞ハ往々蓚酸鹽簇晶  
ヲ包藏ス全皮部ニ於ケル柔細胞ハ細微ナル澱粉粒ヲ有シ石核細胞ハ存在セス(三)  
本品ハ氣味芳香性ニシテ苦シ  
本品ハ木片ヲ混有スヘカラス

(註) 解 (一)成分ハ揮發油、カスカリル酸、軟脂酸、硬脂酸、樹脂等トス(二)コバルヒ皮トノ區別  
(醫治効用) 芳香苦味劑ニシテ一日數回〇・五—一・〇ヲ散劑、丸劑又ハ浸劑(5—10%)トナシ健胃強壯ノ目的ニ又ハ下痢ヲ伴  
フ消化不良ニ用フ

*Cortex Chinae.*

キナ皮

*Cinchona* 屬ノ諸種

キナ皮ハ本屬諸種植物ノ幹及枝ノ皮ヲ採集シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ管狀或ハ半管狀又ハ板狀ヲナシ外面ハ帶灰類褐色ニシテ粗糙ノ縦皺ト横徑ノ短キ龜裂ヲ現ハス内  
面ハ帶褐赤色ニシテ纖維性ヲ呈ス破折シ易シ顯微鏡下ニ檢スレハ本品ノ特徴タル内皮纖維ヲ見ル  
本品ノ粉末ヲ試験管中ニ熱スレハ紅色ノ「タル」ヲ生ス(二)  
本品ノ百度ニ於テ乾燥シタル細末二・五グラム(25%)ニ定規鹽酸二十立方センチメートル(20cm)ヲ和シ  
十分時間重湯煎上ニ温メ冷後クロロフォルム二十立方センチメートル(20cm)及エーテル八十立方センチ  
ンメートル(80cm)ヲ加ヘ善ク振盪シ次ニ「ナトロン」滴液七立方センチメートル(7cm)ヲ和シ十分時間強ク

カスカリラ皮 キナ皮

一七一

振盪シ更ニ「トラガント末三グラム(3g)」ヲ加ヘ復タ劇シク振盪シテ粉末ヲ集團セシメ五分時間靜置シタル後澄明ノ「クロロフォルムエーテル」液ヲ精製綿ヲ用ヒテ速ニ濾過シ其濾液八十立方センチメートル(80ccm) (ii)ニ十立方センチメートル(10ccm)ノ酒精ヲ加ヘ硝子破片ヲ投シ蒸餾シテ「クロロフォルム」ヲ去リ殘渣ニ二十立方センチメートル(20ccm)ノ酒精ヲ加ヘ微温ヲ與ヘテ全溶セシメ水十立方センチメートル(10ccm)及三滴ノ「ヘマトキシリン」溶液ヲ和シ輕ク搖動シツツ十分定規鹽酸ヲ滴加シ赤褐色ノ混液ヲ生スルニ至リ更ニ水五十立方センチメートル(50ccm)ヲ加ヘ復タ十分定規鹽酸ヲ滴加シテ下層ノ水液黄色ヲ呈スルニハ少ナクモ其四立方センチメートル(4ccm)ヲ費ササルヘカラス (iii)又此中和液五立方センチメートル(5ccm)ニ「クロール水一立方センチメートル(1ccm)ヲ和シ之ニ「アムモニア」水ヲ加フルニ美麗ナル綠色ヲ呈セサルヘカラス (iv)

(註 解)

(i)キナアルカロイドノ特徴 (ii)本品ニグラム「ニ」對應ス (iii)主要ナル「キナアルカロイド」即チ「キニーネ  $C_{21}O_9$ 」 $O_2N$ 」及「キニチネ  $C_{21}H_{25}NO_9$ 」ノ平均分子量ハ三百九・三ニシテ十分定規鹽酸一立方センチメートル「ハ」 $C_{21}H_{25}NO_9$ 」ハ「キニーネ」及「キニチネ  $O_2N$ 」 $O_3$ 」 $O_3$ 」グラム「ニ」對應シ「アルカロイド」含量六・一八%ニ該當ス  $2:0.12377 = 0.08099 \times 4 = 100$  (iv)タルレイオヒン反應

(醫治効用)

主ニ重病後衰弱症ノ強壯劑トシテ煎劑(10-15:200)トナシ用フ

Cortex Cinnamomi.

桂皮

*Cinnamomum Casia Bl.*

桂皮 (i)ハ本植物ノ幹及枝ノ皮ヲ剝離シ枹層ヲ多少除去シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ厚サ一乃至三ミリメートル(1-3mm)ヲ有シ外面ハ灰褐色或ハ褐色ヲ有ス

本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ第一期皮部ノ柔組織ハ澱粉粒ニ富ミ其内側ニ位スル石核細胞環層ハ處々ニ斷歇セラレ間、外邊ニ纖維束ヲ伴フ又箇々ノ石核細胞ハ其膜壁ノ厚化不同ニシテ主トシテ内方ニ厚シ第二期ノ皮部ニハ長サ概シテ〇・七ミリメートル(0.7mm)太サ〇・〇一五乃至〇・〇三三ミリメートル(0.015-0.033mm)ノ厚膜纖維散在シ又油細胞及粘液細胞ヲ存ス 髓線ハ概シテ二細胞列ニシテ澱粉粒竝殆ト鹹狀ニ近キ細長菱形ヲナセル 鞣酸鹽ノ細微結晶ヲ含有ス  
本品ハ固有ノ強烈ナル香味ヲ有シ僅ニ粘性性ナリ

(註 解)

(i)成分ハ揮發油、澱粉、粘液、鞣酸等トス

(醫治効用)

矯味、矯臭劑又ハ健胃劑トシテ用フ

Cortex Cinnamomi Loureirii.

肉桂

*Cinnamomum Loureirii Nees.*

肉桂 (i)ハ本植物ノ根及幹ノ皮ヲ剝離シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ厚サ〇・二乃至〇・五ミリメートル(0.2-0.5mm)外面ハ灰褐色又ハ赤褐色、内面ハ帶黃褐色ヲ有ス  
本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ第一期皮部ノ内方ニ位スル石核細胞環層ハ處々ニ斷歇シ其外邊ニハ厚膜纖維束ヲ伴ハス (ii)又箇々ノ石核細胞ハ其膜壁ノ厚化不同ニシテ内邊及兩側ニ厚ク外邊ニ薄シ第二期ノ皮部ニハ單獨ニ散在セル厚膜纖維ヲ有シ又粘液細胞及油細胞ヲ存ス 髓線ハ二列ナルコト多ク其細胞中ニハ澱粉粒竝多數ノ細微ナル方形又ハ長方形ノ鞣酸鹽結晶ヲ包有ス (iii)

桂皮 肉桂